Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

スモールフォームファクターコンピュータ

スモールデスクトップコンピュータ

デスクトップコンピュータ

スモールミニタワーコンピュータ

ミニタワーコンピュータ

[目次に戻る]

アドバンス機能

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

LegacySelect テクノロジコントロール

LegacySelect テクノロジコントロールは、共通プラットフォーム、ハードドライブイメージ、およびヘルプデスク手続きを基本としたレガシーフル、レガシー限定、またはレガシーフリーソリューションを提供します。管理者は、セットアップユーティリティ、Dell OpenManage™ IT Assistant、または Dell™ カスタムファクトリー統合を介してコントロールを利用できます。

LegacySelect を使うことによって、管理者はシリアル / USB コネクタ、パラレルコネクタ、PCI スロット、フロッピードライブ、PS/2 マウスなどのコネクタおよびメディアデバイスを電子的に活動化または非活動化することができます。コネクタおよびメディアデバイスを無効にして、リソースを利用可能にします。変更を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。

管理機能

ASF（Alert Standard Format）

ASF は、「プリオペレーティングシステム」または「オペレーティングシステム不在」警告技術を指定する DMTF 管理標準です。オペレーティングシステムがスリープ状態にあるとき、またはコンピュータの電源が切れているときに、セキュリティの問題および障害が発生している可能性があるという警告を発するよう設定されています。ASF は、オペレーティングシステム不在の際の従来の警告方法に代わるものとして設計されています。

お使いのコンピュータは、以下の ASF バージョン 1.03 警告およびリモート機能をサポートします。

警告	説明
Chassis: Chassis Intrusion – Physical Security Violation/Chassis Intrusion – Physical Security Violation Event Cleared	シャーシイントルージョン機能が搭載され有効になっているコンピュータシャーシが開けられたか、またはシャーシイントルージョン警告がクリアされました。
CPU: Emergency Shutdown Event	プロセッサ温度が高すぎるため電源ユニットがシャットダウンしました。
Cooling Device: Generic Critical Fan Failure/Generic Critical Fan Failure Cleared	ファン速度（rpm）が限界値を超えています。またはファン速度（rpm）の問題が解決しました。
Temperature： Generic Critical Temperature Problem/Generic Critical Temperature Problem Cleared	コンピュータ温度が限界値を超えています。またはコンピュータ温度の問題が解決しました。
Battery Low	システムバッテリーが 2.2V 以下になりました。

デルの ASF 導入の詳細については、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** で入手できる『ASF ユーザーズガイド』および『ASF 管理者ガイド』を参照してください。

Dell OpenManage IT Assistant

IT Assistant は、企業のネットワーク上のコンピュータやその他のデバイスを設定、管理、監視します。IT Assistant は、業界標準の管理ソフトウェアを装備したコンピュータの資産、設定、イベント（警告）、セキュリティを管理します。また、SNMP、DMI、および CIM の業界標準に準拠する計装をサポートします。

DMI と CIM を基本にした Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）は、お使いのコンピュータで使用できます。IT Assistant の情報は、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** で入手できる『Dell OpenManage IT Assistant ユーザーズガイド』を参照してください。

Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）

Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）は、IT Assistant などのリモート管理プログラムが、以下を実行するのを可能にします。

- お使いのコンピュータについての情報へのアクセス（搭載されているプロセッサの数や実行されているオペレーティングシステムの種類など）
- コンピュータのステータスの監視（温度プローブからの熱警告やストレージデバイスからのハードドライブ障害警告の受信など）
- コンピュータのステータスの変更（BIOS のアップデート、またはリモートでのシャットダウンなど）

管理システムは、IT Assistant を使ってネットワーク上で Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）がセットアップされているコンピュータです。Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）については、デルサポートサイト **support.jp.dell.com**で入手できる『Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）ユーザーズガイド』を参照してください。

セキュリティ機能

シャーシイントルージョンの検知

メモ: 管理者パスワードが有効な場合、**シャーシイントルージョン** の設定をリセットするためには、管理者パスワードが必要です。

この機能が搭載され有効になっている場合、シャーシが開けられたことを検出してユーザーに警告します。**シャーシイントルージョン** 設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. セットアップユーティリティを起動します。
2. 下矢印キーを押して、**System Security** オプションへ移動します。
3. <Enter> 押して、**System Security** オプションのポップアップメニューにアクセスします。
4. 下矢印キーを押して、**Chassis Intrusion** 設定へ移動します。
5. <Enter> を押してオプション設定を選択します。
6. オプション設定のアップデートが終わったら、もう一度 <Enter> を押します。
7. 保存して、セットアップユーティリティを終了します。

オプション設定

- **On** — コンピュータカバーが開けられると、設定が **Detected** に変わり、次回のコンピュータ起動時の起動ルーチン中に、次の警告メッセージが表示されます。

  Alert! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

  Detected の設定をリセットするには、セットアップユーティリティを起動します。**Chassis Intrusion** オプションで、左右矢印キーを押して **Reset** を選択してから、**On**、**On-Silent**、または **Off** を選びます。

- **On-Silent**（デフォルト） — コンピュータカバーが開けられると、設定が **Detected** に変わります。次回のコンピュータ起動時の起動順序中に警告メッセージは表示されません。
- **Off** — イントルージョンモニタが行われず、メッセージも表示されません。

パドロックリングとセキュリティケーブルスロット

以下の方法の 1 つを使って、コンピュータのセキュリティを行います。

- パドロックリングには、パドロックのみ、またはパドロックとループ型セキュリティケーブルを一緒に使用します。

  パドロックだけでコンピュータが開けられることを防ぐことができます。

  固定されたものにセキュリティケーブルを通し、パドロックを取り付けることで、無許可のコンピュータの移動を防ぐことができます。

- コンピュータ背面のセキュリティケーブルスロットに市販の盗難防止デバイスを取り付けます。

メモ: 盗難防止デバイスを購入する前に、お使いのコンピュータのセキュリティケーブルスロットに対応するか確認してください。

通常、盗難防止デバイスには、金属ケーブルに取り付けられているロック装置とキーが付いています。取り付け方法は、デバイスに付属のマニュアルに記載されています。

パスワードによる保護

注意: パスワードはコンピュータ内のデータに対してセキュリティを提供しますが、絶対に安全であるというわけではありません。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご自身でご用意ください。

System Password

注意: システムパスワードを設定せずに操作中のコンピュータから離れたり、コンピュータをロックせずに放置した場合には、第三者がジャンパ設定を変更し、パスワードを解除することができます。その結果、ハードドライブ内のデータへのアクセスが誰にでも可能になります。

オプション設定

以下の 2 つのオプションのいずれかが表示されている場合、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

- **Set** — システムパスワードが設定されています。
- **Disabled —** システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワードが無効になっています。

以下のオプションが表示された場合にのみ、システムパスワードを設定できます。

- **Not Set** — システムパスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定(デフォルト)になっています。

システムパスワードの設定

システムパスワードの設定を途中で中止したい場合は、<Tab> または <Shift><Tab> キーを押して別のフィールドに移動するか、または手順 5 を終了する前に <Esc> を押します。

1. セットアップユーティリティを起動して、**Password Status** が **Unlocked** に設定されているか確認します。
2. **System Password** をハイライト表示して、左右矢印キーを押します。

   オプション名が **Enter Password** に変わり、その後に 32 文字分の空のフィールドが現れます。

3. 新しいシステムパスワードを入力します。

   32 文字まで入力できます。入力した文字を訂正する場合、<Backspace> または左矢印キーを押します。パスワードは、大文字と小文字を区別しません。

   無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせを入力すると、スピーカーからビープ音が鳴ります。

   それぞれの文字キー(または空白としてのスペースバー)を押すごとに「*」が表示されます。

4. <Enter>を押します。

   新しいシステムパスワードが 32 文字未満の場合、フィールド全部に「*」が挿入されます。次に、オプション名が **Verify Password** に変わり、その後ろに 32 文字分の別の空のフィールドが現れます。

5. パスワードを確認するために、もう一度パスワードを入力して<Enter>を押します。

   パスワード設定は **Set** に変わります。

6. セットアップユーティリティを終了します。

コンピュータを再起動すると、パスワード保護機能は有効になります。

システムパスワードの入力

コンピュータを起動または再起動すると、以下のプロンプトの 1 つが画面に表示されます。

Password Status が **Unlocked** に設定されている場合

```
Type in the password and
- press <ENTER> to leave password security enabled.
- press <CTRL><ENTER> to disable password security.
Enter password:
（パスワードを入力して、<ENTER> を押すと、パスワードセキュリティは有効なままです。<CTRL><ENTER>を押すと、パスワードセキュリティは無効になります。パスワードを入力してください。）
```

Password Status が **Locked** に設定されている場合

```
Type the password and press <Enter>.（パスワードを入力し、<Enter>を押してください。）
```

管理者パスワードが設定されている場合、コンピュータは管理者パスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **（誤ったパスワード。）**
```

再び誤ったパスワードまたは不完全なパスワードを入力すると、同じメッセージが表示されます。システムパスワードを 3 回間違えると、それ以降は以下のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **** Number of unsuccessful password attempts:
3
System halted! Must power down. （誤ったパスワード。誤ったパスワード入力の回数：3  システムが停止しました！電源を切ってください。）
```

コンピュータの電源を入れなおした後でも、再び誤ったシステムパスワード、または不完全なシステムパスワードを入力するたびに、上記のメッセージが表示されます。

メモ： System Password と **Admin Password** を併用して **Password Status** を使用すると、無許可の変更に対してコンピュータの保護を強化できます。

システムパスワードの取り消しと変更

1. セットアップユーティリティを起動し、**Password Status** が **Unlocked** に設定されているか確認します。
2. コンピュータを再起動します。
3. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
4. <Ctrl><Enter> を押して、既存のシステムパスワードを無効にします。
5. **System Password** オプションに **Not Set** と表示されているか確認します。

Not Set と表示されている場合、システムパスワードは削除されています。**Not Set** と表示されていない場合は、<Alt><b> を押してコンピュータを再起動し、手順 3 から 手順 5 を繰り返します。

「システムパスワードの設定」の手順に従って、新しいパスワードを設定します。

6. セットアップユーティリティを終了します。

Admin Password

オプション設定

以下の 2 つのオプションのいずれかが表示されている場合、管理者パスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

- **Set** — 管理者パスワードが設定されています。
- **Disabled** — システム基板のジャンパ設定によって、管理者パスワードが無効になっています。

以下のオプションが表示された場合にのみ、管理者パスワードを設定できます。

- **Not Set** — 管理者パスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト）になっています。

管理者パスワードの設定

管理者パスワードとシステムパスワードは同じでもかまいません。

メモ： これらのパスワードが異なる場合でも、管理者パスワードをシステムパスワードの代わりに入力することができます。ただし、システムパスワードは、管理者パスワードの代わりに使用することはできません。

1. セットアップユーティリティを起動して、**Admin Password** が **Not Set** に設定されているか確認します。
2. **Admin Password** をハイライト表示して、左右矢印キーを押します。

   パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字の場合、ビープ音が鳴ります。

3. パスワードを入力して確認します。

   パスワードの確認が終わると、**Admin Password** の設定は、**Set** に変わります。これ以降は、セットアップユーティリティを起動する際に、管理者パスワードの入力を求められます。

4. セットアップユーティリティを終了します。

   Admin Password の変更は、ただちに有効になります（コンピュータを再起動する必要ありません）。

管理者パスワードが有効な場合のコンピュータの操作

セットアップユーティリティを起動すると、**Admin Password** オプションがハイライト表示され、パスワードの入力を求められます。

正しいパスワードを入力しないと、セットアップオプションを変更することはできませんが、セットアップユーティリティ画面は表示されます。

メモ： **Setup Password** と一緒に **Password Status** を使用すると、無許可の変更に対してシステムパスワードを保護できます。

管理者パスワードの削除と変更

既存の管理者パスワードを変更するには、そのパスワードを知っている必要があります。

1. セットアップユーティリティを起動します。
2. プロンプトで管理者パスワードを入力します。

3. **Admin Password** をハイライト表示させ、左右矢印キーを押して、既存の管理者パスワードを削除します。

設定は **Not Set** に変わります。

「システムパスワードの設定」の手順を実行して、新しい管理者パスワードを設定します。

4. セットアップユーティリティを終了します。

忘れたパスワードの取り消しと新しいパスワードの設定

システムパスワードまたは管理者パスワードをリセットするには、「忘れたパスワードの消去」を参照してください。

セットアップユーティリティ

概要

セットアップユーティリティは以下の場合に使用します。

- お使いのコンピュータにハードウェアを追加、変更、または取り外した後のシステム設定情報の変更
- ユーザーパスワードなどのユーザー選択可能なオプションの設定または変更
- 現在のメモリの容量を調べたり、取り付けられたハードドライブの種類を設定する場合

セットアップユーティリティを起動する前に、後で参照できるようにセットアップユーティリティ画面の情報を記録しておいてください。

セットアップユーティリティの起動

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. 青色の DELL™ ロゴが表示されたら、すぐに <F2> を押します。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やり直します。

セットアップユーティリティ画面

セットアップユーティリティ画面は、お使いのコンピュータの現在のまたは変更可能な設定情報を表示します。画面上の情報は、オプションリスト、アクティブオプションフィールド、キーファンクションの 3 つの領域に分かれます。

Options List — このフィールドはセットアップユーティリティ画面の左側に表示されます。このフィールドは、取り付けられたハードウェア、省電力機能、およびセキュリティ機能を含む、コンピュータの構成を定義するオプションを表示する、スクロール可能なリストです。 上下矢印キーを使って、一覧を上下にスクロールします。オプションがハイライト表示されている際、Option Field はそのオプションの詳細とオプションの現在の設定および利用可能な設定を表示します。	Option Field — 各オプションの情報を表示します。このフィールドで、現在の設定を表示させたり設定を変更することができます。 左右矢印キーを使って、オプションをハイライト表示します。<Enter> を押して選択を有効にします。

	Key Functions — このフィールドは Option Field の下に表示され、アクティブなセットアップユーティリティフィールドでのキーとその機能を一覧表示します。

セットアップオプション

 メモ: お使いのコンピュータおよび取り付けられているデバイスによって、この項に一覧表示された項目とは異なる場合があります。

System	
System Info	コンピュータ名、BIOS のバージョン、サービスタグを一覧表示します。
CPU Info	コンピュータのプロセッサがハイパースレッディングに対応しているか識別します。また CPU 速度、バス速度、クロックスピード、L2 キャッシュに対応しているか識別します。
Memory Info	取り付けられたメモリの容量、メモリの速度、ビデオメモリの容量、ディスプレイキャッシュのサイズ、およびチャネルモード（デュアルまたはシングル）を示します。
Date/Time	現在の日付と時間設定を表示します。
Boot Sequence	コンピュータはこの一覧で指定したデバイスの順番で起動を試みます。
Drives	
Diskette Drive	このオプションでフロッピードライブを有効または無効にします。オプションは、**Off**、**Internal**、**USB**、および **Read Only** です。
Drive 0 through Drive n	システム基板の SATA または IDE コネクタに接続されたドライバを識別し、有効または無効にします。 **メモ:** これらのオプションはスモールフォームファクターおよびスモールデスクトップコンピュータの場合、**Drive 0 ～ Drive 3** 、スモールミニタワーコンピュータの場合、**Drive 0 ～ Drive 5** で表示されます。
Drive Controller	シリアル ATA コントローラの動作モードを設定します。**Normal** は、シリアル ATA コントローラをシリアル ATA ネイティブモードでのみ動作するように設定します。**Compatible** は、シリアル ATA コントローラをシリアル / パラレル ATA コンビネーションモードで動作するように設定します。
Error Reporting	この設定は、セットアップユーティリティ起動時にハードドライブエラーを報告するかどうかを決定します。
Onboard Devices	
Audio Controller	オンボードオーディオコントローラを有効または無効にします。
Mouse Port	シリアルマウスポートを有効または無効にします。(この設定はオプションのシリアルポートアダプタが取り付けられている場合のみ表示されます。
NIC Controller	NIC を **On**（デフォルト）、**Off**、または **On w/ PXE** に設定します。**On w/PXE** 設定を有効にすると（この後の起動プロセスにのみ選択可）、プロンプトに <Ctrl><Alt><b> を押すよう表示されます。このキーの組み合わせを押すとメニューが表示され、ネットワークサーバーから起動する方法を選択できます。起動ルーチンがネットワークサーバーから使用できないと、システムは起動順序リスト内の次のデバイスからの起動を試みます。
LPT Port Mode	このオプションは、内蔵パラレルポートの動作モードを設定します。設定は、**Off**、**AT**、**PS/2**（デフォルト）、**EPP**、および **ECP** です。 • **AT** — ポートは、IBM AT 互換用に設定されます。 • **PS/2** — ポートは、IBM PS/2 互換用に設定されます。 • **EPP** — 拡張パラレルポートプロトコル

	- **ECP** — 拡張機能ポートプロトコル
LPT Port Address	このオプションで内蔵パラレルポートが使用するアドレスを設定します。設定は、**378h**（デフォルト）、**278h**、および **3BCh** です。
PCI Slots	PCI スロットを有効または無効にします。
Serial Port #1	**Auto**（デフォルト）は、コネクタを自動的に特定の指定先（**COM1** または **COM3**）に設定します。
Serial Port #2	**Auto**（デフォルト）は、コネクタを自動的に特定の指定先（**COM1** または **COM3**）に設定します。（この設定はオプションのシリアルポートアダプタが取り付けられている場合のみ表示されます。）
USB	このオプションが **On** に設定されているとき、USB デバイスはオペレーティングシステムで認識されサポートされます。
Performance	
Hyper-threading	お使いのコンピュータのプロセッサがハイパースレッディングに対応している場合、このオプションが **Options List** に表示されます。
IDE Performance	- **Quiet**（デフォルト） — ハードドライブは最も静かな設定で動作します。 - **Performance** — ハードドライブは最大速度で動作します。 - **Bypass** — お使いのコンピュータは、現在のアコースティックモードの設定をテストまたは変更しません。 - **Suggested** — ハードドライブは、ハードドライブの製造元が推奨する速度レベルで動作します。 **メモ：** Performance モードへ切り替えると、ドライブはより大きなノイズを発生する場合がありますが、動作に影響はありません。 アコースティック設定を変更しても、ハードドライブイメージは変わりません。
Security	このセクションは、利用可能なシステムのセキュリティオプションを表示します。詳細については、「セキュリティ機能」を参照してください。
Admin Password	このオプションは、システムパスワードがシステムへのアクセスを制限するのと同様にコンピュータのセットアップユーティリティへのアクセスを制限します。設定は、**Set**、**Not Set**、および **Disabled** です。 オプションが **Set** に設定されている場合、管理者パスワードが設定されています。 オプションが **Not Set** に設定されている場合、管理者パスワード設定されていません。またシステム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト）になっています。 オプションが **Disabled** に設定されている場合、システム基板のジャンパ設定によって、管理者パスワードが無効になっています。 管理者パスワードを無効にするには、プロンプトにパスワードを入力して <Ctrl><Enter> を押します。
System Password	現在のシステムのパスワードセキュリティ機能の状態を表示して、新しいシステムパスワードの割り当てと確認を行います。設定は、**Set**、**Not Set**、および **Disabled** です。 オプションが **Set** に設定されている場合、システムパスワードが設定されています。 オプションが **Not Set** に設定されている場合、管理者パスワード設定されていません。またシステム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト）になっています。 オプションが **Disabled** に設定されている場合、システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワードが無効になっています。 システムパスワードを無効にするには、プロンプトにパスワードを入力して <Ctrl><Enter> を押します。
Drive Password	このパスワードを設定して、権限のないユーザーがハードドライブにアクセスするのを防ぎます。 **メモ：** このオプションは取り付けられた各ハードドライブで表示されます。
Password Status	このオプションは、管理者パスワードを使ってシステムパスワードフィールドをロックします。このフィールドがロックされていると、コンピュータを始動する際に <Ctrl><Enter> を押してパスワードセキュリティを無効にするオプションは使用できません。
Chassis Intrusion	シャーシイントルージョンが搭載されていて有効な場合、このオプションはコンピュータの次回の起動時に、コンピュータカバーが開けられたことをユーザーに警告します。設定は、**On**、**On-Silent**（デフォルト）、および **Off** です。
Intrusion Status	シャーシイントルージョンイベントが起きた場合にのみ、このオプションはセットアップユーティリティに表示されます。設定は、**Clear** および **Detected**（デフォルト）です。**Clear** を選んで、シャーシイントルージョンのステータスを消去します。
Power Management	
AC Recovery	コンピュータに AC 電源が回復した場合にどうするかを設定します。
	時間と曜日を設定し、コンピュータに自動的に電源を入れることができます。選べるのは、**Everyday** または **Weekdays** です。デフォルト設定は、**Off** です。

Auto Power On	この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。
Auto Power Time	コンピュータを自動的に起動する特定の時間を設定します。時間は 24 時間形式（時間:分）で表示されます。左右矢印キーを押して、数値を増減するか、日付と時間のフィールドの両方に数値を入力して、起動する時間を変更します。 この設定を **Auto Power On** 設定と併用します。
Low Power Mode	**Low Power Mode** が選択されている場合、リモートウェイクアップイベントは、追加の NIC カードが取り付けられていない限り **Hibernate** または **Off** から起動しません。 **メモ:** この設定は内蔵ネットワークコントローラにのみ影響します。
Remote Wake-Up	このオプションは、Network Interface Controller または Remote Wakeup 機能を持つモデムがウェイクアップ信号を受け取った際に、システムは起動します。 **On** がデフォルト設定です。**On w/ Boot to NIC** の場合、コンピュータは起動順序を使用する前に、ネットワークから起動しようとします。 **メモ:** 通常、システムはサスペンドモード、休止状態モード、または電源が切れた状態からリモートで起動できます。**Power Management** メニューで **Low Power Mode** が有効な場合、システムは **Suspend** からのみリモートで起動できます。
Suspend Mode	オプションは、**S1**（コンピュータが省電力モードで動作中のサスペンド状態）および **S3**（ほとんどのコンポーネントに電源が低減されているか切られているが、システムメモリはアクティブな、スタンバイ状態）です。
Maintenance	
CMOS Defaults	この設定は、コンピュータの工場出荷時のデフォルト設定を復元します。オプションは **Cancel** および **Continue/Reset CMOS** です。
Event Log	システムイベントログを表示します。
BIOS Update	BIOS アップデートファイルの場所を選びます。オプションは、**Floppy Disk** または **Hard Drive** です。
Video	
Primary Video	この設定はコンピュータに 2 台のビデオコントローラが搭載されている場合、どちらのビデオコントローラがプライマリであるか特定します。
POST Behavior	
Fastboot	**On**（デフォルト）に設定されている場合、お使いのコンピュータは起動時に、特定の設定とテストを省略するのでより早く起動します。
Numlock Key	このオプションは、キーボードの一番右のバンクにあるキーに関連します。**On**（デフォルト）に設定されていると、このオプションは各キーの上部に表示されている数値機能がアクティブになります。**Off** に設定されていると、このオプションは各キーの下部に描かれているカーソルコントロール機能を有効にします。
OS Install	この設定は、OS Install Mode を **On** または **Off**（デフォルト）に切り替えます。
POST Hotkeys	この設定は、コンピュータ起動時にセットアップユーティリティなどを起動するキーの組み合わせを表示するかどうかを指定します。デフォルト設定は、**Setup & Boot Menu** です。
Keyboard Errors	このオプションは、コンピュータ起動時にキーボードエラーの表示を有効または無効にします。

Boot Sequence（起動順序）

この機能を使って、デバイスの起動順序を変更します。

オプション設定

- **Onboard or USB Floppy Drive** — コンピュータはフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブ内のフロッピーディスクが起動用でない場合、またはフロッピーディスクがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **Onboard SATA Hard Drive** — コンピュータはプライマリシリアル ATA ハードドライブからの起動を試みます。オペレーティングシステムがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **Onboard IDE Hard Drive** — コンピュータはプライマリ IDE ハードドライブがある場合、プライマリ IDE ハードドライブからの起動を試みます。オペレーティングシステムがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **Onboard or USB CD-ROM Device** — コンピュータは CD ドライブからの起動を試みます。ドライブに CD がない場合、あるいは CD にオペレーティングシステムがない場合、コンピュ

ータはエラーメッセージを生成します。

一回のみの起動順序の変更

この機能を使って、たとえば、『Drivers and Utilities CD』にある Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行するように CD ドライブからコンピュータを起動し、Dell Diagnostics（診断）プログラムが完了したらハードドライブから起動するように設定できます。この機能を使って、フロッピードライブ、メモリキー、または CD ドライブなどの USB デバイスからコンピュータを再起動することができます。

メモ: USB フロッピードライブから起動する場合、セットアップユーティリティでフロッピードライブを USB に接続する必要があります。

1. USB デバイスから起動する場合、USB デバイスを USB コネクタに接続します。
2. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
3. 画面右上角に `F2=Setup,F12=Boot Menu` が表示された場合、<F12> を押します。

   ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やり直します。

   すべての利用可能な起動デバイスを一覧表示した **Boot Device Menu** が表示されます。各デバイスには、横に番号があります。

4. メニューの一番下で、現在の起動のみに使用されるデバイスの数字を入力します。

   たとえば、USB メモリキーから起動する場合、**USB Device** をハイライト表示して <Enter> を押します。

メモ: USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能でなければなりません。お使いのデバイスが起動可能か確認するには、デバイスのマニュアルを参照してください。

次回からの起動用の起動順序の変更

1. セットアップユーティリティを起動します。
2. 矢印キーを使って **BootSequence** メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押して、ポップアップメニューにアクセスします。

メモ: 後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を書き留めておきます。

3. デバイスのリスト内を移動するには、上下矢印キーを押します。
4. デバイスを有効または無効にするには、スペースバーを押します（有効にしたデバイスにはチェックマークが付いています）。
5. 選択したデバイスを、<Shift><上矢印> を押してリストの上に移動したり、<Shift><下矢印> を押して下に移動します。

USB デバイスからの起動

メモ: USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能でなければなりません。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

メモリキー

1. USB ポートにメモリキーを挿入して、コンピュータを再起動します。
2. 画面の右上角に `F12 = Boot Menu` と表示されたら、<F12> を押します。

   BIOS がデバイスを認識し、USB デバイスオプションを起動メニューに追加します。

3. 起動メニューから、USB デバイスの隣に表示されている番号を選択します。

   コンピュータは USB デバイスから起動します。

フロッピードライブ

1. セットアップユーティリティで、**Diskette Drive** オプションを **USB** に設定します。
2. 保存して、セットアップユーティリティを終了します。
3. USB フロッピードライブに接続し、起動ディスクを挿入して、システムを再起動します。

忘れたパスワードの消去

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： この手順を行うと、システムパスワードと管理者パスワードの両方が消去されます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. システム基板の 2 ピンパスワードジャンパ（PSWD）の位置を確認し、ジャンパを取り外して、パスワードを消去します。

スモールフォームファクターコンピュータ

スモールデスクトップコンピュータ

スモールミニタワーコンピュータ

ジャンパ	設定	説明
PSWD	（デフォルト）	パスワード機能が有効
		パスワード機能が無効
RTCRST		リアルタイムクロックリセット
ジャンパあり ジャンパなし		

3. コンピュータカバーを閉じます。
4. コンピュータとモニターをコンセントに接続して、電源を入れます。
5. Microsoft® Windows® デスクトップがコンピュータに表示されたら、コンピュータをシャットダウンします。
6. モニターの電源を切って、コンセントから外します。
7. コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外し、電源ボタンを押して、システム基板の静電気を除去します。
8. コンピュータカバーを開きます。
9. システム基板の 2 ピンパスワードジャンパの位置を確認し、ジャンパを取り付けてパスワード機能を再度有効にします。
10. コンピュータカバーを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

メモ： これで、パスワード機能は有効になります。セットアップユーティリティを起動すると、システムパスワードオプションと管理者パスワードオプションの両方が **Not Set** と表示されます（パスワード機能は有効ですが、パスワードが設定されていません）。

12. 新しいシステムパスワード、または管理者パスワードを設定します。

CMOS 設定のリセット

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 現在の CMOS 設定をリセットします。
   a. システム基板上のパスワード (PSWD) ジャンパと CMOS(RTC_RST)ジャンパの位置を確認します。
   b. パスワードジャンパプラグをピンから取り外します。
   c. パスワードジャンパプラグを RTC_RST ピンに取り付け、約 5 秒待ちます。
   d. RTC_RST ピンからジャンパを取り外して、パスワードピンに取り付けなおします。
3. コンピュータカバーを閉じます。
4. コンピュータスタンドを使用する場合、コンピュータスタンドを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

5. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

ハイパースレッディング

ハイパースレッディングは Intel® テクノロジであり、1 つの物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させることでコンピュータ全体の性能を向上させるので、特定のタスクを同時に実行することができます。Windows XP オペレーティングシステムは、ハイパースレッディングテクノロジを利用するために最適化されているので、Microsoft® Windows® XP SP1 以降のオペレーティングシステムを使用することをお勧めします。多くのプログラムは、ハイパースレッディングの恩恵を受けることになりますが、ハイパースレッディング用に最適化されていないプログラムもあります。それらのプログラムは、ソフトウェアの製造元によるアップデートが必要な場合があります。アップデートやハイパースレッディングでソフトウェアを使用する方法については、ソフトウェアの製造元にお問い合わせください。

お使いのコンピュータがハイパースレッディングテクノロジを使用しているか確認するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
2. **ハードウェア** をクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
3. **デバイスマネージャ** ウィンドウで、プロセッサ横のプラス（+）サインをクリックします。ハイパースレッディングが有効な場合、プロセッサは 2 つ表示されています。

セットアップユーティリティを使って、ハイパースレッディングを有効または無効にすることができます。

電力の管理

お使いのコンピュータは、作業しない場合に少ない電力で動作するよう設定できます。コンピュータにインストールされたオペレーティングシステムおよびセットアップユーティリティの特定のオプション設定を使って、電力使用を制御します。節電されている期間を「スリープ状態」と呼びます。

- **スタンバイ —** このスリープ状態では、ほとんどのコンポーネント（冷却ファンを含む）への電力は減少されるか切られます。しかし、システムメモリは活動状態にあります。

  この状態は、Windows NT 4.0 ではサポートされていません。

メモ： スタンバイ状態になるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントがこの機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細については、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。

- **休止状態 —** このスリープ状態は、システムメモリのすべてのデータをハードドライブに書き込み、それからシステム電源を切ることによって、電力消費を最小にします。この状態からウェイクアップするとコンピュータが再起動し、メモリの内容が回復されます。そしてコンピュータは休止状態に入ったときの状態から動作を開始します。

  この状態は、Windows NT 4.0 ではサポートされていません。

メモ： 休止状態になるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントがこの機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細については、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。

- **シャットダウン —** このスリープ状態では、補助用のわずかな量を除いてコンピュータからすべての電源を切ります。コンピュータがコンセントに接続されている限り、自動的にまたはリモートで起動することができます。たとえば、セットアップユーティリティの Auto Power On オプションを使うと、コンピュータを特定の時間に自動的に起動することができます。また、ネットワーク管理者は電源管理イベント（Remote Wake Up など）を使って、コンピュータをリモートで起動することができます。

次の表に、スリープ状態とそれぞれの状態から復帰させるために使用できる方法を一覧表示します。

スリープの状態	ウェイクアップの方法（Windows 2000 および XP）
スタンバイ	電源ボタンを押す Auto Power On マウスを動かすかクリックする キーボードで入力する USB デバイスアクティビティ 電源管理イベント
休止状態	電源ボタンを押す Auto Power On 電源管理イベント
シャットダウン	電源ボタンを押す Auto Power On 電源管理イベント

メモ： 電源管理の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

目次に戻る

[目次に戻る]

アドバンス機能

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

LegacySelect テクノロジコントロール

LegacySelect テクノロジコントロールは、共通プラットフォーム、ハードドライブイメージ、およびヘルプデスク手続きを基本としたレガシーフル、レガシー限定、またはレガシーフリーソリューションを提供します。管理者は、セットアップユーティリティ、Dell OpenManage™ IT Assistant、または Dell™ カスタムファクトリー統合を介してコントロールを利用できます。

LegacySelect を使うことによって、管理者はシリアル / USB コネクタ、パラレルコネクタ、PCI スロット、フロッピードライブ、PS/2 マウスなどのコネクタおよびメディアデバイスを電子的に活動化または非活動化することができます。コネクタおよびメディアデバイスを無効にして、リソースを利用可能にします。変更を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。

管理機能

ASF（Alert Standard Format）

ASF は、「プリオペレーティングシステム」または「オペレーティングシステム不在」警告技術を指定する DMTF 管理標準です。オペレーティングシステムがスリープ状態にあるとき、またはコンピュータの電源が切れているときに、セキュリティの問題および障害が発生している可能性があるという警告を発するよう設定されています。ASF は、オペレーティングシステム不在の際の従来の警告方法に代わるものとして設計されています。

お使いのコンピュータは、以下の ASF バージョン 1.03 警告およびリモート機能をサポートします。

警告	説明
Chassis: Chassis Intrusion – Physical Security Violation/Chassis Intrusion – Physical Security Violation Event Cleared	シャーシイントルージョン機能が搭載され有効になっているコンピュータシャーシが開けられたか、またはシャーシイントルージョン警告がクリアされました。
CPU: Emergency Shutdown Event	プロセッサ温度が高すぎるため電源ユニットがシャットダウンしました。
Cooling Device: Generic Critical Fan Failure/Generic Critical Fan Failure Cleared	ファン速度（rpm）が限界値を超えています。またはファン速度（rpm）の問題が解決しました。
Temperature： Generic Critical Temperature Problem/Generic Critical Temperature Problem Cleared	コンピュータ温度が限界値を超えています。またはコンピュータ温度の問題が解決しました。
Battery Low	システムバッテリーが 2.2V 以下になりました。

デルの ASF 導入の詳細については、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** で入手できる『ASF ユーザーズガイド』および『ASF 管理者ガイド』を参照してください。

Dell OpenManage IT Assistant

IT Assistant は、企業のネットワーク上のコンピュータやその他のデバイスを設定、管理、監視します。IT Assistant は、業界標準の管理ソフトウェアを装備したコンピュータの資産、設定、イベント（警告）、セキュリティを管理します。また、SNMP、DMI、および CIM の業界標準に準拠する計装をサポートします。

DMI と CIM を基本にした Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）は、お使いのコンピュータで使用できます。IT Assistant の情報は、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** で入手できる『Dell OpenManage IT Assistant ユーザーズガイド』を参照してください。

Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）

Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）は、IT Assistant などのリモート管理プログラムが、以下を実行するのを可能にします。

- お使いのコンピュータについての情報へのアクセス（搭載されているプロセッサの数や実行されているオペレーティングシステムの種類など）
- コンピュータのステータスの監視（温度プローブからの熱警告やストレージデバイスからのハードドライブ障害警告の受信など）
- コンピュータのステータスの変更（BIOS のアップデート、またはリモートでのシャットダウンなど）

管理システムは、IT Assistant を使ってネットワーク上で Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）がセットアップされているコンピュータです。Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）については、デルサポートサイト **support.jp.dell.com**で入手できる『Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）ユーザーズガイド』を参照してください。

セキュリティ

シャーシイントルージョンの検知

メモ： 管理者パスワードが有効な場合、**シャーシイントルージョン** の設定をリセットするためには、管理者パスワードが必要です。

この機能が搭載され有効になっている場合、シャーシが開けられたことを検出してユーザーに警告します。**シャーシイントルージョン** 設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. セットアップユーティリティを起動します。
2. 下矢印キーを押して、**System Security** オプションへ移動します。
3. <Enter> 押して、**System Security** オプションのポップアップメニューにアクセスします。
4. 下矢印キーを押して、**Chassis Intrusion** 設定へ移動します。
5. <Enter> を押してオプション設定を選択します。
6. オプション設定のアップデートが終わったら、もう一度 <Enter> を押します。
7. 保存して、セットアップユーティリティを終了します。

オプション設定

- **On** — コンピュータカバーが開けられると、設定が **Detected** に変わり、次回のコンピュータ起動時の起動ルーチン中に、次の警告メッセージが表示されます。

  `Alert! Cover was previously removed.`（警告 ！ カバーが取り外されました。）

  Detected の設定をリセットするには、セットアップユーティリティを起動します。**Chassis Intrusion** オプションで、左右矢印キーを押して **Reset** を選択してから、**On**、**On-Silent**、または **Off** を選びます。

- **On-Silent**（デフォルト）— コンピュータカバーが開けられると、設定が **Detected** に変わります。次回のコンピュータ起動時の起動順序中に警告メッセージは表示されません。
- **Off** — イントルージョンモニタが行われず、メッセージも表示されません。

パドロックリングとセキュリティケーブルスロット

以下の方法の 1 つを使って、コンピュータのセキュリティを行います。

- パドロックリングには、パドロックのみ、またはパドロックとループ型セキュリティケーブルを一緒に使用します。

  パドロックだけでコンピュータが開けられることを防ぐことができます。

  固定されたものにセキュリティケーブルを通し、パドロックを取り付けることで、無許可のコンピュータの移動を防ぐことができます。

- コンピュータ背面のセキュリティケーブルスロットに市販の盗難防止デバイスを取り付けます。

メモ： 盗難防止デバイスを購入する前に、お使いのコンピュータのセキュリティケーブルスロットに対応するか確認してください。

通常、盗難防止デバイスには、金属ケーブルに取り付けられているロック装置とキーが付いています。取り付け方法は、盗難防止デバイスに付属のマニュアルに記載されています。

パスワードによる保護

注意： パスワードはコンピュータ内のデータに対してセキュリティを提供しますが、絶対に安全であるというわけではありません。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご自身でご用意ください。

System Password

注意： システムパスワードを設定せずに操作中のコンピュータから離れたり、コンピュータをロックせずに放置した場合には、第三者がジャンパ設定を変更し、パスワードを解除することができます。その結果、ハードドライブ内のデータへのアクセスが誰にでも可能になります。

オプション設定

以下の 2 つのオプションのいずれかが表示されている場合、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

- **Set** — システムパスワードが設定されています。
- **Disabled —** システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワードが無効になっています。

以下のオプションが表示された場合にのみ、システムパスワードを設定できます。

- **Not Set** — システムパスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト）になっています。

システムパスワードの設定

システムパスワードの設定を途中で中止したい場合は、<Tab> または <Shift><Tab> キーを押して別のフィールドに移動するか、または手順 5 を終了する前に <Esc> を押します。

1. セットアップユーティリティを起動して、**Password Status** が **Unlocked** に設定されているか確認します。
2. **System Password** をハイライト表示して、左右矢印キーを押します。

   オプション名が **Enter Password** に変わり、その後に 32 文字分の空のフィールドが現れます。

3. 新しいシステムパスワードを入力します。

   32 文字まで入力できます。入力した文字を訂正する場合、<Backspace> または左矢印キーを押します。パスワードは、大文字と小文字を区別しません。

   無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせを入力すると、スピーカーからビープ音が鳴ります。

   それぞれの文字キー（または空白としてのスペースバー）を押すごとに「*」が表示されます。

4. <Enter>を押します。

   新しいシステムパスワードが 32 文字未満の場合、フィールド全部に「*」が挿入されます。次に、オプション名が **Verify Password** に変わり、その後ろに 32 文字分の別の空のフィールドが現れます。

5. パスワードを確認するために、もう一度パスワードを入力して<Enter>を押します。

パスワード設定は **Set** に変わります。

6. セットアップユーティリティを終了します。

コンピュータを再起動すると、パスワード保護機能は有効になります。

システムパスワードの入力

コンピュータを起動または再起動すると、以下のプロンプトの 1 つが画面に表示されます。

Password Status が **Unlocked** に設定されている場合

```
Type in the password and
- press <ENTER> to leave password security enabled.
- press <CTRL><ENTER> to disable password security.
Enter password:
（パスワードを入力して、
<ENTER> を押すと、パスワードセキュリティは有効なままです。
<CTRL><ENTER>を押すと、パスワードセキュリティは無効になります。
パスワードを入力してください。）
```

Password Status が **Locked** に設定されている場合

```
Type the password and press <Enter>.（パスワードを入力し、<Enter>を押してください。）
```

管理者パスワードが設定されている場合、コンピュータは管理者パスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **（誤ったパスワード。）**
```

再び誤ったパスワードまたは不完全なパスワードを入力すると、同じメッセージが表示されます。システムパスワードを 3 回間違えると、それ以降は以下のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
Number of unsuccessful password attempts: 3
System halted! Must power down.（誤ったパスワード。間違ったパスワード入力の回数：3  システムが停止しました！電源を切ってください。）
```

コンピュータの電源を入れなおした後でも、再び誤ったシステムパスワード、または不完全なシステムパスワードを入力するたびに、上記のメッセージが表示されます。

メモ: System Password と **Admin Password** を併用して **Password Status** を使用すると、無許可の変更に対してコンピュータの保護を強化できます。

システムパスワードの取り消しと変更

1. セットアップユーティリティを起動して、**Password Status** が **Unlocked** に設定されているか確認します。
2. コンピュータを再起動します。
3. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
4. <Ctrl><Enter> を押して、既存のシステムパスワードを無効にします。
5. **System Password** オプションに **Not Set** と表示されているか確認します。

Not Set と表示されている場合、システムパスワードは削除されています。**Not Set** と表示されていない場合は、<Alt><b> を押してコンピュータを再起動し、手順 3 から 手順 5 を繰り返します。

「システムパスワードの設定」の手順に従って、新しいパスワードを設定します。

6. セットアップユーティリティを終了します。

Admin Password

オプション設定

以下の 2 つのオプションのいずれかが表示されている場合、管理者パスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

- **Set** — 管理者パスワードが設定されています。
- **Disabled** — システム基板のジャンパ設定によって、管理者パスワードが無効になっています。

以下のオプションが表示された場合にのみ、管理者パスワードを設定できます。

- **Not Set** — 管理者パスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト）になっています。

管理者パスワードの設定

管理者パスワードとシステムパスワードは同じでもかまいません。

メモ: これらのパスワードが異なる場合でも、管理者パスワードをシステムパスワードの代わりに入力することができます。ただし、システムパスワードは、管理者パスワードの代わりに使用することはできません。

1. セットアップユーティリティを起動して、**Admin Password** が **Not Set** に設定されているか確認します。
2. **Admin Password** をハイライト表示して、左右矢印キーを押します。

   パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字の場合、ビープ音が鳴ります。

3. パスワードを入力して確認します。

   パスワードの確認が終わると、**Admin Password** の設定は、**Set** に変わります。これ以降は、セットアップユーティリティを起動する際に、管理者パスワードの入力を求められます。

4. セットアップユーティリティを終了します。

   Admin Password の変更は、ただちに有効になります（コンピュータを再起動する必要はありません）。

管理者パスワードが有効な場合のコンピュータの操作

セットアップユーティリティを起動すると、**Admin Password** オプションがハイライト表示され、パスワードの入力を求められます。

正しいパスワードを入力しないと、セットアップオプションを変更することはできませんが、セットアップユーティリティ画面は表示されます。

メモ: **Setup Password** と一緒に **Password Status** を使用すると、無許可の変更に対してシステムパスワードを保護できます。

管理者パスワードの削除と変更

既存の管理者パスワードを変更するには、そのパスワードを知っている必要があります。

1. セットアップユーティリティを起動します。

2. プロンプトで管理者パスワードを入力します。
3. **Admin Password** をハイライト表示させ、左右矢印キーを押して、既存の管理者パスワードを削除します。

設定は **Not Set** に変わります。

「管理者パスワードの設定」の手順を実行して、新しい管理者パスワードを設定します。

4. セットアップユーティリティを終了します。

忘れたパスワードの取り消しと新しいパスワードの設定

システムパスワードまたは管理者パスワードをリセットするには、「忘れたパスワードの消去」を参照してください。

セットアップユーティリティ

概要

セットアップユーティリティは以下の場合に使用します。

- お使いのコンピュータにハードウェアを追加、変更、または取り外した後のシステム設定情報の変更
- ユーザーパスワードなどのユーザー選択可能なオプションの設定または変更
- 現在のメモリの容量を調べたり、取り付けられたハードドライブの種類を設定する場合

セットアップユーティリティを起動する前に、後で参照できるようにセットアップユーティリティ画面の情報を記録しておいてください。

セットアップユーティリティの起動

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. 青色の DELL™ ロゴが表示されたら、すぐに <F2> を押します。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やり直します。

セットアップユーティリティ画面

セットアップユーティリティ画面は、お使いのコンピュータの現在のまたは変更可能な設定情報を表示します。画面上の情報は、オプションリスト、アクティブオプションフィールド、キーファンクションの 3 つの領域に分かれます。

Options List — このフィールドはセットアップユーティリティ画面の左側に表示されます。このフィールドは、取り付けられたハードウェア、省電力機能、およびセキュリティ機能を含む、コンピュータの構成を定義するオプションを表示する、スクロール可能なリストです。 上下矢印キーを使って、一覧を上下にスクロールします。オプションがハイライト表示されている際、Option Field はそのオプションの詳細とオプションの現在の設定および利用可能な設定を表示します。	Option Field — 各オプションの情報を表示します。このフィールドで、現在の設定を表示させたり設定を変更することができます。 左右矢印キーを使って、オプションをハイライト表示します。<Enter> を押して選択を有効にします。

	Key Functions — このフィールドは Option Field の下に表示され、アクティブなセットアップユーティリティフィールドのキーおよびその機能を一覧表示します。

セットアップオプション

メモ: お使いのコンピュータおよび取り付けられているデバイスによって、この項に一覧表示された項目とは異なる場合があります。

System	
System Info	コンピュータ名、BIOS のバージョン、サービスタグを一覧表示します。
CPU Info	コンピュータのプロセッサがハイパースレッディングに対応しているか識別します。また CPU 速度、バス速度、クロックスピード、L2 キャッシュに対応しているか識別します。
Memory Info	取り付けられたメモリの容量、メモリの速度、ビデオメモリの容量、ディスプレイキャッシュのサイズ、およびチャネルモード(デュアルまたはシングル)を示します。
Date/Time	現在の日付と時間設定を表示します。
Boot Sequence	コンピュータはこの一覧で指定したデバイスの順番で起動を試みます。
Drives	
Diskette Drive	このオプションでフロッピードライブを有効または無効にします。オプションは、**Off**、**Internal**、**USB**、および **Read Only** です。
Drive 0 through Drive n	システム基板の SATA または IDE コネクタに接続されたドライバを識別し、有効または無効にします。 **メモ:** これらのオプションは、スモールフォームファクター、スモールデスクトップ、およびデスクトップコンピュータの場合は **Drive 0 ～ Drive 3**、スモールミニタワーおよびミニタワーコンピュータの場合は **Drive 0 ～ Drive 5** で表示されます。
Drive Controller	シリアル ATA コントローラの動作モードを設定します。**Normal** は、シリアル ATA コントローラをシリアル ATA ネイティブモードでのみ動作するように設定します。**Compatible** は、シリアル ATA コントローラをシリアル / パラレル ATA コンビネーションモードで動作するように設定します。
Error Reporting	この設定は、セットアップユーティリティ起動時にハードドライブエラーを報告するかどうかを決定します。
Onboard Devices	
Audio Controller	オンボードオーディオコントローラを有効または無効にします。
Mouse Port	シリアルマウスポートを有効または無効にします。(この設定はオプションのシリアルポートアダプタが取り付けられている場合のみ表示されます。)
NIC Controller	NIC を **On**(デフォルト)、**Off**、または **On w/ PXE** に設定します。**On w/PXE** 設定を有効にすると(この後の起動プロセスにのみ選択可)、プロンプトに <Ctrl><Alt><b> を押すよう表示されます。このキーの組み合わせを押すとメニューが表示され、ネットワークサーバーから起動する方法を選択できます。起動ルーチンがネットワークサーバーから使用できないと、システムは起動順序リスト内の次のデバイスからの起動を試みます。
LPT Port Mode	このオプションは、内蔵パラレルポートの動作モードを設定します。設定は、**Off**、**AT**、**PS/2**(デフォルト)、**EPP**、および **ECP** です。 • **AT** — ポートは、IBM AT 互換用に設定されます。 • **PS/2** — ポートは、IBM PS/2 互換用に設定されます。 • **EPP** — 拡張パラレルポートプロトコル

	• **ECP** — 拡張機能ポートプロトコル
LPT Port Address	このオプションで内蔵パラレルポートが使用するアドレスを設定します。設定は、**378h**(デフォルト)、**278h**、および **3BCh** です。
PCI Slots	PCI スロットを有効または無効にします。
Serial Port #1	**Auto**(デフォルト)は、コネクタを自動的に特定の指定先(**COM1** または **COM3**)に設定します。
Serial Port #2	**Auto**(デフォルト)は、コネクタを自動的に特定の指定先(**COM1** または **COM3**)に設定します。(この設定はオプションのシリアルポートアダプタが取り付けられている場合のみ表示されます。)
USB	このオプションが **On** に設定されているとき、USB デバイスはオペレーティングシステムで認識されサポートされます。
USB Disable	前面の USB コネクタを有効または無効にします。デフォルト設定は **On** です。前面のコネクタを無効にする場合は、**Off** を選択します。
Performance	
Hyper-threading	お使いのコンピュータのプロセッサがハイパースレッディングに対応している場合、このオプションが **Options List** に表示されます。
HDD Acoustic Mode	• **Quiet** — ハードドライブは最も静かな設定で動作します。 • **Performance** — ハードドライブは最大速度で動作します。 • **Bypass**(デフォルト)— お使いのコンピュータは、現在のアコースティックモードの設定をテストまたは変更しません。 • **Suggested** — ハードドライブは、ハードドライブの製造元が推奨する速度レベルで動作します。 **メモ：** Performance モードへ切り替えると、ドライブはより大きなノイズを発生する場合がありますが、動作に影響はありません。アコースティック設定を変更しても、ハードドライブイメージは変わりません。
Security	このセクションは、利用可能なシステムのセキュリティオプションを表示します。詳細については、「セキュリティ」を参照してください。
Admin Password	このオプションは、システムパスワードがシステムへのアクセスを制限するのと同様にコンピュータのセットアップユーティリティへのアクセスを制限します。設定は、**Set**、**Not Set**、および **Disabled** です。 オプションが **Set** に設定されている場合、管理者パスワードが設定されています。 オプションが **Not Set** に設定されている場合、管理者パスワードが設定されていません。またシステム基板のパスワードジャンパが有効設定(デフォルト)になっています。 オプションが **Disabled** に設定されている場合、システム基板のジャンパ設定によって、管理者パスワードが無効になっています。 管理者パスワードを無効にするには、プロンプトにパスワードを入力して <Ctrl><Enter> を押します。
System Password	現在のシステムのパスワードセキュリティ機能の状態を表示して、新しいシステムパスワードの割り当てと確認を行います。設定は、**Set**、**Not Set**、および **Disabled** です。 オプションが **Set** に設定されている場合、システムパスワードが設定されています。 オプションが **Not Set** に設定されている場合、管理者パスワードが設定されていません。またシステム基板のパスワードジャンパが有効設定(デフォルト)になっています。 オプションが **Disabled** に設定されている場合、システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワードが無効になっています。 システムパスワードを無効にするには、プロンプトにパスワードを入力して <Ctrl><Enter> を押します。
Drive Password	このパスワードを設定して、権限のないユーザーがハードドライブにアクセスするのを防ぎます。 **メモ：** このオプションは取り付けられた各ハードドライブで表示されます。
Password Status	このオプションは、管理者パスワードを使ってシステムパスワードフィールドをロックします。このフィールドがロックされていると、コンピュータを始動する際に <Ctrl><Enter> を押してパスワードセキュリティを無効にするオプションは使用できません。
Chassis Intrusion	シャーシイントルージョンが搭載されていて有効な場合、このオプションはコンピュータの次回の起動時に、コンピュータカバーが開けられたことをユーザーに警告します。設定は、**On**、**On-Silent**(デフォルト)、および **Off** です。
Intrusion Status	シャーシイントルージョンイベントが起きた場合にのみ、このオプションはセットアップユーティリティに表示されます。設定は、**Clear** および **Detected**(デフォルト)です。**Clear** を選んで、シャーシイントルージョンのステータスを消去します。
Power Management	
AC Recovery	コンピュータに AC 電源が回復した場合にどうするかを設定します。

Auto Power On（オートパワーオン）	時間と曜日を設定し、自動的にコンピュータの電源を入れることができます。選べるのは、**Everyday** または **Weekdays** です。デフォルト設定は、**Off** です。 この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。
Auto Power Time	コンピュータを自動的に起動する特定の時間を設定します。時間は 24 時間形式（時間:分）で表示されます。左右矢印キーを押して、数値を増減するか、日付と時間のフィールドの両方に数値を入力して、起動する時間を変更します。 この設定を **Auto Power On** 設定と併用します。
Low Power Mode	**Low Power Mode** が選択されている場合、リモートウェイクアップイベントは、追加の NIC カードが取り付けられていない限り **Hibernate** または **Off** から起動しません。 **メモ：** この設定は内蔵ネットワークコントローラにのみ影響します。
Remote Wake-Up	このオプションは、Network Interface Controller または Remote Wakeup 機能を持つモデムがウェイクアップ信号を受け取った際に、システムを起動させます。 **Off** がデフォルト設定です。 **On w/ Boot to NIC** の場合、コンピュータは起動順序を使用する前に、ネットワークから起動しようとします。 **メモ：** 通常、システムはサスペンドモード、休止状態モード、または電源が切れた状態からリモートで起動できます。**Power Management** メニューで **Low Power Mode** が有効な場合、システムは **Suspend** からのみリモートで起動できます。
Suspend Mode	オプションは、**S1**（コンピュータが省電力モードで動作中のサスペンド状態）および **S3**（ほとんどのコンポーネントに電源が低減されているか切られているが、システムメモリはアクティブな、スタンバイ状態）です。
Maintenance	
CMOS Defaults	この設定は、コンピュータの工場出荷時のデフォルト設定を復元します。オプションは **Cancel** および **Continue/Reset CMOS** です。
Event Log	システムイベントログを表示します。
BIOS Update	BIOS アップデートファイルの場所を選びます。オプションは、**Floppy Disk** または **Hard Drive** です。
Video	
Primary Video	この設定はコンピュータに 2 台のビデオコントローラが搭載されている場合、どちらのビデオコントローラがプライマリであるか特定します。
POST Behavior	
Fastboot	**On**（デフォルト）に設定されている場合、お使いのコンピュータは起動時に、特定の設定とテストを省略するのでより早く起動します。
Numlock Key	このオプションは、キーボードの一番右のバンクにあるキーに関連します。**On**（デフォルト）に設定されていると、このオプションは各キーの上部に表示されている数値機能がアクティブになります。**Off** に設定されていると、このオプションは各キーの下部に描かれているカーソルコントロール機能を有効にします。
OS Install	この設定は、OS Install Mode を **On** または **Off**（デフォルト）に切り替えます。
POST Hotkeys	この設定は、コンピュータ起動時にセットアップユーティリティなどを起動するキーの組み合わせを表示するかどうかを指定します。デフォルト設定は、**Setup & Boot Menu** です。
Keyboard Errors	このオプションは、コンピュータ起動時のキーボードエラーレポートを無効または有効にします。

Boot Sequence

この機能を使って、デバイスの起動順序を変更します。

オプション設定

- **Onboard or USB Floppy Drive** — コンピュータはフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブ内のフロッピーディスクが起動用でない場合、またはフロッピーディスクがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **Onboard SATA Hard Drive** — コンピュータはプライマリシリアル ATA ハードドライブからの起動を試みます。オペレーティングシステムがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッ

セージを生成します。

- **Onboard IDE Hard Drive** — コンピュータはプライマリ IDE ハードドライブがある場合、プライマリ IDE ハードドライブからの起動を試みます。オペレーティングシステムがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **Onboard or USB CD-ROM Device** — コンピュータは CD ドライブからの起動を試みます。ドライブに CD がない場合、あるいは CD にオペレーティングシステムがない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。

一回のみの起動順序の変更

この機能を使って、たとえば、『Drivers and Utilities CD』にある Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行するように CD ドライブからコンピュータを起動し、Dell Diagnostics（診断）プログラムが完了したらハードドライブから起動するように設定できます。この機能を使って、フロッピードライブ、メモリキー、または CD ドライブなどの USB デバイスからコンピュータを再起動することができます。

メモ： USB フロッピードライブから起動する場合、セットアップユーティリティでフロッピードライブを USB に接続する必要があります。

1. USB デバイスから起動する場合、USB デバイスを USB コネクタに接続します。
2. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
3. 画面右上角に`F2=Setup,F12=Boot Menu`が表示された場合、<F12> を押します。

   ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やり直します。

   すべての利用可能な起動デバイスを一覧表示した **Boot Device Menu** が表示されます。各デバイスには、横に番号があります。

4. メニューの一番下で、一回の起動のみに使用されるデバイスの数字を入力します。

   たとえば、USB メモリキーから起動する場合、**USB Device** をハイライト表示して <Enter> を押します。

メモ： USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能でなければなりません。お使いのデバイスが起動可能か確認するには、デバイスのマニュアルを参照してください。

次回からの起動用の起動順序の変更

1. セットアップユーティリティを起動します。
2. 矢印キーを使って **BootSequence** メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押して、ポップアップメニューにアクセスします。

メモ： 後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を書き留めておきます。

3. デバイスのリスト内を移動するには、上下矢印キーを押します。
4. デバイスを有効または無効にするには、スペースバーを押します（有効にしたデバイスにはチェックマークが付いています）。
5. 選択したデバイスを、<Shift><上矢印> を押してリストの上に移動したり、<Shift><下矢印> を押して下に移動します。

USB デバイスからの起動

メモ： USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能でなければなりません。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

メモリキー

1. USB ポートにメモリキーを挿入して、コンピュータを再起動します。
2. 画面の右上角に `F12 = Boot Menu` と表示されたら、<F12> を押します。

   BIOS がデバイスを認識し、USB デバイスオプションを起動メニューに追加します。

3. 起動メニューから、USB デバイスの隣に表示されている番号を選択します。

コンピュータは USB デバイスから起動します。

フロッピードライブ

1. セットアップユーティリティで、**Diskette Drive** オプションを **USB** に設定します。
2. 保存して、セットアップユーティリティを終了します。
3. USB フロッピードライブに接続し、起動フロッピーを挿入して、システムを再起動します。

忘れたパスワードの消去

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意：この手順を行うと、システムパスワードと管理者パスワードの両方が消去されます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. システム基板の 2 ピンパスワードジャンパ（PSWD）の位置を確認し、ジャンパを取り外して、パスワードを消去します。

スモールフォームファクターコンピュータ

スモールデスクトップコンピュータ

デスクトップコンピュータ

スモールミニタワーコンピュータ

ミニタワーコンピュータ

ジャンパ	設定	説明
PSWD	(デフォルト)	パスワード機能が有効
		パスワード機能が無効
RTCRST		リアルタイムクロックリセット
ジャンパあり ジャンパなし		

3. コンピュータカバーを閉じます。
4. コンピュータとモニターをコンセントに接続して、電源を入れます。
5. Microsoft® Windows® デスクトップがコンピュータに表示されたら、コンピュータをシャットダウンします。
6. モニターの電源を切って、コンセントから外します。
7. コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外し、電源ボタンを押して、システム基板の静電気を除去します。
8. コンピュータカバーを開きます。
9. システム基板の 2 ピンパスワードジャンパの位置を確認し、ジャンパを取り付けてパスワード機能を再度有効にします。
10. コンピュータカバーを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

メモ： これで、パスワード機能は有効になります。セットアップユーティリティを起動すると、システムパスワードオプションと管理者パスワードオプションの両方が **Not Set** と表示されます（パスワード機能は有効ですが、パスワードが設定されていません）。

12. 新しいシステムパスワード、または管理者パスワードを設定します。

CMOS 設定のクリア

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 現在の CMOS 設定にリセットします。
   a. システム基板上のパスワード (PSWD) ジャンパと CMOS（RTC_RST）ジャンパの位置を確認します。
   b. パスワードジャンパプラグをピンから取り外します。
   c. パスワードジャンパプラグを RTC RST ピンに取り付け、約 5 秒待ちます。

d. RTC_RST ピンからジャンパを取り外して、パスワードピンに取り付けなおします。

3. コンピュータカバーを閉じます。

4. コンピュータスタンドを使用する場合、コンピュータスタンドを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

5. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

ハイパースレッディング

ハイパースレッディングは Intel® テクノロジであり、1 つの物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させることでコンピュータ全体の性能を向上させるので、特定のタスクを同時に実行することができます。Windows XP オペレーティングシステムは、ハイパースレッディングテクノロジを利用するために最適化されているので、Microsoft® Windows® XP SP1 以降のオペレーティングシステムを使用することをお勧めします。多くのプログラムは、ハイパースレッディングの恩恵を受けることになりますが、ハイパースレッディング用に最適化されていないプログラムもあります。それらのプログラムは、ソフトウェアの製造元によるアップデートが必要な場合があります。アップデートやハイパースレッディングでソフトウェアを使用する方法については、ソフトウェアの製造元にお問い合わせください。

お使いのコンピュータがハイパースレッディングテクノロジを使用しているか確認するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。

2. **ハードウェア** をクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。

3. **デバイスマネージャ** ウィンドウで、プロセッサ横のプラス（＋）サインをクリックします。ハイパースレッディングが有効な場合、プロセッサは 2 つ表示されています。

セットアップユーティリティを使って、ハイパースレッディングを有効または無効にすることができます。

電力の管理

お使いのコンピュータは、作業しない場合に少ない電力で動作するよう設定できます。コンピュータにインストールされたオペレーティングシステムおよびセットアップユーティリティの特定のオプション設定を使って、電力使用を制御します。節電されている期間を「スリープ状態」と呼びます。

- **スタンバイ —** このスリープ状態では、ほとんどのコンポーネント（冷却ファンを含む）への電力は減少されるか切られます。しかし、システムメモリは活動状態にあります。

  この状態は、Windows NT 4.0 ではサポートされていません。

メモ： スタンバイ状態になるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントがこの機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細については、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。

- **休止状態 —** このスリープ状態は、システムメモリのすべてのデータをハードドライブに書き込み、それからシステム電源を切ることによって、電力消費を最小にします。この状態からウェイクアップするとコンピュータが再起動し、メモリの内容が回復されます。そしてコンピュータは休止状態に入ったときの状態から動作を開始します。

  この状態は、Windows NT 4.0 ではサポートされていません。

メモ： 休止状態になるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントがこの機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細については、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。

- **シャットダウン —** このスリープ状態では、補助用のわずかな量を除いてコンピュータからすべての電源を切ります。コンピュータがコンセントに接続されている限り、自動的にまたはリモートで起動することができます。たとえば、セットアップユーティリティの Auto Power On オプションを使うと、コンピュータを特定の時間に自動的に起動することができます。また、ネットワーク管理者は電源管理イベント（Remote Wake Up など）を使って、コンピュータをリモートで起動することができます。

次の表に、スリープ状態とそれぞれの状態から復帰させるために使用できる方法を一覧表示します。

スリープの状態	ウェイクアップの方法（Windows 2000 および XP）
スタンバイ	・電源ボタンを押す ・Auto Power On ・マウスを動かすかクリックする

	- キーボードで入力する - USB デバイスアクティビティ - 電源管理イベント
休止状態	- 電源ボタンを押す - Auto Power On - 電源管理イベント
シャットダウン	- 電源ボタンを押す - Auto Power On - 電源管理イベント

メモ: 電源管理の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

目次に戻る

目次に戻る

バッテリー

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

バッテリーの交換

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

コイン型バッテリーは、コンピュータの設定、日付、時間の情報を保持します。バッテリーの寿命は数年間です。

起動ルーチン中に日付や時刻が間違っていて、次のメッセージが表示される場合、バッテリーを交換する必要があります。

`Time-of-day not set - please run SETUP program`（日時が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください。）

または

```
Invalid configuration information -
please run SETUP program
（無効な設定情報 – セットアップユーティリティを実行してください。）
```

または

```
Strike the F1 key to continue,
F2 to run the setup utility
（続けるには F1 キーを、セットアップユーティリティを起動するには F2 キーを押してください。）
```

バッテリーの交換が必要かどうか確認するには、セットアップユーティリティで日付と時刻を再入力し、プログラムを終了してその情報を保存します。コンピュータの電源を切り、コンセントから 2 ～ 3 時間外しておきます。次に、コンピュータをコンセントに接続しなおし、電源を入れてセットアップユーティリティを起動します。セットアップユーティリティに表示される日付と時刻が間違っている場合、バッテリーを交換します。

バッテリーがなくてもコンピュータは動作しますが、電源をオフにしたり、コンセントから電源プラグを抜いた場合、コンピュータ設定情報は消去されます。その場合、セットアップユーティリティを起動して、設定オプションを再設定する必要があります。

警告：新しいバッテリーは、間違って取り付けると破裂する恐れがあります。バッテリーを交換する場合、同じバッテリー、または製造元が推奨する同等のバッテリーのみ使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

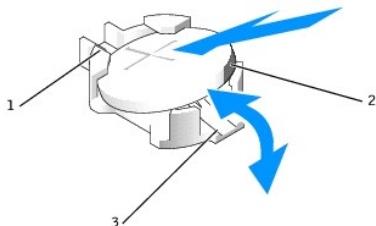
バッテリーを取り外します。

1. まだ行っていない場合、セットアップユーティリティにある設定情報をコピーしておきます。
2. 「はじめに」の手順を実行します。
3. バッテリーソケットを確認します。

注意： 先端の鋭くない道具を使用してバッテリーをソケットから取り出す場合、道具がシステム基板に触れないよう注意してください。必ず、バッテリーとソケットの間に道具を確実に挿入してから、バッテリーを外してください。これらの手順を踏まないと、バッテリーソケットが外れたり、システム基板の回路を切断するなど、システム基板に損傷を与える恐れがあります。

注意： バッテリーコネクタへの損傷を防ぐために、バッテリーを取り外す際はコネクタをしっかりと支えておく必要があります。

4. システムバッテリーを取り外します。
   a. コネクタのプラス側をしっかり押さえ込んで、バッテリーコネクタを支えます。

b. バッテリーコネクタを支えたまま、バッテリーをコネクタのプラス側の方に押し込み、コネクタのマイナス側にある固定タブから持ち上げて取り外します。

1	バッテリーコネクタのプラス側
2	システムバッテリー
3	バッテリーコネクタのマイナス側

注意： バッテリーコネクタへの損傷を防ぐために、バッテリーを取り付ける際はコネクタをしっかりと支えておく必要があります。

以下の手順で新しいシステムバッテリーを取り付けます。

1. コネクタのプラス側をしっかり押さえ込んで、バッテリーコネクタを支えます。
2. バッテリーの「＋」側を上に向け、コネクタのプラス側にある固定タブの下にスライドさせます。
3. バッテリーがカチッと所定の位置に収まるまで、コネクタをまっすぐに押し下げます。
4. コンピュータカバーを閉じます。
5. コンピュータスタンドを使用する場合、コンピュータスタンドを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

6. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

7. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

8. セットアップユーティリティを起動して、手順 1 で記録した設定に戻します。
9. 古いバッテリーは適切に廃棄します。バッテリーの廃棄については、『製品情報ガイド』を参照してください。

目次に戻る

目次に戻る

はじめに

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

この項では、コンピュータのコンポーネントの取り外しおよび取り付けについて説明します。特に指示がない限り、それぞれの手順では以下の条件を満たしていることを前提とします。

- 「コンピュータの電源を切る」および「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順をすでに終えていること。
- Dell™ の『製品情報ガイド』の安全に関する情報をすでに読んでいること。
- 取り外しの手順と逆の手順を行うことで部品の取り付けが可能であること。

推奨するツール

このドキュメントで説明する操作には、以下のようなツールが必要な場合があります。

- 細めのマイナスドライバ
- プラスドライバ
- フラッシュ BIOS アップデートプログラムフロッピーディスクまたは CD

コンピュータの電源を切る

注意： データの損失を避けるため、コンピュータの電源を切る前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

1. オペレーティングシステムをシャットダウンします。
   a. 開いているすべてのプログラムやファイルを保存して終了します。**スタート** ボタンをクリックして、**終了オプション** をクリックします。
   b. **コンピュータの電源を切る** ウィンドウで、**電源を切る** をクリックします。

   オペレーティングシステム処理が完了すると、コンピュータの電源が切れます。
2. コンピュータおよび接続されているデバイスの電源が切れていることを確認します。オペレーティングシステムをシャットダウンした際に、コンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

コンピュータ内部の作業をする前に

コンピュータへの損傷を防ぎ、ご自身を危険から守るため、次の安全に関する注意事項に従ってください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：コンポーネントやカードは慎重に扱ってください。カード上の部品や接続部分には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケットの部分を持ってください。プロセッサなどの部品を持つ際は、ピンではなく縁を持ってください。

注意： コンピュータシステムの修理は、資格を持っているサービス技術者のみが行ってください。デルが許可していない修理による損傷は、保証できません。

注意： ケーブルを外すときは、ケーブルそのものではなくコネクタやストレインリリーフループを持って抜いてください。ケーブルによってはコネクタにロックタブが付いていることがあります。このタイプのケーブルを外す場合は、ロックタブを押し込んでからケーブルを抜いてください。コネクタを抜く際は、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜いてください。また、ケーブルを接続する際は、両方のコネクタの向きが合っていることを確認してください。

注意： コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行します。

1. コンピュータの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを外すには、まずコンピュータからケーブルのプラグを外し、次に壁のネットワークジャックからプラグを外します。

2. コンピュータからすべての電話線または通信回線を取り外します。
3. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を除去します。

4. コンピュータスタンドが取り付けられている場合は、それを取り外します。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

5. コンピュータカバーを開きます。

注意： コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

目次に戻る

目次に戻る

はじめに
Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

この項では、コンピュータのコンポーネントの取り外しおよび取り付けについて説明します。特に指示がない限り、それぞれの手順では以下の条件を満たしていることを前提とします。

- 「コンピュータの電源を切る」および「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順をすでに終えていること。
- Dell™ の『製品情報ガイド』の安全に関する情報をすでに読んでいること。
- 取り外しの手順と逆の手順を行うことで部品の取り付けが可能であること。

推奨するツール

このドキュメントで説明する操作には、以下のようなツールが必要な場合があります。

- 細めのマイナスドライバ
- プラスドライバ
- フラッシュ BIOS アップデートプログラムフロッピーディスクまたは CD

コンピュータの電源を切る

注意： データの損失を避けるため、コンピュータの電源を切る前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

1. オペレーティングシステムをシャットダウンします。
   a. 開いているすべてのプログラムやファイルを保存して終了します。**スタート** ボタンをクリックして、**終了オプション** をクリックします。
   b. **コンピュータの電源を切る** ウィンドウで、**電源を切る** をクリックします。

   オペレーティングシステム処理が完了すると、コンピュータの電源が切れます。
2. コンピュータおよび接続されているデバイスの電源が切れていることを確認します。オペレーティングシステムをシャットダウンした際に、コンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

コンピュータ内部の作業をする前に

コンピュータへの損傷を防ぎ、ご自身を危険から守るため、次の安全に関する注意事項に従ってください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：コンポーネントやカードは慎重に扱ってください。カード上の部品や接続部分には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケットの部分を持ってください。プロセッサなどの部品を持つ際は、ピンではなく縁を持ってください。

注意： コンピュータシステムの修理は、資格を持っているサービス技術者のみが行ってください。デルが許可していない修理による損傷は、保証できません。

注意： ケーブルを外すときは、ケーブルそのものではなくコネクタやストレインリリーフループを持って抜いてください。ケーブルによってはコネクタにロックタブが付いていることがあります。このタイプのケーブルを外す場合は、ロックタブを押し込んでからケーブルを抜いてください。コネクタを抜く際は、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜いてください。また、ケーブルを接続する際は、両方のコネクタの向きが合っていることを確認してください。

注意： コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行します。

1. コンピュータの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを外すには、まずコンピュータからケーブルのプラグを外し、次に壁のネットワークジャックからプラグを外します。

2. コンピュータからすべての電話線または通信回線を取り外します。
3. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を除去します。

4. コンピュータスタンドが取り付けられている場合は、それを取り外します。

警告： 感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

5. コンピュータカバーを開きます。

注意： コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

目次に戻る

目次に戻る

はじめに

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

この項では、コンピュータのコンポーネントの取り外しおよび取り付けについて説明します。特に指示がない限り、それぞれの手順では以下の条件を満たしていることを前提とします。

- 「コンピュータの電源を切る」および「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順をすでに終えていること。
- Dell™ の『製品情報ガイド』の安全に関する情報をすでに読んでいること。
- 取り外しの手順と逆の手順を行うことで部品の取り付けが可能であること。

推奨するツール

このドキュメントで説明する操作には、以下のようなツールが必要な場合があります。

- 細めのマイナスドライバ
- プラスドライバ
- フラッシュ BIOS アップデートプログラムフロッピーディスクまたは CD

コンピュータの電源を切る

注意： データの損失を避けるため、コンピュータの電源を切る前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

1. オペレーティングシステムをシャットダウンします。
   a. 開いているすべてのプログラムやファイルを保存して終了します。**スタート** ボタンをクリックして、**終了オプション** をクリックします。
   b. **コンピュータの電源を切る** ウィンドウで、**電源を切る** をクリックします。

   オペレーティングシステム処理が完了すると、コンピュータの電源が切れます。
2. コンピュータおよび接続されているデバイスの電源が切れていることを確認します。オペレーティングシステムをシャットダウンした際に、コンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

コンピュータ内部の作業をする前に

コンピュータへの損傷を防ぎ、ご自身を危険から守るため、次の安全に関する注意事項に従ってください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：コンポーネントやカードは慎重に扱ってください。カード上の部品や接続部分には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケットの部分を持ってください。プロセッサなどの部品を持つ際は、ピンではなく縁を持ってください。

注意： コンピュータシステムの修理は、資格を持っているサービス技術者のみが行ってください。デルが許可していない修理による損傷は、保証できません。

注意： ケーブルを外すときは、ケーブルそのものではなくコネクタやストレインリリーフループを持って抜いてください。ケーブルによってはコネクタにロックタブが付いていることがあります。このタイプのケーブルを外す場合は、ロックタブを押し込んでからケーブルを抜いてください。コネクタを抜く際は、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜いてください。また、ケーブルを接続する際は、両方のコネクタの向きが合っていることを確認してください。

注意： コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行します。

1. コンピュータの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを外すには、まずコンピュータからケーブルのプラグを外し、次に壁のネットワークジャックからプラグを外します。

2. コンピュータからすべての電話線または通信回線を取り外します。
3. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を除去します。

4. コンピュータスタンドが取り付けられている場合は、それを取り外します。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

5. コンピュータカバーを開きます。

注意： コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

目次に戻る

目次に戻る

シャーシイントルージョンスイッチ

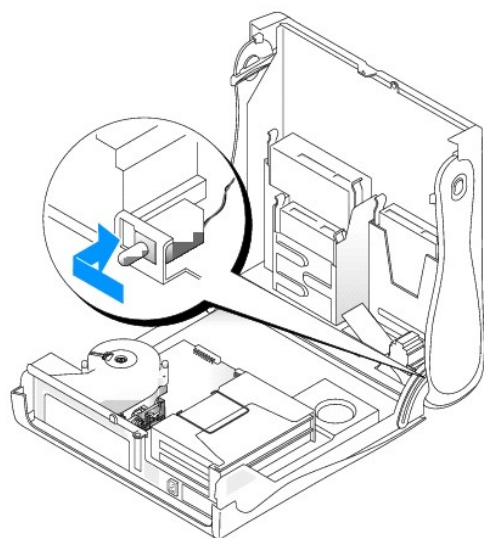
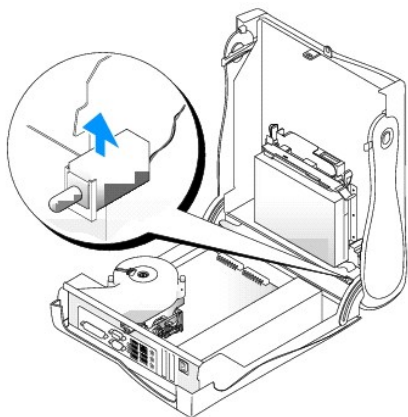
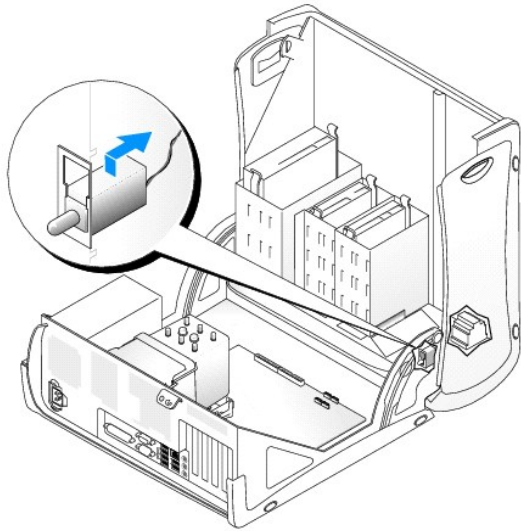
Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

シャーシイントルージョンスイッチの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. コンピュータ前面にあるコントロールパネルからシャーシイントルージョンスイッチケーブルを取り外します。

シャーシからシャーシイントルージョンケーブルを外す際は、ケーブルの配線経路をメモしておいてください。シャーシに付いているフックは、ケーブルをシャーシ内部の所定の位置に固定するためのものです。

3. シャーシイントルージョンスイッチをスロットから引き出し、スイッチとそのスイッチに付いているケーブルをコンピュータから外します。

4. シャーシイントルージョンスイッチをスロットにスライドし、ケーブルをコントロールパネルのコネクタに取り付けます。

5. コンピュータカバーを閉じます。

6. コンピュータスタンドを使用する場合、コンピュータスタンドを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

シャーシイントルージョンディテクタのリセット

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

2. 青色の DELL™ ロゴが表示されたら、すぐに <F2> を押します。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

3. **Chassis Intrusion** オプションを選び、左右矢印キーを押して **Reset** を選択します。設定を **On**、**On-Silent**、または **Disabled** に変更します。

メモ： デフォルト設定は **On-Silent** です。

4. <Alt><B>を押し、コンピュータを再起動して変更を有効にします。

目次に戻る

目次に戻る

シャーシイントルージョンスイッチ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

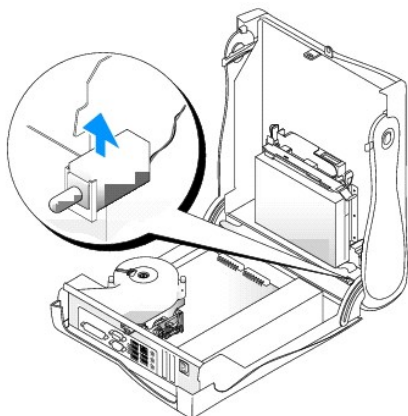
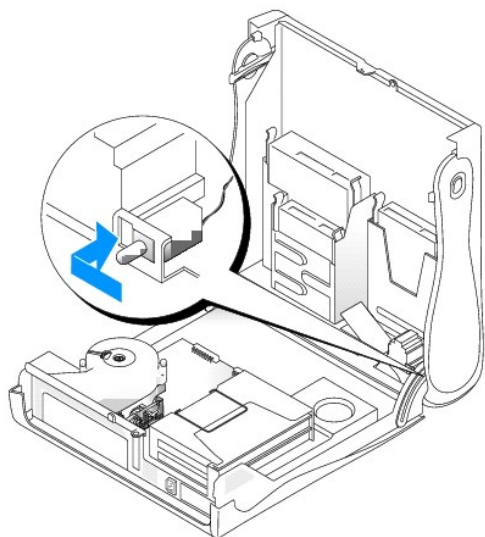
シャーシイントルージョンスイッチの取り外し

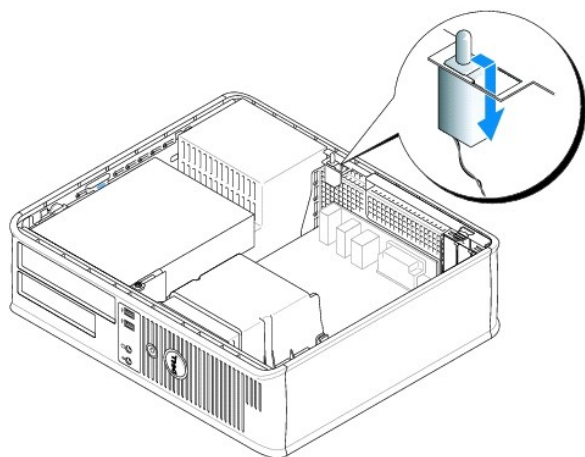
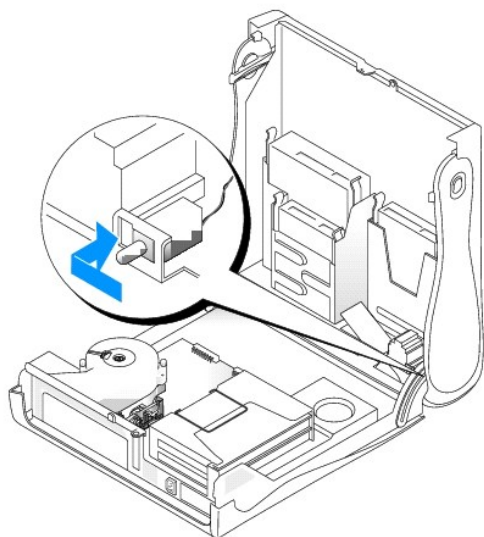
警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

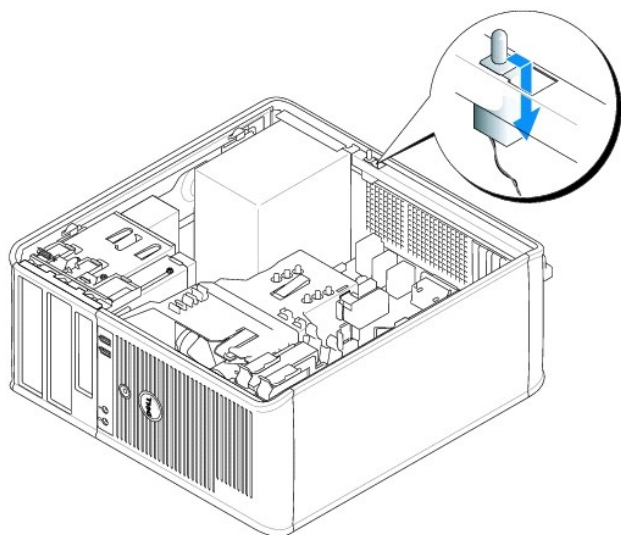
1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. シャーシイントルージョンスイッチケーブルをシステム基板から取り外します。

シャーシからシャーシイントルージョンケーブルを外す際は、ケーブルの配線経路をメモしておいてください。シャーシに付いているフックは、ケーブルをシャーシ内部の所定の位置に固定するためのものです。

3. マイナスドライバを使ってシャーシイントルージョンスイッチをスロットから注意深く引き出し、スイッチおよび取り付けられているケーブルをコンピュータから取り外します。

スモールフォームファクターコンピュータ

スモールデスクトップコンピュータ

デスクトップコンピュータ

スモールミニタワーコンピュータ

ミニタワーコンピュータ

シャーシイントルージョンスイッチの取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. シャーシイントルージョンスイッチをスライドさせて注意深くスロットに入れ、ケーブルをシステム基板に再接続します。
2. コンピュータカバーを閉じます。
3. コンピュータスタンドを使用する場合、コンピュータスタンドを取り付けます。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

4. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

シャーシイントルージョンディテクタのリセット

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

2. 青色の DELL™ ロゴが表示されたら、すぐに <F2> を押します。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

3. **Chassis Intrusion** オプションを選び、左右矢印キーを押して **Reset** を選択します。設定を **On**、**On-Silent**、または **Disabled** に変更します。

メモ： デフォルト設定は **On-Silent** です。

4. <Alt><B>を押し、コンピュータを再起動して変更を有効にします。

目次に戻る

目次に戻る

コンピュータのクリーニング

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

コンピュータ、キーボード、およびモニター

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：コンピュータをクリーニングする前に、コンピュータの電源ケーブルをコンセントから抜きます。コンピュータのクリーニングには、水で湿らせた柔らかい布をお使いください。液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。可燃性物質を含んでいる場合があります。

- 掃除機のブラシを使って、慎重にコンピュータのスロット部分や穴の開いている部分、およびキーボード上のキーの間のゴミを取り除きます。

注意： 洗剤またはアルコール液でモニター画面を拭かないでください。反射防止コーティングが損傷する恐れがあります。

- モニター画面をクリーニングするには、水で軽く湿らした柔らかくて清潔な布を使います。可能であれば、画面クリーニング専用ティッシュまたはモニターの帯電防止コーティング用に適した溶液を使ってください。
- 中性の液体洗剤と水を 1 対 3 の割合で混ぜ、それを柔らかいクリーニング用の布に含ませて拭きます。その布でキーボード、コンピュータ、およびモニターのプラスチック部分を拭きます。

この溶液に布を浸さないでください。また、コンピュータやキーボードの内部に溶液が入らないようにしてください。

マウス

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

画面のカーソルが飛んだり、異常な動きをする場合、マウスをクリーニングします。光学式でないマウスをクリーニングするには、次の手順を実行します。

1. マウスの底の固定リングを反時計回りに回し、次にボールを取り出します。
2. 清潔で糸くずのでない布でボールを拭きます。
3. ボールケージに慎重に風を送って、ほこりや糸くずを取り除きます。
4. ボールケージの中にあるローラーが汚れている場合、消毒用アルコール（イソプロピルアルコール）を軽く浸した綿棒を使って、ローラーの汚れを拭き取ります。
5. ローラーが溝からずれている場合、中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
6. ボールと固定リングをマウスに取り付けて、固定リングを時計回りに回して元の位置にはめ込みます。

フロッピードライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： ドライブヘッドを綿棒でクリーニングしないでください。ヘッドの位置がずれてドライブが動作しなくなることがあります。

市販のクリーニングキットでフロッピードライブをクリーニングします。これらのキットには、通常の使用時にドライブヘッドに付いた汚れを落とすように前処理されたフロッピーディスクが入っています。

CD および DVD

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： CD/DVD ドライブのレンズの手入れには、必ず圧縮空気を使用して、圧縮空気に付属しているマニュアルに従ってください。ドライブのレンズには絶対に触れないでください。

CD や DVD がスキップしたり、音質や画質が低下したりする場合、ディスクを掃除します。

1. ディスクの外側の縁を持ちます。中心の穴の縁にも触ることができます。

注意： 円を描くようにディスクを拭くと、ディスク表面に傷をつける恐れがあります。

2. 糸くずのでない柔らかな布で、ディスクの裏面（ラベルのない面）をディスクの中心から外側に向けて丁寧にまっすぐ拭きます。

頑固な汚れは、水、または水と刺激性の少ない石鹸の希釈溶液で試してください。ディスクの汚れを落とし、ほこりや指紋、ひっかき傷などからディスクを保護する市販のディスククリーナーもあります。CD 用のクリーナーは DVD にも使用できます。

目次に戻る

目次に戻る

コンピュータカバーの閉じ方

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. すべてのケーブルがしっかり接続され、ケーブルが邪魔にならない場所に束ねられているか確認します。

   電源ケーブルがドライブの下に挟まらないように、電源ケーブルを慎重に手前に引きます。

2. コンピュータの内部に工具や余った部品が残っていないか確認します。
3. スモールフォームファクター、スモールデスクトップ、およびスモールミニタワーのカバーを閉じるには、以下の作業を行います。
   a. カバーを下に動かします。
   b. カバーが閉じるまでカバーの右側を押し下げます。
   c. カバーが閉じるまでカバーの左側を押し下げます。
   d. カバーの両側がロックされているか確認します。ロックされていない場合、手順 3 すべてを繰り返し実行します。
4. デスクトップおよびミニタワーのカバーを閉じるには、以下の操作を実行します。
   a. カバーの下側を、コンピュータの底面の縁に沿ってあるタブに合わせます。
   b. タブをてこのように使い、カバーを下方向に動かして閉じます。
   c. カバーをリリースラッチ上で後方に引いて所定の位置にはめ込み、カバーが正しい位置に収まったらラッチを解放します。
   d. コンピュータを立たせる前に、カバーが正しくはまっていることを確認します。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

5. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

   カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

   `ALERT! Cover was previously removed.（警告! カバーが取り外されました。）`

6. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

目次に戻る

お使いのデスクトップコンピュータについて

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

正面図

1	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスの起動については、「セットアップユーティリティ」を参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
2	LAN インジケータライト	LAN（ネットワーク）接続が確立されていることを示します。
3	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意**：データの損失を防ぐため、6 秒以上電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。 **注意**：お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
4	Dell バッジ	これを回転させて、コンピュータの方向に合わせることができます。バッジ回転させるには、バッジの外回りに指を置き、しっかり押してバッジを回します。バッジの下側近くにあるスロットを使って回転させることもできます。
5	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 - 消灯 — コンピュータは電源が切れた状態です。（S4、S5、または機械的オフ） - 緑色の点灯 — コンピュータは通常の動作状態です。 - 緑色の点滅 — コンピュータは、省電力状態です。（S1 または S3） - 黄色の点滅または点灯 —「電源の問題」を参照してください。 省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスに設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止状態および省電力状態からの復帰の詳細については、「電力の管理」を参照してください。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「診断ライト」を参照してください。
6	診断ライト	診断ライトは、Diagnostic（診断）コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細については、「診断ライト」を参照してください。
7	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブがアクセスされているときに点滅します。
8	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます。
9	マイクコネクタ	マイクのコネクタを使ってマイクを取り付けます。
10	フロッピードライブ	フロッピーディスクをこのドライブに入れます。
11	CD/DVD ドライブ	CD または DVD をこのドライブに入れます。

背面図

1	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。
2	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスを対応するコネクタに差し込みます。
3	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
4	電圧切り替えスイッチ（すべてのコンピュータに搭載されているわけではありません）	お使いのコンピュータには、電圧自動感知セレクタまたは手動の電圧切り替えスイッチのどちらかが装備されています。電圧自動感知セレクタの付いたコンピュータには、背面パネルに電圧切り替えスイッチは装備されておらず、適切な電圧を自動的に検出します。 手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、ご使用地域の AC 電源に最も近い値に電圧切り替えスイッチが設定されていることを確認します。 **注意：** 日本で使用できる AC 電源は 100 V ですが、電圧切り替えスイッチを 115 V に設定してください。 また、モニターやコンピュータに取り付けられているデバイスもご使用地域の AC 電源で動作するように設定してください。
5	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
6	カバーリリースラッチ	これを使ってコンピュータカバーを開くことができます。

1	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ：** 同じアドレスに設定されたパラレルコネクタを持つカードをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細については、「セットアップオプション」を参照してください。
2	リンク保全ライト	l 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 黄色 — 1 Gbps（または 1000 Mbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ：** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用してネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保しま

		す。
4	ネットワーク動作ライト	コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している際に黄色のライトが点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン入力コネクタ	青色のライン入力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR などの録音 / 再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	マイクコネクタ	ピンク色のマイクコネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、音声または音楽入力用のパソコンマイクをサウンドあるいはテレフォニープログラムに接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、マイクコネクタはカードにあります。
8	USB 2.0 コネクタ（6）	プリンタやキーボードなど、通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。
9	ビデオコネクタ	VGA 互換モニターのケーブルを青色のコネクタに差し込みます。 **メモ：** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。お使いのモニターをグラフィックスカードのコネクタに接続します。キャップは取り外さないでください。 **メモ：** デュアルモニターをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
10	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細については、「セットアップオプション」を参照してください。

コンピュータ内部

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電を防ぐため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータカバーを開く際は、誤ってシステム基板からケーブルが外れないように注意してください。

1	ドライブベイ（CD/DVD、フロッピー、およびハードドライブ）	5	PCI スロット（3）
2	電源装置	6	ヒートシンクエアフローカバーアセンブリ
3	シャーシイントルージョンスイッチ	7	前面 I/O パネル
4	システム基板		

システム基板のコンポーネント

1	ファンコネクタ（FAN）	11	イントルージョンスイッチコネクタ（INTRUDER）
2	プロセッサコネクタ（CPU）	12	パスワードジャンパ（PSWD）
3	電源コネクタ（12VPOWER）	13	PCI Express x16 コネクタ（PEG）
4	メモリモジュールコネクタ（DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4）	14	PCI ライザーコネクタ（PCI1）
5	シリアル ATA ドライブ 0 および 2 コネクタ（SATA0、SATA2）	15	PCI コネクタ（PCI3）
6	前面パネルコネクタ（FRONTPANEL）	16	シリアルコネクタ（SER_PS2）
7	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ（CD_IN）	17	フロッピードライブコネクタ（FLOPPY）
8	電源コネクタ（POWER）	18	バッテリーソケット（BATTERY）
9	CD/DVD ドライブコネクタ（IDE）	19	内蔵スピーカー（SPEAKER）
10	RTC リセットジャンパ（RTCRST）	20	外付けスピーカーコネクタ（EXT_SPKR）

目次に戻る

目次に戻る

お使いのデスクトップコンピュータについて

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

正面図

1	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスの起動については、「セットアップユーティリティ」を参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
2	LAN インジケータライト	LAN（ネットワーク）接続が確立されていることを示します。
3	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意：** データの損失を防ぐため、6 秒以上電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。 **注意：** お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
4	Dell バッジ	これを回転させて、コンピュータの方向に合わせることができます。バッジ回転させるには、バッジの外回りに指を置き、しっかり押してバッジを回します。バッジの下側近くにあるスロットを使って回転させることもできます。
5	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 - 消灯 — コンピュータは電源が切れた状態です。（S4、S5、または機械的オフ） - 緑色の点灯 — コンピュータは通常の動作状態です。 - 緑色の点滅 — コンピュータは、省電力状態です。（S1 または S3） - 黄色の点滅または点灯 —「電源の問題」を参照してください。 省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスに設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止状態および省電力状態からの復帰の詳細については、「電力の管理」を参照してください。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「診断ライト」を参照してください。
6	診断ライト	診断ライトは、Diagnostic（診断）コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細については、「診断ライト」を参照してください。
7	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブがアクセスされているときに点滅します。
8	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます。
9	マイクコネクタ	マイクのコネクタを使ってマイクを取り付けます。
10	フロッピードライブ	フロッピーディスクをこのドライブに入れます。
11	CD/DVD ドライブ	CD または DVD をこのドライブに入れます。

背面図

1	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。
2	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスを対応するコネクタに差し込みます。
3	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
4	電圧切り替えスイッチ（すべてのコンピュータに搭載されているわけではありません）	お使いのコンピュータには、電圧自動感知セレクタまたは手動の電圧切り替えスイッチのどちらかが装備されています。電圧自動感知セレクタの付いたコンピュータには、背面パネルに電圧切り替えスイッチは装備されておらず、適切な電圧を自動的に検出します。 手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、ご使用地域の AC 電源に最も近い値に電圧切り替えスイッチが設定されていることを確認します。 **注意：** 日本で使用できる AC 電源は 100 V ですが、電圧切り替えスイッチを 115 V に設定してください。 また、モニターやコンピュータに取り付けられているデバイスもご使用地域の AC 電源で動作するように設定してください。
5	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
6	カバーリリースラッチ	これを使ってコンピュータカバーを開くことができます。

1	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ：** 同じアドレスに設定されたパラレルコネクタを持つカードをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細については、「セットアップオプション」を参照してください。
2	リンク保全ライト	・緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・黄色 — 1 Gbps（または 1000 Mbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ：** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用してネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保しま

		す。
4	ネットワーク動作 ライト	コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している際に黄色のライトが点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン入力コネクタ	青色のライン入力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR などの録音 / 再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	マイク コネクタ	ピンク色のマイクコネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、音声または音楽入力用のパソコンマイクをサウンドあるいはテレフォニープログラムに接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、マイクコネクタはカードにあります。
8	USB 2.0 コネクタ（6）	プリンタやキーボードなど、通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。
9	ビデオ コネクタ	VGA 互換モニターのケーブルを青色のコネクタに差し込みます。 **メモ：** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。お使いのモニターをグラフィックスカードのコネクタに接続します。キャップは取り外さないでください。 **メモ：** デュアルモニターをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
10	シリアル コネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細については、「セットアップオプション」を参照してください。

コンピュータ内部

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電を防ぐため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータカバーを開く際は、誤ってシステム基板からケーブルが外れないように注意してください。

1	ドライブベイ（CD/DVD、フロッピー、およびハードドライブ）	5	PCI スロット（3）
2	電源装置	6	ヒートシンクエアフローカバーアセンブリ
3	シャーシイントルージョンスイッチ	7	前面 I/O パネル
4	システム基板		

システム基板のコンポーネント

1	ファンコネクタ(FAN)	11	イントルージョンスイッチコネクタ(INTRUDER)
2	プロセッサコネクタ(CPU)	12	パスワードジャンパ(PSWD)
3	電源コネクタ(12VPOWER)	13	PCI Express x16 コネクタ(PEG)
4	メモリモジュールコネクタ(DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4)	14	PCI ライザーコネクタ(PCI1)
5	シリアル ATA ドライブ 0 および 2 コネクタ(SATA0、SATA2)	15	PCI コネクタ(PCI3)
6	前面パネルコネクタ(FRONTPANEL)	16	シリアルコネクタ(SER_PS2)
7	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ(CD_IN)	17	フロッピードライブコネクタ(FLOPPY)
8	電源コネクタ(POWER)	18	バッテリーソケット(BATTERY)
9	CD/DVD ドライブコネクタ(IDE)	19	内蔵スピーカー(SPEAKER)
10	RTC リセットジャンパ(RTCRST)	20	外付けスピーカーコネクタ(EXT_SPKR)

目次に戻る

目次に戻る

PCI カード、PCI Express カード、およびシリアルポートアダプタ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

- PCI カード
- PCI Express カード
- シリアルポートアダプタ

お使いの Dell™ コンピュータはシリアルポートアダプタをサポートしており、PCI カードおよび PCI Express カード用に以下のコネクタを備えています。

- ハーフハイト PCI カードスロット× 2
- ハーフハイト PCI Express x16 カードスロット× 1

メモ: お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

PCI カード

PCI カードの取り付け

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。
3. 新しいカードを取り付ける場合は、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を作ります。次に手順 5 に進みます。
4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。
5. カードを取り付ける準備をします。

メモ: カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

1	カード保持レバー
2	カード
3	カードエッジコネクタ
4	カードコネクタ

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

6. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

7. カード保持レバーを注意深く下に押して、カードを固定します。

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

8. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

   b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

10. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

   b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

11. カードのマニュアルの説明に従って、カードに必要なすべてのドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。

2. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。

3. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。

4. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。

1	リリースタブ	4	カードエッジコネクタ
2	カード保持レバー	5	カードコネクタ
3	カード		

5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. カード保持レバーを所定の位置にはめ込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続しなおして、電源を入れます。
8. カードのドライバをアンインストールします。
9. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
   a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
   b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
10. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
   a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
   b.

   ネットワークケーブルをコンピュータ背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI カードのカードケージへの取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. システム基板上の PCI3 コネクタにカードが取り付けてある場合は、これを取り外します。
3. カードケージを取り外します。
   a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。カードケージをコンピュータから取り外した際に長さが足りないためカードケージに届かないケーブルをすべて取り外します。
   b. ハンドルを慎重に引き、カードケージを持ち上げてコンピュータから取り外します。

1	カードケージ
2	ハンドル

4. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を作ります。

   既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。カードの上端を持って、コネクタから取り外します。

メモ： カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

5. 新しいカードを取り付ける準備をします。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

6. リリースタブを押して、カード保持レバーを上げます。
7. カードをライザーボードのカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	リリースタブ	4	カードエッジコネクタ
2	カード保持レバー	5	カードコネクタ
3	カード		

8. カード保持レバーを下ろして所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

9. カードケージを取り付けます。

   a. カードケージ側面のタブをコンピュータの側面のスロットに合わせ、カードケージを所定の位置へ押し下げます。

   b. ライザーボードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

1	カードケージ	3	ライザーボード（2）
2	スロット	4	システム基板コネクタ（2）

10. 手順 3 で取り外したすべてのケーブルを接続します。

11. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

12. コンピュータカバーを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

14. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

15. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
16. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
17. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードのカードケージからの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードケージを取り外します（前項の手順 3 を参照）。
3. リリースタブを押して、カード保持レバーを上げます。
4. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
5. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
6. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

7. カード保持レバーを下ろして所定の位置に押し込みます。
8. カードケージを取り付けます（前項の手順 9 を参照）。
9. コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続しなおして、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. カードのドライバをアンインストールします。
12. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
13. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI Express カード

お使いのコンピュータは、ハーフハイト PCI Express x16 カード 1 枚をサポートしています。

PCI Express x16 カードを取り付けまたは交換する際は、「PCI Express x16 カードの取り付け」を参照してください。 また、カードを取り外す際は、「PCI Express x16 カードの取り外し」を参照してください。

PCI Express x16 カードの取り付け

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。

2. PCI Express x16 カードを交換する場合、取り付けられているカードを取り外します。

    a. 固定タブが解除されるまで、親指を使ってレバーを押します。

    b. レバーを押しながらカードを引き上げて、カードコネクタから引き抜きます。

1	PCI Express x16 カード
2	レバー
3	固定スロット（すべてのカードにあるわけではありません）
4	固定タブ
5	PCI Express x16 カードコネクタ

メモ： カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

3. カードを取り付ける準備をします。

警告： ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

4. カードレバーをカードコネクタから遠ざかるように押し、新しいカードを挿入します。

5. しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	完全に装着されたカード
2	完全に装着されていないカード
3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット

6. カードのレバーを手から離し、カードのレバーにあるタブがカード前面の端にある切り込みと合っていることを確認します。
7. 背面パネルのレバーを下ろして、カードを固定します。
8. コンピュータカバーを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
12. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
13. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express x16 カードの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
3. カードを取り外します（前項の 手順 2 を参照）。
4. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

5. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。
6. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

7. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

8. カードのドライバをアンインストールします。
9. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。

b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

10. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。

b. ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

シリアルポートアダプタ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意：コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ：お使いのデスクトップコンピュータのシリアルポートアダプタには、2 つの PS/2 コネクタも組み込まれています。

シリアルポートアダプタの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。
3. フィラーブラケットを取り外します（取り付けられている場合）。

メモ：カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

4. シリアルポートアダプタブラケットをコネクタにはめて、しっかりと押し下げます。アダプタがスロットにしっかりと装着されているか確認します。
5. カード保持レバーを注意深く押して、アダプタブラケットを固定します。

注意：カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

6. アダプタケーブルを、システム基板のシリアルポートアダプタコネクタ（SER_PS2）に接続します。
7. 必要なすべてのケーブルをシリアルポートアダプタに接続します。

メモ：ケーブル接続については、シリアルポートアダプタに付属のマニュアルを参照してください。

1	保持レバー
2	シリアルカードブラケット
3	シリアルポートアダプタコネクタ
4	シリアルポートアダプタシステム基板コネクタ（SER_PS2）

8. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

9. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

シリアルポートアダプタの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。
3. アダプタをシステム基板に接続しているケーブルを外します。
4. シリアルポートアダプタブラケットの上端の角をつかみ、コネクタから取り外します。
5. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

6. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

シリアルポートアダプタのカードケージへの取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. システム基板上の PCI3 コネクタにカードが取り付けてある場合は、これを取り外します。
3. カードケージを取り外します。
   a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。カードケージをコンピュータから取り外したら、長さが足りないためカードケージに届かないケーブルをすべて取り外します。
   b. ハンドルを慎重に引き、カードケージを持ち上げてコンピュータから取り外します。

1	カードケージ
2	ハンドル

4. 新しいシリアルポートアダプタを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。コンピュータに取り付けられているアダプタを交換する場合は、アダプタを取り外します。アダプタに接続されているケーブルがあれば外します。シリアルポートアダプタの上端の角をつかみ、コネクタから取り外します。
5. 新しいシリアルポートアダプタを取り付ける準備をします。

警告：感電を防ぐため、カードまたはアダプタを装着する前にコンピュータの電源プラグをコンセントから必ず抜いておいてください。

6. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。
7. シリアルポートアダプタブラケットをコネクタにはめて、しっかりと押し下げます。アダプタがコネクタにしっかりと装着されているか確認します。
8. カード保持レバーを注意深く下に押して、アダプタを固定します。

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

9. アダプタケーブルを、システム基板のシリアルポートアダプタコネクタ（SER_PS2）に接続します。
10. 以下のようにしてカードケージを取り付けます。
    a. カードケージ側面のタブをコンピュータの側面のスロットに合わせ、カードケージを所定の位置へ押し下げます。
    b. ライザーボードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。
11. コンピュータカバーを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

12. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

13. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

    メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

14. シリアルポートアダプタに必要なドライバをインストールします。

シリアルポートアダプタのカードケージからの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードケージを取り外します（前項の手順 3 を参照）。
3. タブを押して保持レバーを上げます。
4. アダプタをシステム基板に接続しているケーブルを外します。
5. シリアルポートアダプタブラケットの上端の角をつかみ、アダプタをコネクタから取り外します。
6. アダプタを取り外したままにする場合は、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

7. 保持レバーを下ろして所定の位置に押し込みます。
8. カードケージを取り付けます（前項の手順 10 を参照）。
9. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. アダプタのドライバをアンインストールします。

目次に戻る

PCI カード、PCI Express カード、およびシリアルポートアダプタ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いの Dell™ コンピュータはシリアルポートアダプタをサポートしており、PCI カードおよび PCI Express カード用に以下のコネクタを備えています。

- ハーフハイト PCI カードスロット× 2
- ハーフハイト PCI Express x16 カードスロット× 1

メモ： お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

PCI カード

PCI カードの取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。
3. 新しいカードを取り付ける場合は、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を作ります。次に手順 5 に進みます。
4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。
5. カードを取り付ける準備をします。

メモ： カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

1	カード保持レバー
2	カード
3	カードエッジコネクタ
4	カードコネクタ

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

6. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

7. カード保持レバーを注意深く下に押して、カードを固定します。

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

8. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

   b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

10. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

11. カードのマニュアルの説明に従って、カードに必要なすべてのドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。

2. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。

3. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。

4. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。

1	リリースタブ	4	カードエッジコネクタ
2	カード保持レバー	5	カードコネクタ
3	カード		

5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. カード保持レバーを所定の位置にはめ込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続しなおして、電源を入れます。
8. カードのドライバをアンインストールします。
9. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
   a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
   b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
10. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
   a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
   b.

   ネットワークケーブルをコンピュータ背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI カードのカードケージへの取り付け

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. システム基板上の PCI3 コネクタにカードが取り付けてある場合は、これを取り外します。
3. カードケージを取り外します。
   a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。カードケージをコンピュータから取り外した際に長さが足りないためカードケージに届かないケーブルをすべて取り外します。
   b. ハンドルを慎重に引き、カードケージを持ち上げてコンピュータから取り外します。

1	カードケージ
2	ハンドル

4. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を作ります。

   既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。カードの上端を持って、コネクタから取り外します。

メモ： カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

5. 新しいカードを取り付ける準備をします。

警告： ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

6. リリースタブを押して、カード保持レバーを上げます。
7. カードをライザーボードのカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	リリースタブ	4	カードエッジコネクタ
2	カード保持レバー	5	カードコネクタ
3	カード		

8. カード保持レバーを下ろして所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

9. カードケージを取り付けます。

   a. カードケージ側面のタブをコンピュータの側面のスロットに合わせ、カードケージを所定の位置へ押し下げます。

   b. ライザーボードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

1	カードケージ	3	ライザーボード（2）
2	スロット	4	システム基板コネクタ（2）

10. 手順 3 で取り外したすべてのケーブルを接続します。

11. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

12. コンピュータカバーを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

14. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

15. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
16. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
17. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードのカードケージからの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードケージを取り外します（前項の手順 3 を参照）。
3. リリースタブを押して、カード保持レバーを上げます。
4. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
5. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
6. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

   フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

7. カード保持レバーを下ろして所定の位置に押し込みます。
8. カードケージを取り付けます（前項の手順 9 を参照）。
9. コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続しなおして、電源を入れます。

   カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. カードのドライバをアンインストールします。
12. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
13. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI Express カード

お使いのコンピュータは、ハーフハイト PCI Express x16 カード 1 枚をサポートしています。

PCI Express x16 カードを取り付けまたは交換する際は、「PCI Express x16 カードの取り付け」を参照してください。 また、カードを取り外す際は、「PCI Express x16 カードの取り外し」を参照してください。

PCI Express x16 カードの取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意：コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. PCI Express x16 カードを交換する場合、取り付けられているカードを取り外します。
   a. 固定タブが解除されるまで、親指を使ってレバーを押します。
   b. レバーを押しながらカードを引き上げて、カードコネクタから引き抜きます。

1	PCI Express x16 カード
2	レバー
3	固定スロット（すべてのカードにあるわけではありません）
4	固定タブ
5	PCI Express x16 カードコネクタ

メモ：カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

3. カードを取り付ける準備をします。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

4. カードレバーをカードコネクタから遠ざかるように押し、新しいカードを挿入します。
5. しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	完全に装着されたカード
2	完全に装着されていないカード
3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット

6. カードのレバーを手から離し、カードのレバーにあるタブがカード前面の端にある切り込みと合っていることを確認します。
7. 背面パネルのレバーを下ろして、カードを固定します。
8. コンピュータカバーを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.`（警告 ！ カバーが取り外されました。）

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
12. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
13. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express x16 カードの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
3. カードを取り外します（前項の 手順 2 を参照）。
4. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

5. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。
6. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.`（警告 ！ カバーが取り外されました。）

7. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

8. カードのドライバをアンインストールします。
9. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。

b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

10. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。

b. ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

シリアルポートアダプタ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意：コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ：お使いのデスクトップコンピュータのシリアルポートアダプタには、2 つの PS/2 コネクタも組み込まれています。

シリアルポートアダプタの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。
3. フィラーブラケットを取り外します（取り付けられている場合）。

メモ：カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

4. シリアルポートアダプタブラケットをコネクタにはめて、しっかりと押し下げます。アダプタがスロットにしっかりと装着されているか確認します。
5. カード保持レバーを注意深く押して、アダプタブラケットを固定します。

注意：カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

6. アダプタケーブルを、システム基板のシリアルポートアダプタコネクタ（SER_PS2）に接続します。
7. 必要なすべてのケーブルをシリアルポートアダプタに接続します。

メモ：ケーブル接続については、シリアルポートアダプタに付属のマニュアルを参照してください。

1	保持レバー
2	シリアルカードブラケット
3	シリアルポートアダプタコネクタ
4	シリアルポートアダプタシステム基板コネクタ（SER_PS2）

8. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

9. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

シリアルポートアダプタの取り外し

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。
3. アダプタをシステム基板に接続しているケーブルを外します。
4. シリアルポートアダプタブラケットの上端の角をつかみ、コネクタから取り外します。
5. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

6. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

シリアルポートアダプタのカードケージへの取り付け

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. システム基板上の PCI3 コネクタにカードが取り付けてある場合は、これを取り外します。
3. カードケージを取り外します。
   a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。カードケージをコンピュータから取り外したら、長さが足りないためカードケージに届かないケーブルをすべて取り外します。
   b. ハンドルを慎重に引き、カードケージを持ち上げてコンピュータから取り外します。

1	カードケージ
2	ハンドル

4. 新しいシリアルポートアダプタを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。コンピュータに取り付けられているアダプタを交換する場合は、アダプタを取り外します。アダプタに接続されているケーブルがあれば外します。シリアルポートアダプタの上端の角をつかみ、コネクタから取り外します。
5. 新しいシリアルポートアダプタを取り付ける準備をします。

警告：感電を防ぐため、カードまたはアダプタを装着する前にコンピュータの電源プラグをコンセントから必ず抜いておいてください。

6. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。

7. シリアルポートアダプタブラケットをコネクタにはめて、しっかりと押し下げます。アダプタがコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

8. カード保持レバーを注意深く下に押して、アダプタを固定します。

注意：カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

9. アダプタケーブルを、システム基板のシリアルポートアダプタコネクタ（SER_PS2）に接続します。

10. 以下のようにしてカードケージを取り付けます。

    a. カードケージ側面のタブをコンピュータの側面のスロットに合わせ、カードケージを所定の位置へ押し下げます。

    b. ライザーボードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

11. コンピュータカバーを取り付けます。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

12. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）
```

13. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

    メモ：管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

14. シリアルポートアダプタに必要なドライバをインストールします。

シリアルポートアダプタのカードケージからの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意：コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。

2. カードケージを取り外します（前項の手順 3 を参照）。

3. タブを押して保持レバーを上げます。

4. アダプタをシステム基板に接続しているケーブルを外します。

5. シリアルポートアダプタブラケットの上端の角をつかみ、アダプタをコネクタから取り外します。

6. アダプタを取り外したままにする場合は、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ：コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

7. 保持レバーを下ろして所定の位置に押し込みます。

8. カードケージを取り付けます（前項の手順 10 を参照）。

9. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）
```

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ：管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. アダプタのドライバをアンインストールします。

コンピュータカバーの開け方

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合は、パドロックを取り外します。

注意： 開いたカバーを置く十分なスペースがあることを確認します。デスクトップ上に少なくとも 30 cm のスペースが必要です。

3. 図に示されているカバーリリースラッチを確認します。次に、カバーを持ち上げながらリリースラッチを後方にスライドさせます。
4. コンピュータカバーの側面を持ち、底面のヒンジをてこの支点として使ってカバーを上に動かします。
5. カバーをヒンジタブから取り外し、柔らかく傷が付きにくい場所に置いておきます。

1	セキュリティケーブルスロット
2	カバーリリースラッチ
3	パドロックリング

コンピュータカバーの開け方

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合は、パドロックを取り外します。

注意： 開いたカバーを置く十分なスペースがあることを確認します。デスクトップ上に少なくとも 30 cm のスペースが必要です。

3. 図に示されているカバーリリースラッチを確認します。次に、カバーを持ち上げながらリリースラッチを後方にスライドさせます。
4. コンピュータカバーの側面を持ち、底面のヒンジをてこの支点として使ってカバーを上に動かします。
5. カバーをヒンジタブから取り外し、柔らかく傷が付きにくい場所に置いておきます。

1	セキュリティケーブルスロット
2	カバーリリースラッチ
3	パドロックリング

目次に戻る

ドライブ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- シリアル ATA ハードドライブを 1 台
- オプションのシリアル ATA ハードドライブを 1 台
- オプションのフロッピードライブを 1 台
- オプションの CD ドライブまたは DVD ドライブを 1 台

1	CD/DVD ドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

CD/DVD ドライブをシステム基板の「IDE」とラベルの付いたコネクタに接続します。シリアル ATA ハードドライブは、システム基板の「SATA0」または「SATA2」とラベルの付いたコネクタに接続する必要があります。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

IDE ドライブコネクタ	シリアル ATA コネクタ

1	IDE ケーブルの色帯
2	インタフェースケーブルコネクタ
3	インタフェースコネクタ

大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤ（IDE ケーブルの片側に色帯が付いています — シリアル ATA ケーブルには色帯は付いていません）が、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

注意： IDE インタフェースケーブルを接続する際は、色帯をコネクタの 1 番ピンから離れた位置に置かないでください。インタフェースケーブルを裏返しにすると、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

IDE ドライブデータケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

シリアル ATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持ち、ケーブルを外します。

IDE コネクタと同じように、シリアル ATA インタフェースは、正しく接続できるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。

ハードドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意：ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

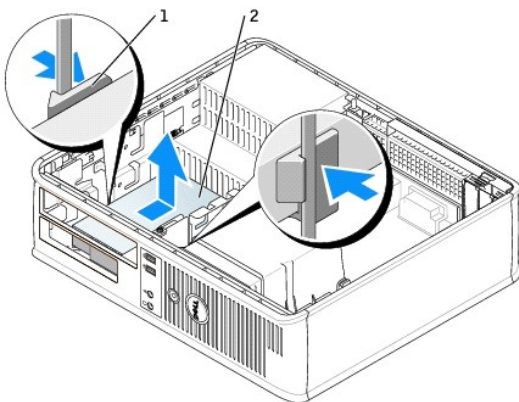
ハードドライブの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。

メモ：以下の手順では、CD/DVD ドライブおよびフロッピードライブを完全に取り外す必要はないので、これらの 2 つのドライブを接続しているケーブルを外す必要はありません。

2. CD/DVD ドライブをベイから取り外し、注意して脇に置いておきます。
3. フロッピードライブをベイから取り外し、注意して脇に置いておきます。
4. ドライブ両端の 2 つの固定クリップを押し込み、ドライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。

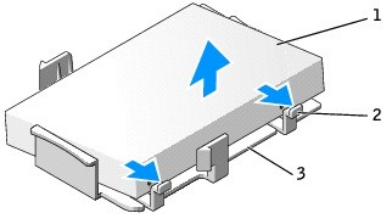
注意：ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

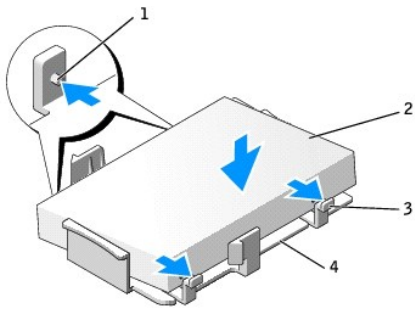
5. ドライブを持ち上げてコンピュータから出し、電源ケーブルおよびハードドライブケーブルをドライブから外します。

1	固定クリップ（2）
2	ハードドライブ

ハードドライブの取り付け

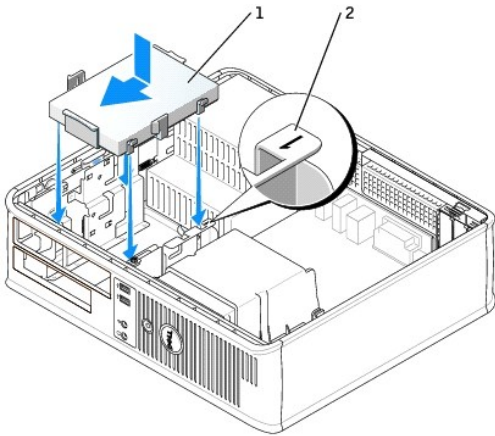
1. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

注意：ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

2. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
3. 交換用のハードドライブにプラスチック製のドライブブラケットが取り付けられていない場合は、古いドライブからブラケットをカチッと取り外します。

1	ドライブ
2	リリースタブ（2）
3	ハードドライブブラケット

4. ブラケットを新しいドライブにはめ込んで取り付けます。

1	固定タブ（2）	3	リリースタブ（2）
2	ドライブ	4	ハードドライブブラケット

5. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。

6. ドライブの正しいスロットを探して注意深くドライブをベイに入れ、カチッという感触があるか、しっかり取り付けられた感覚が得られるまでドライブを前方にスライドさせます。

1	ドライブ
2	スロット検証番号

7. フロッピードライブおよび CD/DVD ドライブを取り付けます。

8. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。

9. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10. コンピュータとデバイスをコンセントに接続します。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

11. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

13. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。
14. コンピュータの電源を入れます。
15. セットアップユーティリティを起動して、適切な **Primary Drive** オプション（**0** または **2**）をアップデートします。
16. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
17. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

18. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。
19. ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

フロッピードライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

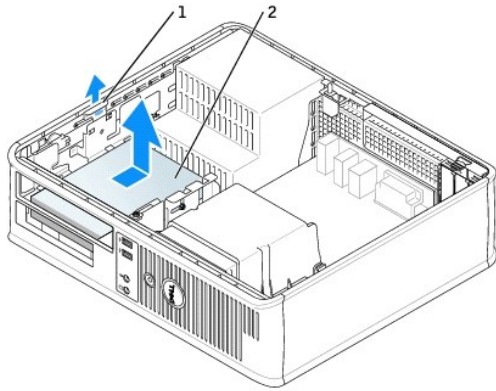
フロッピードライブの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。

メモ： 以下の手順では、CD/DVD ドライブを完全に取り外す必要はないので、CD/DVD ドライブを接続しているケーブルを外す必要はありません。

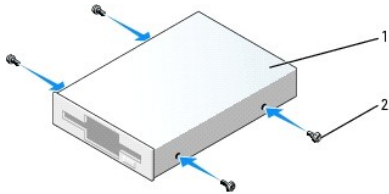
2. CD/DVD ドライブを取り外し、注意して脇に置いておきます。

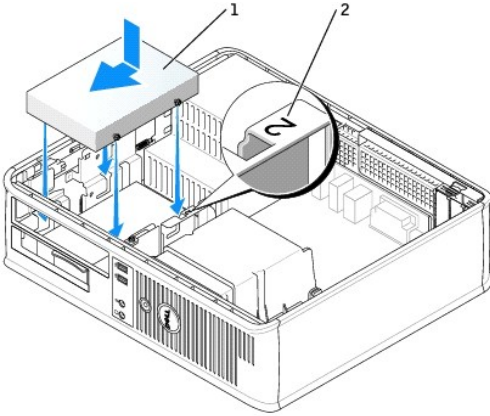
注意： ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

3. ドライブリリースラッチを引き上げ、フロッピードライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。次に、ドライブをコンピュータから持ち上げて取り外します。

1	ドライブリリースラッチ
2	フロッピードライブ

4. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。

フロッピードライブの取り付け

1. 新しいドライブを取り付ける場合は、以下の手順を行います。
   a. パネル挿入カバーの背面で、細めのマイナスドライバを使って、慎重に挿入カバーを外します。
   b. 肩付きネジ(4)をパネル挿入カバーから取り外します。
2. 既存のドライブを交換する場合は、以下の作業を行います。
   a. パネル挿入カバーの背面で、細めのマイナスドライバを使って、慎重に挿入カバーを外します。
   b. 肩付きネジ(4)を古いドライブから取り外します。
3. 肩付きネジ(4)を新しいフロッピードライブの側面に挿入して締めます。

1	ドライブ
2	肩付きネジ(4)

4. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに接続します。
5. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	電源ケーブル
2	スロット検証番号

6. CD/DVD ドライブを取り付けます。
7. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
8. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

10. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします。
13. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

CD / DVD ドライブ

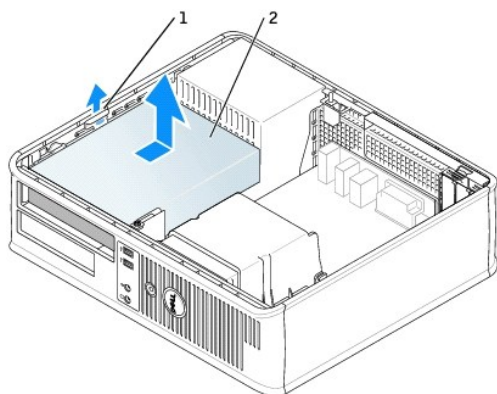
警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

CD / DVD ドライブの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。

注意： ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

2. ドライブリリースラッチを引き上げ、ドライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。次に、ドライブをコンピュータから持ち上げて取り外します。

1	ドライブリリースラッチ
2	CD/DVD ドライブ

3. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブの背面から取り外します。

CD / DVD ドライブの取り付け

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。IDE ドライブを取り付ける場合、ドライブを cable select に設定にします。

2. 新しいドライブを取り付ける場合は、以下の手順を行います。
   a. パネル挿入カバーの上部にある 2 つの留め金を押し、挿入カバーをコンピュータの前面方向に動かします。
   b. 肩付きネジ（3）をパネル挿入カバーから取り外します。
3. 既存のドライブを交換する場合は、以下の手順を行います。
   a. パネル挿入カバーの上にある 2 つの留め金を押し、挿入カバーをコンピュータの前面方向に動かします。
   b. 肩付きネジ（3）を古いドライブから取り外します。
   c. 肩付きネジ（3）を新しいフロッピードライブの側面に挿入して締めます。

1	ドライブ
2	肩付きネジ（3）

4. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブに接続します。
5. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	ドライブ

6. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
7. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. **Drives** の該当する **Drive** オプション（**0** または **1**）を設定して、設定情報を更新します。詳細については、「セットアップユーティリティ」を参照してください。
12. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

デスクトップコンピュータ

メモ、注意、警告

メモ： コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意： ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告：物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。

略語について

略語の一覧表は、「用語集」を参照してください。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合、このマニュアルの Microsoft® Windows® オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

『Drivers and Utilities CD』（Resource CD）、オペレーティングシステムのメディア、および『クイックリファレンスガイド』はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

[目次に戻る]

プロセッサ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告: **本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

注意: コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

プロセッサの取り外し

警告: **本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

注意: コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. ヒートシンクエアフローカバーアセンブリの両側にある拘束ネジを緩めます。

警告: **プラスティック製のシールドがあっても、ヒートシンクアセンブリは正常な動作中に大変熱くなる場合があります。十分な時間を置いて温度が下がったのを確認してから、ヒートシンクアセンブリに触るようにします。**

3. ヒートシンクエアフローカバーアセンブリを上に動かし、アセンブリをコンピュータから取り外します。

1	ヒートシンクエアフローカバーアセンブリ
2	拘束ネジのハウジング（2）

注意: デルのプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、元のヒートシンクは廃棄してください。デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、新しいプロセッサを取り付ける際は、元のヒートシンクを再利用してください。

4. ソケット上にあるセンターカバーラッチの下からリリースレバーをスライドさせて、プロセッサカバーを開きます。次にレバーを後方に引いて、プロセッサを取り外します。

1	プロセッサカバー
2	プロセッサ
3	ソケット
4	リリースレバー

注意： プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

5. 注意深くプロセッサをソケットから取り外します。

新しいプロセッサをソケットにすぐに取り付けられるように、リリースレバーはリリース位置に広げたままにしておきます。

プロセッサの取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

注意： プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. プロセッサの底部に触らないように気をつけながら、新しいプロセッサを梱包から取り出します。

注意： コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できないような損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

3. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。
4. プロセッサの前面と背面の位置合わせ用の切り込みをソケットの前面と背面の位置合わせ用の切り込みに合わせます。
5. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	プロセッサカバー	6	リリースレバー
2	タブ	7	前面位置合わせ用の切り込み
3	プロセッサ	8	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印
4	プロセッサソケット	9	背面位置合わせ用の切り込み
5	センターカバーラッチ		

注意： 損傷を防ぐため、プロセッサとソケットが正しく揃っているか確認してください。プロセッサを取り付ける際に無理に力を加えないでください。

6. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。
7. プロセッサがソケットに完全に装着されたら、プロセッサカバーを閉じます。

プロセッサカバーのタブがソケットのセンターカバーラッチの下にあるか確認します。

8. ソケットリリースレバーをソケットの後ろ側へ回し、カッチッと所定の位置に収めてプロセッサを固定します。

注意： デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、プロセッサを交換する際は、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

デルのプロセッサ交換キットを取り付けた場合、元のヒートシンクアセンブリとプロセッサを、交換キットが送られてきた同じパッケージを使用してデルに返却してください。

9. ヒートシンクアセンブリを取り付けます。
   a. ヒートシンクアセンブリをヒートシンクアセンブリブラケットに元のように配置します。
   b. ヒートシンクアセンブリをコンピュータの底面方向に動かし、2 つの拘束ネジを締めます。

注意： ヒートシンクが正しく装着され、しっかり固定されているか確認します。

1	ヒートシンクとファンエアフローカバーアセンブリ
2	ヒートシンクアセンブリブラケット
3	拘束ネジハウジング（2）

10. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

目次に戻る

プロセッサ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

プロセッサの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. ヒートシンクエアフローカバーアセンブリの両側にある拘束ネジを緩めます。

警告：プラスティック製のシールドがあっても、ヒートシンクアセンブリは正常な動作中に大変熱くなる場合があります。十分な時間を置いて温度が下がったのを確認してから、ヒートシンクアセンブリに触るようにします。

3. ヒートシンクエアフローカバーアセンブリを上に動かし、アセンブリをコンピュータから取り外します。

1	ヒートシンクエアフローカバーアセンブリ
2	拘束ネジのハウジング（2）

注意： デルのプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、元のヒートシンクは廃棄してください。デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、新しいプロセッサを取り付ける際は、元のヒートシンクを再利用してください。

4. ソケット上にあるセンターカバーラッチの下からリリースレバーをスライドさせて、プロセッサカバーを開きます。次にレバーを後方に引いて、プロセッサを取り外します。

1	プロセッサカバー
2	プロセッサ
3	ソケット
4	リリースレバー

注意： プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

5. 注意深くプロセッサをソケットから取り外します。

新しいプロセッサをソケットにすぐに取り付けられるように、リリースレバーはリリース位置に広げたままにしておきます。

プロセッサの取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

注意： プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. プロセッサの底部に触らないように気をつけながら、新しいプロセッサを梱包から取り出します。

注意： コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できないような損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

3. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。
4. プロセッサの前面と背面の位置合わせ用の切り込みをソケットの前面と背面の位置合わせ用の切り込みに合わせます。
5. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	プロセッサカバー	6	リリースレバー
2	タブ	7	前面位置合わせ用の切り込み
3	プロセッサ	8	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印
4	プロセッサソケット	9	背面位置合わせ用の切り込み
5	センターカバーラッチ		

注意： 損傷を防ぐため、プロセッサとソケットが正しく揃っているか確認してください。プロセッサを取り付ける際に無理に力を加えないでください。

6. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。
7. プロセッサがソケットに完全に装着されたら、プロセッサカバーを閉じます。

プロセッサカバーのタブがソケットのセンターカバーラッチの下にあるか確認します。

8. ソケットリリースレバーをソケットの後ろ側へ回し、カッチッと所定の位置に収めてプロセッサを固定します。

注意： デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、プロセッサを交換する際は、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

デルのプロセッサ交換キットを取り付けた場合、元のヒートシンクアセンブリとプロセッサを、交換キットが送られてきた同じパッケージを使用してデルに返却してください。

9. ヒートシンクアセンブリを取り付けます。
   a. ヒートシンクアセンブリをヒートシンクアセンブリブラケットに元のように配置します。
   b. ヒートシンクアセンブリをコンピュータの底面方向に動かし、2 つの拘束ネジを締めます。

注意： ヒートシンクが正しく装着され、しっかり固定されているか確認します。

1	ヒートシンクとファンエアフローカバーアセンブリ
2	ヒートシンクアセンブリブラケット
3	拘束ネジハウジング（2）

10. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

目次に戻る

情報の検索方法

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

何をお探しですか?	ここに記載されています
・ コンピュータの Diagnostics(診断)プログラム ・ コンピュータのドライバ ・ コンピュータのマニュアル ・ デバイスのマニュアル	**Drivers and Utilities CD(ResourceCD とも呼ばれます)** マニュアルおよびドライバは、出荷時にコンピュータにプリインストールされています。この CD は、ドライバを再インストールしたり、Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行したり、マニュアルにアクセスするときに使用します。 CD に収録されている Readme ファイルは、マニュアルの作成後にシステムに追加された変更や、技術者や専門知識をお持ちのユーザーを対象とするテクニカルリファレンスなどが記載されています。 **メモ:**『 Drivers and Utilities CD』はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。
・ コンピュータのセットアップ方法 ・ トラブルシューティングの情報 ・ Dell Diagnostics(診断)プログラムの実行方法 ・ エラーコードおよび診断ライト ・ ツールとユーティリティ	**クイックリファレンスガイド** **メモ:**『クイックリファレンスガイド』はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。このマニュアルは PDF 形式のものを **support.jp.dell.com** でご覧いただけます。
・ 安全にお使いいただくための注意 ・ 認可機関の情報 ・ 快適な使い方 ・ エンドユーザーライセンス契約	**Dell™ 製品情報ガイド**
・ 部品の取り外しおよび取り付け方法 ・ 仕様 ・ システムの設定方法 ・ トラブルシューティングおよび問題解決の方法	**ユーザーズガイド** **Microsoft® Windows® XP ヘルプとサポートセンター** 1. **スタート** ボタンをクリックして **ヘルプとサポート** をクリックします。 2. **ユーザーズガイドおよびシステムガイド** をクリックし、**ユーザーズガイド** をクリックします。
・ オペレーティングシステムのアップデートとパッチ	**DSS(デスクトップシステムソフトウェア)** DSS は、『Drivers and Utilities CD』およびデルサポートサイトで利用できます。
・ サービスタグおよびエクスプレスサービスコード ・ Microsoft Windows ライセンスラベル	**サービスタグおよび Microsoft Windows ライセンス**

	次のラベルはお使いのコンピュータに貼られています。 - サービスタグは、**support.jp.dell.com** を使用の際、またはテクニカルサポートへのお問い合わせの際に、コンピュータの識別に使用します。 - エクスプレスサービスコードを利用すると、テクニカルサポートに直接電話で問い合わせることができます。エクスプレスサービスコードは、国によって利用できないことがあります。 - お使いのコンピュータにオペレーティングシステムを再インストールする場合、Microsoft Windows ライセンスラベルに記載されている数字を使用します。
- コンピュータ用のドライバ - テクニカルサービスおよびサポートに関する質問の回答 - コンピュータのマニュアル	**デルサポートサイト — support.jp.dell.com** デルサポートサイトには、以下のツールを含むいくつかのオンラインツールがあります。 - ソリューション — トラブル解決ナビ、Q&A - カスタマーケア — 問い合わせ先、ご注文の状況、保証、および修理に関する情報 - ダウンロード — ドライバ、パッチ、およびソフトウェアのアップデート - 参考資料 — コンピュータのマニュアル、製品仕様、およびホワイトペーパー
- Windows XP の基本情報 - コンピュータのマニュアル - デバイスのマニュアル (モデムなど)	**Windows ヘルプとサポートセンター** 1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。 2. 問題に関連する用語やフレーズを検索ボックスに入力して、矢印アイコンをクリックします。 3. 問題に関連するトピックをクリックします。 4. 画面の指示に従います。
- オペレーティングシステムの再インストール方法	**オペレーティングシステム CD** オペレーティングシステムは、お使いのコンピュータにプリインストールされています。オペレーティングシステムを再インストールする場合は、『オペレーティングシステム CD』を使用します。再インストールの手順については「Microsoft Windows XP の再インストール」を参照してください。 オペレーティングシステムを再インストールしたら、『Drivers and Utilities CD』を使用してコンピュータに同梱のデバイスのドライバを再インストールします。 お使いのオペレーティングシステムのライセンスラベルは、コンピュータに貼られています。 **メモ:** 『オペレーティングシステム CD』はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

目次に戻る

困ったときは

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

テクニカルサポート

技術上の問題のサポートを受けなければならないときは、いつでもデルにお問い合わせください。

警告：コンピュータカバーを取り外す必要がある場合、まずコンピュータの電源ケーブルとモデムケーブルをすべてのコンセントから外してください。

1. 「問題の解決」の手順を完了します。
2. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。
3. Diagnostics（診断）チェックリストを印刷して、それに記入します。
4. インストールとトラブルシューティングの手順については、デルサポートサイト（**support.jp.dell.com**）をご覧ください。
5. これまでの手順で問題が解決されない場合、デルにお問い合わせください。

メモ： デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。テクニカルサポート担当者がコンピュータでの操作をお願いすることがあります。

メモ： デルのエクスプレスサービスコードシステムをご利用できない国もあります。

デルのオートテレフォンシステムの指示に従って、エクスプレスサービスコードを入力すると、電話は適切なサポート担当者に転送されます。

テクニカルサポートサービスの使い方の説明は、「テクニカルサポートサービス」を参照してください。

オンラインサービス

デルサポートへは、**support.jp.dell.com** でアクセスすることができます。**サポートサイトへようこそ** のページから、サポートツール、情報などをお選びください。

インターネット上でのデルへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- ワールドワイドウェブ（WWW）

  www.dell.com/

  www.dell.com/ap/（アジア / 太平洋諸国）

  www.dell.com/jp（日本）

  www.euro.dell.com（ヨーロッパ）

www.dell.com/la/（ラテンアメリカ諸国）

www.dell.com.ca（カナダ）

- サポートウェブサイト

mobile_support@us.dell.com

support@us.dell.com

apsupport@dell.com（アジア太平洋地域のみ）

support.jp.dell.com（日本のみ）

support.euro.dell.com（ヨーロッパのみ）

24 時間納期案内電話サービス

注文した Dell™ 製品の状況を確認するには、**support.jp.dell.com** にアクセスするか、または、24 時間納期案内電話サービスにお問い合わせください。音声による案内で、注文について調べて報告するために必要な情報をお伺いします。

テクニカルサポートサービス

デル製品に関するお問い合わせは、デルのテクニカルサポートをご利用ください。サポートスタッフはその情報を元に、正確な回答を迅速に提供します。

テクニカルサポートにお問い合わせになる場合、まず「テクニカルサポート」を参照してから、「デルへのお問い合わせ」に記載されているお住まいの地域の番号にご連絡ください。

ご注文に関する問題

欠品、誤った部品、間違った請求書などの注文に関する問題があれば、デルカスタマーケアにご連絡ください。お電話の際は、納品書または出荷伝票をご用意ください。

製品情報

デルが提供しているその他の製品に関する情報が必要な場合や、ご注文になりたい場合は、デルウェブサイト **www.dell.com/jp/** をご覧ください。電話で販売担当者とお話になりたいときは、お住まいの地域のお問い合わせ番号を参照してください。

保証期間中の修理と返品について

『サービス＆サポートのご案内』をご覧ください。

お問い合わせになる前に

メモ： お電話の際は、エクスプレスサービスコードをご用意ください。エクスプレスサービスコードがおわかりになると、デルで自動電話サポートシステムをお受けになる場合に、より効率良くサポートが受けられます。

必ず Diagnostics（診断）チェックリストに記入してください。デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をかけてください。キーボードからコマンドを入力したり、操作時に詳細情報を説明したり、コンピュータ自体でのみ可能な他のトラブルシューティング手順を試してみるようにお願いする場合があります。システムのマニュアルがあることを確認してください。

警告：コンピュータ内部の作業をする前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

Diagnostics（診断）チェックリスト
名前：
日付：
住所：
電話番号：
サービスタグ（コンピュータ背面のバーコード）：
エクスプレスサービスコード：
返品番号（デルテクニカルサポート担当者から提供された場合）：
オペレーティングシステムとバージョン：
周辺機器：
拡張カード：
ネットワークに接続されていますか？ はい　いいえ
ネットワーク、バージョン、ネットワークアダプタ：
プログラムとバージョン：
システムのスタートアップファイルの内容を確認するときは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。コンピュータにプリンタを接続している場合、各ファイルを印刷します。印刷できない場合、各ファイルの内容を記録してからデルにお問い合わせください。
エラーメッセージ、ビープコードまたは診断コード：
問題点の説明と実行したトラブルシューティング手順：

デルへのお問い合わせ

インターネット上でのデルへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- **www.dell.com/jp**
- **support.jp.dell.com**（テクニカルサポート）

デルへお問い合わせになる場合、次の表の電子アドレス、電話番号、およびコードをご利用ください。国際電話のかけ方については、国内または国際電話会社にお問い合わせください。

国（市） 国際電話アクセスコード国番号 市外局番	**部署名またはサービス地域、 ウェブサイトおよび E-メールアドレス**	**市外局番、 市内番号、および フリーコール**
日本（川崎） 国際電話アクセスコード：**001** 国番号：**81** 市外局番：**44**	ウェブサイト：**support.jp.dell.com**	
	テクニカルサポート（Dell Precision™、OptiPlex™、Latitude™）	フリーコール：0120-198-433
	テクニカルサポート（海外から）（Dell Precision、OptiPlex、および Latitude）	81-44-556-3894
	Fax 情報サービス	044-556-3490
	24 時間納期情報案内サービス	044-556-3801
	カスタマーケア	044-556-4240
	ビジネスセールス本部（従業員数 400 人未満）	044-556-1465
	法人営業本部（従業員数 400 人以上）	044-556-3433
	エンタープライズ営業本部（従業員数 3500 人以上）	044-556-3430
	官公庁 / 研究・教育機関 / 医療機関セールス	044-556-1469

	デルグローバルジャパン	044-556-3469
	個人のお客様	044-556-1760
	代表	044-556-4300

目次に戻る

目次に戻る

困ったときは

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

テクニカルサポート

技術上の問題のサポートを受けなければならないときは、いつでもデルにお問い合わせください。

警告 : コンピュータカバーを取り外す必要がある場合、まずコンピュータの電源ケーブルとモデムケーブルをすべてのコンセントから外してください。

1. 「問題の解決」の手順を完了します。
2. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。
3. Diagnostics（診断）チェックリストを印刷して、それに記入します。
4. インストールとトラブルシューティングの手順については、デルサポートサイト（**support.jp.dell.com**）をご覧ください。
5. これまでの手順で問題が解決されない場合、デルにお問い合わせください。

メモ： デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。テクニカルサポート担当者がコンピュータでの操作をお願いすることがあります。

メモ： デルのエクスプレスサービスコードシステムをご利用できない国もあります。

デルのオートテレフォンシステムの指示に従って、エクスプレスサービスコードを入力すると、電話は適切なサポート担当者に転送されます。

テクニカルサポートサービスの使い方の説明は、「テクニカルサポートサービス」を参照してください。

オンラインサービス

デルサポートへは、**support.jp.dell.com** でアクセスすることができます。**サポートサイトへようこそ** のページから、サポートツール、情報などをお選びください。

インターネット上でのデルへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- ワールドワイドウェブ（WWW）

  www.dell.com/

  www.dell.com/ap/（アジア / 太平洋諸国）

  www.dell.com/jp（日本）

  www.euro.dell.com（ヨーロッパ）

www.dell.com/la/（ラテンアメリカ諸国）

www.dell.com.ca（カナダ）

- サポートウェブサイト

mobile_support@us.dell.com

support@us.dell.com

apsupport@dell.com（アジア太平洋地域）

support.jp.dell.com（日本）

support.euro.dell.com（ヨーロッパ）

24 時間納期案内電話サービス

注文した Dell™ 製品の状況を確認するには、**support.jp.dell.com** にアクセスするか、または、24 時間納期案内電話サービスにお問い合わせください。音声による案内で、注文について調べて報告するために必要な情報をお伺いします。

テクニカルサポートサービス

デル製品に関するお問い合わせは、デルのテクニカルサポートをご利用ください。サポートスタッフはその情報を元に、正確な回答を迅速に提供します。

テクニカルサポートにお問い合わせになる場合、まず「テクニカルサポート」を参照してから、「デルへのお問い合わせ」に記載されているお住まいの地域の番号にご連絡ください。

ご注文に関する問題

欠品、誤った部品、間違った請求書などの注文に関する問題があれば、デルカスタマーケアにご連絡ください。お電話の際は、納品書または出荷伝票をご用意ください。

製品情報

デルが提供しているその他の製品に関する情報が必要な場合や、ご注文になりたい場合は、デルウェブサイト **www.dell.com/jp/** をご覧ください。電話で販売担当者とお話になりたいときは、お住まいの地域のお問い合わせ番号を参照してください。

保証期間中の修理と返品について

『サービス＆サポートのご案内』をご覧ください。

お問い合わせになる前に

メモ： お電話の際は、エクスプレスサービスコードをご用意ください。エクスプレスサービスコードがおわかりになると、デルで自動電話サポートシステムをお受けになる場合に、より効率良くサポートが受けられます。

必ず Diagnostics（診断）チェックリストに記入してください。デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をかけてください。キーボードからコマンドを入力したり、操作時に詳細情報を説明したり、コンピュータ自体でのみ可能な他のトラブルシューティング手順を試してみるようにお願いする場合があります。システムのマニュアルがあることを確認してください。

警告：コンピュータ内部の作業をする前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください

Diagnostics（診断）チェックリスト
名前：
日付：
住所：
電話番号：
サービスタグ（コンピュータ背面のバーコード）：
エクスプレスサービスコード：
返品番号（デルテクニカルサポート担当者から提供された場合）：
オペレーティングシステムとバージョン：
周辺機器：
拡張カード：
ネットワークに接続されていますか？ はい　いいえ
ネットワーク、バージョン、ネットワークアダプタ：
プログラムとバージョン：
システムのスタートアップファイルの内容を確認するときは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。コンピュータにプリンタを接続している場合、各ファイルを印刷します。印刷できない場合、各ファイルの内容を記録してからデルにお問い合わせください。
エラーメッセージ、ビープコードまたは診断コード：
問題点の説明と実行したトラブルシューティング手順：

デルへのお問い合わせ

インターネット上でのデルへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- **www.dell.com/jp**
- **support.jp.dell.com**（テクニカルサポート）

デルへお問い合わせになる場合、次の表の電子アドレス、電話番号、およびコードをご利用ください。国際電話のかけ方については、国内または国際電話会社にお問い合わせください。

国（都市） 国際電話アクセスコード 国番号	**部署名またはサービス地域、 ウェブサイトおよび E-メールアドレス**	**市外局番、 市内番号、および フリーダイヤル**
日本（川崎） 国際電話アクセスコード：**001** 国番号：**81** 市外局番：**44**	ウェブサイト：**support.jp.dell.com**	
	テクニカルサポート（Dell Precision™、OptiPlex™、Latitude™）	フリーダイヤル：0120-198-433
	テクニカルサポート（海外から）（Dell Precision、OptiPlex、および Latitude）	81-44-556-3894
	Fax 情報サービス	044-556-3490
	24 時間納期情報案内サービス	044-556-3801
	カスタマーケア	044-556-4240
	ビジネスセールス本部（従業員数 400 人未満）	044-556-1465
	法人営業本部（従業員数 400 人以上）	044-556-3433
	エンタープライズ営業本部（従業員数 3500 人以上）	044-556-3430
	官公庁 / 研究・教育機関 / 医療機関セールス	044-556-1469
	デルグローバルジャパン	044-556-3469
	個人のお客様	044-556-1760

	代表	044-556-4300

目次に戻る

目次に戻る

用語集

Dell™ OptiPlex™ 170L システムユーザーズガイド

A B C D E F G H I K L M N P R S T U V W X Z あ か さ た な は ま や ら

この用語集に収録されている用語は、情報の目的として提供されています。お使いのコンピュータに搭載されている機能についての記載がない場合もあります。

A

AC — alternating current（交流）— コンピュータの AC アダプタ電源ケーブルをコンセントに差し込むと供給される電気の様式です。

ACPI — advanced configuration and power interface — Microsoft® Windows® オペレーティングシステムがコンピュータをスタンバイモードや休止状態モードにして、コンピュータに接続されている各デバイスに供給される電力量を節約できる電源管理規格です。

AGP — accelerated graphics port — システムメモリをビデオ関連の処理に使用できるようにする専用のグラフィックスポートです。AGP を使うとビデオ回路とコンピュータメモリ間のインタフェースが高速化され、True-Color のスムーズなビデオイメージを伝送できます。

APR — advanced port replicator — ノートブックコンピュータでモニター、キーボード、マウス、およびその他のデバイスを便利に使えるようにするドッキングデバイスです。

ASF — alert standards format — 管理コンソールにハードウェアとソフトウェアの警告を報告する方式を定義する標準です。ASF は、どのプラットフォームやオペレーティングシステムにも対応できるよう設計されています。

B

BIOS — basic input/output system（基本入出力システム）— コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェースの役割をするプログラム（またはユーティリティ）です。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。セットアップユーティリティとも呼ばれています。

Bluetooth™ — 短距離（9 メートル）内にある複数のネットワークデバイスが、お互いを自動的に認識できるようにするワイヤレステクノロジ標準です。

bps — ビット / 秒 — データの転送速度を計測する単位です。

BTU — British thermal unit（英国熱量単位）— 熱量の単位です。

C

C — セルシウス（摂氏）— 温度の単位で、水の氷点を 0 度、沸点を 100 度としています。

CD — compact disc — 光学形式のストレージメディアです。通常、音楽やソフトウェアプログラムに使用されます。

CD ドライブ — CD から、光学技術を使用してデータを読み取るドライブです。

CD プレーヤー — 音楽 CD を再生するソフトウェアです。CD プレーヤーのウィンドウに表示されるボタンを使用して CD を再生することができます。

CD-R — CD recordable — 書き込み可能な CD です。CD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

CD-RW — CD rewritable — 書き換え可能な CD です。データを CD-RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます（再書き込み）。

CD-RW ドライブ — CD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込んだりすることができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

CD-RW / DVD ドライブ — コンボドライブとも呼ばれます。CD および DVD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込んだりすることができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

COA — Certificate of Authenticity（実物証明書）— お使いのコンピュータのラベルに記載されている Windows の英数文字のコードです。Product Key（プロダクトキー）や Product ID（プロダクト ID）とも呼ばれます。

CRIMM — continuity rambus in-line memory module（連続式 RIMM）— メモリチップの搭載されていない特殊なモジュールで、使用されていない RIMM スロットに装着するために使用されます。

D

DDR SDRAM — double-data-rate SDRAM（ダブルデータ速度 SDRAM）— データのバーストサイクルを二倍にする SDRAM の一種です。システム性能が向上します。

DIN コネクタ — 丸い、6 ピンのコネクタで、DIN（ドイツ工業規格）に準拠しています。通常は PS/2 キーボードやマウスケーブルのコネクタに使用されます。

DMA — direct memory access — DMA チャネルを使うと、ある種の RAM とデバイス間でのデータ転送がプロセッサを介さずに行えるようになります。

DMTF — Distributed Management Task Force — 分散型デスクトップ、ネットワーク、企業、およびインターネット環境における管理基準を開発するハードウェアおよびソフトウェア会社の団体です。

DRAM — dynamic random-access memory — コンデンサを含む集積回路内に情報を保存するメモリです。

DSL — Digital Subscriber Line（デジタル加入者回線）— アナログ電話回線を介して、安定した高速インターネット接続を提供するテクノロジです。

DVD — digital versatile disc — 通常は、映画を録画するために使われるディスクです。CD の場合は片面のみを使用しますが、DVD は両面を使用します。DVD ドライブはほとんどの CD を読み取ることができます。

DVD ドライブ — DVD および CD から、光学技術を使用してデータを読み取るドライブです。

DVD プレーヤー — DVD 映画を鑑賞するときに使用するソフトウェアです。DVD プレーヤーのウィンドウに表示されるボタンを使用して映画を鑑賞することができます。

DVD+RW — DVD rewritable — 書き換え可能な DVD です。データを DVD+RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます（再書き込み）。（DVD+RW テクノロジは DVD-RW テクノロジとは異なります。）

DVD+RW ドライブ — DVD とほとんどの CD メディアを読み取ることができるドライブです。DVD+RW（書き換え可能な DVD）ディスクに書き込むこともできます。

DVI — digital video interface — コンピュータとデジタルビデオディスプレイ間のデジタル転送用の標準です。DVI アダプタはコンピュータの内蔵グラフィックスを介して動作します。

E

ECC — error checking and correction（エラーチェックおよび訂正）— メモリにデータを書き込んだり、メモリからデータを読み取ったりするときに、データの正確さを検査する特別な回路を搭載しているメモリです。

ECP — extended capabilities port — 改良された双方向のデータ送信を提供するパラレルコネクタのデザインです。EPP に似て、ECP はデータ転送にダイレクトメモリアクセスを使用して性能を向上させます。

EIDE — enhanced integrated device electronics — ハードドライブと CD ドライブ用の IDE インタフェースの改良バージョンです。

EMI — electromagnetic interference（電磁波障害）— 電磁放射線が原因で起こる電気障害です。

Energy Star® —Environmental Protection Agency（米国環境保護局）が規定する、全体的な電力の消費量を減らす要件です。

EPP — enhanced parallel port — 双方向のデータ送信を提供するパラレルコネクタのデザインです。

ESD — electrostatic discharge（静電気放電）— 静電気の急速な放電のことです。ESD は、コンピュータや通信機器に使われている集積回路を損傷することがあります。

F

Fahrenheit — ファーレンハイト（華氏）— 温度の単位で、水の氷点を 32 度、沸点を 212 度としています。

FCC — Federal Communications Commission（米国連邦通信委員会）— コンピュータやその他の電子機器が放出する放射線の量を規制する通信関連の条例を執行するアメリカの機関です。

FSB — front side bus — マイクロプロセッサと RAM 間のデータ経路と物理的なインタフェースです。

FTP — file transfer protocol（ファイル転送プロトコル）— インターネットに接続されているコンピュータ間でのファイルの交換に利用される標準のインターネットプロトコルです。

G

G — グラビティ — 重力の計測単位です。

GB — ギガバイト — データの単位です。1 GB は 1,024 MB（1,073,741,824 バイト）です。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000,000 バイトに切り捨てられることもあります。

GHz — ギガヘルツ — 1 GHz は、1,000,000,000 Hz または 1,000 MHz です。通常、コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は GHz 単位で計測されます。

GUI — graphical user interface — メニュー、ウィンドウ、およびアイコンでユーザーとやり取りする対話型ソフトウェアです。Windows オペレーティングシステムで動作するほとんどのプログラムは GUI です。

H

HTML — hypertext markup language — インターネットブラウザ上で表示できるよう、インターネットのウェブページに挿入されるコードセットです。

HTTP — hypertext transfer protocol — インターネットに接続されているコンピュータ間でのファイル交換用プロトコルです。

Hz — ヘルツ — 周波数の単位です。1 秒間 1 サイクルで周波数 1 Hz です。コンピュータや電子機器では、キロヘルツ（kHz）、メガヘルツ（MHz）、ギガヘルツ（GHz）、またはテラヘルツ（THz）単位で計測される場合もあります。

I

IC — Industry Canada — 米国の FCC と同様、電子装置からの放射を規制するカナダの規制団体です。

IC — integrated circuit（集積回路）— コンピュータ、オーディオ、およびビデオ装置用に製造された、何百万もの極小電子コンポーネントが搭載されている半導体ウェーハーまたはチップです。

IDE — integrated device electronics — ハードドライブまたは CD ドライブにコントローラが内蔵されている大容量ストレージデバイス用のインタフェースです。

I/O — input/output（入出力）— コンピュータにデータを入力したり、コンピュータからデータを出力したりする動作またはデバイスです。キーボードやプリンタは I/O デバイスです。

I/O アドレス — 特定のデバイス（シリアルコネクタ、パラレルコネクタ、または拡張スロットなど）に関連する RAM のアドレスで、プロセッサがデバイスと通信できるようにします。

IrDA —Infrared Data Association — 赤外線通信の国際標準を作成する組織です。

IRQ — interrupt request（割り込み要求）— デバイスがプロセッサと通信できるように、特定のデバイスに割り当てられた電子的経路です。すべてのデバイス接続に IRQ を割り当てる必要があります。2 つのデバイスに同じ IRQ を割り当てることはできますが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ISP — Internet service provider — ホストサーバーへのアクセスを可能にし、インターネットへの直接接続、E-メールの送受信、およびウェブサイトへのアクセスなどのサービスを提供する会社です。通常、ISP はソフトウェアのパッケージ、ユーザー名、およびアクセス用の電話番号を有料（月払い）で提供します。

K

Kb — キロビット — データの単位です。1 Kb は 1,024 ビットです。メモリ集積回路の容量の単位です。

KB — キロバイト — データの単位です。1 KB は 1,024 バイトです。または、1,000 バイトとすることもあります。

kHz — キロヘルツ — 周波数の単位です。1 kHz は 1,000 Hz です。

L

LAN — local area network — 狭い範囲にわたるコンピュータネットワークです。LAN は通常、1 棟の建物内や隣接する 2、3 棟の建物内に限定されます。LAN は電話回線や電波を使って他の離れた LAN と接続し、WAN（ワイドエリアネットワーク）を構成できます。

LCD — liquid crystal display（液晶ディスプレイ）— ノートブックコンピュータのディスプレイやフラットパネルのディスプレイに用いられる技術です。

LED — light-emitting diode（発光ダイオード）— コンピュータのステータスを示す光を発する電子コンポーネントです。

LPT — line print terminal — プリンタや他のパラレルデバイスへのパラレル接続の指定です。

M

Mb — メガビット — メモリチップ容量の単位です。1 Mb は 1,024 Kb です。

Mbps — メガビット / 秒 — 1,000,000 ビット / 秒です。通常、ネットワークやモデムなどのデータ転送速度の計測単位に使用します。

MB — メガバイト — データの単位です。1 MB は 1,048,576 バイトです。または 1,024 KB を表します。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000 バイトに切り捨てられて表示されることもあります。

MB/sec — メガバイト / 秒 — 1,000,000 バイト / 秒です。通常、データの転送速度の計測単位に使用します。

MHz — メガヘルツ — 周波数の単位です。1,000,000 サイクル / 秒です。通常、コンピュータのマイクロプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は MHz 単位で計測されます。

ms — ミリ秒 — 1000 分の 1 秒に相当する時間の単位です。ストレージデバイスなどのアクセス速度の計測に使用します。

N

NIC — ネットワークアダプタを参照してください。

ns — ナノ秒 — 10 億分の 1 秒に相当する時間の単位です。

NVRAM — nonvolatile random access memory（不揮発性ランダムアクセスメモリ）— コンピュータの電源が切れたり、外部電源が停止したりした場合にデータを保存するメモリの一種です。NVRAM は、日付、時刻、およびお客様が設定できるその他のセットアップオプションなどのコンピュータ設定情報を維持するのに利用されます。

P

PC カード — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。PC カードの一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。

PCI — peripheral component interconnect — PCI は、32 ビットおよび 64 ビットのデータ経路をサポートするローカルバスで、プロセッサとビデオ、各種ドライブ、ネットワークなどのデバイス間に高速データ経路を提供します。

PCMCIA — Personal Computer Memory Card International Association — PC カードの規格を協議する国際的組織です。

PIN — personal identification number（個人識別番号）— コンピュータネットワークやその他の安全が保護されているシステムへの不正なアクセスを防ぐために使用される一連の数字や文字です。

PIO — programmed input/output — データパスの一部としてプロセッサを経由した、2 つのデバイス間のデータ転送方法です。

POST — power-on self-test（電源投入時の自己テスト）— BIOS が自動的にロードする診断プログラムです。メモリ、ハードドライブ、およびビデオなどのコンピュータの主要コンポーネントに基本的なテストを実行します。POST で問題が検出されなかった場合、コンピュータは起動を続行します。

PS/2 — personal system/2 — PS/2 互換のキーボード、マウス、またはキーパッドを接続するコネクタです。

PXE — pre-boot execution environment — WfM（Wired for Management）標準で、オペレーティングシステムがないネットワークコンピュータを設定し、リモートで起動できるようにします。

R

RAID —redundant array of independent disks — データの冗長性を提供する方法です。一般的に実装される RAID には RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、および RAID 50 があります。

RAM — random-access memory — プログラムの命令やデータを保存するコンピュータの主要な一時記憶領域です。RAM に保存されている情報は、コンピュータをシャットダウンすると失われます。

readme ファイル — ソフトウェアのパッケージまたはハードウェア製品に添付されているテキストファイルです。通常、readme ファイルには、インストール手順、新しく付け加えられた機能の説明、マニュアルに記載されていない修正などが記載されています。

RFI — radio frequency interference（無線電波障害）— 10 kHz から 100,000 MHz までの範囲の通常の無線周波数で発生する障害です。無線周波は電磁周波数帯域の低域に属し、赤外線や光などの高周波よりも障害を起こしやすい傾向があります。

ROM — read-only memory（読み取り専用メモリ）— コンピュータが削除したり書き込んだりできないデータやプログラムを保存するメモリです。RAM と異なり、ROM はコンピュータの電源が切れても内容を保持します。コンピュータの動作に不可欠のプログラムで ROM に常駐しているものがいくつかあります。

RPM — revolutions per minute — 1 分間に発生する回転数です。ハードドライブ速度の計測に使用します。

RTC — real time clock — システム基板上にあるバッテリーで動く時計で、コンピュータの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

RTCRST — real-time clock reset — いくつかのコンピュータに搭載されているシステム基板上のジャンパで、問題が発生した場合のトラブルシューティングに利用できます。

S

SDRAM — synchronous dynamic random-access memory（同期ダイナミックランダムアクセスメモリ）— DRAM のタイプで、プロセッサの最適クロック速度と同期化されています。

S/PDIF — Sony/Philips Digital Interface — ファイルの質が低下する可能性があるアナログ形式に変換せずに、1 つのファイルから別のファイルにオーディオを転送できるオーディオ転送用ファイルフォーマットです。

SVGA — super-video graphics array — ビデオカードとコントローラ用のビデオ標準規格です。SVGA の通常の解像度は 800 ×600 および 1024 ×768 です。プログラムが表示する色数と解像度は、コンピュータに取り付けられているモニター、ビデオコントローラとドライバ、およびビデオメモリの性能によって異なります。

S ビデオ TV 出力 — テレビまたはデジタルオーディオデバイスをコンピュータに接続するために使われるコネクタです。

SXGA — super-extended graphics array — 1280 × 1024 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

SXGA+ — super-extended graphics array plus — 1400 × 1050 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

T

TAPI — telephony application programming interface — 音声、データ、ファックス、ビデオなどの各種テレフォニーデバイスを Windows のプログラムで使用できるようにするインタフェースです。

U

UPS — uninterruptible power supply（無停電電源装置）— 電気的な障害が起きた場合や、電圧レベルが低下した場合に使用されるバックアップ電源です。UPS を設置すると、電源が切れた場合でも限られた時間コンピュータは動作することができます。通常、UPS システムは、過電流を抑え電圧を調整します。小型の UPS システムで数分間電力を供給するので、コンピュータをシャットダウンすることが可能です。

USB — universal serial bus — USB 互換キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナー、スピーカー、プリンタ、ブロードバンドデバイス（DSL およびケーブルモデム）、撮像装置、またはストレージデバイスなどの低速デバイス用ハードウェアインタフェースです。コンピュータの 4 ピンソケットかコンピュータに接続されたマルチポートハブに直接デバイスを接続します。USB デバイスは、コンピュータの電源が入っていても接続したり取り外したりすることができます。また、デイジーチェーン型に接続することもできます。

UTP — unshielded twisted pair（シールドなしツイストペア）— ほとんどの電話回線利用のネットワークやその他の一部のネットワークで利用されているケーブルの種類です。電磁波障害から保護するためにワイヤのペアに金属製の被覆をほどこす代わりに、シールドなしのワイヤのペアがねじられています。

UXGA — ultra extended graphics array — 1600 × 1200 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

V

V — ボルト — 電位または起電力の計測単位です。1 ボルトは、1 アンペアの電流を通ずる抵抗 1 オームの導線の両端の電位の差です。

W

W — ワット — 電力の計測単位です。1 ワットは 1 ボルトで流れる 1 アンペアの電流を指します。

WHr — ワット時 — おおよそのバッテリー容量を示すのに通常利用される計測単位です。たとえば、66 WHr のバッテリーは 66 W の電力を 1 時間、33 W を 2 時間供給できます。

X

XGA — extended graphics array — 1024 × 768 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

Z

ZIF — zero insertion force — コンピュータチップまたはソケットのどちらにもまったく力を加えないで、チップを取り付けまたは取り外しできる、ソケットやコネクタの一種です。

Zip — 一般的なデータの圧縮フォーマットです。Zip フォーマットで圧縮されているファイルを Zip ファイルといい、通常、ファイル名の拡張子が **.zip** となります。特別な Zip ファイルに自己解凍型ファイルがあり、ファイル名の拡張子は **.exe** となります。自己解凍型ファイルは、ファイルをダブルクリックするだけで自動的に解凍できます。

Zip ドライブ — Iomega Corporation によって開発された大容量のフロッピードライブで、Zip ディスクと呼ばれる 3.5 インチのリムーバルディスクを使用します。Zip ディスクは標準のフロッピーディスクよりもやや大きく約二倍の厚みがあり、100 MB のデータを保持できます。

あ

アンチウイルスソフトウェア — お使いのコンピュータからウイルスを見つけ出し、隔離して、除去するように設計されたプログラムです。

ウイルス — 嫌がらせ、またはコンピュータのデータを破壊する目的で作られたプログラムです。ウイルスプログラムは、ウイルス感染したディスク、インターネットからダウンロードしたソフトウェア、または E-メールの添付ファイルを経由してコンピュータから別のコンピュータへ感染します。ウイルス感染したプログラムを起動すると、プログラムに潜伏したウイルスも起動します。

一般的なウイルスに、フロッピーディスクのブートセクタに潜伏するブートウイルスがあります。フロッピーディスクを挿入したままコンピュータをシャットダウンすると、次の起動時に、コンピュータはオペレーティングシステムを探すためフロッピーディスクのブートセクターにアクセスします。このアクセスでコンピュータがウイルスに感染します。一度コンピュータがウイルスに感染すると、ブートウイルスは除去されるまで、読み書きされるすべてのフロッピーディスクにウイルスをコピーします。

エクスプレスサービスコード — デルコンピュータのラベルに付いている数字のコードです。デルにお問い合わせの際は、エクスプレスサービスコードをお伝えください。エクスプレスサービスコードが利用できない国もあります。

オプティカルドライブ — CD、DVD、または DVD+RW から、光学技術を使用してデータを読み書きするドライブです。オプティカルドライブには、CD ドライブ、DVD ドライブ、CD-RW ドライブ、および CD-RW/DVD コンボドライブが含まれます。

か

カーソル — キーボード、タッチパッド、またはマウスが次にどこで動作するかを示すディスプレイや画面上の目印です。通常は点滅する棒線かアンダーライン、または小さな矢印で表示されます。

解像度 — プリンタで印刷される画像や、モニターに表示される画像がどのくらい鮮明かという度合です。解像度を高い数値に設定しているほど鮮明です。

書き込み防止 — ファイルやメディアに、データの内容を変更不可に設定することです。書き込み保護を設定しデータを変更または破壊されることのないように保護します。3.5 インチのフロッピーディスクに書き込み保護を設定する場合、書き込み保護設定タブをスライドさせて書き込み不可の位置にします。

拡張カード — コンピュータのシステム基板上の拡張スロットに装着する電子回路基板で、コンピュータの性能を向上させます。ビデオカード、モデムカード、サウンドカードなどがあります。

拡張スロット — 拡張カードを挿入してシステムバスに接続する、システム基板上（コンピュータによって異なる場合もあります）のコネクタです。

拡張ディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターを使えるようにするディスプレイの設定です。デュアルディスプレイモードとも呼ばれます。

拡張型 PC カード — 拡張型 PC カードは、取り付けた時に PC カードスロットからカードの端がはみ出ています。

壁紙 — Windows デスクトップの背景となる模様や絵柄です。壁紙を変更するには Windows コントロールパネルから変更します。また、気に入った絵柄を読み込んで壁紙を作成することができます。

キーの組み合わせ — 複数のキーを同時に押して実行するコマンドです。

起動 CD — コンピュータを起動するのに使用する CD です。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 CD または起動ディスクが必要になりますので、常備しておきます。『Drivers and Utilities CD』または Resource CD が起動 CD です。

起動順序 — コンピュータが起動を試みるデバイスの順序を指定します。

起動ディスク — コンピュータを起動するのに使用するディスクです。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 CD または起動ディスクが必要になりますので、常備しておきます。

キャッシュ — 特殊な高速ストレージ機構で、メインメモリの予約領域、または独立した高速ストレージデバイスです。キャッシュは、プロセッサのオペレーションスピードを向上させます。

L1 キャッシュ — プロセッサの内部に設置されているプライマリキャッシュです。

L2 キャッシュ — プロセッサに外付け、またはプロセッサアーキテクチャに組み込まれたセカンドキャッシュです。

休止状態モード — メモリ内のすべてをハードドライブ上の予約領域に保存してからコンピュータの電源を切る、省電力モードです。コンピュータを再起動すると、ハードドライブに保存されているメモリ情報が自動的に復元されます。

グラフィックスモード — *x* 水平ピクセル数 × *y* 垂直ピクセル数 × *z* 色数で表されるビデオモードです。グラフィックスモードは、どんな形やフォントも表現できます。

クロック速度 — システムバスに接続されているコンピュータコンポーネントがどのくらいの速さで動作するかを示す、MHz で示される速度です。

国際通行許可書 — 物品を外国に一時的に持ち込むことを許可する国際通関用文書です。商品パスポートとも呼ばれます。

コントロールパネル — 画面設定などのオペレーティングシステムやハードウェアの設定を変更するための Windows ユーティリティです。

コントローラ — プロセッサとメモリ間、またはプロセッサとデバイス間のデータ転送を制御するチップです。

さ

サージプロテクタ — コンセントを介してコンピュータに影響を与える電圧変動（雷などの原因で）から、コンピュータを保護します。サージプロテクタは、落雷や通常の AC ライン電圧レベルが 20 ％以上低下する電圧変動による停電からはコンピュータを保護することはできません。

ネットワーク接続はサージプロテクタでは保護できません。雷雨時は、必ずネットワークケーブルをネットワークコネクタから外してください。

サービスタグ — コンピュータに貼ってあるバーコードラベルのことで、デルサポートの **support.jp.dell.com** にアクセスしたり、デルのカスタマーサービスやテクニカルサポートに電話で問い合わせたりする場合に必要な識別番号が書いてあります。

システム基板 — コンピュータに搭載されている主要回路基板です。マザーボードとも呼ばれます。

システムトレイ — 通知領域を参照してください。

シャットダウン — ウィンドウやプログラムを閉じ、オペレーティングシステムを終了して、コンピュータの電源を切るプロセスです。シャットダウンが完了する前にコンピュータの電源を切ると、データを損失する恐れがあります。

ショートカット — 頻繁に使用するプログラム、ファイル、フォルダ、およびドライブに素早くアクセスできるようにするアイコンです。ショートカットを Windows デスクトップ上に作成し、ショートカットアイコンをダブルクリックすると、それに対応するフォルダやファイルを検索せずに開くことができます。ショートカットアイコンは、ファイルが置かれている場所を変更するわけではありません。ショートカットアイコンを削除しても、元のファイルには何の影響もありません。また、ショートカットのアイコン名を変更することもできます。

シリアルコネクタ — I/O ポートは、コンピュータにハンドヘルドデジタルデバイスやデジタルカメラなどのデバイスを接続するためによく使用されます。

スマートカード — プロセッサとメモリチップに内蔵されているカードです。スマートカードは、スマートカード搭載のコンピュータでのユーザー認証に利用できます。

スキャンディスク — ファイル、フォルダ、およびハードディスク上にエラーがないかどうかをチェックする Microsoft ユーティリティです。コンピュータの反応が止まって、コンピュータを再起動した際にスキャンディスクが実行されることがあります。

スタンバイモード — コンピュータの不必要な動作をシャットダウンして、電力を節電する省電力モードです。

赤外線センサー — ケーブル接続しなくても、コンピュータと赤外線互換デバイス間のデータ転送ができるポートです。

セットアッププログラム — ハードウェアやソフトウェアをインストールしたり設定したりするのに使うプログラムです。**setup.exe** または **install.exe** というプログラムが Windows 用ソフトウェアに付属しています。セットアッププログラムはセットアップユーティリティとは異なります。

セットアップユーティリティ — コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つユーティリティです。セットアップユーティリティは BIOS で日時やシステムパスワードなどのようなユーザーが選択可能なオプションの設定ができます。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。

ソフトウェア — コンピュータファイルやプログラムなど、電子的に保存できるものすべてを指します。

た

通知領域 — コンピュータの時計、音量調節、およびプリンタの状況など、プログラムやコンピュータの機能に素早くアクセスできるアイコンが表示されている Windows タスクバーの領域です。システムトレイとも呼ばれます。

ディスクのストライピング — 複数のディスクドライブにまたがってデータを分散させる技術です。ディスクのストライピングは、ディスクストレージからデータを取り出す動作を高速化します。通常、ディスクのストライピングを利用しているコンピュータではユーザーがデータユニットサイズまたはストライプ幅を選ぶことができます。

テキストエディタ — たとえば、Windows のメモ帳など、テキストファイルを作成および編集するためのアプリケーションプログラムです。テキストエディタには通常、ワードラップやフォーマット（アンダーラインのオプションやフォントの変換など）の機能はありません。

デバイス — ディスクドライブ、プリンタ、キーボードなどコンピュータに内蔵または外付けされたハードウェアです。

デバイスドライバ — ドライバを参照してください。

デュアルディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターを使えるようにするディスプレイの設定です。拡張ディスプレイモードとも呼ばれます。

ドッキングデバイス — APRを参照してください。

ドメイン — ネットワーク上のコンピュータ、プログラム、およびデバイスのグループで、特定のユーザーグループによって使用される共通のルールと手順のある単位として管理されます。ユーザーは、ドメインにログオンしてリソースへのアクセスを取得します。

ドライバ — プリンタなどのデバイスが、オペレーティングシステムに制御されるようにするためのソフトウェアです。多くのデバイスは、コンピュータに正しいドライバがインストールされていない場合、正常に動作しません。

トラベルモジュール — ノートブックコンピュータの重量を減らすために、モジュールベイの中に設置できるよう設計されているプラスチック製のデバイスです。

な

内蔵 — 通常、コンピュータのシステム基板上に物理的に搭載されているコンポーネントを指します。ビルトインとも呼ばれます。

ネットワークアダプタ — ネットワーク機能を提供するチップです。コンピュータのシステム基板にネットワークアダプタが内蔵されていたり、アダプタが内蔵されている PC カードもあります。ネットワークアダプタは、NIC（ネットワークインタフェースコントローラ）とも呼ばれます。

は

ハードドライブ — ハードディスクのデータを読み書きするドライブです。ハードドライブとハードディスクは同じ意味としてどちらかが使われています。

パーティション — ハードドライブ上の物理ストレージ領域です。1 つ以上の論理ストレージ領域（論理ドライブ）に割り当てられます。それぞれのパーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

バイト — コンピュータで使われる基本的なデータ単位です。1 バイトは 8 ビットです。

バス — コンピュータのコンポーネント間で情報を通信する経路です。

バス速度 — バスがどのくらいの速さで情報を転送できるかを示す、MHz で示される速度です。

バックアップ — フロッピーディスク、CD、またはハードドライブなどにプログラムやデータをコピーすることをバックアップといいます。不測の事態に備えて、定期的にハードドライブ上のデータファイルのバックアップを取ることをお勧めします。

バッテリー — ノートブックコンピュータが AC アダプタおよびコンセントに接続されていないときに、コンピュータを動作させるために使われる内蔵の電源です。

バッテリー駆動時間 — ノートブックコンピュータのバッテリーがコンピュータに電源を供給する間、充電量を維持できる時間（分または時間数）です。

バッテリーの寿命 — ノートブックコンピュータのバッテリーが、消耗と再充電を繰り返すことのできる期間（年数）です。

パラレルコネクタ — I/O ポートは、パラレルプリンタをコンピュータに接続する場合などに使用されます。LPT ポートとも呼ばれます。

ヒートシンク — 放熱を助けるプロセッサに付属する金属板です。

ビデオ解像度 — 解像度を参照してください。

ビデオコントローラ — お使いのコンピュータに（モニターの組み合わせにおいて）ビデオ機能を提供するビデオカードまたは（オンボードビデオコントローラ搭載のコンピュータの）システム基板の回路です。

ビデオメモリ — ビデオ機能専用のメモリチップで構成されるメモリです。通常、ビデオメモリはシステムメモリよりも高速です。取り付けられているビデオメモリの量は、主にプログラムが表示できる色数に影響を与えます。

ビデオモード — テキストやグラフィックをモニターに表示する際のモードです。グラフィックスをベースにしたソフトウェア（Windows オペレーティングシステムなど）は、*x* 水平ピクセル数 × *y* 垂直ピクセル数 × *z* 色数で表されるビデオモードで表示されます。文字をベースにしたソフトウェア（テキストエディタなど）は、*x* 列 × *y* 行の文字数で表されるビデオモードで表示されます。

ピクセル — ディスプレイ画面のシングルポイントです。ピクセルが縦と横に並び、イメージを作ります。ビデオの解像度（800 × 600 など）は、上下左右に並ぶピクセルの数で表します。

ビット — コンピュータが認識するデータの最小単位です。

フォーマット — ファイルを保存するためにドライブやディスクを準備する工程のことです。ドライブまたはディスクをフォーマットするとデータはすべて消失します。

フォルダ — ディスクやドライブ上のファイルを整頓したりグループ化したりするスペースを表す用語です。フォルダ中のファイルは、名前や日付やサイズなどの順番で表示できます。

プラグアンドプレイ — コンピュータがデバイスを自動的に設定できる機能です。BIOS、オペレーティングシステム、およびすべてのデバイスがプラグアンドプレイ対応の場合、プラグアンドプレイは、自動インストール、設定、既存のハードウェアとの互換性を提供します。

プログラム — 表計算ソフト、ワープロソフト、データベースソフト、ゲームソフトなどデータ処理をするソフトウェアです。これらのプログラムは、オペレーティングシステムの実行を必要とします。

フロッピードライブ — フロッピーディスクにデータを読み書きできるディスクドライブです。

プロセッサ — コンピュータ内部で中心的に演算を行うコンピュータチップです。プロセッサは、CPU（中央演算処理装置）とも呼ばれます。

ヘルプファイル — 製品の説明や各種手順を記したファイルです。ヘルプファイルの中には、Microsoft Word の『ヘルプ』のように特定のプログラムに適用されるものがあります。 他にも単独で参照できるヘルプファイルもあります。通常、ヘルプファイルの拡張子は、**.hlp** または **.chm** です。

ま

マウス — 画面上のカーソルを移動させるポインティングデバイスです。通常は、マウスを硬くて平らな面で動かし、画面上のカーソルやポインタを移動します。

メモリ — コンピュータ内部にある、一時的にデータを保存する領域です。メモリにあるデータは一時的に格納されているだけなので、作業中は時々ファイルを保存するようお勧めします。また、コンピュータをシャットダウンするときもファイルを保存してください。コンピュータのメモリには、RAM、ROM、およびビデオメモリなど何種類かあります。通常、メモリというと RAM メモリを指します。

メモリアドレス — データを一時的に RAM に保存する特定の場所です。

メモリマッピング — スタートアップ時に、コンピュータが物理的な場所にメモリアドレスを割り当てる工程です。デバイスとソフトウェアが、プロセッサによりアクセスできる情報を識別できるようになります。

メモリモジュール — システム基板に接続されている、メモリチップを搭載した小型回路基板です。

モデム — アナログ電話回線を介して他のコンピュータと通信するためのデバイスです。モデムには、外付けモデム、PC カード、および内蔵モデムの 3 種類があります。通常、モデムはインターネットへの接続や E-メールの交換に使用されます。

モジュールベイ — オプティカルドライブ、セカンドバッテリー、または Dell TravelLite™ モジュールなどのようなデバイスをサポートするベイです。

モニター — 高解像度のテレビのようなデバイスで、コンピュータの出力を表示します。

や

読み取り専用 — 表示することはできますが、編集したり削除したりすることができないデータやファイルです。次のような場合にファイルを読み取り専用に設定できます。

- フロッピーディスク、CD、または DVD を書き込み保護にしている場合
- ネットワーク上のディレクトリにあり、システム管理者がアクセス権限を特定の個人だけに許可している場合

ら

リフレッシュレート — 画面上のビデオイメージが再描画される周波数です。単位は、Hz で、このリフレッシュレートの周波数で画面の水平走査線（または垂直周波数）が再描画されます。リフレッシュレートが高いほど、ビデオのちらつきが少なく見えます。

ローカルバス — デバイスにプロセッサへの高速スループットを提供するデータバスです。

目次に戻る

[目次に戻る]

I/O パネル

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

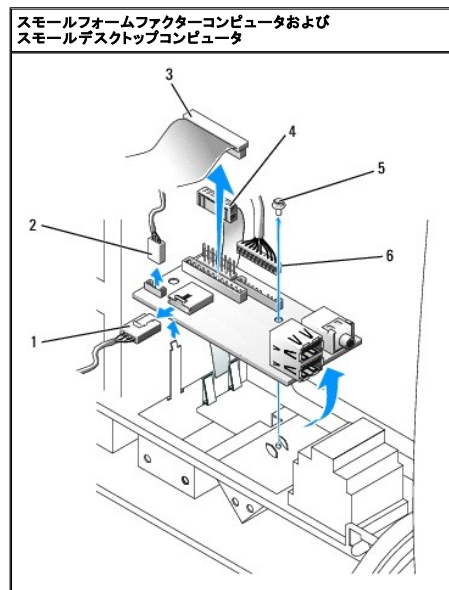
I/O パネルの取り外し

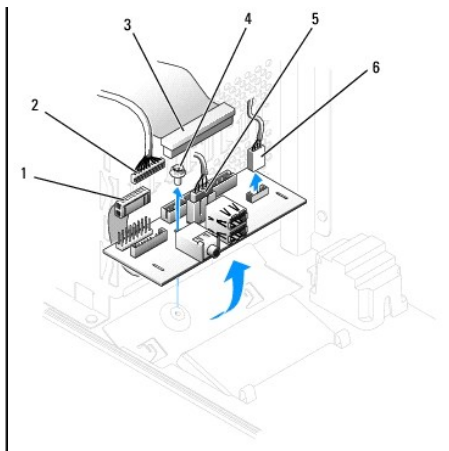
警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

 警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「[はじめに]」の手順を実行します。
2. スモールフォームファクターコンピュータに固定されている I/O パネルのネジにアクセスするには、[ハードドライブを取り外します]。
3. スモールデスクトップコンピュータの[ハードドライブデータケーブルを外します]。
4. I/O パネルに接続されているすべてのケーブルを外します。

コンピュータからコントロールパネルケーブルを取り外す際は、正しく取り付けなおせるようにケーブルの配線経路をメモしておいてください。

スモールフォームファクターコンピュータおよび
スモールデスクトップコンピュータ

1	シャーシイントルージョンスイッチケーブルコネクタ	4	コントロールパネルケーブルコネクタ
2	内蔵スピーカーケーブルコネクタ	5	取り付けネジ
3	I/O ケーブルコネクタ	6	前面オーディオケーブルコネクタ

スモールミニタワーコンピュータ

1	コントロールパネルケーブルコネクタ	4	取り付けネジ
2	前面オーディオケーブルコネクタ	5	シャーシイントルージョンスイッチケーブルコネクタ
3	I/O ケーブルコネクタ	6	内蔵スピーカーケーブルコネクタ

5. コンピュータカバーの内側から、I/O パネルをコンピュータに固定している取り付けネジを外します。
6. I/O パネルをコンピュータから取り外します。

I/O パネルの取り付け

I/O パネルを取り付けるには、取り外し手順を逆の順序で実行します。

目次に戻る

目次に戻る

I/O パネル

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

I/O パネルの取り外し（スモールフォームファクター、スモールデスクトップ、およびスモールミニタワーコンピュータ）

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

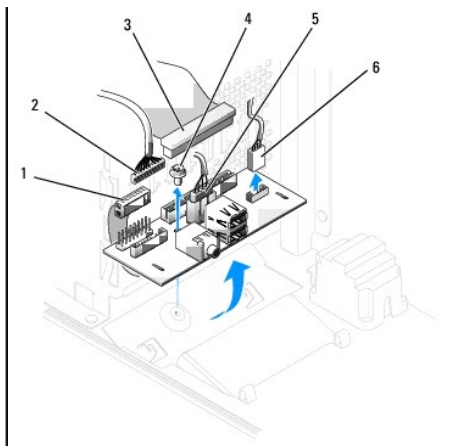
警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. スモールフォームファクターコンピュータに固定されている I/O パネルのネジにアクセスするには、ハードドライブを取り外します。
3. スモールデスクトップコンピュータのハードドライブデータケーブルを外します。
4. I/O パネルに接続されているすべてのケーブルを外します。

コンピュータからコントロールパネルケーブルを取り外す際は、正しく取り付けなおせるようにケーブルの配線経路をメモしておいてください。

スモールフォームファクターおよびスモールデスクトップコンピュータ

1	シャーシイントルージョンスイッチケーブルコネクタ	4	コントロールパネルケーブルコネクタ
2	内蔵スピーカーケーブルコネクタ	5	固定ネジ
3	I/O ケーブルコネクタ	6	前面オーディオケーブルコネクタ

スモールミニタワーコンピュータ

1	コントロールパネルケーブルコネクタ	4	固定ネジ
2	前面オーディオケーブルコネクタ	5	シャーシイントルージョンスイッチケーブルコネクタ
3	I/O ケーブルコネクタ	6	内蔵スピーカーケーブルコネクタ

5. コンピュータカバーの内側から、I/O パネルをコンピュータに固定している取り付けネジを外します。
6. I/O パネルをコンピュータから取り外します。

I/O パネルの取り外し（デスクトップコンピュータ）

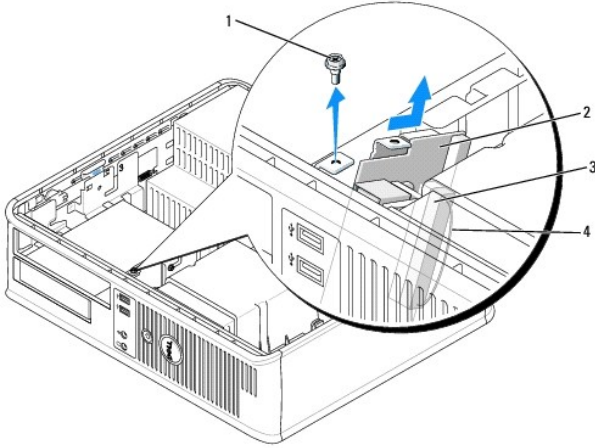
警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告： 感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

メモ： ケーブルを外す前に、新しい I/O パネルを取り付けるときに正しく配線できるように、ケーブルのすべての配線経路をメモしておいてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. CD/DVD ドライブを取り外します。
3. ケーブルのプルループを引っ張って、I/O パネルからケーブルを取り外します。
4. I/O パネルをデスクトップコンピュータに固定しているネジを取り外します。

注意： I/O カードをコンピュータから引き出すときには、特に注意を払ってください。注意を怠ると、ケーブルコネクタおよびケーブル配線クリップに損傷を与える場合があります。

5. I/O カードを慎重に動かして、コンピュータから引き出します。

1	固定ネジ
2	I/O パネル
3	I/O コネクタ
4	I/O コネクタプルループ

I/O パネルの取り外し（ミニタワーコンピュータ）

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

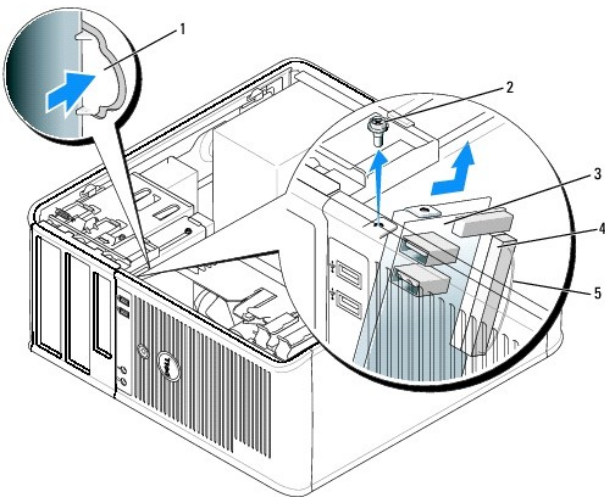
警告： 感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

メモ： ケーブルを外す前に、新しい I/O パネルを取り付けるときに正しく配線できるように、ケーブルのすべての配線経路をメモしておいてください。

感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。

注意： I/O カードをコンピュータから引き出すときには、特に注意を払ってください。注意を怠ると、ケーブルコネクタおよびケーブル配線クリップに損傷を与える場合があります。

2. I/O パネルを固定しているネジを取り外します。リリースボタンを押してループを引っ張り、カードをコンピュータから引き出します。
3. すべてのケーブルを I/O カードから外し、カードをコンピュータから取り外します。

1	I/O パネルリリースボタン
2	固定ネジ
3	I/O パネル
4	I/O コネクタ
5	I/O コネクタプルループ

I/O パネルの取り付け

I/O パネルを取り付けるには、取り外し手順を逆の順序で実行します。

 メモ: I/O パネルブラケットにあるガイドを使って I/O カードを正しい位置に合わせ、I/O パネルブラケットにある切り込みを使ってカードを固定してください。

目次に戻る

目次に戻る

メモリ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

- DDR2 メモリの概要
- 4 GB 構成のメモリアドレス指定
- メモリの取り付け
- メモリの取り外し

お使いのコンピュータでサポートされているメモリのタイプについては、「仕様」の「メモリ」を参照してください。

注意： 新しいメモリモジュールを取り付ける前に、お使いのコンピュータ用の BIOS をデルサポートサイト **support.jp.dell.com** からダウンロードしてください。

DDR2 メモリの概要

- デュアルチャネル DDR2 メモリモジュールは、必ず同じメモリサイズ、同じ速度、および同じテクノロジのものを 2 枚 1 組のペアで取り付ける必要があります。DDR2 メモリモジュールをペアで取り付けていない場合、コンピュータは動作し続けますが、性能が少し落ちます。モジュールの右上角のラベルを参照して、モジュールの容量を確認します。

メモ： 必ず、システム基板に示されている順番で DDR2 メモリモジュールを取り付けてください。

推奨されるメモリ構成は、以下のとおりです。

- 単一のメモリモジュールをコネクタ DIMM_1 に装着

または

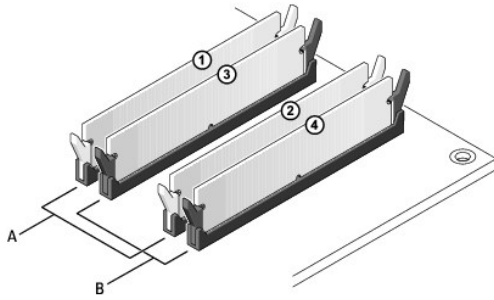
- 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM_1 および DIMM_2 に装着

または

- 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM_1 および DIMM_2 に装着し、コネクタ DIMM_3 および DIMM_4 に別のペアを装着

注意： ECC メモリモジュールは取り付けないでください。

別のコネクタにメモリモジュールを装着する前に、プロセッサに最も近いコネクタの DIMM_1 に単一のメモリモジュールを装着していることを確認してください。

メモ： スモールフォームファクターシステムには インタリーブのペアと考えられる 2 つのスロットが搭載されております。

A	コネクタ DIMM_1 および DIMM_2（白色の固定クリップ）に取り付けられた同じサイズのメモリモジュールのペア
B	コネクタ DIMM_3 および DIMM_4（黒色の固定クリップ）に取り付けられた同じサイズのメモリモジュールのペア

メモ： デルからご購入されたメモリは、お使いのコンピュータで保証の対象になります。

注意： メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリを取り外した場合、新しく装着するモジュールをデルからお買い上げになったとしても、元のメモリを新しいメモリとは別に保管してください。できるだけ、新しいメモリモジュールと元のメモリモジュールをペアにしないでください。元のメモリモジュールと新しいものをペアにすると、コンピュータが正しく起動しないことがあります。元のメモリモジュールは、必ずコネクタ DIMM1 と DIMM2、または DIMM3 と DIMM4 にペアで装着してください。

4 GB 構成のメモリアドレス指定

スモールデスクトップおよびスモールミニタワーコンピュータは、1 GB の DIMM を 4 つ使用する場合、最大 4 GB のメモリをサポートします。Microsoft® Windows® 2000 および Windows XP などの現在のオペレーティングシステムは、アドレススペースが最大の 4 GB の場合に利用できます。ただし、オペレーティングシステムが使用できるメモリの容量は 4 GB より多少少なくなります。コンピュータ内の特定のコンポーネントは、4 GB レンジ内にアドレススペースを必要とします。これらのコンポーネント用に予約されたアドレススペースは、コンピュータメモリによっては使用されません。

以下のコンポーネントはメモリアドレススペースを必要とします。

- システム ROM
- APIC
- 内蔵 PCI デバイス（ネットワークコネクタおよび SCSI コントローラなど）
- PCI カード

システムの起動時に、BIOS はアドレススペースを必要とするコンポーネントを認識します。BIOS は予約された必要なアドレススペースの容量を動的に計算します。そして BIOS は、4 GB から予約済みアドレススペースを減算し、利用可能なスペースの容量を確定します。

- 取り付けられたコンピュータメモリの総量が、利用可能なアドレススペースより少ない場合、取り付けられたすべてのコンピュータメモリは、オペレーティングシステムによって使用されます。
- 取り付けられたコンピュータメモリの総量が、利用可能なアドレススペースと同じか、それより多い場合、取り付けられたコンピュータメモリの小さな一部分は、オペレーティングシステムが使用します。

メモリの取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。

1	プロセッサに最も近いメモリコネクタ
2	固定クリップ（2）
3	コネクタ

3. モジュールの底面の切り込みを、コネクタ内のクロスバーに合わせます。

1	切り抜き（2）
2	メモリモジュール
3	切り込み
4	クロスバー

注意： メモリモジュールの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力をかけてコネクタにまっすぐ差し込むようにしてください。

4. カチッと所定の位置に収まるまで、モジュールをコネクタに差し込みます。

モジュールが適切に挿入されると、固定クリップはモジュール両端の切り抜きにカチッと収まります。

5. コンピュータカバーを閉じます。
6. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

8. **シャーシイントルージョン** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

9. 新しいメモリ容量が既存の設定情報と一致しないことをコンピュータが検出して、次のメッセージを表示します。

```
The amount of system memory has changed.（システムメモリの容量が変わりました。）
Strike the F1 key to continue, F2 to run the setup utility（続けるには F1 キーを、セットアップユーティリティを起動するには F2 キーを押してください。）
```

10. <F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、**System Memory** の値をチェックします。

コンピュータは新しく取り付けたメモリの容量を認識して、**System Memory** の値を変更します。メモリの新しい値を確認します。値が正しければ、手順 12 へ進みます。

11. メモリの合計が正しくない場合、コンピュータとデバイスの電源を切ってコンセントから外します。コンピュータカバーを開き、取り付けたメモリモジュールがソケットに正しく装着されているか確認します。次に、手順 5、6、および 7 を繰り返します。

12. **System Memory** の総メモリ容量が正しい場合は、<Esc> を押してセットアップユーティリティを終了します。

13. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、メモリモジュールが正しく動作しているか確認します。

メモリの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。
3. モジュールをつかんで引き上げます。

モジュールが取り外しにくい場合、モジュールを前後に軽く動かして緩めて、コネクタから取り外します。

目次に戻る

目次に戻る

メモリ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いのコンピュータでサポートされているメモリのタイプについては、「仕様」の「メモリ」を参照してください。

注意： 新しいメモリモジュールを取り付ける前に、お使いのコンピュータ用の BIOS をデルサポートサイト **support.jp.dell.com** からダウンロードしてください。

DDR2 メモリの概要

- デュアルチャネル DDR2 メモリモジュールは、必ず同じメモリサイズ、同じ速度、および同じテクノロジのものを 2 枚 1 組のペアで取り付ける必要があります。DDR2 メモリモジュールをペアで取り付けていない場合、コンピュータは動作し続けますが、性能が少し落ちます。モジュールの右上角のラベルを参照して、モジュールの容量を確認します。

メモ： 必ず、システム基板に示されている順番で DDR2 メモリモジュールを取り付けてください。

推奨されるメモリ構成は、以下のとおりです。

- 単一のメモリモジュールをコネクタ DIMM1 に装着

または

- 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM1 および DIMM2 に装着

または

- 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM1 および DIMM2 に装着し、コネクタ DIMM3 および DIMM4 に別のペアを装着

注意： ECC メモリモジュールは取り付けないでください。システムが起動しなかったり、パフォーマンスに影響を及ぼす原因となる場合があります。

別のコネクタにメモリモジュールを装着する前に、プロセッサに最も近いコネクタの DIMM1 に単一のメモリモジュールを装着していることを確認してください。

メモ： スモールフォームファクターコンピュータには、インタリーブのペアと考えられる 2 つのスロットが搭載されています。

A	コネクタ DIMM1 および DIMM2（白色の固定クリップ）に取り付けられた同じサイズのメモリモジュールのペア
B	コネクタ DIMM3 および DIMM4（黒色の固定クリップ）に取り付けられた同じサイズのメモリモジュールのペア

4 GB 構成のメモリアドレス指定

スモールデスクトップ、デスクトップ、スモールミニタワー、およびミニタワーコンピュータは、1 GB の DIMM を 4 つ使用する場合、最大 4 GB のメモリをサポートします。Microsoft® Windows® 2000 および Windows XP などの現在のオペレーティングシステムは、アドレススペースが最大の 4 GB の場合に利用できます。ただし、オペレーティングシステムが使用できるメモリの容量は 4 GB より多少少なくなります。コンピュータ内の特定のコンポーネントは、4 GB レンジ内にアドレススペースを必要とします。これらのコンポーネント用に予約されたアドレススペースは、コンピュータメモリによっては使用されません。

以下のコンポーネントはメモリアドレススペースを必要とします。

- システム ROM
- APIC
- 内蔵 PCI デバイス（ネットワークコネクタおよび SCSI コントローラなど）
- PCI カード

システムの起動時に、BIOS はアドレススペースを必要とするコンポーネントを認識します。BIOS は予約された必要なアドレススペースの容量を動的に計算します。そして BIOS は、4 GB から予約済みアドレススペースを減算し、利用可能なスペースの容量を確定します。

- 取り付けられたコンピュータメモリの総量が、利用可能なアドレススペースより少ない場合、取り付けられたすべてのコンピュータメモリは、オペレーティングシステムによって使用されます。
- 取り付けられたコンピュータメモリの総量が、利用可能なアドレススペースと同じか、それより多い場合、取り付けられたコンピュータメモリの小さな一部分は、オペレーティングシステムが使用します。

メモリの取り外し

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリを取り外した場合、新しく装着するモジュールをデルからお買い上げになったとしても、元のメモリを新しいメモリとは別に保管してください。できるだけ、新しいメモリモジュールと元のメモリモジュールをペアにしないでください。 元のメモリモジュールと新しいものをペアにすると、コンピュータが正しく起動しないことがあります。元のメモリモジュールは、必ずコネクタ DIMM1 と DIMM2、または DIMM3 と DIMM4 にペアで装着してください。

注意： デスクトップコンピュータの DIMM2 および DIMM4 からメモリモジュールを取り外す際、オプティカルドライブがある場合はこれを取り外す必要があります（「ドライブ」の項を参照）。外さないと、メモリモジュールおよび DIMM ソケットに損傷を与える場合があります。

メモ： デルからご購入されたメモリは、お使いのコンピュータで保証の対象になります。

メモ： DIMM 2 および DIMM 4 の取り外しまたは取り付けを行う場合、デスクトップシステムでは CD/DVD ドライブを取り外す必要があります。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを、注意して押し開きます。

1	メモリモジュール
2	固定クリップ（2）

3. メモリモジュールを取り外します。

増設メモリの交換および追加

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意：コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ：デルからご購入されたメモリは、お使いのコンピュータで保証の対象になります。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。

1	プロセッサに最も近いメモリコネクタ
2	固定クリップ（2）
3	コネクタ

3. モジュールの底面の切り込みを、コネクタ内のクロスバーに合わせます。

1	切り抜き（2）
2	メモリモジュール

3	切り込み
4	クロスバー

注意： メモリモジュールの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力をかけてコネクタにまっすぐ差し込むようにしてください。

4. カチッと所定の位置に収まるまで、モジュールをコネクタに差し込みます。

モジュールが適切に挿入されると、固定クリップはモジュール両端の切り抜きにカチッと収まります。

5. コンピュータカバーを閉じます。
6. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

8. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

9. 新しいメモリ容量が既存の設定情報と一致しないことをコンピュータが検出して、次のメッセージを表示します。

```
The amount of system memory has changed.（システムメモリの容量が変わりました。）
Strike the F1 key to continue, F2 to run the setup utility（続けるには F1 キーを、セットアップユーティリティを起動するには F2 キーを押してください。）
```

10. <F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、**System Memory** の値をチェックします。

コンピュータは新しく取り付けたメモリの容量を認識して、**System Memory** の値を変更します。メモリの新しい値を確認します。値が正しければ、手順 12 へ進みます。

11. メモリの合計が正しくない場合、コンピュータとデバイスの電源を切ってコンセントから外します。コンピュータカバーを開き、取り付けたメモリモジュールがソケットに正しく装着されているか確認します。次に、手順 5、6、および 7 を繰り返します。
12. **System Memory** の総メモリ容量が正しい場合は、<Esc> を押してセットアップユーティリティを終了します。
13. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、メモリモジュールが正しく動作しているか確認します。

目次に戻る

メモリ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いのコンピュータでサポートされているメモリのタイプについては、「仕様」の「メモリ」を参照してください。

注意： 新しいメモリモジュールを取り付ける前に、お使いのコンピュータ用の BIOS をデルサポートサイト **support.jp.dell.com** からダウンロードしてください。

DDR2 メモリの概要

- デュアルチャネル DDR2 メモリモジュールは、必ず同じメモリサイズ、同じ速度、および同じテクノロジのものを 2 枚 1 組のペアで取り付ける必要があります。DDR2 メモリモジュールをペアで取り付けていない場合、コンピュータは動作し続けますが、性能が少し落ちます。モジュールの右上角のラベルを参照して、モジュールの容量を確認します。

メモ： 必ず、システム基板に示されている順番で DDR2 メモリモジュールを取り付けてください。

推奨されるメモリ構成は、以下のとおりです。

- 単一のメモリモジュールをコネクタ DIMM1 に装着

または

- 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM1 および DIMM2 に装着

または

- 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM1 および DIMM2 に装着し、コネクタ DIMM3 および DIMM4 に別のペアを装着

注意： ECC メモリモジュールは取り付けないでください。システムが起動しなかったり、パフォーマンスに影響を及ぼす原因となる場合があります。

別のコネクタにメモリモジュールを装着する前に、プロセッサに最も近いコネクタの DIMM1 に単一のメモリモジュールを装着していることを確認してください。

メモ： スモールフォームファクターコンピュータには、インタリーブのペアと考えられる 2 つのスロットが搭載されています。

A	コネクタ DIMM1 および DIMM2（白色の固定クリップ）に取り付けられた同じサイズのメモリモジュールのペア
B	コネクタ DIMM3 および DIMM4（黒色の固定クリップ）に取り付けられた同じサイズのメモリモジュールのペア

4 GB 構成のメモリアドレス指定

スモールデスクトップ、デスクトップ、スモールミニタワー、およびミニタワーコンピュータは、1 GB の DIMM を 4 つ使用する場合、最大 4 GB のメモリをサポートします。Microsoft® Windows® 2000 および Windows XP などの現在のオペレーティングシステムは、アドレススペースが最大の 4 GB の場合に利用できます。ただし、オペレーティングシステムが使用できるメモリの容量は 4 GB より多少少なくなります。コンピュータ内の特定のコンポーネントは、4 GB レンジ内にアドレススペースを必要とします。これらのコンポーネント用に予約されたアドレススペースは、コンピュータメモリによっては使用されません。

以下のコンポーネントはメモリアドレススペースを必要とします。

- システム ROM
- APIC
- 内蔵 PCI デバイス（ネットワークコネクタおよび SCSI コントローラなど）
- PCI カード

システムの起動時に、BIOS はアドレススペースを必要とするコンポーネントを認識します。BIOS は予約された必要なアドレススペースの容量を動的に計算します。そして BIOS は、4 GB から予約済みアドレススペースを減算し、利用可能なスペースの容量を確定します。

- 取り付けられたコンピュータメモリの総量が、利用可能なアドレススペースより少ない場合、取り付けられたすべてのコンピュータメモリは、オペレーティングシステムによって使用されます。
- 取り付けられたコンピュータメモリの総量が、利用可能なアドレススペースと同じか、それより多い場合、取り付けられたコンピュータメモリの小さな一部分は、オペレーティングシステムが使用します。

メモリの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリを取り外した場合、新しく装着するモジュールをデルからお買い上げになったとしても、元のメモリを新しいメモリとは別に保管してください。できるだけ、新しいメモリモジュールと元のメモリモジュールをペアにしないでください。 元のメモリモジュールと新しいものをペアにすると、コンピュータが正しく起動しないことがあります。元のメモリモジュールは、必ずコネクタ DIMM1 と DIMM2、または DIMM3 と DIMM4 にペアで装着してください。

注意： デスクトップコンピュータの DIMM2 および DIMM4 からメモリモジュールを取り外す際、オプティカルドライブがある場合はこれを取り外す必要があります（「ドライブ」の項を参照）。外さないと、メモリモジュールおよび DIMM ソケットに損傷を与える場合があります。

メモ： デルからご購入されたメモリは、お使いのコンピュータで保証の対象になります。

メモ： DIMM 2 および DIMM 4 の取り外しまたは取り付けを行う場合、デスクトップシステムでは CD/DVD ドライブを取り外す必要があります。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを、注意して押し開きます。

1	メモリモジュール
2	固定クリップ（2）

3. メモリモジュールを取り外します。

増設メモリの交換および追加

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意：コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ：デルからご購入されたメモリは、お使いのコンピュータで保証の対象になります。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。

1	プロセッサに最も近いメモリコネクタ
2	固定クリップ（2）
3	コネクタ

3. モジュールの底面の切り込みを、コネクタ内のクロスバーに合わせます。

1	切り抜き（2）
2	メモリモジュール

3	切り込み
4	クロスバー

注意： メモリモジュールの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力をかけてコネクタにまっすぐ差し込むようにしてください。

4. カチッと所定の位置に収まるまで、モジュールをコネクタに差し込みます。

   モジュールが適切に挿入されると、固定クリップはモジュール両端の切り抜きにカチッと収まります。

5. コンピュータカバーを閉じます。
6. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

   カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

   ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

8. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

9. 新しいメモリ容量が既存の設定情報と一致しないことをコンピュータが検出して、次のメッセージを表示します。

   The amount of system memory has changed.（システムメモリの容量が変わりました。）
   Strike the F1 key to continue, F2 to run the setup utility（続けるには F1 キーを、セットアップユーティリティを起動するには F2 キーを押してください。）

10. <F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、**System Memory** の値をチェックします。

    コンピュータは新しく取り付けたメモリの容量を認識して、**System Memory** の値を変更します。メモリの新しい値を確認します。値が正しければ、手順 12 へ進みます。

11. メモリの合計が正しくない場合、コンピュータとデバイスの電源を切ってコンセントから外します。コンピュータカバーを開き、取り付けたメモリモジュールがソケットに正しく装着されているか確認します。次に、手順 5、6、および 7 を繰り返します。
12. **System Memory** の総メモリ容量が正しい場合は、<Esc> を押してセットアップユーティリティを終了します。
13. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、メモリモジュールが正しく動作しているか確認します。

目次に戻る

目次に戻る

ミニタワーコンピュータについて

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

正面図

1	CD/DVD ドライブ	CD または DVD をドライブに入れます。
2	フロッピードライブ	フロッピーディスクをドライブに入れます。
3	USB 2.0 コネクタ(2)	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します(USB デバイスからの起動については、「セットアップユーティリティ」を参照してください)。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
4	LAN インジケータライト	LAN(ネットワーク)接続が確立されていることを示します。
5	診断ライト	診断ライトは、Diagnostic(診断)コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細に関しては、「診断ライト」を参照してください。
6	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意**: データの損失を防ぐため、6 秒以上電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。 **注意**: お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
7	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 l 消灯 — コンピュータは電源が切れた状態です(S4、S5、または機械的オフ)。 l 緑色の点灯 — コンピュータは通常の動作状態です。 l 緑色の点滅 — コンピュータは省電力状態です(S1 または S3)。 l 黄色の点滅または点灯 —「電源の問題」を参照してください。

		省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスに設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止状態および省電力状態からの復帰の詳細に関しては、「電力の管理」を参照してください。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「診断ライト」を参照してください。
8	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブがアクセスされているときに、このライトが点滅します。
9	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます。
10	マイクコネクタ	マイクのコネクタを使ってマイクを取り付けます。

背面図

1	カバーリリースラッチ	このラッチを使ってコンピュータカバーを開くことができます。
2	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
3	電圧切り替えスイッチ（すべてのコンピュータに搭載されているわけではありません）	お使いのコンピュータには、電圧自動感知セレクタまたは手動の電圧切り替えスイッチのどちらかが装備されています。電圧自動感知セレクタの付いたコンピュータには、背面パネルに電圧切り替えスイッチは装備されておらず、適切な電圧を自動的に検出します。 手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、ご使用地域の AC 電源に最も近い値に電圧切り替えスイッチが設定されていることを確認します。 **注意：** 日本で使用できる AC 電源は 100 V ですが、電圧切り替えスイッチを 115 V に設定してください。 また、モニターやコンピュータに取り付けられているデバイスもご使用地域の AC 電源で動作するように設定してください。
4	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
5	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスを対応するコネクタに差し込みます。
6	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。

1	パラレル コネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ：** 同じアドレスに設定されたパラレルコネクタを持つカードをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細に関しては、「セットアップオプション」を参照してください。
2	リンク保全 ライト	• 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 黄色 — 1 Gbps（または 1000 Mbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワークまたはブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ：** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用してネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
4	ネットワーク動作 ライト	コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している際に黄色のライトが点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン 出力 コネクタ	緑色のライン出力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン 入力 コネクタ	青色のライン入力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR などの録音あるいは再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	マイク コネクタ	ピンク色のマイクコネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、音声または音楽入力用のパソコンマイクをサウンドあるいはテレフォニープログラムに接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、マイクコネクタはカードにあります。
8	USB 2.0 コネクタ （6）	プリンタやキーボードなど、通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。
9	ビデオ コネクタ	VGA 互換モニターのケーブルを青色のコネクタに差し込みます。 **メモ：** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。お使いのモニターをグラフィックスカードのコネクタに接続します。キャップは取り外さないでください。 **メモ：** デュアルモニターをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
10	シリアル コネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細に関しては、「セットアップオプション」を参照してください。

コンピュータ内部

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電を防ぐため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータカバーを開く際は、誤ってシステム基板からケーブルが外れないように注意してください。

1	CD/DVD ドライブ	5	システム基板
2	フロッピードライブ	6	ヒートシンクエアフローカバーアセンブリ
3	電源装置	7	ハードドライブ
4	シャーシイントルージョンスイッチ		

システム基板のコンポーネント

1	ファンコネクタ(FAN)	12	パスワードジャンパ(PSWD)
2	プロセッサコネクタ(CPU)	13	PCI Express x16 コネクタ(PEG)
3	電源コネクタ(12VPOWER)	14	PCI Express x1 コネクタ(PCIE1)
4	メモリモジュールコネクタ(DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4)	15	PCI コネクタ(PCI1)
5	シリアル ATA ドライブ 0 および 2 コネクタ (SATA0、SATA2)	16	PCI コネクタ(PCI2)

6	前面パネルコネクタ（FRONTPANEL）	17	シリアルコネクタ（SER_PS2）
7	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ（CD_IN）	18	ディスケットドライブコネクタ（FLOPPY）
8	電源コネクタ（POWER）	19	バッテリーソケット（BATTERY）
9	CD/DVD ドライブコネクタ（IDE）	20	内蔵スピーカー（SPEAKER）
10	RTC リセットジャンパ（RTCRST）	21	外付けスピーカーコネクタ（EXT_SPKR）
11	イントルージョンスイッチコネクタ（INTRUDER）		

目次に戻る

目次に戻る

PCI カード、PCI Express カード、およびシリアルポートアダプタ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

- PCI カード
- PCI Express カード
- シリアルポートアダプタ

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意 : コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

お使いの Dell™ コンピュータはシリアルポートアダプタをサポートしており、PCI カードおよび PCI Express カード用に以下のコネクタを備えています。

- PCI カードスロットが 2 つ
- PCI Express x16 カードスロットが 1 つ
- PCI Express x1 カードスロットが 1 つ

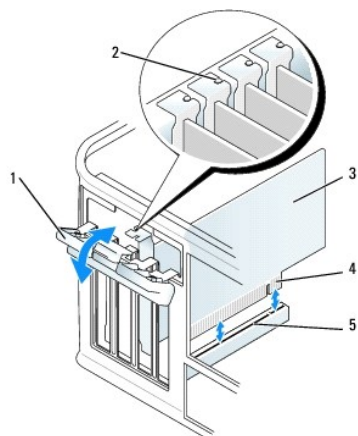
メモ : お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

PCI カード

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意 : コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

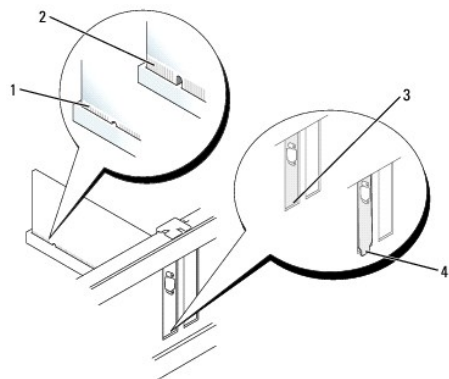
PCI カードの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。
3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外すとカードスロットに開口部ができます。次に手順 5 に進みます。
4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。
5. 新しいカードを取り付ける準備をします。

1	カード保持ラッチ	4	カードエッジコネクタ
2	位置合わせガイド	5	カードコネクタ
3	カード		

6. カードの設定、内部の接続、またはコンピュータに合わせたカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告： ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

7. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

メモ： カードがフルレングスの場合、カードをシステム基板のコネクタの方へ下げながら、カードの端をカードガイドブラケットに差し込みます。カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	完全に装着されたカード
2	完全に装着されていないカード
3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット

8. 保持ラッチを下げる前に、以下のことを確認します。

- すべてのカードとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーと平らに揃っている。
- カードの上部の切り込みまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている。

9. 保持ラッチを所定の位置に閉じ、カードをコンピュータに固定します。

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

10. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

メモ： カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
12. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
13. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。
3. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
4. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

   フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. カード保持ラッチを所定の位置に押し込んで閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続しなおして、電源を入れます。
8. カードのドライバをアンインストールします。
9. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
10. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI Express カード

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

お使いのコンピュータは 1 つの PCI Express x16 カードおよび 1 つの PCI Express x1 カードをサポートします。

1	PCI Express x16 カード	3	PCI Express x1 カードスロット
2	PCI Express x1 カード	4	PCI Express x16 カードスロット

PCI Express カードを取り付けるか交換する場合、次の手順を実行します。カードを取り外したままにする場合、「PCI Express カードの取り外し」を参照してください。

既存のカードを新しいカードと交換する場合は、古いカードのドライバをアンインストールします。

PCI カードを取り付けるか交換する場合、「PCI カードの取り付け」を参照してください。

PCI Express カードの取り付け

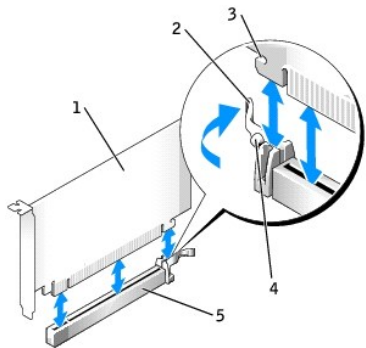
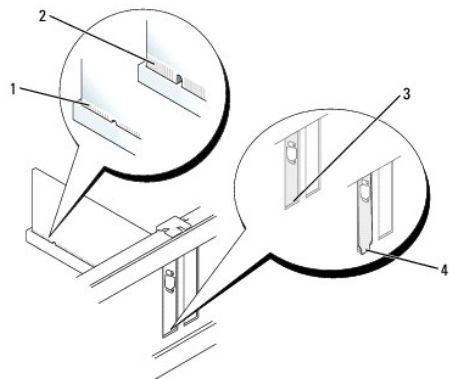
1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。
3. カード保持装置を取り外します。
   a. カード保持装置の上に親指を置き、保持装置の底面を他の指で押さえてつかみます。
   b. 空いているほうの手で保持装置の側面を軽く押し、所定の位置に保持しているタブスロットから離します。
   c. 保持装置を上に動かし、2 つのタブスロットから離します。
4. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外すと、カードスロットに開口部ができます。次に手順 6 に進みます。
5. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。

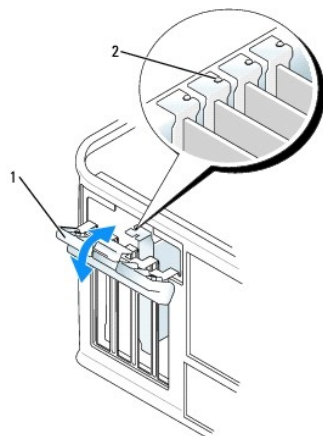
   必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。カードにカード保持バーが付いている場合は、このバーを外します。固定タブを軽く引き、カードの上端の角を両手でつかみ、コネクタから取り外します。

6. 新しいカードを取り付ける準備をします。

   カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

7. カードを x16 カードコネクタに取り付ける場合、固定スロットが固定タブに合うようにカードを合わせ、固定タブを軽く引きます。
8. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	PCI Express x16 カード
2	レバー
3	固定スロット（すべてのカードにあるわけではありません）
4	固定タブ
5	PCI Express x16 カードコネクタ

1	完全に装着されたカード
2	完全に装着されていないカード
3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット

9. カード保持装置を取り付ける前に以下のことを確認します。
   - すべてのカードとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーと平らに揃っている。
   - カードの上部の切り込みまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている
10. カード保持装置を所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

1	カード保持ラッチ
2	位置合わせガイド

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

12. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
13. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
15. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
16. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express カードの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを動かして開きます。ラッチは繋留しているため、開いたままの状態になります。
3. カード保持装置を使って、カードを上部から所定の位置に固定します。
    a. カード保持装置の上に親指を置き、保持装置の底面を他の指で押さえてつかみます。
    b. 空いているほうの手で保持装置の側面を軽く押し、所定の位置に保持しているタブスロットから離します。
    c. 保持装置を上に動かし、2 つのタブスロットから離します。
    d. 保持装置を作業領域内に置いておきます。
4. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

5. カード保持装置を元のようにタブに差し入れ、下に動かして所定の位置に押し入れます。保持アームを下ろして所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

6. カード保持ラッチを所定の位置に押し込んで閉じ、カードを固定します。
7. コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続しなおして、電源を入れます。

シリアルポートアダプタ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ： お使いのミニタワーコンピュータのシリアルポートアダプタにも 2 つの PS/2 コネクタが組み込まれています。

シリアルポートアダプタの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。

3. フィラーブラケットを取り外します（取り付けられている場合）。

メモ： アダプタの設定、内部の接続、またはコンピュータに合わせたカスタマイズの情報については、シリアルポートアダプタに付属のマニュアルを参照してください。

4. シリアルポートアダプタブラケットをコネクタにはめて、しっかりと下に押します。アダプタがスロットにしっかりと装着されているか確認します。
5. 保持レバーを注意深く下に押して、アダプタブラケットを所定の位置に固定します。

注意： ケーブルは、取り付けられているカードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

6. アダプタケーブルをシステム基板のシリアルポートアダプタコネクタ（SER2）に接続します。
7. 必要なすべてのケーブルをシリアルポートアダプタに接続します。

メモ： ケーブル接続については、シリアルポートアダプタに付属のマニュアルを参照してください。

8. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

9. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

シリアルポートアダプタの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カード保持レバーのリリースタブを注意深く押します。
3. アダプタに接続されているケーブルがあれば外します。
4. シリアルポートアダプタブラケットの上端の角をつかみ、コネクタから取り外します。
5. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

6. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

目次に戻る

コンピュータカバーの開け方

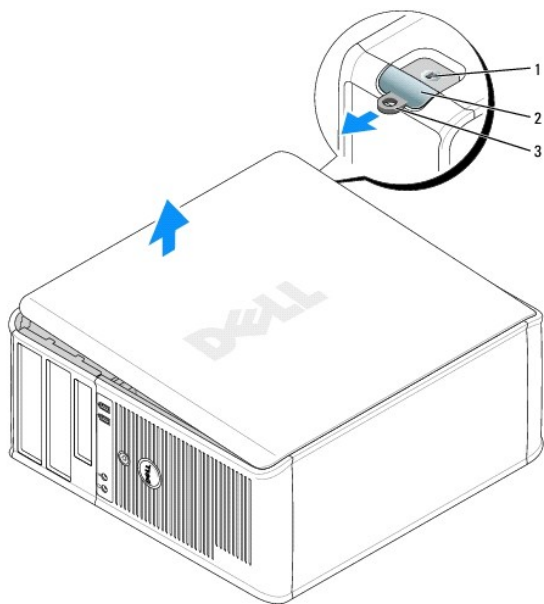
Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。

注意： カバーを開いておくために十分なスペース（机の上に 30 cm 以上）があることを確認します。

2. 図に示されているように、側面を下にしてコンピュータを置きます。
3. 図に示されているカバーリリースラッチを確認します。次に、カバーを持ち上げながらリリースラッチを後方にスライドさせます。
4. コンピュータカバーの側面を持ち、底面のヒンジをてこの支点として使ってカバーを上に動かします。
5. カバーをヒンジタブから取り外し、柔らかく傷が付きにくい場所に置いておきます。

1	セキュリティケーブルスロット
2	カバーリリースラッチ
3	パドロックリング

目次に戻る

目次に戻る

ドライブ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- シリアル ATA ハードドライブを 2 台
- フロッピードライブまたはオプションの Zip ドライブ を 2 台
- CD ドライブまたは DVD ドライブ を 2 台

メモ: このコンピュータのドライブベイおよび IDE コントローラの数には限りがあるので、すべてのデバイスを一度に接続することはできません。

1	CD/DVD ドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

CD/DVD ドライブをシステム基板の「IDE」とラベルの付いたコネクタに接続します。シリアル ATA ハードドライブはシステム基板の「SATA0」、「SATA1」、「SATA2」、「SATA3」とラベルの付いたコネクタに接続します。

IDE ドライブのアドレス指定

1 本の IDE インタフェースケーブルに 2 台の IDE デバイスを接続し、ケーブルセレクト設定を行う場合、インタフェースケーブル上の末端のコネクタに接続されたデバイスが、マスターまたは起動デバイス(ドライブ 0)となり、インタフェースケーブル上の中間のコネクタに接続されたデバイスがスレーブデバイス(ドライブ 1)となります。デバイスのケーブルセレクト設定の方法については、アップグレードキットに付属しているドライブのマニュアルを参照してください。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

IDE ドライブコネクタ	シリアル ATA コネクタ

1	IDE ケーブルの色帯
2	インタフェースケーブルコネクタ
3	インタフェースコネクタ

大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤ（IDE ケーブルの片側に色帯が付いています ― シリアル ATA ケーブルには色帯は付いていません）が、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

注意： IDE インタフェースケーブルを接続する際は、色帯をコネクタの 1 番ピンから離れた位置に置かないでください。インタフェースケーブルを裏返しにすると、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

IDE ドライブデータケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

シリアル ATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持ち、ケーブルを外します。

IDE コネクタと同じように、シリアル ATA インタフェースは、正しく接続できるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。

ハードドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意：ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

メモ： 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

ハードドライブの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 電源ケーブルおよびハードドライブケーブルをドライブから外します。ハードドライブケーブルをシステム基板から外します。

1	ハードドライブケーブル
2	システム基板上のハードドライブケーブル
3	電源ケーブル

3. ドライブ両端の青色のタブを押し、ドライブを上にスライドさせてコンピュータから出します。

1	ハードドライブ
2	タブ（2）

ハードドライブの取り付け

1. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

メモ： 交換用のハードドライブにプラスチック製のガイドブラケットが取り付けられていない場合は、古いドライブからブラケットをカチッと取り外します。このブラケットを新しいドライブにカチッとはめ込みます。

1	ドライブ
2	ドライブブラケット

1	ドライブ
2	固定クリップ（4）
3	ドライブブラケット

3. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	ハードドライブ

4. 電源ケーブルおよびハードドライブケーブルをドライブに接続します。ハードドライブケーブルをシステム基板上のコネクタに接続します。
5. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。
6. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータとデバイスをコンセントに接続します。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

8. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。
9. コンピュータの電源を入れます。
10. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. セットアップユーティリティを起動して、適切な **Primary Drive** オプション（**0** または **1**）をアップデートします。
13. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
14. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

15. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。
16. プライマリドライブを取り付けた場合、ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

2 台目のハードドライブの追加

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意：ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

メモ： 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

1. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
2. 「はじめに」の手順を実行します。
3. ハードドライブベイの内側からプラスチック製のガイドブラケットを引き上げて取り外し、ベイから取り出します。
4. ブラケットをハードドライブにはめ込みます。

1	ドライブ
2	固定クリップ（4）
3	ドライブブラケット

5. 1 台目のハードドライブを上段のベイから下段のベイへ移動するには、次の手順を実行します。
   a. 電源ケーブルとハードドライブケーブルを 1 台目のハードドライブの背面から取り外します。
   b. ドライブ両端の青色のタブを押し、1 台目のハードドライブを上にスライドさて、上段のベイから取り出します。
   c. 1 台目のハードドライブが所定の位置にしっかりと収まり、カチッという感触が持てるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
6. 新しいハードドライブを慎重にスライドさせて上段のベイに入れます。ドライブがしっかりと取り付けられ、カチッという感触が持てるまで押します。

7. 電源ケーブルをドライブに接続します。

1	新しいハードドライブ

8. 手順 5 で取り外したシリアル ATA コネクタを、1 台目のハードドライブに取り付けます。
9. システム基板の未使用のシリアル ATA コネクタの位置を確認し、ドライブケーブルをこのコネクタと 2 台目のハードドライブに接続します。

1	ハードドライブケーブルコネクタ
2	システム基板上のハードドライブケーブルコネクタ
3	電源ケーブル

10. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
12. ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属しているマニュアルを参照してください。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

13. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

ドライブベイカバー

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

フロッピードライブまたは CD/DVD ドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外します。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. ドライブリリースタブを押しながらドライブパネルを取り外します。

1	ドライブパネル
2	リリースタブ

3. 使用するドライブベイの前面にあるドライブベイカバーを確認します。
4. ドライブベイカバーのリリースタブを軽く押して、ドライブベイパネルから取り外します。

1	CD/DVD ドライブベイカバー
2	フロッピードライブベイカバー
3	肩付きネジホルダー

5. ドライブパネルをコンピュータの前面に元のとおりに取り付けます。

ドライブパネルは一方向にしか取り付けられません。

1	ドライブパネル

フロッピードライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

フロッピードライブの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. ドライブリリースラッチを下方向にスライドさせてパネルを開き、ドライブパネルを取り外します。次に、3 つのヒンジからドライブパネルを取り外します。
3. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。
4. ドライブリリースラッチを下方向にスライドさせてそのまま保ち、フロッピードライブを取り外します。次に、ドライブをコンピュータから引き出します。

1	フロッピードライブ
2	リリースラッチ

フロッピードライブの取り付け

1. フロッピードライブを交換する場合、肩付きネジを古いドライブから取り外し、このネジを交換用ドライブに取り付けます。
2. 新しいフロッピードライブを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外し、肩付きネジをドライブベイカバーから取り外して、このネジを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	肩付きネジ（4）

3. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	フロッピードライブ
2	肩付きネジ（4）
3	肩付きネジスロット

4. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ(FLOPPY)

5. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルをそのネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

6. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

7. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ(有効な場合)は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.(警告 ! カバーが取り外されました。)

8. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

9. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします。
10. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

CD / DVD ドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

CD / DVD ドライブの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブの背面から取り外します。
3. ドライブリリースラッチを下方向にスライドさせてそのまま保ち、CD/DVD ドライブを取り外します。次に、ドライブをコンピュータから引き出します。

1	CD/DVD ドライブ
2	リリースタブ

CD / DVD ドライブの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 既存の CD/DVD ドライブを新しいドライブと交換する場合は、肩付きネジを古いドライブから取り外して、新しいドライブに取り付けます。
3. 新しい CD/DVD ドライブを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外し、肩付きネジをドライブベイカバーから取り外して、このネジを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	肩付きネジ（3）

4. ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。IDE ドライブを取り付ける場合、ドライブを cable select に設定にします。
5. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	CD/DVD ドライブ
2	肩付きネジ（3）
3	肩付きネジスロット

6. 電源ケーブルおよび CD/DVD ドライブケーブルを、ドライブおよびシステム基板に接続します。

1	電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブケーブル
3	CD/DVD ドライブコネクタ（IDE）

7. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
8. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルをそのネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

10. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）`

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. **Drives** の該当する **Drive** オプション（**0** または **1**）を設定して、設定情報を更新します。詳細に関しては、「セットアップユーティリティ」を参照してください。
13. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

目次に戻る

ドライブ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- シリアル ATA ハードドライブを 2 台
- フロッピードライブまたはオプションの Zip ドライブ を 2 台
- CD ドライブまたは DVD ドライブ を 2 台

メモ: このコンピュータのドライブベイおよび IDE コントローラの数には限りがあるので、すべてのデバイスを一度に接続することはできません。

1	CD/DVD ドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

CD/DVD ドライブをシステム基板の「IDE」とラベルの付いたコネクタに接続します。シリアル ATA ハードドライブはシステム基板の「SATA0」、「SATA1」、「SATA2」、「SATA3」とラベルの付いたコネクタに接続します。

IDE ドライブのアドレス指定

1 本の IDE インタフェースケーブルに 2 台の IDE デバイスを接続し、ケーブルセレクト設定を行う場合、インタフェースケーブル上の末端のコネクタに接続されたデバイスが、マスターまたは起動デバイス（ドライブ 0）となり、インタフェースケーブル上の中間のコネクタに接続されたデバイスがスレーブデバイス（ドライブ 1）となります。デバイスのケーブルセレクト設定の方法については、アップグレードキットに付属しているドライブのマニュアルを参照してください。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

IDE ドライブコネクタ	シリアル ATA コネクタ

1	IDE ケーブルの色帯
2	インタフェースケーブルコネクタ
3	インタフェースコネクタ

大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤ（IDE ケーブルの片側に色帯が付いています ― シリアル ATA ケーブルには色帯は付いていません）が、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

注意： IDE インタフェースケーブルを接続する際は、色帯をコネクタの 1 番ピンから離れた位置に置かないでください。インタフェースケーブルを裏返しにすると、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

IDE ドライブデータケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

シリアル ATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持ち、ケーブルを外します。

IDE コネクタと同じように、シリアル ATA インタフェースは、正しく接続できるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。

ハードドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意：ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

メモ：残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

ハードドライブの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 電源ケーブルおよびハードドライブケーブルをドライブから外します。ハードドライブケーブルをシステム基板から外します。

1	ハードドライブケーブル
2	システム基板上のハードドライブケーブル
3	電源ケーブル

3. ドライブ両端の青色のタブを押し、ドライブを上にスライドさせてコンピュータから出します。

1	ハードドライブ
2	タブ（2）

ハードドライブの取り付け

1. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

メモ： 交換用のハードドライブにプラスチック製のガイドブラケットが取り付けられていない場合は、古いドライブからブラケットをカチッと取り外します。このブラケットを新しいドライブにカチッとはめ込みます。

1	ドライブ
2	ドライブブラケット

1	ドライブ
2	固定クリップ（4）
3	ドライブブラケット

3. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	ハードドライブ

4. 電源ケーブルおよびハードドライブケーブルをドライブに接続します。ハードドライブケーブルをシステム基板上のコネクタに接続します。
5. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。
6. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータとデバイスをコンセントに接続します。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

8. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。
9. コンピュータの電源を入れます。
10. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. セットアップユーティリティを起動して、適切な **Primary Drive** オプション（**0** または **1**）をアップデートします。
13. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
14. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

15. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。
16. プライマリドライブを取り付けた場合、ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

2 台目のハードドライブの追加

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意：ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

メモ： 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

1. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
2. 「はじめに」の手順を実行します。
3. ハードドライブベイの内側からプラスチック製のガイドブラケットを引き上げて取り外し、ベイから取り出します。
4. ブラケットをハードドライブにはめ込みます。

1	ドライブ
2	固定クリップ（4）
3	ドライブブラケット

5. 1 台目のハードドライブを上段のベイから下段のベイへ移動するには、次の手順を実行します。
   a. 電源ケーブルとハードドライブケーブルを 1 台目のハードドライブの背面から取り外します。
   b. ドライブ両端の青色のタブを押し、1 台目のハードドライブを上にスライドさて、上段のベイから取り出します。
   c. 1 台目のハードドライブが所定の位置にしっかりと収まり、カチッという感触が持てるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
6. 新しいハードドライブを慎重にスライドさせて上段のベイに入れます。ドライブがしっかりと取り付けられ、カチッという感触が持てるまで押します。

7. 電源ケーブルをドライブに接続します。

1	新しいハードドライブ

8. 手順 5 で取り外したシリアル ATA コネクタを、1 台目のハードドライブに取り付けます。
9. システム基板の未使用のシリアル ATA コネクタの位置を確認し、ドライブケーブルをこのコネクタと 2 台目のハードドライブに接続します。

1	ハードドライブケーブルコネクタ
2	システム基板上のハードドライブケーブルコネクタ
3	電源ケーブル

10. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
12. ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属しているマニュアルを参照してください。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

13. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

ドライブベイカバー

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

フロッピードライブまたは CD/DVD ドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外します。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. ドライブリリースタブを押しながらドライブパネルを取り外します。

1	ドライブパネル
2	リリースタブ

3. 使用するドライブベイの前面にあるドライブベイカバーを確認します。
4. ドライブベイカバーのリリースタブを軽く押して、ドライブベイパネルから取り外します。

1	CD/DVD ドライブベイカバー
2	フロッピードライブベイカバー
3	肩付きネジホルダー

5. ドライブパネルをコンピュータの前面に元のとおりに取り付けます。

ドライブパネルは一方向にしか取り付けられません。

1	ドライブパネル

フロッピードライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

フロッピードライブの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. ドライブリリースラッチを下方向にスライドさせてパネルを開き、ドライブパネルを取り外します。次に、3 つのヒンジからドライブパネルを取り外します。
3. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。
4. ドライブリリースラッチを下方向にスライドさせてそのまま保ち、フロッピードライブを取り外します。次に、ドライブをコンピュータから引き出します。

1	フロッピードライブ
2	リリースラッチ

フロッピードライブの取り付け

1. フロッピードライブを交換する場合、肩付きネジを古いドライブから取り外し、このネジを交換用ドライブに取り付けます。
2. 新しいフロッピードライブを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外し、肩付きネジをドライブベイカバーから取り外して、このネジを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	肩付きネジ（4）

3. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	フロッピードライブ
2	肩付きネジ（4）
3	肩付きネジスロット

4. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ（FLOPPY）

5. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルをそのネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

6. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

7. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

8. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

9. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします。
10. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

CD/DVD ドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

CD/DVD ドライブの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブの背面から取り外します。
3. ドライブリリースラッチを下方向にスライドさせてそのまま保ち、CD/DVD ドライブを取り外します。次に、ドライブをコンピュータから引き出します。

1	CD/DVD ドライブ
2	リリースタブ

CD / DVD ドライブの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 既存の CD/DVD ドライブを新しいドライブと交換する場合は、肩付きネジを古いドライブから取り外して、新しいドライブに取り付けます。
3. 新しい CD/DVD ドライブを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外し、肩付きネジをドライブベイカバーから取り外して、このネジを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	肩付きネジ(3)

4. ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。IDE ドライブを取り付ける場合、ドライブを cable select に設定にします。
5. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	CD/DVD ドライブ
2	肩付きネジ(3)
3	肩付きネジスロット

6. 電源ケーブルおよび CD/DVD ドライブケーブルを、ドライブおよびシステム基板に接続します。

1	電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブケーブル
3	CD/DVD ドライブコネクタ（IDE）

7. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
8. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルをそのネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

10. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. **Drives** の該当する **Drive** オプション（**0** または **1**）を設定して、設定情報を更新します。詳細に関しては、「セットアップユーティリティ」を参照してください。
13. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

目次に戻る

目次に戻る

プロセッサ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

- プロセッサの取り外し
- プロセッサの取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

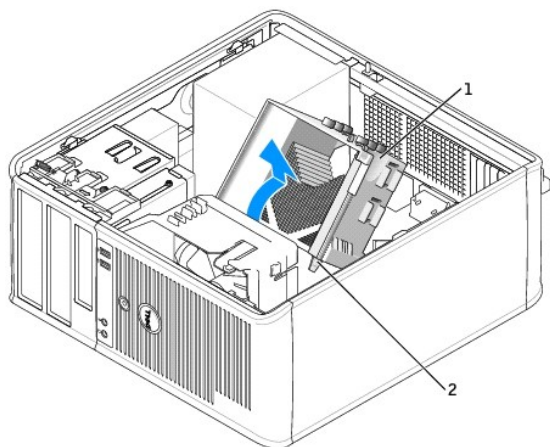
プロセッサの取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

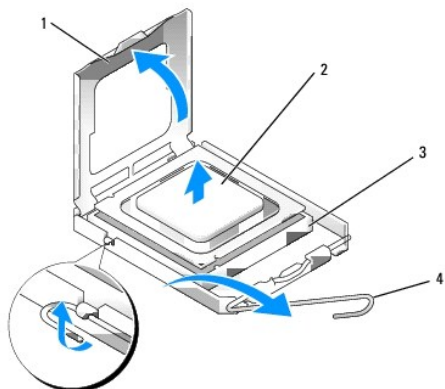
注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. ヒートシンクエアフローカバーアセンブリの各サイドにある拘束ネジを緩めます。

警告：プラスティック製のシールドがあっても、ヒートシンクアセンブリは正常な動作中に過熱する場合があります。十分な時間を置いて温度が下がったのを確認してから、ヒートシンクアセンブリに触るようにします。

3. ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させ、コンピュータから取り外します。

1	ヒートシンクとファンエアフローカバーアセンブリ
2	拘束ネジハウジング（2）

注意： デルのプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、元のヒートシンクは廃棄してください。デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、新しいプロセッサを取り付ける際は、元のヒートシンクを再利用してください。

4. ソケット上にあるセンターカバーラッチの下からリリースレバーをスライドさせて、プロセッサカバーを開きます。次にレバーを後方に引いて、プロセッサを取り出します。

1	プロセッサカバー
2	プロセッサ
3	ソケット
4	リリースレバー

注意： プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

5. 注意深くプロセッサをソケットから取り外します。

新しいプロセッサをソケットにすぐに取り付けられるように、リリースレバーはリリース位置に広げたままにしておきます。

プロセッサの取り付け

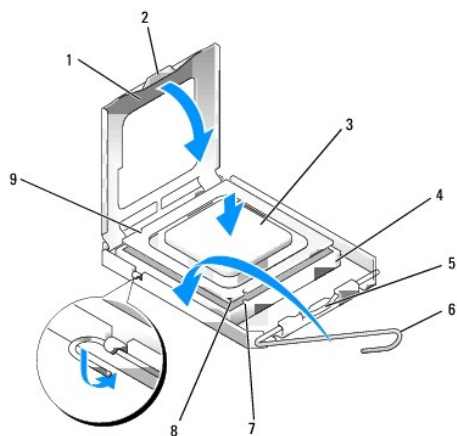
警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

注意： プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. プロセッサの底部に触らないように気をつけながら、新しいプロセッサを梱包から取り出します。

注意： コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できないような損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

3. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合は、その位置まで動かします。
4. プロセッサの前面と背面の位置合わせ用の切り込みをソケットの前面と背面の位置合わせ用の切り込みに合わせます。
5. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	プロセッサカバー	6	リリースレバー
2	タブ	7	前面位置合わせ用の切り込み
3	プロセッサ	8	ソケットおよびプロセッサ 1 番ピンの印
4	プロセッサソケット	9	背面位置合わせ用の切り込み
5	センターカバーラッチ		

注意： 損傷を防ぐため、プロセッサとソケットが正しく揃っているか確認してください。プロセッサを取り付ける際に無理に力を加えないでください。

6. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。
7. プロセッサがソケットに完全に装着されたら、プロセッサカバーを閉じます。

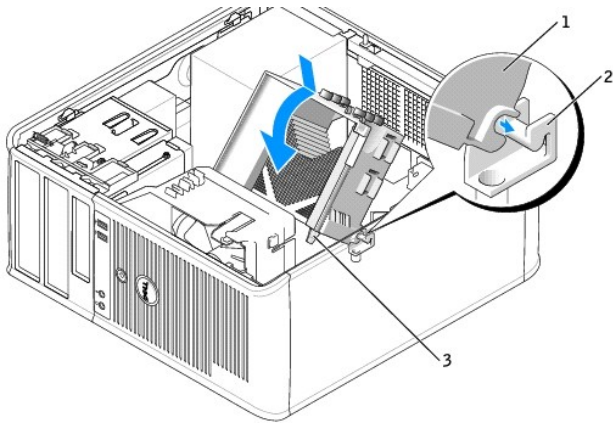
プロセッサカバーのタブがソケットのセンターカバーラッチの下にあるか確認します。

8. ソケットリリースレバーをソケットの後ろ側へ回し、カッチッと所定の位置に収めてプロセッサを固定します。

注意： デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、プロセッサを交換する際は、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

デルのプロセッサ交換キットを取り付けた場合、元のヒートシンクアセンブリとプロセッサを、交換キットが送られてきた同じパッケージを使用してデルに返却してください。

9. ヒートシンクアセンブリを取り付けるには以下の手順を行います。
   a. ヒートシンクアセンブリをヒートシンクアセンブリブラケットに元のように配置します。
   b. ヒートシンクアセンブリをコンピュータの底面方向に回転させ、2 つの拘束ネジを締めます。

注意： ヒートシンクが正しく装着され、しっかり固定されているか確認します。

1	ヒートシンクとファンエアフローカバーアセンブリ
2	ヒートシンクアセンブリブラケット
3	拘束ネジハウジング（2）

10. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

[目次に戻る]

電源装置

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

電源装置の取り外し

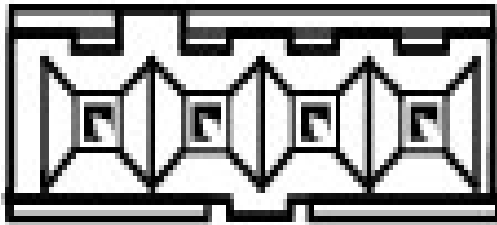
注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

スモールフォームファクターコンピュータ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 「[はじめに]」の手順を実行します。
2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

   DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータフレーム内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

3. コンピュータフレームの底面にあるリリースボタンを押します。

1	リリースボタン
2	AC 電源コネクタ

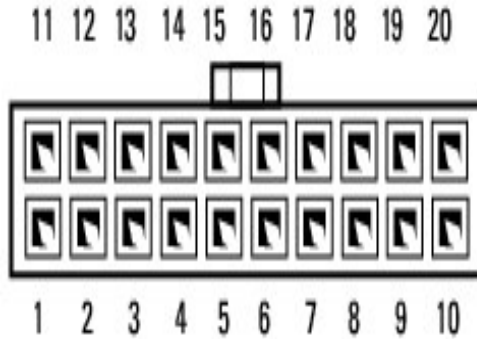
4. 電源を、コンピュータの前側へ約 2.5 cm ほどスライドさせます。
5. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。

スモールデスクトップコンピュータ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータフレーム内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

3. カードケージを取り外し、電源ケーブルをハードドライブの側面から取り外します。電源ケーブルを外すには、指で金属製のクリップを引っ張りながら、ケーブルをてこのように使用し、クリップから引き出します。
4. ハンドルを押し下げます。それにより、リリースボタンが押されます。

1	リリースボタン
2	ハンドル
3	AC 電源コネクタ

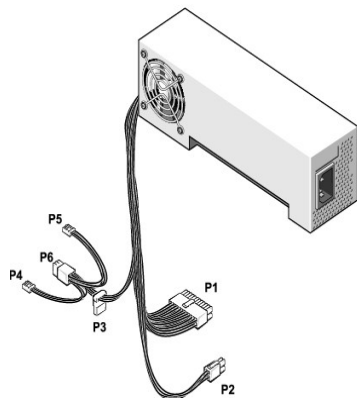
5. 電源を、コンピュータの前側へ約 2.5 cm ほどスライドさせます。
6. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。

スモールミニタワーコンピュータ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから外します。

DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータフレーム内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

3. 電源装置をコンピュータフレームの背面に取り付けている 2 本のネジを外します。
4. コンピュータフレームの底面にあるリリースボタンを押します。

5. 電源を、コンピュータの前側へ約 2.5 cm ほどスライドさせます。
6. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。

電源装置の取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 電源装置を所定の位置に戻します。
2. スモールミニタワーコンピュータの場合、電源装置をコンピュータフレームの背面に固定する 2 本のネジを付けます。
3. DC 電源ケーブルを接続します。
4. AC 電源ケーブルをコネクタに接続します。
5. スモールデスクトップコンピュータの場合、電源ケーブルをハードドライブの側面に取り付けて、カードケージを取り付けます。
6. クリップの下にケーブルを通し、ケーブルを被うようにクリップを押して閉じます。
7. コンピュータカバーを閉じます。
8. コンピュータスタンドを使用する場合、コンピュータスタンドを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

DC 電源コネクタ

スモールフォームファクター電源装置の DC コネクタのピン構成

DC 電源コネクタ P1

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色
5	COM	黒色
6	+5 VDC	赤色
7	COM	黒色
8	POK	灰色
9	+5 VFP	紫色
10	+12 VDC	黄色
11	+3.3 VDC*	橙色
12	-12 VDC	青色
13	COM	黒色
14	PS ON	緑色
15	COM	黒色
16	COM	黒色
17	COM	黒色
18	適用なし	適用なし
19	+5 VDC	赤色
20	+5 VDC	赤色
*センスコネクタ		

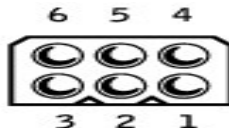
DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	COM	黒色
2	COM	黒色
3	+12 VDC	黄色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3

5 4 3 2 1 / 5 4 3 2 1	ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
	1	+3.3 VDC	橙色
	2	COM	黒色
	3	+5 VDC	赤色
	4	COM	黒色
	5	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P4 および P5

3 1 / 4 2	ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
	1	+5 VDC	赤色
	2	COM	黒色
	3	COM	黒色
	4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P6

	ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
	1		適用なし
	2	COM	黒色
	3	COM	黒色
	4	+3.3 VDC	橙色
	5	+5 VDC	赤色
	6	+12 VDC	黄色

スモールデスクトップ電源装置の DC コネクタのピン構成

メモ: お使いのコンピュータの電源装置には、「P7」コネクタがある場合とない場合があります。

DC 電源コネクタ P1

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色
5	COM	黒色
6	+5 VDC	赤色
7	COM	黒色
8	POK*	灰色
9	+5 VFP	紫色
10	+12 VDC	黄色
11	+3.3 VDC	橙色
12	-12 VDC*	青色
13	COM	黒色
14	PS ON*	緑色
15	COM	黒色
16	COM	黒色
17	COM	黒色
18	適用なし	適用なし
19	+5 VDC	赤色
20	+5 VDC	赤色
* 18 AWG ワイヤの代わりに 22 AWG ワイヤを使用		

DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	COM	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	COM	黒色
5	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3 および P4

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+12 VDC	黄色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色

DC 電源コネクタ P5

ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
1	+5 VDC	赤色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P6

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	COM	黒色
2	COM	黒色
3	+12 VDC	黄色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P7

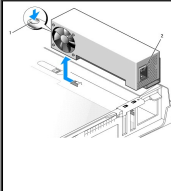
メモ: お使いのコンピュータには、「P7」コネクタがある場合とない場合があります。

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1		適用なし
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+3.3 VDC	橙色
5	+5 VDC	赤色
6	+12 VDC	黄色

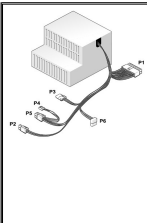
スモールミニタワー電源装置の DC コネクタのピン構成

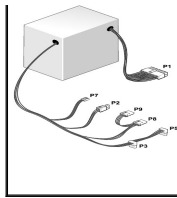
メモ: お使いのコンピュータには、「P4」コネクタがある場合とない場合があります。

DC 電源コネクタ P1

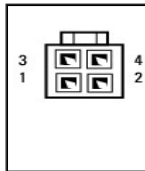
ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色

	5	COM	黒色
	6	+5 VDC	赤色
	7	COM	黒色
	8	POK	灰色
	9	+5 VFP	紫色
	10	+12 VDC	黄色
	11	+3.3 VDC*	橙色
	12	-12 VDC	青色
	13	COM	黒色
	14	PS ON	緑色
	15	COM	黒色
	16	COM	黒色
	17	COM	黒色
	18	適用なし	適用なし
	19	+5 VDC	赤色
	20	+5 VDC	赤色
	*センスコネクタ		

DC 電源コネクタ P2

	ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
	1	COM	黒色
	2	COM	黒色
	3	+12 VDC	黄色
	4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3

	ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
	1	+3.3 VDC	橙色
	2	COM	黒色
	3	+5 VDC	赤色
	4	COM	黒色
	5	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P4

メモ: お使いのコンピュータには、「P4」コネクタがある場合とない場合があります。

	ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
	1		適用なし
	2	COM	黒色
	3	COM	黒色
	4	+3.3 VDC	橙色
	5	+5 VDC	赤色
	6	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P5

	ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
	1	+3.3 VDC	橙色
	2	COM	黒色
	3	+5 VDC	赤色
	4	COM	黒色
	5	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P6、P8、および P9

	ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
	1	+12 VDC	黄色
	2	COM	黒色
	3	COM	黒色
	4	+5 VDC	赤色

DC 電源コネクタ P7

	ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
	1	+5 VDC	赤色
	2	COM	黒色
	3	COM	黒色
	4	+12 VDC	黄色

目次に戻る

目次に戻る

電源装置

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

電源装置の取り付け

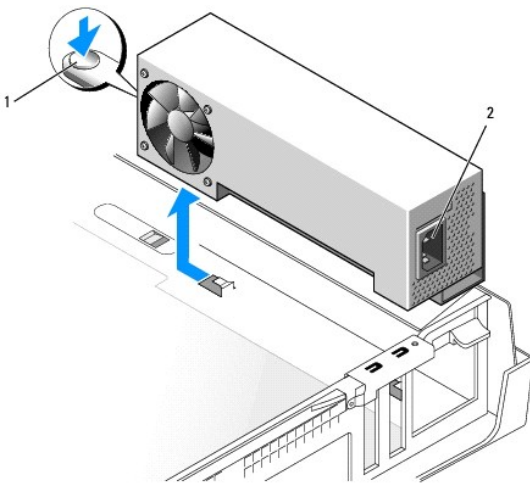
注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

スモールフォームファクターコンピュータ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータフレーム内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

3. コンピュータフレームの底面にあるリリースボタンを押します。

1	リリースボタン
2	AC 電源コネクタ

4. 電源装置を、コンピュータの前側へ約 2.5 cm ほどスライドさせます。
5. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。
6. 交換用の電源装置をスライドさせて所定の位置に入れます。
7. DC 電源ケーブルを接続します。
8. AC 電源ケーブルをコネクタに接続します。
9. コンピュータカバーを閉じます。
10. コンピュータスタンドを使用する場合、コンピュータスタンドを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

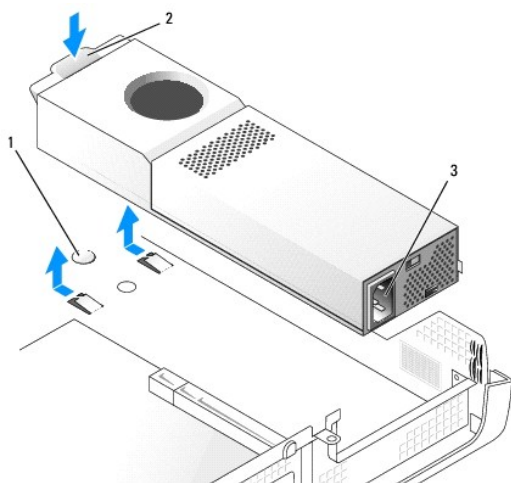
11. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

スモールデスクトップコンピュータ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータフレーム内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

3. カードケージを取り外し、電源ケーブルをハードドライブの側面から取り外します。電源ケーブルを外すには、指で金属製のクリップを引っ張りながら、ケーブルをてこのように使用し、クリップから引き出します。
4. ハンドルを押し下げます。それにより、リリースボタンが押されます。

1	リリースボタン
2	ハンドル
3	AC 電源コネクタ

5. 電源装置を、コンピュータの前側へ約 2.5 cm ほどスライドさせます。
6. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。
7. 交換用の電源装置をスライドさせて所定の位置に入れます。
8. DC 電源ケーブルを接続します。
9. カードケージを取り付けます。
10. AC 電源ケーブルをコネクタに接続します。
11. コンピュータカバーを閉じます。
12. コンピュータスタンドを使用する場合、コンピュータスタンドを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

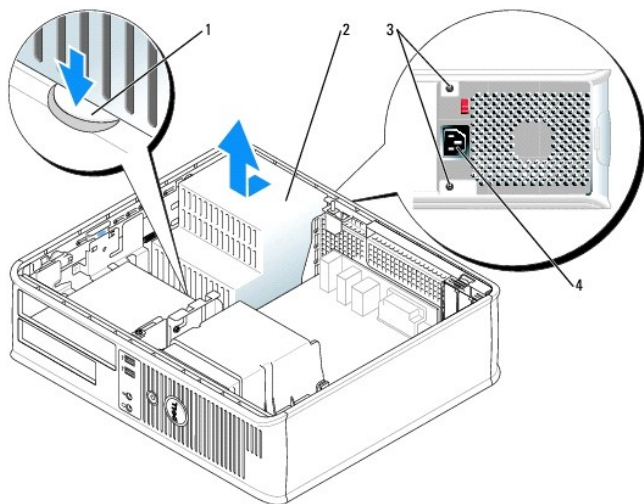
13. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

デスクトップコンピュータ

⚠ **警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』にある安全手順に従ってください。**

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータフレーム内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

3. 電源装置をコンピュータフレームの背面に取り付けている 2 本のネジを外します。
4. CD/DVD ドライブ、フロッピードライブ、およびハードドライブを取り外します。
5. コンピュータフレームの底面にあるリリースボタンを押します。

1	リリースボタン
2	電源装置
3	ネジ（2）
4	AC 電源コネクタ

6. 電源装置を、コンピュータの前側へ約 2.5 cm ほどスライドさせます。
7. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。
8. 交換用の電源装置をスライドさせて所定の位置に入れます。
9. 電源装置をコンピュータフレームの背面に固定するネジを取り付けます。
10. DC 電源ケーブルを接続します。
11. ハードドライブ、フロッピードライブ、および CD/DVD ドライブを取り外します。
12. AC 電源ケーブルをコネクタに接続します。
13. コンピュータカバーを閉じます。

 注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

14. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

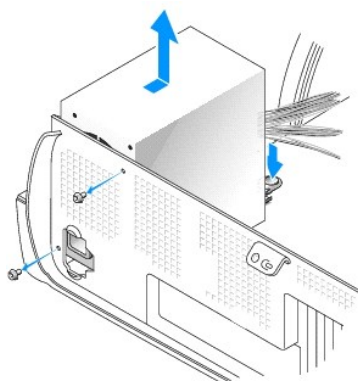
スモールミニタワーコンピュータ

⚠ **警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

1. 「はじめに」の手順を実行します。

2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから外します。

DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータフレーム内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

3. 電源装置をコンピュータフレームの背面に取り付けている 2 本のネジを外します。
4. コンピュータフレームの底面にあるリリースボタンを押します。

5. 電源装置を、コンピュータの前側へ約 2.5 cm ほどスライドさせます。
6. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。
7. 交換用の電源装置をスライドさせて所定の位置に入れます。
8. 電源装置をコンピュータフレームの背面に固定するネジを取り付けます。
9. DC 電源ケーブルを接続します。
10. AC 電源ケーブルをコネクタに接続します。
11. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

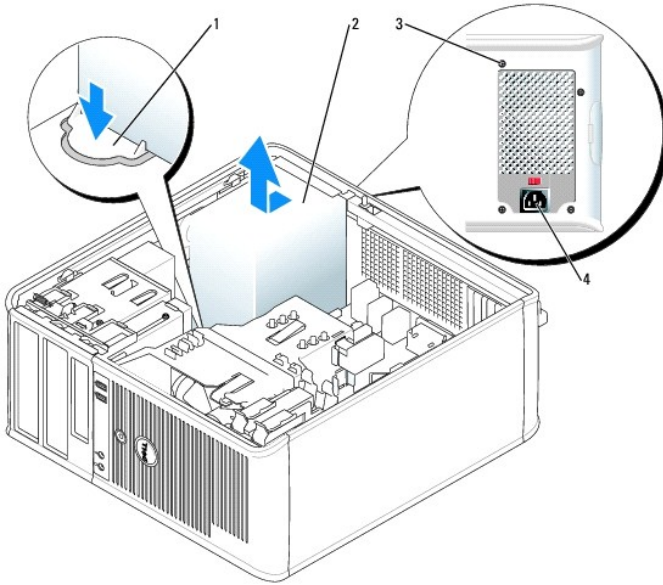
12. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ミニタワーコンピュータ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータフレーム内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

3. 電源装置をコンピュータフレームの背面に取り付けている 4 本のネジを外します。
4. コンピュータフレームの底面にあるリリースボタンを押します。

1	リリースボタン
2	電源装置
3	ネジ（4）
4	AC 電源コネクタ

5. 電源を装置、コンピュータの前側へ約 2.5 cm ほどスライドさせます。
6. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。
7. 交換用の電源装置をスライドさせて所定の位置に入れます。
8. 電源装置をコンピュータフレームの背面に固定するネジを取り付けます。
9. DC 電源ケーブルを接続します。
10. AC 電源ケーブルをコネクタに接続します。
11. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

12. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

DC 電源コネクタ

スモールフォームファクター電源装置の DC コネクタのピン構成

DC 電源コネクタ P1

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色
5	COM	黒色
6	+5 VDC	赤色
7	COM	黒色
8	POK	灰色
9	+5 VFP	紫色
10	+12 VDC	黄色
11	+3.3 VDC*	橙色
12	-12 VDC	青色
13	COM	黒色
14	PS ON	緑色
15	COM	黒色
16	COM	黒色
17	COM	黒色
18	適用なし	適用なし
19	+5 VDC	赤色
20	+5 VDC	赤色
*センスコネクタ		

DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	COM	黒色
2	COM	黒色
3	+12 VDC	黄色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	COM	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	COM	黒色
5	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P4 および P5

ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
1	+5 VDC	赤色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P6

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1		適用なし
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+3.3 VDC	橙色
5	+5 VDC	赤色
6	+12 VDC	黄色

スモールデスクトップ電源装置の DC コネクタのピン構成

DC 電源コネクタ P1

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色
5	COM	黒色
6	+5 VDC	赤色
7	COM	黒色
8	POK*	灰色
9	+5 VFP	紫色
10	+12 VDC	黄色
11	+3.3 VDC	橙色
12	-12 VDC*	青色
13	COM	黒色
14	PS ON*	緑色
15	COM	黒色
16	COM	黒色
17	COM	黒色
18	適用なし	適用なし
19	+5 VDC	赤色
20	+5 VDC	赤色
* 18 AWG ワイヤの代わりに 22 AWG ワイヤを使用		

DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	COM	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	COM	黒色
5	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3 および P4

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+12 VDC	黄色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色

DC 電源コネクタ P5

ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
1	+5 VDC	赤色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P6

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	COM	黒色
2	COM	黒色
3	+12 VDC	黄色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P7

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1		適用なし
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+3.3 VDC	橙色
5	+5 VDC	赤色
6	+12 VDC	黄色

デスクトップ電源装置の DC コネクタのピン構成

DC 電源コネクタ P1

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 V	橙色
2	+3.3 V	橙色
3	GND	黒色
4	VCC (+5 V)	赤色
5	GND	黒色
6	VCC (+5 V)	赤色
7	GND	黒色
8	PS_PWRGOOD	灰色
9	P5AUX	紫色
10	V_12P0_DIG	黄色
11	V_12P0_DIG	黄色
12	+3.3 V	橙色
13	+3.3 V	橙色
14	-12 V*	青色
15	GND	黒色
16	PWR_PS_ON	緑色

17	GND	黒色
18	GND	黒色
19	GND	黒色
20	NC	適用なし
21	VCC (+5 V)	赤色
22	VCC (+5 V)	赤色
23	VCC (+5 V)	赤色
24	GND	黒色
* 18 AWG ワイヤの代わりに 22 AWG ワイヤを使用		

DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	COM	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	COM	黒色
5	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3 および P4

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+12 VDC	黄色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色

DC 電源コネクタ P5

ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
1	+5 VDC	赤色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P6

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	COM	黒色

2	COM	黒色
3	+12 VDC	黄色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P7

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1		適用なし
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+3.3 VDC	橙色
5	+5 VDC	赤色
6	+12 VDC	黄色

スモールミニタワー電源装置の DC コネクタのピン構成

DC 電源コネクタ P1

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色
5	COM	黒色
6	+5 VDC	赤色
7	COM	黒色
8	POK	灰色
9	+5 VFP	紫色
10	+12 VDC	黄色
11	+3.3 VDC*	橙色
12	-12 VDC	青色
13	COM	黒色
14	PS ON	緑色
15	COM	黒色
16	COM	黒色
17	COM	黒色
18	適用なし	適用なし
19	+5 VDC	赤色
20	+5 VDC	赤色
*センスコネクタ		

DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	COM	黒色
2	COM	黒色
3	+12 VDC	黄色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3

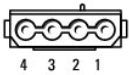
ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	COM	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	COM	黒色
5	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P4

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1		適用なし
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+3.3 VDC	橙色
5	+5 VDC	赤色
6	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P5

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	COM	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	COM	黒色
5	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P6、P8、および P9

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+12 VCD	黄色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色

DC 電源コネクタ P7

ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
1	+5 VDC	赤色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+12 VDC	黄色

ミニタワー電源装置の DC コネクタのピン構成

DC 電源コネクタ P1

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 V	橙色
2	+3.3 V	橙色
3	GND	黒色
4	VCC (+5 V)	赤色
5	GND	黒色
6	VCC (+5 V)	赤色
7	GND	黒色
8	PS_PWRGOOD	灰色
9	P5AUX	紫色
10	V_12P0_DIG	黄色
11	V_12P0_DIG	黄色
12	+3.3 V	橙色
13	+3.3 V	橙色
14	-12 V*	青色
15	GND	黒色
16	PWR_PS_ON	緑色
17	GND	黒色
18	GND	黒色
19	GND	黒色
20	NC	適用なし
21	VCC (+5 V)	赤色
22	VCC (+5 V)	赤色
23	VCC (+5 V)	赤色
24	GND	黒色
* 18 AWG ワイヤの代わりに 22 AWG ワイヤを使用		

DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	COM	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	COM	黒色
5	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3 および P4

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+12 VDC	黄色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色

DC 電源コネクタ P5

ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
1	+5 VDC	赤色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P6

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	COM	黒色
2	COM	黒色
3	+12 VDC	黄色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P7

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1		適用なし
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+3.3 VDC	橙色
5	+5 VDC	赤色
6	+12 VDC	黄色

目次に戻る

[目次に戻る]

ドライバとオペレーティングシステムの再インストール

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： Microsoft Windows XP を再インストールする際は、Microsoft® Windows® XP Service Pack 1 以降を使用する必要があります。

メモ： お使いのコンピュータに固有のイメージをインストールしてある場合、またはオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合、DSS ユーティリティを実行します。DSS は、オプションの『Drivers and Utilities CD』および **support.jp.dell.com** から入手できます。

メモ：『Drivers and Utilities CD』(Resource CD)はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

ドライバ

ドライバとは?

ドライバは、プリンタ、マウス、キーボードなどのデバイスを制御するプログラムです。すべてのデバイスにドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスは、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットを持っています。

お使いの Dell コンピュータには、必要なドライバおよびユーティリティが出荷時にすでにインストールされていますので、新たにインストールしたり設定したりする必要はありません。

注意： オプションの『Drivers and Utilities CD』には、お使いのコンピュータに搭載されていないオペレーティングシステムのドライバも収録されています。インストールするソフトウェアがオペレーティングシステムに対応していることを確認してください。

キーボードドライバなど、ドライバの多くは Microsoft Windows オペレーティングシステムに付属しています。以下の場合には、ドライバをインストールする必要があります。

- オペレーティングシステムのアップグレード
- オペレーティングシステムの再インストール
- 新しいデバイスの接続または取り付け

ドライバの識別

デバイスに問題が発生した場合、問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

Windows XP

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3. **システム** をクリックします。
4. **システムのプロパティ** ウインドウ **のハードウェア** タブをクリックします。
5. **デバイスマネージャ** をクリックします。
6. 一覧を下にスクロールして、デバイスアイコンに感嘆符([！]の付いた黄色い丸)が付いているものがないか確認します。

デバイス名の横に感嘆符がある場合、ドライバの再インストールまたは新しいドライバのインストールが必要な場合があります。

ドライバおよびユーティリティの再インストール

注意： デルサポートサイト（**support.jp.dell.com**）および『Drivers and Utilities CD』では、Dell™ コンピュータ用に承認されているドライバを提供しています。その他の媒体からドライバをインストールすると、お使いのコンピュータが適切に動作しない恐れがあります。

メモ：『Drivers and Utilities CD』（Resource CD）はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方

新たにドライバをインストールまたはアップデートした後に、コンピュータに問題が発生した場合、Windows XP のデバイスドライバのロールバックを使用して、以前にインストールしたバージョンのドライバに置き換えることができます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3. **システム** をクリックします。
4. **システムのプロパティ** ウインドウの**ハードウェア** タブをクリックします。
5. **デバイスマネージャ** をクリックします。
6. インストールした新しいドライバのデバイスを右クリックしてから、**プロパティ** をクリックします。
7. **ドライバ** タブをクリックします。
8. **ドライバのロールバック** をクリックします。

デバイスドライバのロールバックで問題が解決しない場合、システムの復元を使用して、オペレーティングシステムを新しいドライバがインストールされる前の動作状態に戻してみます。

オプションの『Drivers and Utilities CD』の使い方

デバイスドライバのロールバックまたはシステムの復元で問題を解決できない場合、『Drivers and Utilities CD』（Resource CD とも呼ばれます）からドライバを再インストールします。

メモ：『Drivers and Utilities CD』（Resource CD）はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

メモ： デバイスドライバとユーザーマニュアルにアクセスするには、Windows を実行中に『Drivers and Utilities CD』を使用する必要があります。

1. 『Drivers and Utilities CD』を挿入します。

   はじめて『Drivers and Utilities CD』をご使用になる場合は、インストールウィンドウが開き、CD がインストールを開始することを知らせます。**OK** をクリックし、インストールプログラムのプロンプトに従って、インストールを完了します。

2. **Dell システムをお買い上げくださりありがとうございます** 画面で**次へ** をクリックします。
3. **システムモデル**、**オペレーティングシステム**、**デバイスの種類**、および**トピック** を適切に選択します。
4. **トピック** ドロップダウンメニューで **マイドライバ** をクリックします。

   『Drivers and Utilities CD』は、コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステムをスキャンして、システム設定用のデバイスドライバの一覧を表示します。

5. 該当するドライバをクリックし、指示に従ってお使いのコンピュータ用のドライバをダウンロードします。

お使いのコンピュータに利用できるすべてのドライバの一覧を表示するには、**トピック** ドロップダウンメニューの **ドライバ** をクリックします。

『Drivers and Utilities CD』でヘルプファイルにアクセスするには、画面の上部にある疑問符（?）ボタンまたは **ヘルプ** のリンクをクリックします。

Microsoft Windows XP システムの復元の使い方

ハードウェア、ソフトウェア、またはその他のシステム設定を変更したためにコンピュータが正常に動作しなくなってしまった場合、Microsoft Windows XP オペレーティングシステムのシステムの復元を使用して、コンピュータを以前の動作状態に復元することができます（データファイルへの影響はありません）。システムの復元の使い方については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。

注意： データファイルの定期的なバックアップを行います。システムの復元は、データファイルを監視したり、データファイルを復元することはできません。

復元ポイントの作成

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2. **システムの復元** をクリックします。
3. 画面の指示に従います。

コンピュータの以前の動作状態への復元

注意： コンピュータを前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまでは、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** とポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。
2. **コンピュータを以前の状態に復元する** が選択されていることを確認してから、**次へ** をクリックします。
3. コンピュータを以前の状態に復元する時点の日付をクリックします。

   復元ポイントの選択画面に、**復元ポイント** が選べるカレンダーが表示されます。復元ポイントが利用できる日付は太字で表示されます。

4. 復元ポイントを選んで、**次へ** をクリックします。

   日付の中に復元ポイントが 1 つしかない場合、その復元ポイントが自動的に選択されます。2 つ以上の復元ポイントが利用可能な場合、希望の復元ポイントをクリックします。

5. **次へ** をクリックします。

   システムの復元がデータの収集を完了したら、**復元は完了しました** 画面が表示され、コンピュータが自動的に再起動します。

6. コンピュータが再起動したら **OK** をクリックします。

復元ポイントを変更するには、別の復元ポイントを使って手順を繰り返すか、または復元を取り消すことができます。

最後のシステムの復元の取り消し

注意： 最後に行ったシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存して閉じ、開いているプログラムをすべて終了してください。システムの復元が完了するまでは、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** とポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。
2. **以前の復元を取り消す** をクリックし、**次へ** をクリックします。
3. **次へ** をクリックします。

   システムの復元画面が表示され、コンピュータが再起動します。

4. コンピュータが再起動したら **OK** をクリックします。

システムの復元の有効化

200 MB より空容量が少ないハードディスクに Windows XP を再インストールした場合、システムの復元は自動的に無効に設定されます。システムの復元が有効になっているか確認するには、次の

手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3. **システム** をクリックします。
4. **システムの復元** タブをクリックします。
5. **すべてのドライブでシステムの復元を無効にする** にチェックマークが付いていないことを確認します。

Microsoft Windows XP の再インストール

メモ:『Drivers and Utilities CD』（Resource CD）はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

注意: オペレーティングシステムを再インストールする際は、Microsoft Windows XP Service Pack 1 以降を使用する必要があります。

はじめに

新しくインストールしたドライバの問題を解消するために Windows XP オペレーティングシステムを再インストールすることを検討する前に、まず Windows XP のデバイスドライバのロールバックを試してみます。デバイスドライバのロールバックを実行しても問題が解決されない場合、システムの復元を使ってオペレーティングシステムを新しいデバイスドライバがインストールされる前の動作状態に戻します。

注意: インストールを実行する前に、お使いのプライマリハードドライブ上のすべてのデータファイルのバックアップを作成しておいてください。標準的なハードドライブ構成において、プライマリハードドライブはコンピュータによって 1 番目のドライブとして認識されます。

Windows XP を再インストールするには、以下のアイテムが必要です。

- Dell™『オペレーティングシステム CD』
- Dell『Drivers and Utilities CD』

メモ:『Drivers and Utilities CD』には、コンピュータの製造工程でプリインストールされたドライバが収録されています。『Drivers and Utilities CD』を使って、必要なすべてのドライバをロードします。お使いのコンピュータに RAID コントローラがある場合は、そのドライバもロードします。

Windows XP の再インストール

Windows XP を再インストールするには、次項で記載されている手順を順番通りに実行します。

再インストール処理を完了するには、1 ～ 2 時間かかることがあります。オペレーティングシステムを再インストールした後、デバイスドライバ、アンチウイルスプログラム、およびその他のソフトウェアを再インストールする必要があります。

注意:『オペレーティングシステム CD』は、Windows XP の再インストール用のオプションを提供しています。このオプションはファイルを上書きして、ハードドライブにインストールされているプログラムに影響を与える可能性があります。このような理由から、デルのテクニカルサポート担当者の指示がない限り、Windows XP を再インストールしないでください。

注意: Windows XP とのコンフリクトを防ぐため、システムにインストールされているアンチウイルスソフトウェアを無効にしてから Windows XP を再インストールしてください。手順については、ソフトウェアに付属しているマニュアルを参照してください。

『オペレーティングシステム CD』からの起動

1. 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
2. 『オペレーティングシステム CD』を挿入します。`Install Windows XP` というメッセージが表示された場合、**終了** をクリックします。
3. コンピュータを再起動します。
4. DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

   オペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるのを待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

5. 矢印キーを使って **CD-ROM** を選択し、<Enter> を押します。

6. 画面に、`Press any key to boot from CD` というメッセージが表示されたら、任意のキーを押します。

Windows XP のセットアップ

1. **セットアップの開始** 画面が表示されたら、<Enter> を押します。
2. **Microsoft Windows ライセンス契約** 画面の内容を読み、<F8> を押してライセンス契約に同意します。
3. お使いのコンピュータに Windows XP がインストールされていて、現在の Windows XP データを復元したい場合は、r と入力して修復オプションを選び、CD を取り出します。
4. 新たに Windows XP をインストールする場合は、<Esc> を押してオプションを選択します。
5. <Enter> を押して、ハイライト表示されたパーティション（推奨）を選び、画面の指示に従います。

Windows XP セットアップ 画面が表示され、Windows XP は、ファイルのコピーおよびデバイスのインストールを開始します。コンピュータは自動的に数回再起動します。

メモ： ハードドライブの容量やコンピュータの速度によって、セットアップに要する時間は変わります。

注意： 次のメッセージが表示される場合、キーは押さないでください。`Press any key to boot from the CD`

6. **地域と言語のオプション** 画面が表示されたら、地域の設定を必要に応じてカスタマイズし、**次へ** をクリックします。
7. **ソフトウェアの個人用設定** 画面で、お名前と会社名（オプション）を入力して、**次へ** をクリックします。
8. **コンピュータと Administrator** ウィンドウでコンピュータ名（または記載の名前を承認）およびパスワードを入力して、**次へ** をクリックします。
9. モデムが取り付けられている場合、**モデムのダイヤル情報** 画面が表示されたら、必要な情報を入力して、**次へ** をクリックします。
10. **日付と時間の設定** ウィンドウに、日付、時間、タイムゾーンを入力して、**次へ** をクリックします。
11. **ネットワークの設定** 画面が表示される場合、**標準** をクリックして、**次へ** をクリックします。
12. Windows XP Professional を再インストールしている場合、ドメイン名やワークグループ名などのネットワーク設定に関するネットワーク情報が求められることがあります。該当するものを選びます。設定がわからない場合、デフォルトの選択肢を選びます。

Windows XP は、オペレーティングシステムのコンポーネントをインストールして、コンピュータを設定します。コンピュータが自動的に再起動します。

注意： 次のメッセージが表示される場合、キーは押さないでください。`Press any key to boot from the CD`

13. **Microsoft Windows へようこそ** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
14. **インターネットに接続する方法を指定してください** というメッセージが表示されたら、**省略** をクリックします。
15. **Microsoft にユーザー登録する準備は出来ましたか?** 画面が表示されたら、**いいえ、今回はユーザー登録しません** を選択し、**次へ** をクリックします。
16. **このコンピュータを使うユーザーを指定してください** 画面が表示されたら、最大 5 人のユーザーを入力できます。
17. **次へ** をクリックします。
18. **完了** をクリックしてセットアップを完了して、CD を取り出します。
19. 『Drivers and Utilities CD』を使って、適切なドライバを再インストールします。
20. アンチウイルスソフトウェアを再インストールします。
21. 使用するプログラムを再インストールします。

メモ： Microsoft Office または Microsoft Works Suite プログラムを再インストールして有効にするには、Microsoft Office または Microsoft Works Suite の CD ケースの裏面にある Product Key（プロダクトキー）ナンバーが必要です。

[目次に戻る]

システム基板

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

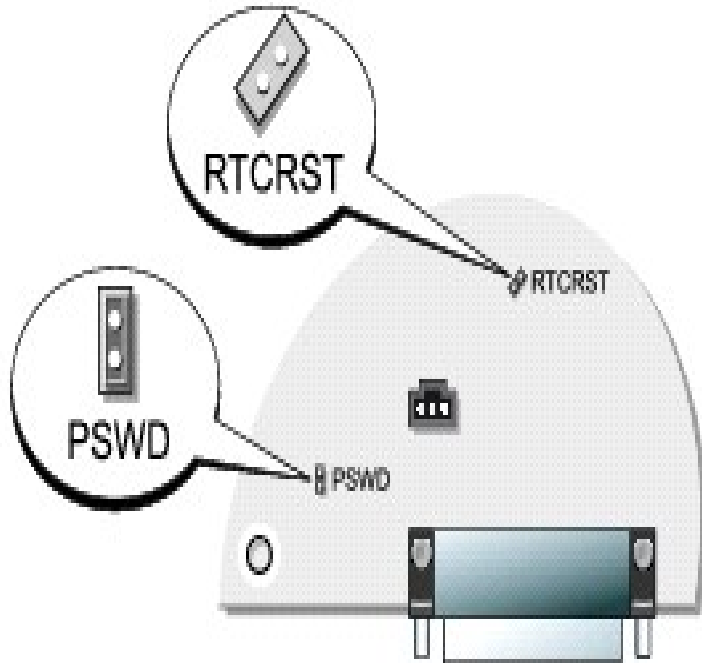
スモールフォームファクターのシステム基板

1	RTC リセットジャンパ(RTCRST)	14	ライン入力、ライン出力、およびマイクコネクタ(AUDIO)
2	フロッピードライブコネクタ(DSKT)	15	ネットワークコネクタ(NIC)および USB コネクタ(USB2)
3	バッテリーソケット(BATTERY)	16	USB コネクタ(USB 1)
4	内蔵スピーカー(SPEAKER)	17	診断ライト(DIAG LED)
5	CD/DVD ドライブコネクタ(IDE)	18	シリアルポートコネクタ(SER1)およびビデオコネクタ(VGA)
6	前面パネルコネクタ(FRONTPANEL)	19	パラレルポートコネクタ(PAR)
7	シリアル ATA ドライブ 0 コネクタ(SATA0)	20	電源コネクタ(12VPOWER)
8	スタンバイ電源ライト(AUX_PWR)	21	プロセッサおよびヒートシンクコネクタ(CPU)
9	メモリモジュールコネクタ(DIMM1、DIMM2)	22	ヒートシンク / 送風装置保持パッド
10	PCI Express x16 コネクタ(PEG)	23	シリアルポート 2 コネクタ(SER_PS2)
11	PCI ライザーコネクタ(PCI)	24	ファンコネクタ(FAN)
12	オプションのアナログオーディオケーブル用 の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ(CD_IN)	25	パスワードジャンパ(PSWD)
13	前面パネルオーディオケーブルコネクタ(FRONTAUDIO)	26	電源コネクタ(POWER)

スモールデスクトップのシステム基板

メモ： お使いのコンピュータには、「SATA1」コネクタがある場合とない場合があります。

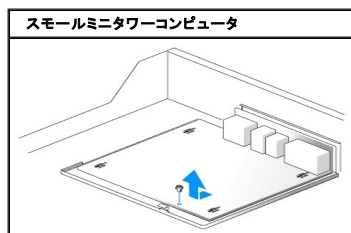
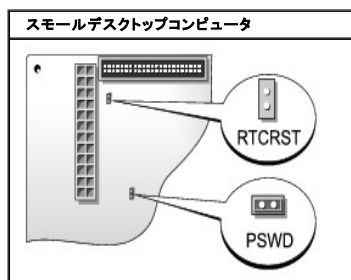
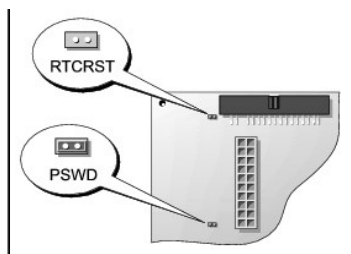
1	RTC リセットジャンパ（RTCRST）	15	前面パネルオーディオケーブルコネクタ（FRONTAUDIO）
2	電源コネクタ（POWER）	16	ライン入力、ライン出力、およびマイクコネクタ（AUDIO）
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）	17	ネットワークコネクタ（NIC）および USB コネクタ（USB2）
4	バッテリーソケット（BATTERY）	18	USB コネクタ（USB 1）
5	内蔵スピーカー（SPEAKER）	19	診断ライト（DIAG LED）
6	前面パネルコネクタ（FRONTPANEL）	20	シリアルポートコネクタ（SER1）およびビデオコネクタ（VGA）
7	CD/DVD ドライブコネクタ（IDE）	21	パラレルポートコネクタ（PAR）
8	シリアル ATA ドライブ 1 コネクタ（SATA1） **メモ：** お使いのコンピュータには、「SATA1」コネクタがある場合とない場合があります。	22	電源コネクタ（12VPOWER）
9	シリアル ATA ドライブ 0 コネクタ（SATA0）	23	プロセッサコネクタ（CPU）
10	スタンバイ電源ライト（AUX_PWR）	24	ヒートシンク / 送風装置保持パッド
11	メモリモジュールコネクタ（DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4）	25	ファンコネクタ（FAN）
12	PCI Express x16 コネクタ（PEG）	26	シリアルポート 2 コネクタ（SER_PS2）
13	PCI ライザーコネクタ（PCI2）	27	パスワードジャンパ（PSWD）
14	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ（CD_IN）		

スモールミニタワーのシステム基板

メモ: お使いのコンピュータには、「SATA1」または「SATA3」コネクタがある場合とない場合があります。

1	電源コネクタ(POWER)	15	ライン入力、ライン出力、およびマイクコネクタ(AUDIO)
2	RTC リセットジャンパ(RTCRST)	16	ネットワークコネクタ(NIC)および USB コネクタ(USB2)
3	フロッピードライブコネクタ(DSKT)	17	USB コネクタ(USB 1)
4	内蔵スピーカー(SPEAKER)	18	診断ライト(DIAG LED)
5	CD/DVD ドライブコネクタ(IDE)	19	シリアルポートコネクタ(SER1)およびビデオコネクタ(VGA)
6	前面パネルコネクタ(FRONTPANEL)	20	パラレルポートコネクタ(PAR)
7	シリアル ATA ドライブコネクタ(SATA0、SATA1、SATA2、SATA3) **メモ:** お使いのコンピュータには、「SATA1」または「SATA3」コネクタがある場合とない場合があります。	21	電源コネクタ(12VPOWER)
8	スタンバイ電源ライト(AUX_PWR)	22	プロセッサコネクタ(CPU)
9	バッテリーソケット(BATTERY)	23	ヒートシンク / 送風装置保持パッド
10	PCI Express x16 コネクタ(PEG)	24	ファンコネクタ(FAN)
11	PCI コネクタ(PCI0、PCI1、PCI2)	25	シリアルポート 2 コネクタ(SER_PS2)
12	PCI Express x1 コネクタ(PE1)	26	メモリモジュールコネクタ(DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4)
13	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ (CD_IN)	27	パスワードジャンパ(PSWD)
14	前面パネルオーディオケーブルコネクタ(FRONTAUDIO)		

ジャンパ設定

スモールフォームファクター、スモールデスクトップ、およびスモールミニタワーコンピュータのジャンパの位置は、それぞれ下の図に示す通りです。

スモールフォームファクターコンピュータ

スモールデスクトップコンピュータ

スモールミニタワーコンピュータ

ジャンパ	設定	説明
PSWD	（デフォルト）	パスワード機能が有効
		パスワード機能が無効
RTCRST		リアルタイムクロックリセット
ジャンパあり　ジャンパなし		

システム基板の取り外し

⚠ **警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

注意： コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。コンピュータ内部のコンポーネントへの損傷を防ぐため、コンピュータの内部の作業をしている間は、定期的に塗装されていない金属面に触れ、静電気を除去してください。

1. 「はじめに」にある手順に従ってください。
2. システム基板にアクセスする際に妨げとなるコンポーネントを取り外します。
3. システム基板からすべてのケーブルを外します。
4. 既存のシステム基板のアセンブリを取り外す前に、交換用のシステム基板と コンピュータ内にあるシステム基板を目視で比較し、部品が正しいことを確認します。

メモ： 取り付ける基板は金属製トレイに取り付けられている場合とそうでない場合があります。もとのシステム基板がトレイに取り付けられている場合は、新しい基板を取り付ける前に、まず新しい基板を金属製のトレイに付け替える必要があります。

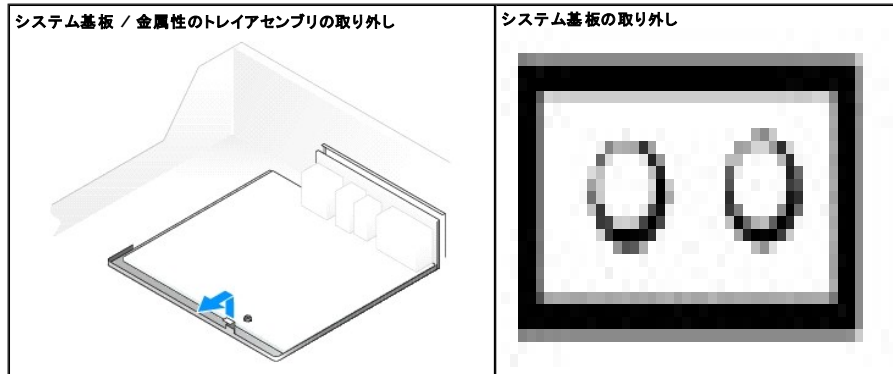
メモ：シャーシの構成を決定するため、システム基板の正面部分で緑色のリリースタブを調べます。このタブがある場合は、お手元のシャーシでは金属製トレイを使用します。タブがない場合は、お使いのシステムでは直接取り付ける方法を取ります。

5. 以下の方法でシステム基板を取り外します。

   a. お使いのシステム基板が金属製トレイを使って取り付けられている場合は、基板とトレイが連結したままの状態で取り外します。リリースタブの隣にあるネジを外します。タブを引き上げて

システム基板アセンブリをコンピュータ前方へ引き出し、持ち上げて取り外します。

b. お使いのシステム基板が直接コンピュータに取り付けられている場合は、コンピュータの正面の留めネジを外します。システム基板をコンピュータの前方へ引き出し、シャーシの底面にあるフックから外し、基板を持ち上げて取り外します。

システム基板 / 金属性のトレイアセンブリの取り外し

システム基板の取り外し

6. 取り外したシステム基板アセンブリを、取り付けるシステム基板の横に置きます。

システム基板の取り付け

1. 元のシステム基板と交換用のシステム基板の取り付け構成が同じ場合は、既存のシステム基板を交換用のシステム基板に付け替えます。

2. 既存のシステム基板が金属製トレイに取り付けられていて、交換用のシステム基板が金属製トレイに取り付けられていない場合、次の手順を実行します。

   a. 既存の基板を金属製トレイに固定しているネジを外します。4 つの取り付け用ネジをヒートシンク保持基盤から外し、システム基板を後方へスライドさせて金属製のトレイにあるフックから離して取り外します。

   b. 4 つの取り付け用ネジをヒートシンク保持基盤から外して、交換用のシステム基板を取り付け用プレートから取り外します。取り付け用プレートを脇に置いておきます。

   c. 交換用システム基板を金属製トレイに取り付けるため、基板を前方に引き出して、金属製トレイにあるフックに基板を取り付けます。4 つの取り付け用ネジを使って保持基盤を取り付け、ネジをシステム基板の前面に取り付けます。

   d. 保持基盤と 4 つの取り付け用ネジを使って、元のシステム基板に取り付け用プレートを取り付けます。

3. 既存のシステム基板から、交換用のシステム基板にコンポーネントを移動します。

   a. メモリモジュールを取り外して交換用の基板に取り付けます。

   警告： プロセッサパッケージおよびヒートシンクアセンブリは、高温になることがあります。 やけどをしないように、パッケージおよびアセンブリに触る前は十分時間をかけ、その温度が下がっていることを確認してください。

   a. ヒートシンクアセンブリとプロセッサを既存のシステム基板から取り外し、交換用のシステム基板に移動します。

4. 交換用のシステム基板の設定を構成します。

5. 既存の基板上のものと同じになるように交換用システム基板にジャンパをセットします。

メモ： 交換するシステム基板のいくつかのコンポーネントとコネクタは、既存のシステム基板の対応するコネクタと場所が異なる場合があります。

6. 基板底面の切り込みがコンピュータのタブと揃うように、交換用の基板を向けます。

7. 以下の方法でシステム基板を取り付けます。

   a. システム基板が金属製のトレイに取り付けられている場合は、システム基板のアセンブリを基板が所定の位置にカチッと収まるまでコンピュータの後方へスライドさせます。

   b. 直接取り付ける方法がシャーシに使用されている場合は、システム基板を所定の位置までスライドさせて留めネジを取り付けます。

8. システム基板から取り外したコンポーネントおよびケーブルをすべて取り付けます。

9. コンピュータの背面にあるコネクタにすべてのケーブルを接続します。

10. コンピュータカバーを閉じます。
11. コンピュータスタンドを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルをネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

12. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

目次に戻る

[目次に戻る]

システム基板

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

スモールフォームファクターのシステム基板

1	RTC リセットジャンパ（RTCRST）	14	ライン入力、ライン出力、およびマイクコネクタ（AUDIO）
2	フロッピードライブコネクタ（DSKT）	15	ネットワークコネクタ（NIC）および USB コネクタ（USB2）
3	バッテリーソケット（BATTERY）	16	USB コネクタ（USB 1）
4	内蔵スピーカー（SPEAKER）	17	診断ライト（DIAG LED）
5	CD/DVD ドライブコネクタ（IDE）	18	シリアルポートコネクタ（SER1）およびビデオコネクタ（VGA）
6	前面パネルコネクタ（FRONTPANEL）	19	パラレルポートコネクタ（PAR）
7	シリアル ATA ドライブ 0 コネクタ（SATA0）	20	電源コネクタ（12VPOWER）
8	スタンバイ電源ライト（AUX_PWR）	21	プロセッサおよびヒートシンクコネクタ（CPU）
9	メモリモジュールコネクタ（DIMM1、DIMM2）	22	ヒートシンク / 送風装置保持パッド
10	PCI Express x16 コネクタ（PEG）	23	シリアルポート 2 コネクタ（SER_PS2）
11	PCI ライザーコネクタ（PCI）	24	ファンコネクタ（FAN）
12	オプションのアナログオーディオケーブル用 の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ（CD_IN）	25	パスワードジャンパ（PSWD）
13	前面パネルオーディオケーブルコネクタ（FRONTAUDIO）	26	電源コネクタ（POWER）

スモールデスクトップのシステム基板

1	RTC リセットジャンパ（RTCRST）	15	前面パネルオーディオケーブルコネクタ（FRONTAUDIO）
2	電源コネクタ（POWER）	16	ライン入力、ライン出力、およびマイクコネクタ（AUDIO）
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）	17	ネットワークコネクタ（NIC）および USB コネクタ（USB2）
4	バッテリーソケット（BATTERY）	18	USB コネクタ（USB 1）
5	内蔵スピーカー（SPEAKER）	19	診断ライト（DIAG LED）
6	前面パネルコネクタ（FRONTPANEL）	20	シリアルポートコネクタ（SER1）およびビデオコネクタ（VGA）
7	CD/DVD ドライブコネクタ（IDE）	21	パラレルポートコネクタ（PAR）
8	シリアル ATA ドライブ 1 コネクタ（SATA1）	22	電源コネクタ（12VPOWER）
9	シリアル ATA ドライブ 0 コネクタ（SATA0）	23	プロセッサコネクタ（CPU）
10	スタンバイ電源ライト（AUX_PWR）	24	ヒートシンク / 送風装置保持パッド
11	メモリモジュールコネクタ（DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4）	25	ファンコネクタ（FAN）
12	PCI Express x16 コネクタ（PEG）	26	シリアルポート 2 コネクタ（SER_PS2）
13	PCI ライザーコネクタ（PCI2）	27	パスワードジャンパ（PSWD）
14	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ（CD_IN）		

デスクトップのシステム基板

1	ファンコネクタ(FAN)	11	イントルージョンスイッチコネクタ(INTRUDER)
2	プロセッサコネクタ(CPU)	12	パスワードジャンパ(PSWD)
3	電源コネクタ(12VPOWER)	13	PCI Express x16 コネクタ(PEG)
4	メモリモジュールコネクタ(DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4)	14	PCI ライザーコネクタ(PCI1)
5	シリアル ATA ドライブ 0 および 2 コネクタ (SATA0、SATA2)	15	PCI コネクタ(PCI3)
6	前面パネルコネクタ(FRONTPANEL)	16	シリアルコネクタ(SER_PS2)
7	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ(CD_IN)	17	フロッピードライブコネクタ(FLOPPY)
8	電源コネクタ(POWER)	18	バッテリーソケット(BATTERY)
9	CD/DVD ドライブコネクタ(IDE)	19	内蔵スピーカー(SPEAKER)
10	RTC リセットジャンパ(RTCRST)	20	外付けスピーカーコネクタ(EXT_SPKR)

スモールミニタワーのシステム基板

1	電源コネクタ(POWER)	15	ライン入力、ライン出力、およびマイクコネクタ(AUDIO)
2	RTC リセットジャンパ(RTCRST)	16	ネットワークコネクタ(NIC)および USB コネクタ(USB2)
3	フロッピードライブコネクタ(DSKT)	17	USB コネクタ(USB 1)
4	内蔵スピーカー(SPEAKER)	18	診断ライト(DIAG LED)
5	CD/DVD ドライブコネクタ(IDE)	19	シリアルポートコネクタ(SER1)およびビデオコネクタ(VGA)
6	前面パネルコネクタ(FRONTPANEL)	20	パラレルポートコネクタ(PAR)
7	シリアル ATA ドライブコネクタ(SATA0、SATA1、SATA2、SATA3)	21	電源コネクタ(12VPOWER)
8	スタンバイ電源ライト(AUX_PWR)	22	プロセッサコネクタ(CPU)
9	バッテリーソケット(BATTERY)	23	ヒートシンク / 送風装置保持パッド
10	PCI Express x16 コネクタ(PEG)	24	ファンコネクタ(FAN)
11	PCI コネクタ(PCI0、PCI1、PCI2)	25	シリアルポート 2 コネクタ(SER_PS2)
12	PCI Express x1 コネクタ(PE1)	26	メモリモジュールコネクタ(DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4)
13	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ(CD_IN)	27	パスワードジャンパ(PSWD)
14	前面パネルオーディオケーブルコネクタ(FRONTAUDIO)		

ミニタワーのシステム基板

1	ファンコネクタ(FAN)	12	パスワードジャンパ(PSWD)
2	プロセッサコネクタ(CPU)	13	PCI Express x16 コネクタ(PEG)
3	電源コネクタ(12VPOWER)	14	PCI Express x1 コネクタ(PCIE1)
4	メモリモジュールコネクタ(DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4)	15	PCI コネクタ(PCI1)
5	シリアル ATA ドライブ 0 および 2 コネクタ (SATA0、SATA2)	16	PCI コネクタ(PCI2)
6	前面パネルコネクタ(FRONTPANEL)	17	シリアルコネクタ(SER_PS2)
7	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ(CD_IN)	18	フロッピードライブコネクタ(FLOPPY)
8	電源コネクタ(POWER)	19	バッテリーソケット(BATTERY)
9	CD/DVD ドライブコネクタ(IDE)	20	内蔵スピーカー(SPEAKER)
10	RTC リセットジャンパ(RTCRST)	21	外付けスピーカーコネクタ(EXT_SPKR)
11	イントルージョンスイッチコネクタ(INTRUDER)		

ジャンパ設定

スモールフォームファクター、スモールデスクトップ、スモールミニタワー、およびミニタワーコンピュータのジャンパの位置は、下の図に示す通りです。

スモールフォームファクターコンピュータ

スモールデスクトップコンピュータ

デスクトップコンピュータ

スモールミニタワーコンピュータ

ミニタワーコンピュータ

ジャンパ	設定	説明
PSWD	(デフォルト)	パスワード機能が有効
		パスワード機能が無効
RTCRST		リアルタイムクロックリセット
ジャンパあり ジャンパなし		

システム基板の取り付け

システム基板の取り外し:スモールフォームファクター、スモールデスクトップ、およびスモールミニタワーコンピュータ

1. **スタート** メニューから、コンピュータをシャットダウンします。

2. コンピュータおよび接続されているデバイスの電源が切れていることを確認します。コンピュータをシャットダウンしたときに、コンピュータおよび接続デバイスの電源が自動的に切れなかった場合は、ここで電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを外すには、まずコンピュータからケーブルのプラグを外し、次に壁のネットワークジャックからプラグを外します。

3. コンピュータからすべての電話線または通信回線を取り外します。
4. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を除去します。
5. コンピュータスタンドが取り付けられている場合は、それを取り外します。

警告： 感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

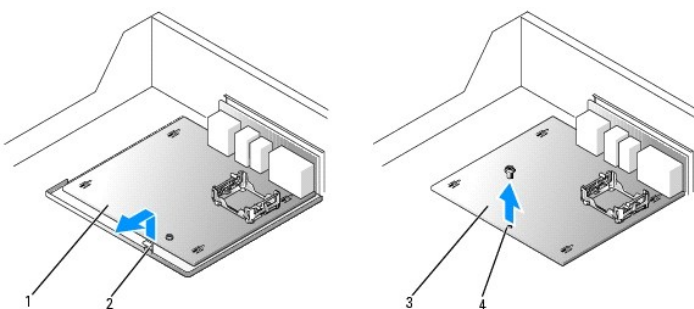
6. コンピュータカバーを開きます。

注意： コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

7. システム基板へのアクセスを妨げるコンポーネントを取り外します。
8. システム基板からすべてのケーブルを外します。
9. 既存のシステム基板アセンブリを取り外す前に、既存のシステム基板を目視で調べてシャーシ構成を判断します。
   a. 緑色のタブがシステム基板の前面にある場合は、お使いのコンピュータでは金属製のトレイを使ってシステム基板をシャーシに取り付けます。

メモ： 既存のシステム基板が金属製のトレイに取り付けられている場合は、新しい基板を取り付ける前に、まず新しい基板を金属製のトレイに付け替える必要があります。次の処理の手順 1 を参照してください。

   b. 緑色のタブがシステム基板の前面にない場合は、お使いのコンピュータでは取り付け用プレートを使ってシステム基板をシャーシに取り付けます。

10. システム基板を取り外します。
   a. お使いのシステム基板が金属製トレイを使ってシャーシに取り付けられている場合は、トレイと基板を連結したままの状態で取り外します。
      - タブを引き上げてシステム基板アセンブリをコンピュータ前方へ引き出し、持ち上げて取り外します。
   b. お使いのシステム基板が取り付け用プレートを使ってシャーシに取り付けられている場合は、システム基板と取り付け用プレートを連結されたままの状態で取り外します。
      - コンピュータ前面にある留めネジを取り外します。
      - システム基板アセンブリをコンピュータ前方へ引き出し、シャーシの底面にあるフックから外し、基板を持ち上げて取り外します。

1	システム基板 / 金属製のトレイアセンブリの取り外し
2	タブ
3	システム基板 / 取り付け用プレートアセンブリの取り外し
4	留めネジ

システム基板の取り外し： デスクトップおよびミニタワーコンピュータ

1. スタートメニューからコンピュータをシャットダウンします。
2. コンピュータおよび接続されているデバイスの電源が切れていることを確認します。コンピュータをシャットダウンしたときに、コンピュータおよび接続デバイスの電源が自動的に切れなかった場合は、ここで電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを外すには、まずコンピュータからケーブルのプラグを外し、次に壁のネットワークジャックからプラグを外します。

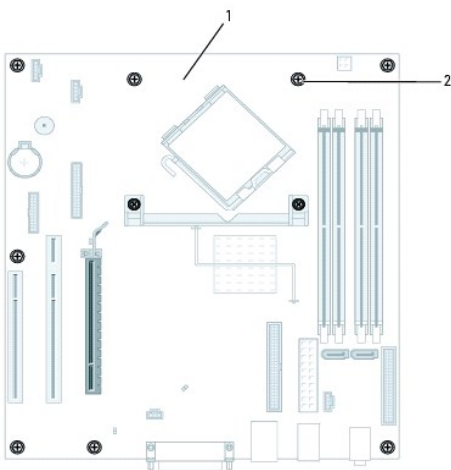
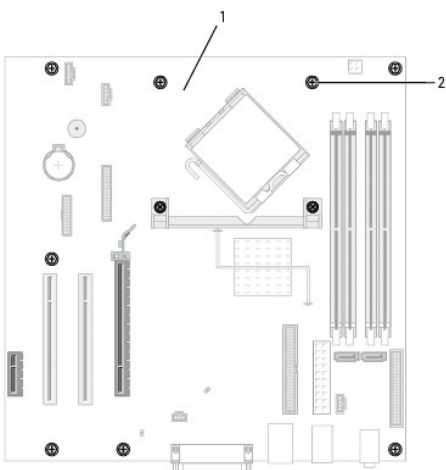
3. コンピュータからすべての電話線または通信回線を取り外します。

4. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を除去します。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

5. コンピュータカバーを開きます。

注意：コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

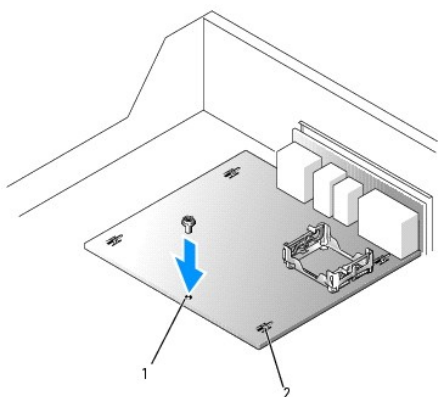
6. システム基板へのアクセスを制限しているコンポーネントをすべて取り外します（CD/DVD ドライブ、フロッピードライブ、ハードドライブ、I/O パネル）。
7. ヒートシンクアセンブリおよびプロセッサを取り外します。
8. システム基板からすべてのケーブルを外します。
9. システム基板からネジを 10 本取り外します（ネジの位置については、下の図を参照）。
10. システム基板アセンブリをコンピュータ前方に引き出し、基板を持ち上げて取り外します。

1	デスクトップのシステム基板
2	ネジ（10）

1	ミニタワーのシステム基板
2	ネジ（10）

11. 取り外したシステム基板アセンブリを交換用のシステム基板のそばに置き、同等であることを確認します。

システム基板の取り付け： スモールフォームファクター、スモールデスクトップ、およびスモールミニタワーコンピュータ

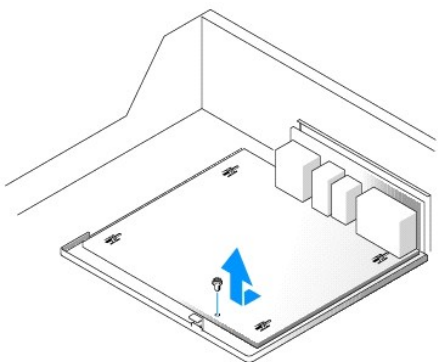
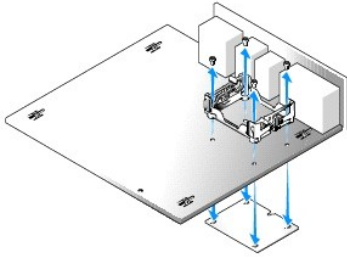
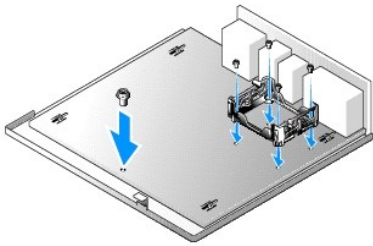
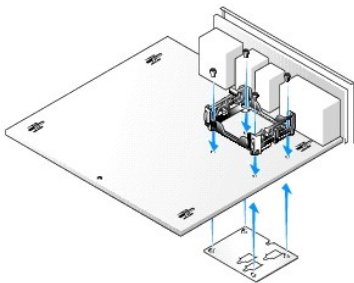
1. 既存のシステム基板が、トレイではなく取り付け用プレートを使ってシャーシに取り付けられている場合は、既存のシステム基板と交換用のシステム基板を以下のようにして交換します。

   a. システム基板アセンブリをコンピュータ後方へ向けてスライドさせ、シャーシの底面にあるフックに取り付けます。

   b. コンピュータの前面の留めネジを取り付けます。

1	留めネジ
2	フック（4）

2. 既存のシステム基板が、取り付け用プレートではなく金属製のトレイを使ってシャーシに取り付けられている場合は、以下の作業を行います。

   a. システム基板を金属製トレイから取り外します。

      - 既存の基板を金属製トレイに固定しているネジを外します。
      - 4 つの取り付け用ネジをヒートシンク保持基盤から外し、システム基板を後方へスライドさせて金属製のトレイにあるフックから離して取り外します。

   b. 4 つの取り付け用ネジをヒートシンク保持基盤から外して、交換用のシステム基板を取り付け用プレートから取り外します。取り付け用プレートは、後でデルに返送する前に古いシステム基板に取り付けるために取っておきます。

c. 交換用システム基板を金属製トレイに取り付けるには、交換用システム基板を前方にスライドさせ、金属製トレイにあるフックに取り付けます。4 つの取り付け用ネジを使って保持基盤を取り付け、ネジをシステム基板の前面に取り付けます。

d. 保持基盤と 4 つの取り付け用ネジを使って、既存のシステム基板に取り付け用プレートを取り付けます。

3. 既存のシステム基板から、交換するシステム基板にコンポーネントを移動します。

   a. 既存のシステム基板からメモリモジュールを取り外し、交換する基板に取り付けます。

警告：プロセッサパッケージおよびヒートシンクアセンブリは、高温になることがあります。やけどをしないように、パッケージおよびアセンブリに触る前は十分時間をかけ、その温度が下がっていることを確認してください。

   b. 既存のシステム基板からヒートシンクアセンブリとプロセッサを取り外し、交換するシステム基板に取り付けます。

4. 交換するシステム基板の設定を行います。
5. 既存の基板と同じになるように、交換するシステム基板のジャンパを設定します。

メモ： 交換するシステム基板のいくつかのコンポーネントとコネクタは、既存のシステム基板の対応するコネクタと場所が異なる場合があります。

6. 交換用基板の底面の切り込みがコンピュータのタブと揃うように、向きを調節します。
7. システム基板を取り付けます。

   a. システム基板が金属製のトレイに取り付けられている場合は、システム基板のアセンブリを基板が所定の位置に収まってカチッとするまでコンピュータ後方へスライドさせます。

   b. シャーシが取り付け用プレートに取り付けられている場合は、システム基板を所定の位置までスライドさせて、留めネジを取り付けます。

8. システム基板から取り外したコンポーネントおよびケーブルを取り付けます。
9. コンピュータの背面にあるコネクタからすべてのケーブルを接続し直します。
10. コンピュータカバーを閉じます。
11. コンピュータスタンドを取り付けます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

12. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

システム基板の取り付け： デスクトップおよびミニタワーコンピュータ

1. 基板を注意深くシャーシの位置に合わせ、コンピュータ後方へスライドさせます。
2. システム基板にネジを取り付けます。
3. システム基板から取り外したコンポーネントおよびケーブルを取り付けます。
4. すべてのケーブルをコンピュータの背面にあるそれぞれのコネクタへ接続し直します。
5. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

6. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

目次に戻る

目次に戻る

お使いのスモールデスクトップコンピュータについて

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

正面図

1	前面パネルドア	前面パネルコネクタを使用する際に、このドアを開きます。
2	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます。
3	USB 2.0 コネクタ(2)	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します(USB デバイスの起動については、「セットアップユーティリティ」を参照してください)。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
4	CD/DVD ドライブ取り出しボタン	このボタンを押して、CD/DVD をドライブから取り出します。
5	フロッピードライブ取り出しボタン	このボタンを押して、フロッピーディスクをフロッピードライブから取り出します。
6	フロッピードライブ動作ライト	フロッピードライブライトは、コンピュータがフロッピードライブからデータを読み書きしている場合に点灯します。このライトが消灯するのを待ってから、フロッピーディスクをドライブから取り出します。
7	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブライトは、コンピュータがデータをハードドライブから読み書きしている場合に点灯します。このライトは、CD プレーヤーなどのデバイスが動作中にも点灯します。
8	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意：** データの損失を防ぐため、6 秒以上電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。 **注意：** お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
9	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 - 消灯 ― コンピュータの電源は切れています。(S4、S5、または機械的オフ) - 緑色の点灯 ― コンピュータは通常の動作状態です。 - 緑色の点滅 ― コンピュータは、省電力状態です。(S1 または S3) - 黄色の点滅または点灯 ― 「電源の問題」を参照してください。 省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復

		帰デバイスに設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止状態および省電力状態からの復帰の詳細については、「電力の管理」を参照してください。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「診断ライト」を参照してください。
10	前面パネルドア	前面パネルコネクタを使用する際に、このドアを開きます。

背面図

1	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスを対応するコネクタに差し込みます。
2	セキュリティケーブルスロット	スロットに付属しているセキュリティケーブルを使って、コンピュータを保護することができます。
3	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
4	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。
5	電圧切り替えスイッチ（すべてのコンピュータに搭載されているわけではありません）	お使いのコンピュータには、電圧自動感知セレクタまたは手動の電圧切り替えスイッチのどちらかが装備されています。電圧自動感知セレクタの付いたコンピュータには、背面パネルに電圧切り替えスイッチは装備されておらず、適切な電圧を自動的に検出します。 手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、ご使用地域の AC 電源に最も近い値に電圧切り替えスイッチが設定されていることを確認します。 **注意：** 日本で使用できる AC 電源は 100 V ですが、電圧切り替えスイッチを 115 V に設定してください。 また、モニターやコンピュータに取り付けられているデバイスもご使用地域の AC 電源で動作するように設定してください。
6	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。

1	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細については、「セットアップオプション」を参照してください。
2	リンク保全ライト	• 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 黄色 — 1 Gbps（または 1000 Mbps）ネットワークおよびコンピュータ間の接続が良好です。 • オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カ

		チッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ：** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用してネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
4	ネットワーク動作ライト	コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している際に黄色のライトが点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン入力コネクタ	青色のライン入力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR などの録音 / 再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	マイクコネクタ	ピンク色のマイクコネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、音声または音楽入力用のパソコンマイクをサウンドあるいはテレフォニープログラムに接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、マイクコネクタはカードにあります。
8	USB 2.0 コネクタ（6）	プリンタやキーボードなど、通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。 ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します。
9	診断ライト	診断ライトは、Diagnostic（診断）コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細については、「診断ライト」を参照してください。
10	ビデオコネクタ	VGA 互換モニターのケーブルを青色のコネクタに差し込みます。 **メモ：** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。お使いのモニターをグラフィックスカードのコネクタに接続します。キャップは取り外さないでください。 **メモ：** デュアルモニターをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
11	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ：** 同じアドレスに設定されたパラレルコネクタを持つカードをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細については、「セットアップオプション」を参照してください。

コンピュータ内部

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電を防ぐため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータカバーを開く際は、誤ってシステム基板からケーブルが外れないように注意してください。

1	ハードドライブ	6	パドロックリング
2	シャーシイントルージョンスイッチ	7	ヒートシンクと送風装置アセンブリ
3	内蔵スピーカー	8	システム基板
4	電源装置	9	フロッピードライブ
5	カードケージ	10	CD/DVD ドライブ

システム基板のコンポーネント

メモ： お使いのコンピュータには、「SATA1」コネクタがある場合とない場合があります。

1	RTC リセットジャンパ（RTCRST）	15	前面パネルオーディオケーブルコネクタ（FRONTAUDIO）
2	電源コネクタ (POWER）	16	ライン入力、ライン出力、およびマイクコネクタ（AUDIO）
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）	17	ネットワークコネクタ（NIC）および USB コネクタ（USB2）
4	バッテリーソケット（BATTERY）	18	USB コネクタ（USB 1）
5	内蔵スピーカー（SPEAKER）	19	診断ライト（DIAG LED）
6	前面パネルコネクタ（FRONTPANEL）	20	シリアルポートコネクタ（SER1）およびビデオコネクタ（VGA）
7	CD/DVD ドライブコネクタ（IDE）	21	パラレルポートコネクタ（PAR）
8	シリアル ATA ドライブ 1 コネクタ（SATA1） **メモ:** お使いのコンピュータには、「SATA1」コネクタがある場合とない場合があります。	22	電源コネクタ（12VPOWER）
9	シリアル ATA ドライブ 0 コネクタ（SATA0）	23	プロセッサコネクタ（CPU）
10	スタンバイ電源ライト（AUX_PWR）	24	ヒートシンク / 送風装置保持パッド
11	メモリモジュールコネクタ（DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4）	25	ファンコネクタ（FAN）
12	PCI Express x16 コネクタ（PEG）	26	シリアルポート 2 コネクタ（SER_PS2）
13	PCI ライザーコネクタ（PCI2）	27	パスワードジャンパ（PSWD）
14	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ（CD_IN）		

コンピュータスタンドの取り付けと取り外し

 警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

 メモ: トップカバーを傷付けないように柔らかい表面の上にコンピュータを置いてください。

お使いのコンピュータは、縦置き、横置きのどちらでも使用できます。

コンピュータを縦置きにして使用するには、コンピュータスタンドを取り付ける必要があります。

1. ドライブベイが下になるように、右側を下にしてコンピュータを置きます。
2. スタンドをコンピュータの左側だった方に装着します。
   a. 次の図に示すように、スタンドの大きな丸い穴をカバー側面の固定ボタンに合わせ、スタンドの拘束ネジをカバーのネジ穴に合わせてスタンドを置きます。
   b. スタンドが所定の位置に収まったら、蝶ネジを締めます。
3. スタンドが下に、ドライブが上になるようにコンピュータを立てます。

目次に戻る

お使いのスモールデスクトップコンピュータについて

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

正面図

1	前面パネルドア	前面パネルコネクタを使用する際に、このドアを開きます。
2	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます。
3	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスの起動については、「セットアップユーティリティ」を参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
4	CD/DVD ドライブ取り出しボタン	このボタンを押して、CD/DVD をドライブから取り出します。
5	フロッピードライブ取り出しボタン	このボタンを押して、フロッピーディスクをフロッピードライブから取り出します。
6	フロッピードライブ動作ライト	フロッピードライブライトは、コンピュータがフロッピードライブからデータを読み書きしている場合に点灯します。このライトが消灯するのを待ってから、フロッピーディスクをドライブから取り出します。
7	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブライトは、コンピュータがデータをハードドライブから読み書きしている場合に点灯します。このライトは、CD プレーヤーなどのデバイスが動作中にも点灯します。
8	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意**：データの損失を防ぐため、6 秒以上電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。 **注意**：お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
9	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 - 消灯 ― コンピュータの電源は切れています。（S4、S5、または機械的オフ） - 緑色の点灯 ― コンピュータは通常の動作状態です。 - 緑色の点滅 ― コンピュータは、省電力状態です。（S1 または S3） - 黄色の点滅または点灯 ―「電源の問題」を参照してください。 省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスに設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止状態および省電力

		状態からの復帰の詳細に関しては、「電力の管理」を参照してください。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「診断ライト」を参照してください。
10	前面パネルドア	前面パネルコネクタを使用する際に、このドアを開きます。

背面図

1	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスを対応するコネクタに差し込みます。
2	セキュリティケーブルスロット	スロットに付属しているセキュリティケーブルを使って、コンピュータを保護することができます。
3	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
4	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。
5	電圧切り替えスイッチ（すべてのコンピュータに搭載されているわけではありません）	お使いのコンピュータには、電圧自動感知セレクタまたは手動の電圧切り替えスイッチのどちらかが装備されています。電圧自動感知セレクタの付いたコンピュータには、背面パネルに電圧切り替えスイッチは装備されておらず、適切な電圧を自動的に検出します。 手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、ご使用地域の AC 電源に最も近い値に電圧切り替えスイッチが設定されていることを確認します。 **注意：** 日本で使用できる AC 電源は 100 V ですが、電圧切り替えスイッチを 115 V に設定してください。 また、モニターやコンピュータに取り付けられているデバイスもご使用地域の AC 電源で動作するように設定してください。
6	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。

1	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細に関しては、「セットアップオプション」を参照してください。
2	リンク保全ライト	• 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 黄色 — 1 Gbps（または 1000 Mbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カ

		チッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ：** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用してネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
4	ネットワーク動作ライト	コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している際に黄色のライトが点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン入力コネクタ	青色のライン入力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR などの録音 / 再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	マイクコネクタ	ピンク色のマイクコネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、音声または音楽入力用のパソコンマイクをサウンドあるいはテレフォニープログラムに接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、マイクコネクタはカードにあります。
8	USB 2.0 コネクタ（6）	プリンタやキーボードなど、通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。 ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します。
9	診断ライト	診断ライトは、Diagnostic（診断）コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細に関しては、「診断ライト」を参照してください。
10	ビデオコネクタ	VGA 互換モニターのケーブルを青色のコネクタに差し込みます。 **メモ：** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。お使いのモニターをグラフィックスカードのコネクタに接続します。キャップは取り外さないでください。 **メモ：** デュアルモニターをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
11	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ：** 同じアドレスに設定されたパラレルコネクタを持つカードをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細に関しては、「セットアップオプション」を参照してください。

コンピュータ内部

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電を防ぐため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータカバーを開く際は、誤ってシステム基板からケーブルが外れないように注意してください。

1	ハードドライブ	6	パドロックリング
2	シャーシイントルージョンスイッチ	7	ヒートシンクと送風装置アセンブリ
3	内蔵スピーカー	8	システム基板
4	電源装置	9	フロッピードライブ
5	カードケージ	10	CD/DVD ドライブ

システム基板のコンポーネント

1	RTC リセットジャンパ(RTCRST)	15	前面パネルオーディオケーブルコネクタ(FRONTAUDIO)

2	電源コネクタ (POWER)	16	ライン入力、ライン出力、およびマイクコネクタ(AUDIO)
3	フロッピードライブコネクタ(DSKT)	17	ネットワークコネクタ(NIC)および USB コネクタ(USB2)
4	バッテリーソケット(BATTERY)	18	USB コネクタ(USB 1)
5	内蔵スピーカー(SPEAKER)	19	診断ライト(DIAG LED)
6	前面パネルコネクタ(FRONTPANEL)	20	シリアルポートコネクタ(SER1)およびビデオコネクタ(VGA)
7	CD/DVD ドライブコネクタ(IDE)	21	パラレルポートコネクタ(PAR)
8	シリアル ATA ドライブ 1 コネクタ(SATA1)	22	電源コネクタ(12VPOWER)
9	シリアル ATA ドライブ 0 コネクタ(SATA0)	23	プロセッサコネクタ(CPU)
10	スタンバイ電源ライト(AUX_PWR)	24	ヒートシンク / 送風装置保持パッド
11	メモリモジュールコネクタ(DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4)	25	ファンコネクタ(FAN)
12	PCI Express x16 コネクタ(PEG)	26	シリアルポート 2 コネクタ(SER_PS2)
13	PCI ライザーコネクタ(PCI2)	27	パスワードジャンパ(PSWD)
14	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ(CD_IN)		

コンピュータスタンドの取り付けと取り外し

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ: トップカバーを傷付けないように柔らかい表面の上にコンピュータを置いてください。

お使いのコンピュータは、縦置き、横置きのどちらでも使用できます。

コンピュータを縦置きにして使用するには、コンピュータスタンドを取り付ける必要があります。

1. ドライブベイが下になるように、右側を下にしてコンピュータを置きます。
2. スタンドをコンピュータの左側だった方に装着します。
   a. 次の図に示すように、スタンドの大きな丸い穴をカバー側面の固定ボタンに合わせ、スタンドの拘束ネジをカバーのネジ穴に合わせてスタンドを置きます。
   b. スタンドが所定の位置に収まったら、蝶ネジを締めます。
3. スタンドが下に、ドライブが上になるようにコンピュータを立てます。

目次に戻る

目次に戻る

PCI カード、PCI Express カード、およびシリアルポートアダプタ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

ご購入された Dell™ コンピュータによっては PCI カード、PCI Express カード、またはシリアルポートアダプタ用に次のスロットが搭載されています。

- 2 つの PCI カードスロットおよび 1 つの PCI Express x16 カードスロット、もしくは
- 1 つの PCI カードスロット、1 つの PCI Express x1 カードスロットおよび 1 つの PCI Express x16 カードスロット

メモ: お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

PCI カード

カードを取り付けるか交換する場合、次の項の手順を実行します。PCI カードを取り外したままにする場合、「PCI カードの取り外し」に進みます。

カードを交換する場合、現在のカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。

PCI カードの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードケージを取り外します。
   a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。カードケージをコンピュータから取り外したら、長さが足りないためカードケージに届かないケーブルをすべて取り外します。
   b. ハンドルを慎重に引き、カードケージを持ち上げてコンピュータから取り外します。

1	カードケージ
2	ハンドル

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を作ります。

既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。カードの上端を持って、コネクタから取り外します。

4. カードを取り付ける準備をします。

カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

5. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。

6. カードをカードコネクタに挿入します。

カードがフルレングスの場合、システム基板にあるカードコネクタの方にカードを下げて、カードの端をカードガイドブラケットに挿入します。カードをライザーボードのカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	レバー	5	カードエッジコネクタ
2	保持アーム	6	カードコネクタ
3	フィラーブラケット	7	ライザーボード
4	カード	8	カードケージ

7. 保持アームを下ろして所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

8. カードケージを取り付けます。

a. カードケージ側面のタブをコンピュータの側面のスロットに合わせ、カードケージを所定の位置へ押し下げます。

b. ライザーボードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

1	カードケージ
2	タブ（2）
3	スロット（2）

9. 手順 2 で取り外したすべてのケーブルを接続します。

10. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

11. コンピュータカバーを閉じます。

12. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.(警告 ! カバーが取り外されました。)
```

14. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

15. サウンドカードを取り付ける場合、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

16. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

17. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードケージを取り外します（前項の手順 2 を参照）。
3. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。
4. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
5. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
6. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

   フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

7. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. カードケージを取り付けます（前項の手順 8 を参照）。
9. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

   カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

   ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。
12. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
13. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI Express カード

ご購入されたお使いのコンピュータによっては、1 つの PCI Express x16 カードをサポートします。または 1 つの Express x1 カードをサポートする場合もあります。

1	PCI Express x16 カード	3	PCI Express x1 カードスロット
2	PCI Express x1 カード	4	PCI Express x16 カードスロット

PCI Express x16 カードを取り付けまたは交換する際は、「PCI Express x16 カードの取り付け」を参照してください。また、カードを取り外す際は、「PCI Express x16 カードの取り外し」を参照してください。

PCI Express x1 カードを取り付けまたは交換する際は、「PCI Express x1 カードの取り付け」を参照してください。また、カードを取り外す際は、「PCI Express x1 カードの取り外し」を参照してください。

PCI Express カードのどちらかのタイプを交換する場合、現在のドライバをオペレーティングシステムから削除します。

PCI Express x16 カードの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. PCI Express x16 カードを交換する場合、取り付けられているカードを取り外します。
    a. インデントタブが解除されるまで、親指を使ってヒンジレバーのインデントタブを押します。レバーをつかんだまま持ち上げます。

1	ヒンジレバー
2	インデントタブ（側面図）

    b. カードレバーを押して、カードコネクタから外します。
    c. カードを引き上げてカードクリップから取り出します。

1	レバー
2	固定スロット（すべてのカードに付いているわけではありません）
3	固定タブ
4	PCI Express x16 カード
5	PCI Express x16 カードコネクタ

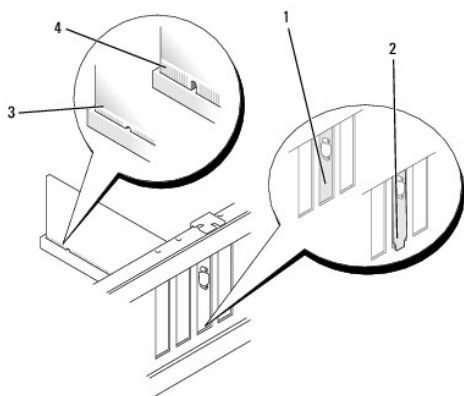
3. カードを取り付ける準備をします。

カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

4. カードの位置を確認して、固定スロットを固定タブに合わせます。次にカードレバーを押して、カードコネクタから開きあけます。

5. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

カードがフルレングスの場合、システム基板にあるカードコネクタの方にカードを下げて、カードの端をカードガイドブラケットに挿入します。カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	スロット内のブラケット
2	スロットの外側にはみ出したブラケット
3	完全に装着されたカード
4	完全に装着されていないカード

6. カードのレバーを外し、カードのレバーにあるタブがカード前面の端にある切り込みと合っていることを確認します。

7. 背面パネルのヒンジレバーを下げて、カードを固定します。

8. コンピュータカバーを閉じます。

9. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.`（警告 ！ カバーが取り外されました。）

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. サウンドカードを取り付ける場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
13. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、Network Controller を選んでから、設定を Off に変更します。
    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
14. カードのマニュアに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express x16 カードの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
3. カードケージを取り外します（前項の手順 2 を参照）。
4. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

   フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

5. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

6. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

   カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

   `ALERT! Cover was previously removed.`（警告 ！ カバーが取り外されました。）

7. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

8. カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。
9. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
10. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI Express x1 カードの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードケージを取り外します。
    a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。カードケージをコンピュータから取り外したら、長さが足りないためカードケージに届かないケーブルをすべて取り外します。
    b. ハンドルを慎重に引き、カードケージを持ち上げてコンピュータから取り外します。

1	カードケージ
2	ハンドル

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を作ります。

既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。カードの上端を持って、コネクタから取り外します。

4. カードを取り付ける準備をします。

カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

5. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。

6. カードをカードコネクタに挿入します。

カードがフルレングスの場合、システム基板にあるカードコネクタの方にカードを下げて、カードの端をカードガイドブラケットに挿入します。カードをライザーボードのカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	レバー	5	カードエッジコネクタ
2	保持アーム	6	カードコネクタ
3	フィラーブラケット	7	ライザーボード
4	PCI Express x1 カード	8	カードケージ

7. 保持アームを下ろして所定の位置に押し込み、カードをカードコネクタに固定します。

8. カードケージを取り付けます。

   a. カードケージ側面のタブをコンピュータの側面のスロットに合わせ、カードケージを所定の位置へ押し下げます。

   b. ライザーボードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

1	カードケージ
2	タブ（2）
3	スロット（2）

9. 手順 2 で取り外したすべてのケーブルを接続します。

10. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

11. コンピュータカバーを閉じます。

12. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

14. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

15. サウンドカードを取り付ける場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

   b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

16. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

   b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

17. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express x1 カードの取り外し

1. カードケージを取り外します（前項の手順 2 を参照）。
2. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。
3. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
4. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。
7. 前項の手順 8 で説明されているカードケージを取り付けます。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

8. カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。
9. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
   a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
   b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
10. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

シリアルポートアダプタ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ： お使いのスモールデスクトップコンピュータのシリアルポートアダプタにも 2 つの PS/2 コネクタが組み込まれています。

シリアルポートアダプタの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードケージを取り外します（「PCI カードの取り付け」を参照）。
3. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。

1	保持アーム
2	フィラーブラケット
3	カードブラケット

4. フィラーブラケットを取り外します。
5. カードブラケットをカードスロット開口部にスライドして、保持アームを下げてブラケットを固定します。
6. 「プロセッサ」で説明されているプロセッサヒートシンクを取り外します。
7. シリアルアダプタケーブルをカードケージの上を通して配線して、ケーブルをシステム基板のコネクタ(SER_PS2 とラベルに付いています)に取り付けます。
8. 「プロセッサ」で説明されているプロセッサヒートシンクを取り付けます。

1	システム基板のシリアルカードコネクタ(SER_PS2)
2	シリアルアダプタケーブル
3	カードケージ

注意： ネットワークケーブルに接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

9. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.`（警告 ! カバーが取り外されました。）

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

シリアルポートアダプタの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 「プロセッサ」で説明されているプロセッサヒートシンクを取り外します。
3. シリアルアダプタケーブルをシステム基板のコネクタから取り外します。
4. 「プロセッサ」で説明されているプロセッサヒートシンクを取り付けます。
5. カードケージを取り外します(「PCI カードの取り付け」を参照)。
6. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます(前項の手順 3 を参照)。
7. アダプタカードブラケットを持ち上げて取り外します。
8. アダプタを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

   フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

9. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルに接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

10. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

    カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

    `ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）`

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ: 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

[目次に戻る]

PCI カード、PCI Express カード、およびシリアルポートアダプタ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

ご購入された Dell™ コンピュータによっては PCI カード、PCI Express カード、またはシリアルポートアダプタ用に次のスロットが搭載されています。

- 2 つの PCI カードスロットおよび 1 つの PCI Express x16 カードスロット、もしくは
- 1 つの PCI カードスロット、1 つの PCI Express x1 カードスロットおよび 1 つの PCI Express x16 カードスロット

メモ: お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

PCI カード

カードを取り付けるか交換する場合、次の項の手順を実行します。PCI カードを取り外したままにする場合、「PCI カードの取り外し」に進みます。

カードを交換する場合、現在のカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。

PCI カードの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードケージを取り外します。
   a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。カードケージをコンピュータから取り外したら、長さが足りないためカードケージに届かないケーブルをすべて取り外します。
   b. ハンドルを慎重に引き、カードケージを持ち上げてコンピュータから取り外します。

1	カードケージ
2	ハンドル

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を作ります。

既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。カードの上端を持って、コネクタから取り外します。

4. カードを取り付ける準備をします。

カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

5. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。

6. カードをカードコネクタに挿入します。

カードがフルレングスの場合、システム基板にあるカードコネクタの方にカードを下げて、カードの端をカードガイドブラケットに挿入します。カードをライザーボードのカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	レバー	5	カードエッジコネクタ
2	保持アーム	6	カードコネクタ
3	フィラーブラケット	7	ライザーボード
4	カード	8	カードケージ

7. 保持アームを下ろして所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

8. カードケージを取り付けます。

 a. カードケージ側面のタブをコンピュータの側面のスロットに合わせ、カードケージを所定の位置へ押し下げます。

 b. ライザーボードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

1	カードケージ
2	タブ（2）
3	スロット（2）

9. 手順 2 で取り外したすべてのケーブルを接続します。

10. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

11. コンピュータカバーを閉じます。

12. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

14. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

15. サウンドカードを取り付ける場合、次の手順を実行します。

 a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

 b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

16. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。

 a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

 b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

17. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードケージを取り外します（前項の手順 2 を参照）。
3. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。
4. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
5. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
6. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

   フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

7. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. カードケージを取り付けます（前項の手順 8 を参照）。
9. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

   カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

   ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。
12. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
13. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI Express カード

ご購入されたお使いのコンピュータによっては、1 つの PCI Express x16 カードをサポートします。または 1 つの Express x1 カードをサポートする場合もあります。

1	PCI Express x16 カード	3	PCI Express x1 カードスロット
2	PCI Express x1 カード	4	PCI Express x16 カードスロット

PCI Express x16 カードを取り付けまたは交換する際は、「PCI Express x16 カードの取り付け」を参照してください。また、カードを取り外す際は、「PCI Express x16 カードの取り外し」を参照してください。

PCI Express x1 カードを取り付けまたは交換する際は、「PCI Express x1 カードの取り付け」を参照してください。また、カードを取り外す際は、「PCI Express x1 カードの取り外し」を参照してください。

PCI Express カードのどちらかのタイプを交換する場合、現在のドライバをオペレーティングシステムから削除します。

PCI Express x16 カードの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. PCI Express x16 カードを交換する場合、取り付けられているカードを取り外します。
    a. インデントタブが解除されるまで、親指を使ってヒンジレバーのインデントタブを押します。レバーをつかんだまま持ち上げます。

1	ヒンジレバー
2	インデントタブ（側面図）

    b. カードレバーを押して、カードコネクタから外します。
    c. カードを引き上げてカードクリップから取り出します。

1	レバー
2	固定スロット（すべてのカードにあるわけではありません）
3	固定タブ
4	PCI Express x16 カード
5	PCI Express x16 カードコネクタ

3. カードを取り付ける準備をします。

カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告： ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

4. カードの位置を確認して、固定スロットを固定タブに合わせます。次にカードレバーを押して、カードコネクタから開きあけます。
5. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

カードがフルレングスの場合、システム基板にあるカードコネクタの方にカードを下げて、カードの端をカードガイドブラケットに挿入します。カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	スロット内のブラケット
2	スロットの外側にはみ出したブラケット
3	完全に装着されたカード
4	完全に装着されていないカード

6. カードのレバーを手から離し、カードのレバーにあるタブがカード前面の端にある切り込みと合っていることを確認します。
7. 背面パネルのヒンジレバーを下げて、カードを固定します。
8. コンピュータカバーを閉じます。
9. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）
```

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. サウンドカードを取り付ける場合、次の手順を実行します。

  a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

  b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

13. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。

  a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

  b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

14. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express x16 カードの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。

2. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。

3. カードを取り外します（前項の手順 2 を参照）。

4. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

5. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

6. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）`

7. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

8. カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。

9. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。

  a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。

  b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

10. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。

  a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。

  b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI Express x1 カードの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。

2. カードケージを取り外します。

  a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。カードケージをコンピュータから取り外したら、長さが足りないためカードケージに届かないケーブルをすべて取り外します。

  b. ハンドルを慎重に引き、カードケージを持ち上げてコンピュータから取り外します。

1	カードケージ
2	ハンドル

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を作ります。

既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。カードの上端を持って、コネクタから取り外します。

4. カードを取り付ける準備をします。

カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

5. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。

6. カードをカードコネクタに挿入します。

カードがフルレングスの場合、システム基板にあるカードコネクタの方にカードを下げて、カードの端をカードガイドブラケットに挿入します。カードをライザーボードのカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	レバー	5	カードエッジコネクタ
2	保持アーム	6	カードコネクタ
3	フィラーブラケット	7	ライザーボード
4	PCI Express x1 カード	8	カードケージ

7. 保持アームを下ろして所定の位置に押し込み、カードをカードコネクタに固定します。

8. カードケージを取り付けます。

   a. カードケージ側面のタブをコンピュータの側面のスロットに合わせ、カードケージを所定の位置へ押し下げます。

   b. ライザーボードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

1	カードケージ
2	タブ（2）
3	スロット（2）

9. 手順 2 で取り外したすべてのケーブルを接続します。
10. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

11. コンピュータカバーを閉じます。
12. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

14. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

15. サウンドカードを取り付ける場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

   b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

16. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

   b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

17. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express x1 カードの取り外し

1. カードケージを取り外します（前項の手順 2 を参照）。
2. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。
3. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
4. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。
7. 前項の手順 8 で説明されているカードケージを取り付けます。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

8. カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。
9. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
   a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
   b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
10. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
   a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
   b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

シリアルポートアダプタ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ： お使いのスモールデスクトップコンピュータのシリアルポートアダプタには 2 つの PS/2 コネクタも組み込まれています。

シリアルポートアダプタの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードケージを取り外します（「PCI カードの取り付け」を参照）。
3. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。

1	保持アーム
2	フィラーブラケット
3	カードブラケット

4. フィラーブラケットを取り外します。
5. カードブラケットをカードスロット開口部にスライドして、保持アームを下げてブラケットを固定します。
6. 「プロセッサ」で説明されているプロセッサヒートシンクを取り外します。
7. シリアルシカードケーブルをカードケージの上を通して配線し、ケーブルをシステム基板のコネクタ（SER_PS2 とラベルに付いています）に取り付けます。
8. 「プロセッサ」で説明されているプロセッサヒートシンクを取り付けます。

1	システム基板のシリアルカードコネクタ（SER_PS2）
2	シリアルアダプタケーブル
3	カードケージ

注意： ネットワークケーブルに接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

9. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

シリアルポートアダプタの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 「プロセッサ」で説明されているプロセッサヒートシンクを取り外します。
3. シリアルアダプタケーブルをシステム基板のコネクタから取り外します。
4. 「プロセッサ」で説明されているプロセッサヒートシンクを取り付けます。
5. カードケージを取り外します（「PCI カードの取り付け」を参照）。
6. 保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます（前項の手順 3 を参照）。
7. カードブラケットを持ち上げて取り外します。
8. アダプタを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

   フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

9. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルに接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

10. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

    カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

    ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

コンピュータカバーの開け方

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. コンピュータスタンドが取り付けられている場合は、コンピュータスタンドを取り外します。
3. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合は、パドロックを取り外します。

注意： 開いたカバーを置く十分なスペースがあることを確認します。デスクトップ上に少なくとも 30 cm のスペースが必要です。

4. 図に示されている、2 つのリリースボタンの位置を確認します。次に、カバーを持ち上げると同時に2 つのリリースボタンを押します。

注意： ケーブルに損傷を与えないようにゆっくりとカバーを開きます。

5. カバーの後部を持ち上げ、コンピュータの前方へ起こします。

1	セキュリティケーブルスロット
2	パドロックリング
3	リリースボタン（両側に各 1）

コンピュータカバーの開け方

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. コンピュータスタンドが取り付けられている場合は、コンピュータスタンドを取り外します。
3. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合は、パドロックを取り外します。

注意： カバーを開いておくために十分なスペース（机の上に 30 cm 以上）があることを確認します。

4. 図に示されている、*2* つのリリースボタンの位置を確認します。次に、カバーを持ち上げると同時に*2* つのリリースボタンを押します。

注意： ケーブルに損傷を与えないようにゆっくりとカバーを開きます。

5. カバーの後部を持ち上げ、コンピュータの前方へ起こします。

1	セキュリティケーブルスロット
2	パドロックリング
3	リリースボタン（両側に各 1）

目次に戻る

ドライブ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- シリアル ATA ハードドライブを 1 台
- オプションのフロッピードライブを 1 台
- オプションの CD ドライブまたは DVD ドライブを 1 台

1	CD/DVD ドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

CD/DVD ドライブをシステム基板の「IDE」とラベルの付いたコネクタに接続します。シリアル ATA ハードドライブは、システム基板の「SATA0」または「SATA1」とラベルの付いたコネクタに接続する必要があります。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

IDE ドライブコネクタ	シリアル ATA コネクタ

1	インタフェースコネクタ
2	インタフェースケーブル
3	IDE ケーブルの色帯

大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤ（IDE ケーブルの片側に色帯が付いています ― シリアル ATA ケーブルには色帯は付いていません）が、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

注意：IDE インタフェースケーブルを接続する際は、色帯をコネクタの 1 番ピンから離れた位置に置かないでください。インタフェースケーブルを裏返しにすると、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

IDE ドライブデータケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

シリアル ATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持ち、ケーブルを外します。

IDE コネクタと同じように、シリアル ATA インタフェースは、正しく接続できるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。

ハードドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意：ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 「はじめに」の手順を実行します。

ハードドライブの取り外し

1. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブから取り外します。

1	ハードドライブケーブル
2	電源ケーブル

2. ドライブの両側のタブを押し込み、ドライブを上にスライドして取り外します。

1	タブ（2）
2	ハードドライブ

ハードドライブの取り付け

1. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

注意： ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

2. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
3. 交換するハードドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

4. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
5. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。

1	ハードドライブケーブル
2	電源ケーブル

6. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。
7. コンピュータカバーを閉じます。
8. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスをコンセントに接続します。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

10. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。
13. コンピュータの電源を入れます。
14. セットアップユーティリティを起動し、適切な **Primary Drive** オプション（**0** または **1**）をアップデートします。
15. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
16. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

17. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。
18. ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

ドライブベイカバー

フロッピードライブまたは CD/DVD ドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外します。

1. コンピュータの正面を手前に向けた状態で、指を使って前面パネルカバーを取り外します。

2. ドライブベイカバーが前面パネルカバーから外れるまで、ドライブベイカバーを押します。

フロッピードライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 新しいフロッピードライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

フロッピードライブの取り外し

1. データケーブルをフロッピードライブの上にある CD/DVD ドライブベイから取り外します。
2. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。
3. フロッピードライブケーブルをシステム基板の DSKT とラベルの付いたコネクタから取り外します。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

4. ドライブの両側にある 2 つのタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、フロッピードライブベイから取り外します。

フロッピードライブの取り付け

1. 交換するドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

2. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
3. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに接続します。
4. フロッピードライブケーブルのもう一方の端をシステム基板の DSKT とラベルの付いたコネクタに接続します。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル

3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

5. データケーブルをフロッピードライブの上にある CD/DVD ドライブベイに取り付けられたドライブの背面に接続しなおします。
6. すべてのケーブルの接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
7. コンピュータカバーを閉じます。
8. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

10. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします。
13. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

CD/DVD ドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 新しい CD/DVD ドライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

CD/DVD ドライブの取り外し

1. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブの背面から取り外します。
2. CD/DVD ドライブケーブルのもう片方の端をシステム基板の IDE コネクタから取り外します。

1	電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブケーブル
3	IDE コネクタ

3. ドライブの両側にある 2 つのタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、ドライブベイから取り外します。

CD / DVD ドライブの取り付け

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。IDE ドライブを取り付ける場合、ドライブを cable select に設定にします。

2. 交換するドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ(各レールに 2 本)をすべて差し込んでから締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

3. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
4. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブに接続します。
5. CD/DVD ドライブケーブルのもう片方の端をシステム基板の IDE コネクタに接続します。

1	電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブケーブル
3	IDE コネクタ

6. 専用のコントローラカードを持つドライブを取り付ける場合、コントローラカードをカードスロットに取り付けます。
7. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
8. コンピュータカバーを閉じます。
9. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

11. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.`（警告 ！ カバーが取り外されました。）

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

13. **Drives** の該当する **Drive** オプション（**0** または **1**）を設定して、設定情報を更新します。詳細に関しては、「セットアップユーティリティ」を参照してください。
14. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

ケーブル配線

1	フロッピードライブデータケーブル	5	シリアル ATA ドライブデータケーブル
2	CD/DVD ドライブデータケーブル	6	12V 電源ケーブル
3	コントロールパネルケーブル	7	前面入力 / オーディオデータケーブル
4	シリアル ATA ドライブ電源ケーブル		

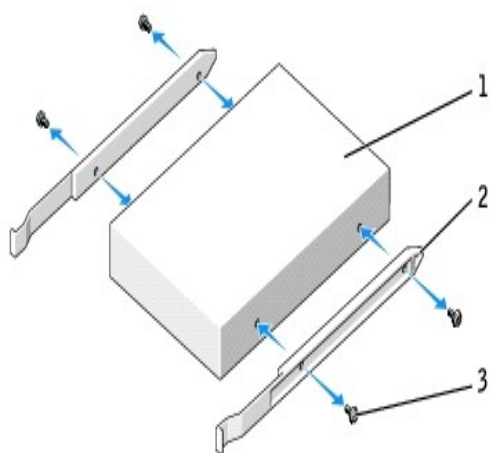
目次に戻る

目次に戻る

ドライブ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- シリアル ATA ハードドライブを 1 台
- オプションのフロッピードライブを 1 台
- オプションの CD ドライブまたは DVD ドライブを 1 台

1	CD/DVD ドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

CD/DVD ドライブをシステム基板の「IDE」とラベルの付いたコネクタに接続します。シリアル ATA ハードドライブは、システム基板の「SATA0」または「SATA1」とラベルの付いたコネクタに接続する必要があります。

メモ： お使いのコンピュータには、「SATA1」コネクタがある場合とない場合があります。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

IDE ドライブコネクタ	シリアル ATA コネクタ

1	インタフェースコネクタ
2	インタフェースケーブル
3	IDE ケーブルの色帯

大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤ（IDE ケーブルの片側に色帯が付いています ― シリアル ATA ケーブルには色帯は付いていません）が、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

注意： IDE インタフェースケーブルを接続する際は、色帯をコネクタの 1 番ピンから離れた位置に置かないでください。インタフェースケーブルを裏返しにすると、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

IDE ドライブデータケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

シリアル ATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持ち、ケーブルを外します。

IDE コネクタと同じように、シリアル ATA インタフェースは、正しく接続できるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。

ハードドライブ

⚠ **警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

⚠ **警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。**

注意：ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 「はじめに」の手順を実行します。

ハードドライブの取り外し

1. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブから取り外します。

1	ハードドライブケーブル
2	電源ケーブル

2. ドライブの両側のタブを押し込み、ドライブを上にスライドして取り外します。

1	タブ（2）
2	ハードドライブ

ハードドライブの取り付け

1. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

注意： ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

2. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
3. 交換するハードドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

4. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
5. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。

1	ハードドライブケーブル
2	電源ケーブル

6. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。
7. コンピュータカバーを閉じます。
8. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスをコンセントに接続します。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

10. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。
13. コンピュータの電源を入れます。
14. セットアップユーティリティを起動し、適切な **Primary Drive** オプション（**0** または **1**）をアップデートします。
15. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
16. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

17. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。
18. ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

ドライブベイカバー

フロッピードライブまたは CD/DVD ドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外します。

1. コンピュータの正面を手前に向けた状態で、指を使って前面パネルカバーを取り外します。

2. ドライブベイカバーが前面パネルカバーから外れるまで、ドライブベイカバーを押します。

フロッピードライブ

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告： 感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 新しいフロッピードライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

フロッピードライブの取り外し

1. データケーブルをフロッピードライブの上にある CD/DVD ドライブベイから取り外します。
2. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。
3. フロッピードライブケーブルをシステム基板の「DSKT」とラベルの付いたコネクタから取り外します。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

4. ドライブの両側にある 2 つのタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、フロッピードライブベイから取り外します。

フロッピードライブの取り付け

1. 交換するドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

2. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
3. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに接続します。
4. フロッピードライブケーブルのもう一方の端をシステム基板の「DSKT」とラベルの付いたコネクタに接続します。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

5. データケーブルをフロッピードライブの上にある CD/DVD ドライブベイに取り付けられたドライブの背面に接続しなおします。
6. すべてのケーブルの接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
7. コンピュータカバーを閉じます。
8. コンピュータスタンドを取り付けます(オプション)。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

10. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ(有効な場合)は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします。
13. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

CD / DVD ドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 新しい CD/DVD ドライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

CD / DVD ドライブの取り外し

1. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブの背面から取り外します。
2. CD/DVD ドライブケーブルのもう片方の端をシステム基板の IDE コネクタから取り外します。

1	電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブケーブル
3	IDE コネクタ

3. ドライブの両側にある 2 つのタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、ドライブベイから取り外します。

CD / DVD ドライブの取り付け

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。IDE ドライブを取り付ける場合、ドライブを cable select に設定にします。

2. 交換するドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

3. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
4. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブに接続します。
5. CD/DVD ドライブケーブルのもう片方の端をシステム基板の IDE コネクタに接続します。

1	電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブケーブル
3	IDE コネクタ

6. 専用のコントローラカードを持つドライブを取り付ける場合、コントローラカードをカードスロットに取り付けます。
7. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
8. コンピュータカバーを閉じます。
9. コンピュータスタンドを取り付けます(オプション)。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

11. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ(有効な場合)は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

13. **Drives** の該当する **Drive** オプション(**0** または **1**)を設定して、設定情報を更新します。詳細については、「セットアップユーティリティ」を参照してください。
14. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

ケーブル配線

1	フロッピードライブデータケーブル	5	シリアル ATA ドライブデータケーブル
2	CD/DVD ドライブデータケーブル	6	12V 電源ケーブル
3	コントロールパネルケーブル	7	正面入力 / オーディオケーブル
4	シリアル ATA ドライブ電源ケーブル		

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

スモールデスクトップコンピュータ

お使いのコンピュータのマニュアル

アドバンス機能

お使いのコンピュータについて

部品の拡張および交換

コンピュータおよびソフトウェアの問題

追加情報

メモ、注意、警告

メモ： コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意： ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告：物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。

略語について

略語の一覧表は、「用語集」を参照してください。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合、このマニュアルの Microsoft® Windows® オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

『Drivers and Utilities CD』（Resource CD）、オペレーティングシステムのメディア、および『クイックリファレンスガイド』はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

モデル: DHP、DHS、DCNE、DHM、および DCSM

2005 年 7 月 Y2952 Rev. A04

[目次に戻る](#)

プロセッサ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

プロセッサの交換

1. 「[はじめに](#)」の手順を実行します。
2. 冷却ファン電源ケーブルを[システム基板](#)の FAN コネクタから外します。
3. 電源ケーブルを[システム基板](#)の 12VPOWER コネクタから外します。

警告：通常の操作中に、ヒートシンクは非常に高温になります。アセンブリに触れる前には十分に時間をかけ、ヒートシンクの温度が下がっていることを確認してください。

4. ヒートシンク / 送風装置アセンブリを取り外します。

   a. 緑色の固定クリップの上のタブを押して、クリップを保持基盤から取り外します。

メモ： お使いのヒートシンクは下の図と異なる場合がありますが、同じ方法で取り外したり取り付けたりすることができます。

1	固定クリップ
2	タブ
3	保持基盤

   b. ヒートシンクの一方の端を持ち上げたまま、タブを押して、ヒートシンクを取り外します。

注意： サーマルマテリアルが付いた面を上に向けてヒートシンクを置きます。

メモ： お使いのヒートシンクは下の図と異なる場合がありますが、同じ方法で取り外したり取り付けたりすることができます。

1	ヒートシンク / 送風装置アセンブリ	4	保持基盤
2	ネジ	5	ヒートシンク
3	タブ	6	ネジ

5. 送風装置の 2 本のネジを外して、ヒートシンクから送風装置を取り外します。

注意： デルのプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、元のヒートシンクは廃棄してください。デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、新しいプロセッサを取り付ける際は、元のヒートシンクを再利用してください。

6. プロセッサカバーを開きます。

1	プロセッサカバー
2	プロセッサ
3	ソケット
4	リリースレバー

注意： プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

7. プロセッサをソケットから取り外します。

新しいプロセッサをソケットにすぐに取り付けられるように、リリースレバーはリリース位置に広げたままにしておきます。

注意： コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を除去してください。

注意： プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

8. プロセッサの底部に触らないように気をつけながら、新しいプロセッサを梱包から取り出します。

注意： コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できないような損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

9. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。
10. プロセッサの前面と背面の位置合わせ用の切り込みを、ソケットの前面と背面の位置合わせ用の切り込みに合わせます。
11. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	プロセッサカバー	6	リリースレバー
2	タブ	7	前面位置合わ用の切り込み
3	プロセッサ	8	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印
4	プロセッサソケット	9	背面位置合わせ用の切り込み
5	センターカバーラッチ		

注意： 損傷を防ぐため、プロセッサとソケットが正しく揃っているか確認してください。プロセッサを取り付ける際に無理に力を加えないでください。

12. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。
13. プロセッサがソケットに完全に装着されたら、プロセッサカバーを閉じます。

プロセッサカバーのタブがソケットのセンターカバーラッチの下にあるか確認します。

14. ソケットリリースレバーをソケットの後ろ側へ回し、カッチッと所定の位置に収めてプロセッサを固定します。

注意： デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、プロセッサを交換する際は、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

デルのプロセッサ交換キットを取り付けた場合、元のヒートシンクアセンブリとプロセッサを、交換キットが送られてきた同じパッケージを使用してデルに返却してください。

15. 送風装置をヒートシンクに装着する 2 本のネジを取り付けます。
16. ヒートシンク / 送風装置アセンブリを取り付けます。

a. ヒートシンクの一方の端を保持基盤の端にあるタブの下に置きます。

b. ヒートシンクが保持基盤のタブの下にしっかりと収まるまでヒートシンクを押し下げます。

c. タブの反対側にある切り込みのあるクリップの端を保持基盤のスロットの中に入れて、固定クリップを挿入します。固定クリップタブを押して、固定クリップを所定の位置に押し込みます。ノッチのある固定クリップの端が保持基盤のスロットに固定されているか確認します。

メモ: お使いのヒートシンクは下の図と異なる場合がありますが、同じ方法で取り外したり取り付けることができます。

1	ヒートシンク / 送風装置アセンブリ	4	保持基盤
2	ネジ	5	ヒートシンク
3	タブ	6	ネジ

1	固定クリップ
2	タブ
3	スロット
4	保持基盤

17. 冷却ファン電源ケーブルをシステム基板の FAN コネクタに接続します。

18. 電源ケーブルをシステム基板の 12VPOWER コネクタに接続します。

19. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

20. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

21. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

目次に戻る

お使いのスモールフォームファクターコンピュータについて

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

正面図

1	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスの起動については、「セットアップユーティリティ」を参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
2	CD/DVD ドライブ動作ライト	ドライブ動作ライトは、コンピュータが CD または DVD ドライブからデータを読み取る際に点灯します。
3	CD/DVD ドライブ取り出しボタン	このボタンを押して、CD または DVD をドライブから取り出します。
4	フロッピードライブ取り出しボタン	このボタンを押して、フロッピーディスクをフロッピードライブから取り出します。
5	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意：** データの損失を防ぐため、電源ボタンを使ってコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。 **メモ：** お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
6	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 ・消灯 — コンピュータの電源は切れています。（S4、S5、または機械的オフ） ・緑色の点灯 — コンピュータは通常の動作状態です。 ・緑色の点滅 — コンピュータは、省電力状態です。（S1 または S3） ・黄色の点滅または点灯 —「電源の問題」を参照してください。 省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰するデバイスに設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止状態および省電力状態からの復帰の詳細に関しては、「電力の管理」を参照してください。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「診断ライト」を参照してください。
7	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブライトは、コンピュータがデータをハードドライブから読み書きしている場合に点灯します。このライトは、CD プレーヤーなどのデバイスが動作中にも点灯します。
8	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます。

背面図

1	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスを対応するコネクタに差し込みます。
2	セキュリティケーブルスロット	スロットに付属しているセキュリティケーブルを使って、コンピュータを保護することができます。
3	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
4	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。
5	電圧切り替えスイッチ（すべてのコンピュータに搭載されているわけではありません）	詳細に関しては、『製品情報ガイド』の安全手順を参照してください
6	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。

1	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細に関しては、「セットアップオプション」を参照してください。
2	リンク保全ライト	l 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 黄色 — 1 Gbps（または 1000 Mbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ：** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用して、ネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
4	ネットワーク動作ライト	コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している際に黄色のライトが点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン入力コネクタ	青色のライン入力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR などの録音 / 再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	マイクコネクタ	ピンク色のマイクコネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、音声または音楽入力用のパソコンマイクをサウンドあるいはテレフォニープログラムに接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、マイクコネクタはカードにあります。
8	USB 2.0 コネクタ（6）	プリンタやキーボードなど、通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。 ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します。
9	診断ライト	診断ライトは、Diagnostic（診断）コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細に関しては、「診断ライト」を参照してください。
10	ビデオ	VGA 互換モニターのケーブルを青色のコネクタに差し込みます。

	コネクタ	**メモ:** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。お使いのモニターをグラフィックスカードのコネクタに接続します。キャップは取り外さないでください。 **メモ:** デュアルモニターをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
11	パラレル コネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ:** 同じアドレスに設定されたパラレルコネクタを持つカードをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細に関しては、「セットアップオプション」を参照してください。

コンピュータ内部

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電を防ぐため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータカバーを開く際は、誤ってシステム基板からケーブルが外れないように注意してください。

1	ハードドライブ	6	システム基板
2	フロッピードライブ	7	電源装置
3	CD/DVD ドライブ	8	パドロックリング
4	内蔵スピーカー	9	ヒートシンクと送風装置アセンブリ
5	シャーシイントルージョンスイッチ		

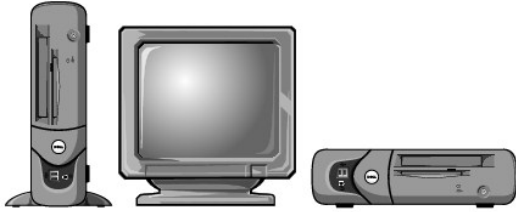
システム基板のコンポーネント

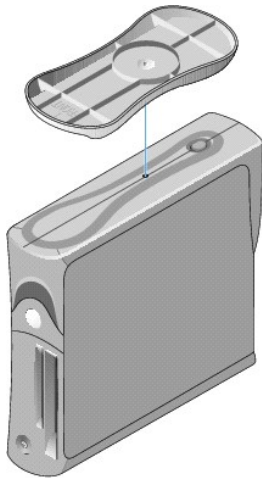
1	RTC リセットジャンパ(RTCRST)	14	ライン入力、ライン出力、およびマイクコネクタ(AUDIO)
2	フロッピードライブコネクタ(DSKT)	15	ネットワークコネクタ(NIC)および USB コネクタ(USB2)
3	バッテリーソケット(BATTERY)	16	USB コネクタ(USB 1)
4	内蔵スピーカー(SPEAKER)	17	診断ライト(DIAG LED)
5	CD/DVD ドライブコネクタ(IDE)	18	シリアルポートコネクタ(SER1)およびビデオコネクタ(VGA)
6	前面パネルコネクタ(FRONTPANEL)	19	パラレルポートコネクタ(PAR)
7	シリアル ATA ドライブ 0 コネクタ(SATA0)	20	電源コネクタ(12VPOWER)
8	スタンバイ電源ライト(AUX_PWR)	21	プロセッサおよびヒートシンクコネクタ(CPU)
9	メモリモジュールコネクタ(DIMM1、DIMM2)	22	ヒートシンク / 送風装置保持パッド
10	PCI Express x16 コネクタ(PEG)	23	シリアルポート 2 コネクタ(SER_PS2)
11	PCI ライザーコネクタ(PCI)	24	ファンコネクタ(FAN)
12	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ(CD_IN)	25	パスワードジャンパ(PSWD)
13	前面パネルオーディオケーブルコネクタ(FRONTAUDIO)	26	電源コネクタ(POWER)

コンピュータスタンドの取り付けと取り外し

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ： トップカバーを傷付けないように柔らかい表面の上にコンピュータを置いてください。

お使いのコンピュータは、縦置き、横置きのどちらでも使用できます。

コンピュータを縦置きにして使用するには、コンピュータスタンドを取り付ける必要があります。

1. ドライブベイが下になるように、右側を下にしてコンピュータを置きます。
2. スタンドをコンピュータの左側だった方に装着します。
   a. 次の図に示すように、スタンドの大きな丸い穴をカバー側面の固定ボタンに合わせ、スタンドの拘束ネジをカバーのネジ穴に合わせてスタンドを置きます。
   b. スタンドが所定の位置に収まったら、蝶ネジを締めます。
3. スタンドが下に、ドライブが上になるようにコンピュータを立てます。

スタンドを取り外すには、次の手順を実行します。

1. スタンドが上にくるようにコンピュータを反転させます。
2. 蝶ネジを緩め、スタンドを持ち上げて外します。
3. コンピュータを水平に置きます。

目次に戻る

目次に戻る

PCI カード、PCI Express カード、およびシリアルポートアダプタ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

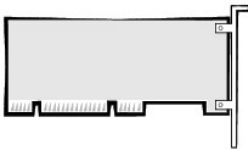
Dell™ コンピュータには PCI、PCI Express カードまたはシリアルポートアダプタ用に次のスロッが搭載されています。

- PCI カードスロットが 1 つ
- PCI Express x16 カードスロットが 1 つ

メモ： お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

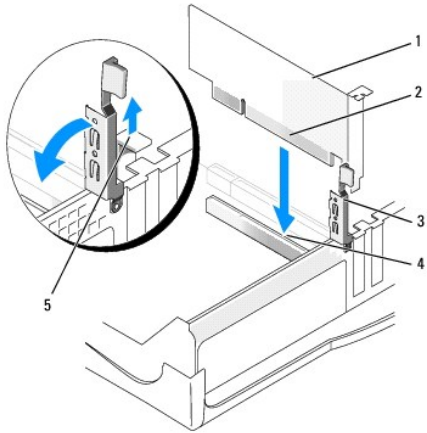
PCI カード

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

カードを取り付けるか交換する場合、次の手順を実行します。PCI カードを取り外したままにする場合、「PCI カードの取り外し」に進みます。

カードを交換する場合、現在のカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。

PCI カードの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 保持アームを持ち上げます。

1	カード	4	カードコネクタ
2	エッジコネクタ	5	フィラーブラケット
3	保持アーム		

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外して空のカードスロット開口部を作成します。次に、手順 5 に進みます。

4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。

   必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。カードの上端の角を持って、コネクタから取り外します。

5. カードを取り付ける準備をします。

   カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

6. カードをコネクタの上に置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

   カードがフルレングスの場合、システム基板にあるカードコネクタの方にカードを下げて、カードの端をカードガイドブラケットに挿入します。カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。

7. 保持アームを下げる前に、以下のことを確認します。
   - すべてのカードとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーと平らに揃っている。
   - カードの上部の切り込みまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

8. 保持アームを所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

1	位置合わせガイド
2	フィラーブラケット
3	位置合わせバー
4	保持アーム

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

9. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
13. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
14. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードの保持アームレバーを押して、保持アームを持ち上げます。
3. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
4. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）
```

8. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

9. カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。
10. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
11. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI Express カード

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

お使いのコンピュータは 1 つの PCI Express x16 カードをサポートしています

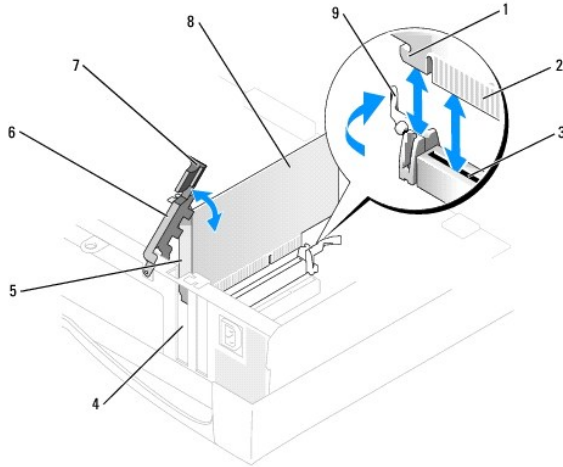
1	PCI Express x16 カード
2	PCI Express x16 カードスロット

PCI Express カードを取り付けるか交換する場合、次の項の手順を実行します。カードを取り外したままにする場合、「PCI Express カードの取り外し」を参照してください。

カードを交換する場合、現在のカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。

PCI カードを取り付けるか交換する場合、「PCI カードの取り付け」を参照してください。

PCI Express カードの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードの保持アームレバーを押して、保持アームを持ち上げます。

1	固定スロット（すべてのカードにあるわけではありません）	6	保持アーム
2	エッジコネクタ	7	レバー
3	カードコネクタ	8	PCI Express x16 カード
4	カード開口部	9	固定タブ
5	フィラーブラケット		

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロットに開口部を作ります。次に、手順 5 に進みます。

4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。

   必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。固定タブを軽く引き、カードの上端の角を両手でつかみ、コネクタから取り外します。

5. カードを取り付ける準備をします。

   カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

6. カードを x16 カードコネクタに取り付ける場合、カードを固定スロットと固定タブが揃うように向け、次に軽く固定タブを引きます。

7. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

   カードがフルレングスの場合、システム基板にあるカードコネクタの方にカードを下げて、カードの端をカードガイドブラケットに挿入します。カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	スロット内のブラケット
2	スロットの外側にはみ出したブラケット
3	完全に装着されたカード
4	完全に装着されていないカード

8. 保持アームを下げる前に、以下のことを確認します。
   - すべてのカードとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーと平らに揃っている。
   - カードの上部の切り込みまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている。
9. 保持アームを所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

1	位置合わせガイド
2	フィラーブラケット
3	位置合わせバー
4	保持アーム

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

10. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

13. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

14. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
15. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express カードの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードの保持アームレバーを押して、保持アームを持ち上げます。
3. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
4. 固定タブを軽く後ろ側へ引き、カードの上端の角を両手でつかみ、コネクタから取り外します。
5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.`（警告 ! カバーが取り外されました。）

8. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ: 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

9. カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。
10. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
11. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

シリアルポートアダプタ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ: お使いのスモールフォームファクターコンピュータのシリアルポートアダプタには 2 つの PS/2 コネクタも組み込まれています。

シリアルポートアダプタの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 保持アームを持ち上げます。

3. フィラーブラケットを取り外します。
4. カードブラケットをカードスロット開口部にスライドし、保持アームを下げて、次のことを確認します。
   - すべてのカードとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーと平らに揃っている。
   - カードの上部の切り込みまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている。

1	SER_PS2 システム基板コネクタ
2	シリアルカードケーブル
3	カードブラケット
4	カードスロット開口部

5. 「プロセッサ」で説明されているようにマイクロプロセッサヒートシンクを取り外します。
6. シリアルカードケーブルをシステム基板の「SER_PS2」とラベルの付いたコネクタに接続します。
7. 「プロセッサ」で説明されているようにマイクロプロセッサヒートシンクを取り付けます。
8. アームを所定の位置に押し、カードをコンピュータに固定します。
9. 次の項の手順 7 に進みます。

シリアルポートアダプタの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. シリアルカードケーブルをシステム基板のコネクタから取り外します。
3. 保持アームを持ち上げます。
4. カードブラケットを持ち上げて取り外します。
5. アダプタを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルに接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

7. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

8. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

目次に戻る

コンピュータカバーの開け方

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. コンピュータスタンドが取り付けられている場合は、コンピュータスタンドを取り外します。
3. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合は、パドロックを取り外します。

注意： 開いたカバーを置く十分なスペースがあることを確認します。デスクトップ上に少なくとも 30 cm のスペースが必要です。

4. 図に示されている、*2* つのリリースボタンの位置を確認します。次に、カバーを持ち上げると同時に*2* つのリリースボタンを押します。

注意： ケーブルに損傷を与えないようにゆっくりとカバーを開きます。

5. カバーの後部を持ち上げ、コンピュータの前方へ起こします。

1	セキュリティケーブルスロット
2	パドロックリング
3	リリースボタン（両側に各 1）

目次に戻る

目次に戻る

ドライブ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- シリアル ATA ハードドライブを 1 台
- オプションのフロッピードライブを 1 台
- オプションの CD ドライブまたは DVD ドライブを 1 台

1	CD/DVD ドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

CD/DVD ドライブをシステム基板の「IDE」とラベルの付いたコネクタに接続します。シリアル ATA ハードドライブは、システム基板の「SATA0」とラベルの付いたコネクタに接続します。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

IDE ドライブコネクタ	**シリアル ATA コネクタ**

1	インタフェースコネクタ
2	インタフェースケーブル

大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤが、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

IDE ドライブデータケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

シリアル ATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持ち、ケーブルを外します。

IDE コネクタと同じように、シリアル ATA インタフェースは、正しく接続できるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。

ハードドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意：ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 「はじめに」の手順を実行します。

ハードドライブの取り外し

1. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブから外します。

1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

2. ドライブ両端のタブを押し込み、ドライブを I/O パネルの方へスライドして、ドライブをコンピュータから取り外します。

ハードドライブの取り付け

1. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
2. 交換するハードドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

3. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
4. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

5. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。
6. コンピュータカバーを閉じます。
7. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. コンピュータとデバイスをコンセントに接続します。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。
10. コンピュータの電源を入れます。
11. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

13. セットアップユーティリティを起動し、適切なプライマリ **Drive** オプション（**0** または **1**）をアップデートします。
14. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

15. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

16. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。
17. プライマリドライブを取り付けた場合、ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

ドライブベイカバー

フロッピードライブまたは CD/DVD ドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外します。

フロッピードライブ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 新しいフロッピードライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

フロッピードライブの取り外し

1. フロッピードライブケーブルをシステム基板のコネクタ(「DSKT」とラベルが付いています)から取り外します。
2. 電源ケーブルをインタポーザボードから取り外します。
3. ドライブ両側の緑色のタブを押しながらドライブを持ち上げ、ドライブを取り外すか持ち上げたままにします。
4. フロッピードライブケーブルをフロッピードライブから取り外します。
   a. タブを押しながらインタポーザボードを引き上げ、インタポーザボードをフロッピードライブから取り外します。
   b. フロッピードライブケーブルをコネクタから取り外すには、レバーを開放位置までスライドしてからケーブルを持ち上げます。

1	タブ
2	インタポーザボード
3	レバー
4	フロッピードライブケーブル
5	システム基板のフロッピードライブコネクタ（DSKT）

5. フロッピードライブを上に押し上げ、ドライブをスレッドから押し出しながらスレッドタブを引き出して、フロッピードライブをスレッドから取り外します。

1	スレッドタブ
2	スレッド

フロッピードライブの取り付け

1. 交換用のドライブをスレッドにカチッとはめ込み、ドライブがスレッドに固定されているか確認します。
2. インタポーザボードをフロッピードライブに接続します。
   a. フロッピードライブケーブルをコネクタに差し込みます。
   b. レバーを閉じてケーブルをコネクタに固定します。
   c. インタポーザボードの底面の穴をコネクタの切り込みに合わせ、インタポーザボードをドライブにカチッと押し込みます。
3. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	フロッピードライブコネクタ
2	インタポーザボード
3	レバー
4	フロッピードライブケーブル
5	システム基板のフロッピードライブコネクタ（DSKT）

4. 電源ケーブルをフロッピードライブのインタポーザボードに接続します。
5. フロッピードライブケーブルをシステム基板の DSKT コネクタに接続します。
6. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
7. コンピュータカバーを閉じます。
8. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

10. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします。
13. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

CD / DVD ドライブ

⚠ **警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

⚠ **警告： 感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。**

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 新しい CD/DVD ドライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

CD / DVD ドライブの取り外し

1. 電源ケーブルをインタポーザボードから取り外します。
2. インタポーザボードをドライブから取り外します。

1	インタポーザボード

3. ドライブの両側にある 2 つのタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、ドライブベイから取り外します。

CD / DVD ドライブの取り付け

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。IDE ドライブを取り付ける場合、ドライブを cable select に設定にします。

2. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

3. インタポーザボードを CD ドライブに接続します。

   a. インタポーザボードのタブが、カバー内側の切り込みの下に確実に収まっているか確認します。

   b. 電源ケーブルをインタポーザボードに取り付けます。

1	インタポーザボード
2	カバー内側の切り込み
3	インタポーザボードのタブ

コンピュータに IDE CD ドライブが搭載されている場合、既存のインタフェースケーブルに付いている予備コネクタを使用します。それ以外の場合、ドライブキットに付属の IDE インタフェースケーブルを使用します。

4. コントローラカードが付属しているドライブを取り付ける場合、コントローラカードを拡張スロットに取り付けます。

5. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

6. コンピュータカバーを閉じます。

7. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. **Drives** の該当する **Drive** オプション（**0**または **1**）を設定して、設定情報を更新します。詳細については、「セットアップユーティリティ」を参照してください。

12. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

ケーブル配線

1	CD/DVD ドライブデータケーブル	6	IDE ドライブ電源ケーブル
2	フロッピードライブデータケーブル	7	前面 I/O データケーブル
3	コントロールパネルケーブル	8	前面 I/O オーディオケーブル
4	CD/DVD およびフロッピードライブ電源ケーブル	9	12V 電源ケーブル
5	シリアル ATA ドライブデータケーブル		

目次に戻る

[目次に戻る]

ドライブ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- シリアル ATA ハードドライブを 1 台
- オプションのフロッピードライブを 1 台
- オプションの CD ドライブまたは DVD ドライブを 1 台

1	CD/DVD ドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

CD/DVD ドライブをシステム基板の「IDE」とラベルの付いたコネクタに接続します。シリアル ATA ハードドライブは、システム基板の「SATA0」とラベルの付いたコネクタに接続します。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

IDE ドライブコネクタ	シリアル ATA コネクタ

1	インタフェースコネクタ
2	インタフェースケーブル

大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤが、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

IDE ドライブデータケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

シリアル ATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持ち、ケーブルを外します。

IDE コネクタと同じように、シリアル ATA インタフェースは、正しく接続できるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。

ハードドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意：ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 「はじめに」の手順を実行します。

ハードドライブの取り外し

1. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブから外します。

1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

2. ドライブ両端のタブを押し込み、ドライブを I/O パネルの方へスライドして、ドライブをコンピュータから取り外します。

ハードドライブの取り付け

1. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
2. 交換するハードドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

3. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
4. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

5. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。
6. コンピュータカバーを閉じます。
7. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. コンピュータとデバイスをコンセントに接続します。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。
10. コンピュータの電源を入れます。
11. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）`

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

13. セットアップユーティリティを起動し、適切なプライマリ **Drive** オプション（**0** または **1**）をアップデートします。
14. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
15. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

16. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。
17. プライマリドライブを取り付けた場合、ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

ドライブベイカバー

フロッピードライブまたは CD/DVD ドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外します。

フロッピードライブ

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告： 感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 新しいフロッピードライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

フロッピードライブの取り外し

1. フロッピードライブケーブルをシステム基板のコネクタ（「DSKT」とラベルが付いています）から取り外します。
2. 電源ケーブルをインタポーザボードから取り外します。
3. ドライブ両側の緑色のタブを押しながらドライブを持ち上げ、ドライブを取り外すか持ち上げたままにします。
4. フロッピードライブケーブルをフロッピードライブから取り外します。
    a. タブを押しながらインタポーザボードを引き上げ、インタポーザボードをフロッピードライブから取り外します。
    b. フロッピードライブケーブルをコネクタから取り外すには、レバーを開放位置までスライドしてからケーブルを持ち上げます。

1	タブ
2	インタポーザボード
3	レバー
4	フロッピードライブケーブル
5	システム基板のフロッピードライブコネクタ（DSKT）

5. フロッピードライブを上に押し上げ、ドライブをスレッドから押し出しながらスレッドタブを引き出して、フロッピードライブをスレッドから取り外します。

1	スレッドタブ
2	スレッド

フロッピードライブの取り付け

1. 交換用のドライブをスレッドにカチッとはめ込み、ドライブがスレッドに固定されているか確認します。
2. インタポーザボードをフロッピードライブに接続します。
   a. フロッピードライブケーブルをコネクタに差し込みます。
   b. レバーを閉じてケーブルをコネクタに固定します。
   c. インタポーザボードの底面の穴をコネクタの切り込みに合わせ、インタポーザボードをドライブにカチッと押し込みます。
3. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	フロッピードライブコネクタ
2	インタポーザボード
3	レバー
4	フロッピードライブケーブル
5	システム基板のフロッピードライブコネクタ（DSKT）

4. 電源ケーブルをフロッピードライブのインタポーザボードに接続します。
5. フロッピードライブケーブルをシステム基板の DSKT コネクタに接続します。

6. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
7. コンピュータカバーを閉じます。
8. コンピュータスタンドを取り付けます(オプション)。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

10. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ(有効な場合)は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.(警告 ! カバーが取り外されました。)
```

11. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします。
13. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

CD / DVD ドライブ

警告： **本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

警告： **感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。**

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 新しい CD/DVD ドライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

CD / DVD ドライブの取り外し

1. 電源ケーブルをインタポーザボードから取り外します。
2. インタポーザボードをドライブから取り外します。

1	インタポーザボード

3. ドライブの両側にある 2 つのタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、ドライブベイから取り外します。

CD / DVD ドライブの取り付け

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。IDE ドライブを取り付ける場合、ドライブを cable select に設定にします。

2. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
3. インタポーザボードを CD ドライブに接続します。
   a. インタポーザボードのタブが、カバー内側の切り込みの下に確実に収まっているか確認します。
   b. 電源ケーブルをインタポーザボードに取り付けます。

1	インタポーザボード
2	カバー内側の切り込み
3	インタポーザボードのタブ

コンピュータに IDE CD ドライブが搭載されている場合、既存のインタフェースケーブルに付いている予備コネクタを使用します。それ以外の場合、ドライブキットに付属の IDE インタフェースケーブルを使用します。

4. コントローラカードが付属しているドライブを取り付ける場合、コントローラカードを拡張スロットに取り付けます。
5. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
6. コンピュータカバーを閉じます。
7. コンピュータスタンドを取り付けます（オプション）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. **Drives** の該当する **Drive** オプション（**0**または **1**）を設定して、設定情報を更新します。詳細に関しては、「セットアップユーティリティ」を参照してください。

12. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

ケーブル配線

1	CD/DVD ドライブデータケーブル	6	IDE ドライブ電源ケーブル
2	フロッピードライブデータケーブル	7	前面 I/O データケーブル
3	コントロールパネルケーブル	8	前面 I/O オーディオケーブル
4	CD/DVD およびフロッピードライブ電源ケーブル	9	12V 電源ケーブル
5	シリアル ATA ドライブデータケーブル		

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

スモールフォームファクターコンピュータ

メモ、注意、警告

メモ： コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意： ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告：物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。

略語について

略語の一覧表は、「用語集」を参照してください。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合、このマニュアルの Microsoft® Windows® オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

『Drivers and Utilities CD』（Resource CD）、オペレーティングシステムのメディア、および『クイックリファレンスガイド』はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

モデル: DHP、DHS、DCNE、DHM、および DCSM

2005 年 7 月 Y2952 Rev. A04

[目次に戻る]

プロセッサ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

プロセッサの交換

1. 「[はじめに]」の手順を実行します。
2. 冷却ファン電源ケーブルを[システム基板]の FAN コネクタから取り外します。
3. 電源ケーブルを[システム基板]の 12VPOWER コネクタから取り外します。

警告：通常の操作中に、ヒートシンクは非常に高温になります。アセンブリに触れる前には十分に時間をかけ、ヒートシンクの温度が下がっていることを確認してください。

4. ヒートシンクを取り外します。

   a. 緑色の固定クリップの上のタブを押して、クリップを保持基盤から取り外します。

   メモ： お使いのヒートシンクは下の図と異なる場合がありますが、同じ方法で取り外したり取り付けることができます。

1	固定クリップ
2	タブ
3	保持基盤

   b. ヒートシンクの一方の端を持ち上げたまま、タブを押して、ヒートシンクを取り外します。

注意： サーマルマテリアルが付いた面を上に向けてヒートシンクを置きます。

メモ： お使いのヒートシンクは下の図と異なる場合がありますが、同じ方法で取り外したり取り付けることができます。

1	ヒートシンク / 送風装置アセンブリ	4	保持基盤
2	ネジ	5	ヒートシンク
3	タブ	6	ネジ

5. 送風装置の 2 本のネジを外して、ヒートシンクから送風装置を取り外します。

注意： デルのプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、元のヒートシンクは廃棄してください。デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、新しいプロセッサを取り付ける際は、元のヒートシンクを再利用してください。

6. プロセッサカバーを開きます。

1	プロセッサカバー
2	プロセッサ
3	ソケット
4	リリースレバー

注意： プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

7. プロセッサをソケットから取り外します。

新しいプロセッサをソケットにすぐに取り付けられるように、リリースレバーはリリース位置に広げたままにしておきます。

注意： コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を除去してください。

注意： プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

8. プロセッサの底部に触らないように気をつけながら、新しいプロセッサを梱包から取り出します。

注意： コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できないような損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

9. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。
10. プロセッサの前面と背面の位置合わせ用の切り込みをソケットの前面と背面の位置合わせ用の切り込みに合わせます。
11. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	プロセッサカバー	6	リリースレバー
2	タブ	7	前面位置合わせ用の切り込み
3	プロセッサ	8	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印
4	ソケット	9	背面位置合わせ用の切り込み
5	センターカバーラッチ		

注意： 損傷を防ぐため、プロセッサとソケットが正しく揃っているか確認してください。プロセッサを取り付ける際に無理に力を加えないでください。

12. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。
13. プロセッサがソケットに完全に装着されたら、プロセッサカバーを閉じます。

プロセッサカバーのタブがソケットのセンターカバーラッチの下にあるか確認します。

14. ソケットリリースレバーをソケットの後ろ側へ回し、カチッと所定の位置に収めてプロセッサを固定します。

注意： デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、プロセッサを交換する際は、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

デルのプロセッサ交換キットを取り付けた場合、元のヒートシンクアセンブリとプロセッサを、交換キットが送られてきた同じパッケージを使用してデルに返却してください。

15. 送風装置をヒートシンクに装着する 2 本のネジを取り付けます。
16. ヒートシンク / 送風装置アセンブリを取り付けます。
    a. ヒートシンクの一方の端を保持基盤の端にあるタブの下に置きます。
    b. ヒートシンクが保持基盤のタブの下にしっかりと収まるまでヒートシンクを押し下げます。
    c. タブの反対側にある、切り込みのあるクリップの端を保持基盤のスロットの中に入れて、固定クリップを挿入します。固定クリップタブを押して、固定クリップを所定の位置に押し込みま

す。切り込みのある固定クリップの端が保持基盤のスロットに固定されているか確認します。

メモ: お使いのヒートシンクは下の図と異なる場合がありますが、同じ方法で取り外したり取り付けることができます。

1	ヒートシンク / 送風装置アセンブリ	4	保持基盤
2	ネジ	5	ヒートシンク
3	タブ	6	ネジ

1	固定クリップ
2	タブ
3	スロット
4	保持基盤

17. 冷却ファン電源ケーブルをシステム基板の FAN コネクタに接続します。
18. 電源ケーブルをシステム基板の 12VPOWER コネクタに接続します。
19. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

20. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.`（警告 ！ カバーが取り外されました。）

21. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

目次に戻る

お使いのスモールミニタワーコンピュータについて

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

正面図

1	CD/DVD ドライブ取り出しボタン	このボタンを押して、CD/DVD をドライブから取り出します。
2	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブライトは、コンピュータがデータをハードドライブから読み書きしている場合に点灯します。このライトは、CD プレーヤーなどのデバイスが動作中にも点灯します。
3	前面パネルドア	前面パネルコネクタを使用する際に、このドアを開きます。 **メモ：** 前面ドアは取り外し可能です。ドアを取り外した場合や、誤ってヒンジから外れてしまった場合でも、元の位置に取り付けることができます。ドアの取り付け方法については、「前面パネルドアおよびヒンジアーム」を参照してください。
4	前面通気孔	前面通気孔はコンピュータ内部を冷却します。
5	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます。
6	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスからの起動については、「セットアップユーティリティ」を参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
7	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意：** データの損失を防ぐため、6 秒以上電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。 **注意：** お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
8	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 ・ 消灯 — コンピュータは電源が切れた状態です（S4、S5、または機械的オフ）。 ・ 緑色の点灯 — コンピュータは通常の動作状態です。 ・ 緑色の点滅 — コンピュータは省電力状態です（S1 または S3）。 ・ 黄色の点滅または点灯 —「電源の問題」を参照してください。 省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスに設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止状態および省電力状態からの復帰の詳細に関しては、「電力の管理」を参照してください。

		コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「診断ライト」を参照してください。
9	フロッピードライブ動作ライト	フロッピードライブライトは、コンピュータがフロッピードライブからデータを読み書きしている場合に点灯します。このライトが消灯するのを待ってから、フロッピーディスクをドライブから取り出します。
10	フロッピードライブ取り出しボタン	このボタンを押して、フロッピーディスクをフロッピードライブから取り出します。

背面図

1	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
2	電圧切り替えスイッチ(すべてのコンピュータに搭載されているわけではありません)	お使いのコンピュータには、電圧自動感知セレクタまたは手動の電圧切り替えスイッチのどちらかが装備されています。電圧自動感知セレクタの付いたコンピュータには、背面パネルに電圧切り替えスイッチは装備されておらず、適切な電圧を自動的に検出します。 手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、ご使用地域の AC 電源に最も近い値に電圧切り替えスイッチが設定されていることを確認します。 **注意**： 日本で使用できる AC 電源は 100 V ですが、電圧切り替えスイッチを 115 V に設定してください。 また、モニターやコンピュータに取り付けられているデバイスもご使用地域の AC 電源で動作するように設定してください。
3	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスを対応するコネクタに差し込みます。
4	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。

1	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細に関しては、「セットアップオプション」を参照してください。
2	リンク保全ライト	l 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 黄色 — 1 Gbps(または 1000 Mbps)ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。

		l　オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ：** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用してネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
4	ネットワーク動作ライト	コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している際に黄色のライトが点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン入力コネクタ	青色のライン入力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR などの録音 / 再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	マイクコネクタ	ピンク色のマイクコネクタ（オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、音声または音楽入力用のパソコンマイクをサウンドあるいはテレフォニープログラムに接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、マイクコネクタはカードにあります。
8	USB 2.0 コネクタ（6）	プリンタやキーボードなど、通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。 ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します。
9	診断ライト	診断ライトは、Diagnostic（診断）コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細に関しては、「診断ライト」を参照してください。
10	ビデオコネクタ	VGA 互換モニターのケーブルを青色のコネクタに差し込みます。 **メモ：** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。お使いのモニターをグラフィックスカードのコネクタに接続します。キャップは取り外さないでください。 **メモ：** デュアルモニターをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
11	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ：** 同じアドレスに設定されたパラレルコネクタを持つカードをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細に関しては、「セットアップオプション」を参照してください。

コンピュータ内部

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電を防ぐため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータカバーを開く際は、誤ってシステム基板からケーブルが外れないように注意してください。

1	ハードドライブ	6	ヒートシンクと送風装置アセンブリ
2	内蔵スピーカー	7	電源装置
3	シャーシイントルージョンスイッチ	8	フロッピードライブ
4	システム基板	9	CD/DVD ドライブ
5	パドロックリングとセキュリティケーブルスロット		

システム基板のコンポーネント

1	電源コネクタ（POWER）	15	ライン入力、ライン出力、およびマイクコネクタ（AUDIO）

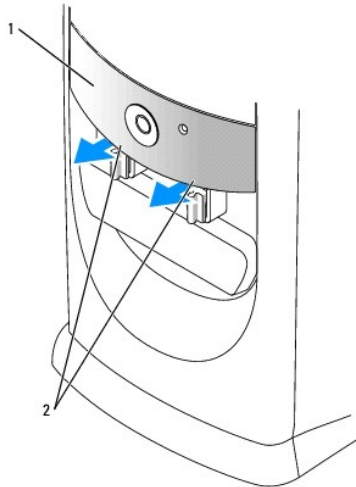
2	RTC リセットジャンパ（RTCRST）	16	ネットワークコネクタ（NIC）および USB コネクタ（USB2）
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）	17	USB コネクタ（USB 1）
4	内蔵スピーカー（SPEAKER）	18	診断ライト（DIAG LED）
5	CD/DVD ドライブコネクタ（IDE）	19	シリアルポートコネクタ（SER1）およびビデオコネクタ（VGA）
6	前面パネルコネクタ（FRONTPANEL）	20	パラレルポートコネクタ（PAR）
7	シリアル ATA ドライブコネクタ（SATA0、SATA2）	21	電源コネクタ（12VPOWER）
8	スタンバイ電源ライト（AUX_PWR）	22	プロセッサコネクタ（CPU）
9	バッテリーソケット（BATTERY）	23	ヒートシンク / 送風装置保持パッド
10	PCI Express x16 コネクタ（PEG）	24	ファンコネクタ（FAN）
11	PCI コネクタ（PCI0、PCI1、PCI2）	25	シリアルポート 2 コネクタ（SER_PS2）
12	PCI Express x1 コネクタ（PE1）	26	メモリモジュールコネクタ（DIMM1、DIMM2、DIMM3、DIMM4）
13	オプションのアナログオーディオケーブル用の CD ドライブアナログオーディオケーブルコネクタ（CD_IN）	27	パスワードジャンパ（PSWD）
14	前面パネルオーディオケーブルコネクタ（FRONTAUDIO）		

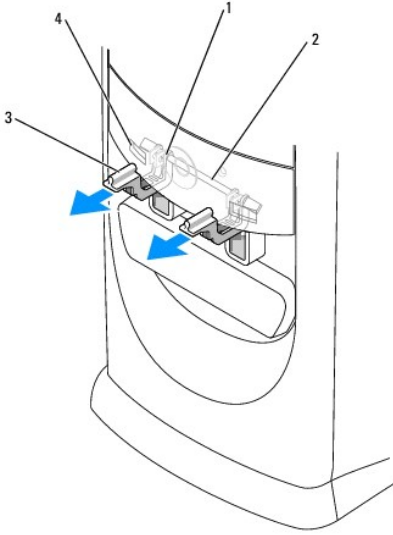
前面パネルドアおよびヒンジアーム

コンピュータへの損傷を防ぐため、前面パネルドアは持ち上げすぎると「外れる」ように設計されています。前面パネルドアを開いた場合、または内側に強く押し過ぎた場合、ヒンジアームが外れてしまうことがあります（ヒンジアームは外れると分離します）。

ヒンジアームの取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外します。
3. 2 本のヒンジアームを慎重にカチッと外して、前面パネルドアを取り外します。
4. ドライブベイカバーの底部を指で引っ張り、ドアベイの上部にあるドライブベイカバーを取り外します。

1	ドライブベイカバー
2	指でここを引っ張る

5. 両方のヒンジアームを水平位置に持ち上げます。
6. 2 つのビュースロットを使って、回転バーを 2 つの回転バースロットに合わせます。

1	回転バースロット（2）
2	回転バー
3	水平位置のヒンジアーム（2）
4	ビュースロット（2）

注意： コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

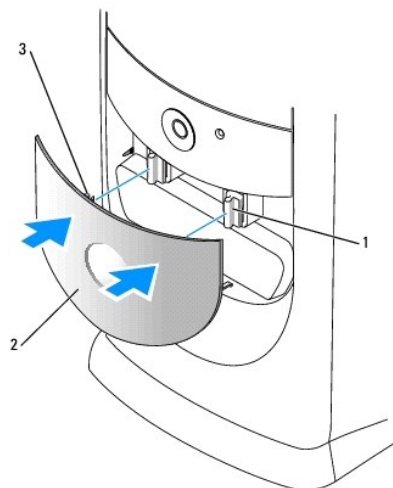
7. カチッと所定の位置に収まるまで、アームを手前に引きます。

ヒンジアームが 1 回で所定の位置に収まらない場合、アームの位置を少し変えてから、もう一度試してみます。

8. ヒンジアームがカチッと所定の位置に収まったら、アームを 2、3 回上下させてしっかりと装着します。
9. ドライブベイカバーを取り付けます。
10. コンピュータの電源ケーブルをコンセントに接続します。
11. 前面ドアを取り付けます。

前面ドアの取り付け

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外します。
3. ヒンジアームを垂直位置まで下げます。
4. 前面ドアの内側にある 2 つのクリップを 2 本のヒンジアームに合わせます。
5. 前面ドアが両方のヒンジアームにカチッと収まるまで、ドアを内側に押します。

1	垂直位置のヒンジアーム（2）
2	前面パネルドア
3	前面ドアのクリップ（2）

目次に戻る

目次に戻る

PCI カード、PCI Express カード、およびシリアルポートアダプタ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

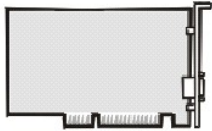
Dell™ コンピュータは PCI カード、PCI Express カード、またはシリアルポートアダプタ用に次のスロットが搭載されています。

- PCI カードスロットが 3 つ
- PCI Express x16 カードスロットが 1 つ
- PCI Express x1 カードスロットが 1 つ

メモ： お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

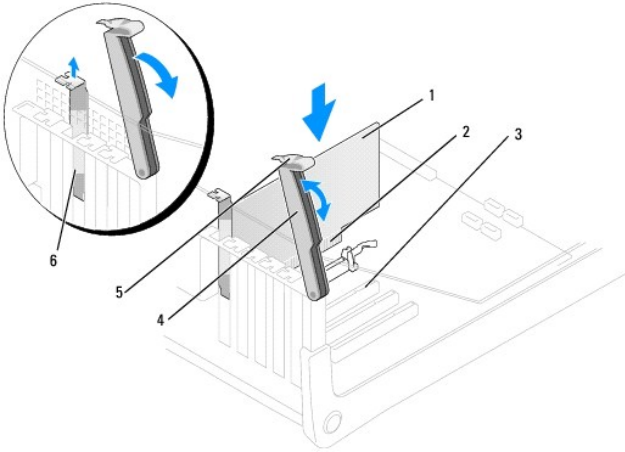
PCI カード

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

カードを取り付けるか交換する場合、次の手順を実行します。カードを取り外したままにする場合、「PCI カードの取り外し」を参照してください。

1. カードを交換する場合、現在のカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。
2. 「はじめに」の手順を実行します。

PCI カードの取り付け

1. カードの保持アームレバーを押して、保持アームを持ち上げます。

1	カード	4	保持アーム
2	エッジコネクタ	5	レバー
3	カードコネクタ	6	フィラーブラケット

2. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロットを取り外します。次に手順 4 に進みます。

3. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。

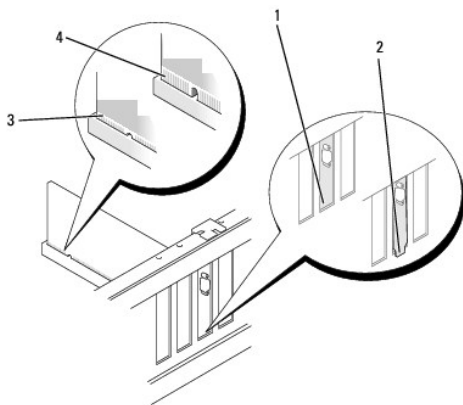
必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。カードの上端の角を持って、コネクタから取り外します。

4. カードを取り付ける準備をします。

カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

5. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

カードがフルレングスの場合、システム基板にあるカードコネクタの方にカードを下げて、カードの端をカードガイドブラケットに挿入します。カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	スロット内のブラケット
2	スロットの外側にはみ出したブラケット
3	完全に装着されたカード

4	完全に装着されていないカード

6. 保持アームを下げる前に、以下のことを確認します。
   - すべてのカードとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーと平らに揃っている。
   - カードの上部の切り込みまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている。
7. 保持アームを所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

1	フィラーブラケット
2	位置合わせバー
3	位置合わせガイド
4	保持アーム

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

8. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.`（警告 ！ カバーが取り外されました。）

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
12. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。

b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

13. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードの保持アームレバーを押して、保持アームを持ち上げます。
3. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
4. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）`

8. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

9. カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。
10. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
11. アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **On** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI Express カード

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

お使いのコンピュータは 1 つの PCI Express x16 カードおよび 1 つの PCI Express x1 カードをサポートします。

1	PCI Express x16 カード	3	PCI Express x1 カードスロット
2	PCI Express x1 カード	4	PCI Express x16 カードスロット

PCI Express カードを取り付けるか交換する場合、次の手順を実行します。カードを取り外したままにする場合、「PCI Express カードの取り外し」を参照してください。

カードを交換する場合、現在のカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。

PCI カードを取り付けるか交換する場合、「PCI カードの取り付け」を参照してください。

PCI Express カードの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードの保持アームレバーを押して、保持アームを持ち上げます。

1	固定スロット(すべてのカードにあるわけではありません)	7	フィラーブラケット
2	エッジコネクタ	8	保持アーム
3	カードコネクタ	9	レバー
4	x1 カード	10	x16 カード
5	エッジコネクタ	11	固定タブ
6	x1 カードコネクタ		

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロットの開口部を作ります。次に、手順 5 に進みます。
4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。

必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。カードにカード保持バーが付いている場合は、このバーを外します。固定タブを軽く引き、カードの上端の角を両手でつかみ、コネクタから取り外します。

5. カードを取り付ける準備をします。

カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

6. カードを x1 カードコネクタに取り付ける場合、次の手順に進みます。カードを x16 カードコネクタに取り付ける場合、固定スロットを固定タブに合わせ、軽く固定タブを引いて、カードを取り付けます。

7. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

カードがフルレングスの場合、システム基板にあるカードコネクタの方にカードを下げて、カードの端をカードガイドブラケットに挿入します。カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	スロット内のブラケット
2	スロットの外側にはみ出したブラケット
3	完全に装着されたカード
4	完全に装着されていないカード

8. 保持アームを下げる前に、以下のことを確認します。

- すべてのカードとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーと平らに揃っている。
- カードの上部の切り込みまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている。

9. 保持アームを所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

1	フィラーブラケット
2	位置合わせバー
3	位置合わせガイド
4	保持アーム

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

10. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

13. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
14. アドインネットワークアダプタを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にしたい場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller** を選んでから、設定を **Off** に変更します。
    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
15. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express カードの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. カードの保持アームレバーを押して、保持アームを持ち上げます。
3. 必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。
4. 固定タブを軽く後ろ側へ引き、カードの上端の角を両手でつかみ、コネクタから取り外します。
5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

8. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

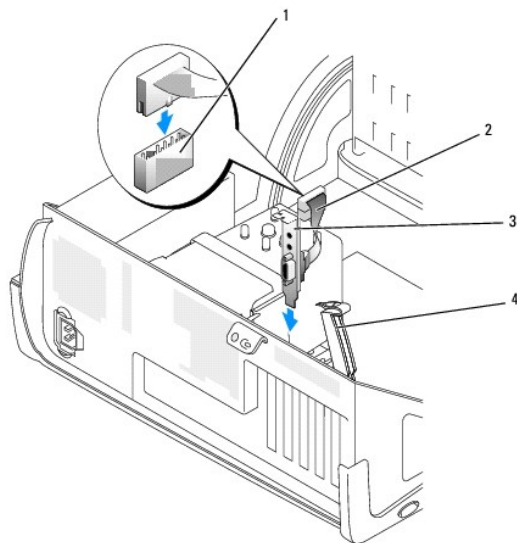
シリアルポートアダプタ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ： お使いのスモールデスクトップコンピュータのシリアルポートアダプタには 2 つの PS/2 コネクタも組み込まれています。

シリアルポートアダプタの取り付け

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 保持アームを持ち上げます。
3. フィラーブラケットを取り外します。
4. カードブラケットをカードスロット開口部にスライドし、保持アームを下げて、次のことを確認します。
   - すべてのカードとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーと平らに揃っている。
   - カード上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている。
5. 保持アームを所定の位置に押し込み、アダプタをコンピュータに固定します。

1	システム基板のシリアルポートコネクタ（SER_PS2）
2	シリアルカードケーブル
3	アダプタブラケット
4	保持アーム

6. シリアルカードケーブルをシステム基板の「SER_PS2」とラベルの付いたコネクタに接続します。
7. 次項の手順 7 に進みます。

シリアルポートアダプタの取り外し

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. シリアルカードケーブルをシステム基板のコネクタから取り外します。
3. 保持アームを持ち上げます。
4. アダプタブラケットを持ち上げて取り外します。
5. アダプタを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

   フィラーブラケットが必要な場合、デルにお問い合わせください。

メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

注意： ネットワークケーブルに接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

7. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

   カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

   `ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）`

8. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

目次に戻る

コンピュータカバーの開け方

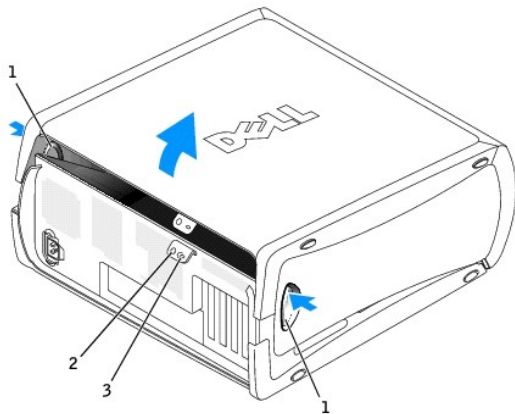
Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合は、パドロックを取り外します。

注意：カバーを開いておくために十分なスペース（机の上に 30 cm 以上）があることを確認します。

3. 図に示されているように、側面を下にしてコンピュータを置きます。
4. カバーを開きます。
   a. コンピュータの背面を手前に向け、片方の手でカバー上端を引き上げながら、もう片方の手でコンピュータの右側にあるリリースボタンを押します。
   b. 片方の手でカバー上端を引き上げながら、もう片方の手でコンピュータの左側にあるリリースボタンを押します。
   c. 片方の手でコンピュータの底部を押さえ、もう片方の手でカバーを手前に引いて開きます。

1	リリースボタン
2	パドロックリング
3	セキュリティケーブルスロット

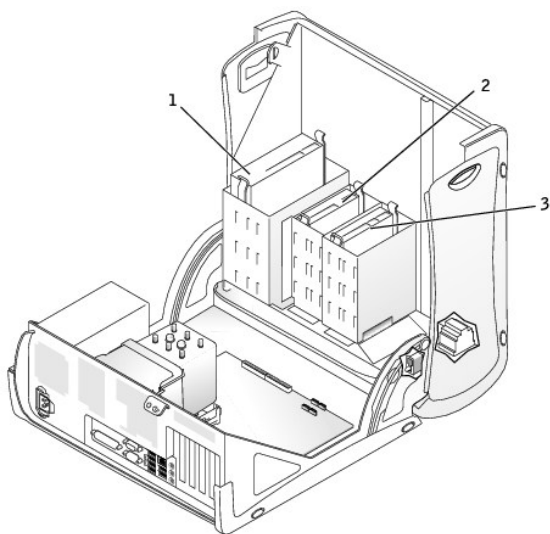
目次に戻る

[目次に戻る]

ドライブ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- シリアル ATA ハードドライブを 2 台
- フロッピードライブまたはオプションの Zip ドライブ を 2 台
- CD ドライブまたは DVD ドライブ を 2 台

1	CD/DVD ドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

CD/DVD ドライブをシステム基板の「IDE」とラベルの付いたコネクタに接続します。シリアル ATA ハードドライブはシステム基板の「SATA0」、「SATA1」、「SATA2」、「SATA3」とラベルの付いたコネクタに接続します。

 メモ: お使いのコンピュータには、「SATA1」または「SATA3」コネクタがある場合とない場合があります。

IDE ドライブのアドレス指定

1 本の IDE インタフェースケーブルに 2 台の IDE デバイスを接続し、ケーブルセレクト設定を行う場合、インタフェースケーブル上の末端のコネクタに接続されたデバイスが、マスターまたは起動デバイス（ドライブ 0）となり、インタフェースケーブル上の中間のコネクタに接続されたデバイスがスレーブデバイス（ドライブ 1）となります。デバイスのケーブルセレクト設定の方法については、アップグレードキットに付属しているドライブのマニュアルを参照してください。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

1	インタフェースコネクタ
2	インタフェースケーブル
3	IDE ケーブルの色帯

大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤ（IDE ケーブルの片側に色帯が付いています — シリアル ATA ケーブルには色帯は付いていません）が、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

注意： IDE インタフェースケーブルを接続する際は、色帯をコネクタの 1 番ピンから離れた位置に置かないでください。インタフェースケーブルを裏返しにすると、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

IDE ドライブデータケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

シリアル ATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持ち、ケーブルを外します。

IDE コネクタと同じように、シリアル ATA インタフェースは、正しく接続できるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。

ハードドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意： ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 「はじめに」の手順を実行します。

ハードドライブの取り外し

1. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブから取り外します。

1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

2. ドライブの両側のタブを押し込み、ドライブを上にスライドして取り外します。

1	タブ（2）
2	ハードドライブ

ハードドライブの取り付け

1. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 交換するハードドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

4. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
5. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

6. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。
7. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. コンピュータとデバイスをコンセントに接続します。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。
10. コンピュータの電源を入れます。
11. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

13. セットアップユーティリティを起動し、適切な **Primary Drive** オプション（**0** または **1**）をアップデートします。
14. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
15. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

16. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。
17. プライマリドライブを取り付けた場合、ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

---

2 台目のハードドライブの追加

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告： 感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意： ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 「はじめに」の手順を実行します。
4. ハードドライブベイの内側から、2 本の緑色のプラスチック製のレールを慎重に持ち上げて取り外します。
5. レールが付いている 2 本のネジを使って、レールをハードドライブに取り付けます。

レールのタブがハードドライブの背面に位置しているか確認します。

注意： 緑色のドライブレールをハードドライブベイの内側から取り外すまで、ドライブを下段のハードドライブベイに取り付けないでください。

6. 1 台目のハードドライブを上段のベイから下段のベイへ移動するには、次の手順を実行します。
   a. 電源ケーブルとハードドライブケーブルを 1 台目のハードドライブの背面から取り外します。
   b. 2 つの緑色のレールタブを押し、1 台目のハードドライブを上段のベイから引き出します。
   c. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
7. 新しいドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	レールタブ (2)
2	上段のベイの 2 台目のハードドライブ
3	下段のベイの 1 台目のハードドライブ
4	ハードドライブベイ

8. 電源ケーブルをドライブに接続します。
9. システム基板の未使用のシリアル ATA コネクタの位置を確認し、ドライブケーブルをこのコネクタと 2 台目のハードドライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

10. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
12. ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属しているマニュアルを参照してください。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

13. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

ドライブベイカバー

フロッピードライブまたは CD/DVD ドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

1. カバーを 90 度の角度まで開きます。

2. 使用するドライブベイの前面にあるドライブベイカバーを確認します。

3. コンピュータの内側から、ドライブベイカバーのリリースタブを押します。

4. コンピュータの外側から、コンピュータの前面パネルのドライブベイカバーを取り外します。

5. 4 つのタブを押して、カバーフレームからドライブベイカバーを取り外します。

1	CD/DVD ドライブベイのドライブベイカバーフレーム
2	フロッピードライブベイのドライブベイカバーフレーム

6. ドライブベイの前面に空のドライブベイカバーフレームを取り付けなおします。

カバーフレームは一方向にしか取り付けられません。

フロッピードライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

「はじめに」の手順を実行します。

フロッピードライブの取り外し

1. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。
2. フロッピードライブケーブルのもう片方の端をシステム基板から取り外します（「DSKT」とラベルが付いています）。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

3. ドライブの両側にある 2 つのタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、フロッピードライブベイから取り外します。

フロッピードライブの取り付け

1. ドライブを交換する際、新しいドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

2. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
3. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに接続します。
4. フロッピードライブケーブルのもう一方の端をシステム基板の「DSKT」とラベルが付いたコネクタに接続します。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

5. 新しいフロッピードライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。
6. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
7. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルをそのネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

8. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.`（警告 ！ カバーが取り外されました。）

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします。

12. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

CD / DVD ドライブ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

「はじめに」の手順を実行します。

CD / DVD ドライブの取り外し

1. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブの背面から取り外します。

1	電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブケーブル

2. ドライブの両側にある 2 つのタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、ドライブベイから取り外します。

CD / DVD ドライブの取り付け

1. 新しいドライブを取り付ける場合、ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。IDE ドライブを取り付ける場合、ドライブを cable select に設定にします。

2. 新しいドライブをカバーの内側に取り付けているレールに接続します。レールがカバーの内側に取り付けられていない場合、デルにお問い合わせください。
3. ドライブを交換する際、新しいドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ(各レールに 2 本)をすべて差し込んでから締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

4. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
5. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブケーブル

6. 新しい CD/DVD ドライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。
7. 専用のコントローラカードを持つドライブを取り付ける場合、コントローラカードをカードスロットに取り付けます。
8. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
9. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルをそのネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

11. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ: 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

13. **Drives** の該当する **Drive** オプション（**0** または **1**）を設定して、設定情報を更新します。詳細については、「セットアップユーティリティ」を参照してください。

14. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

ケーブル配線

1	12V 電源ケーブル	6	シリアル ATA ハードドライブ電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブデータケーブル	7	コントロールパネルケーブル
3	CD/DVD ドライブ電源ケーブル	8	シリアル ATA ハードドライブデータケーブル
4	フロッピードライブ電源ケーブル	9	前面 I/O オーディオケーブル
5	フロッピードライブデータケーブル		

目次に戻る

目次に戻る

ドライブ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- シリアル ATA ハードドライブを 2 台
- フロッピードライブまたはオプションの Zip ドライブ を 2 台
- CD ドライブまたは DVD ドライブ を 2 台

1	CD/DVD ドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

CD/DVD ドライブをシステム基板の「IDE」とラベルの付いたコネクタに接続します。シリアル ATA ハードドライブはシステム基板の 「SATA0」、「SATA2」 とラベルの付いたコネクタに接続します。

IDE ドライブのアドレス指定

1 本の IDE インタフェースケーブルに 2 台の IDE デバイスを接続し、ケーブルセレクト設定を行う場合、インタフェースケーブル上の末端のコネクタに接続されたデバイスが、マスターまたは起動デバイス(ドライブ 0)となり、インタフェースケーブル上の中間のコネクタに接続されたデバイスがスレーブデバイス(ドライブ 1)となります。デバイスのケーブルセレクト設定の方法については、アップグレードキットに付属しているドライブのマニュアルを参照してください。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

IDE ドライブコネクタ	シリアル ATA コネクタ

1	インタフェースコネクタ
2	インタフェースケーブル
3	IDE ケーブルの色帯

大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤ（IDE ケーブルの片側に色帯が付いています — シリアル ATA ケーブルには色帯は付いていません）が、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

注意： IDE インタフェースケーブルを接続する際は、色帯をコネクタの 1 番ピンから離れた位置に置かないでください。インタフェースケーブルを裏返しにすると、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

IDE ドライブデータケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

シリアル ATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持ち、ケーブルを外します。

IDE コネクタと同じように、シリアル ATA インタフェースは、正しく接続できるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。

ハードドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意：ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 「はじめに」の手順を実行します。

ハードドライブの取り外し

1. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブから取り外します。

1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

2. ドライブの両側のタブを押し込み、ドライブを上にスライドして取り外します。

1	タブ（2）
2	ハードドライブ

ハードドライブの取り付け

1. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 交換するハードドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

4. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
5. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。

1	電源ケーブル

2	ハードドライブケーブル

6. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。
7. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. コンピュータとデバイスをコンセントに接続します。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。
10. コンピュータの電源を入れます。
11. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

13. セットアップユーティリティを起動して、適切な **Primary Drive** オプション（**0** または **1**）をアップデートします。
14. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
15. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

16. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。
17. プライマリドライブを取り付けた場合、ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

---

2 台目のハードドライブの追加

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意： ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 「はじめに」の手順を実行します。
4. ハードドライブベイの内側から、2 本の緑色のプラスチック製のレールを慎重に持ち上げて取り外します。
5. レールに付いている 2 本のネジを使って、レールをハードドライブに取り付けます。

レールのタブがハードドライブの後方に位置するよう取り付けます。

注意： 緑色のドライブレールをハードドライブベイの内側から取り外すまで、ドライブを下段のハードドライブベイに取り付けないでください。

6. 1 台目のハードドライブを上段のベイから下段のベイへ移動するには、次の手順を実行します。
   a. 電源ケーブルとハードドライブケーブルを 1 台目のハードドライブの背面から取り外します。
   b. 2 つの緑色のレールタブを押し、1 台目のハードドライブを上段のベイから引き出します。
   c. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
7. 新しいドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

1	レールタブ (2)
2	上段のベイの 2 台目のハードドライブ
3	下段のベイの 1 台目のハードドライブ
4	ハードドライブベイ

8. 電源ケーブルをドライブに接続します。
9. システム基板の未使用のシリアル ATA コネクタの位置を確認し、ドライブケーブルをこのコネクタと 2 台目のハードドライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

10. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
12. ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属しているマニュアルを参照してください。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）
```

13. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

ドライブベイカバー

フロッピードライブまたは CD/DVD ドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

1. カバーを 90 度の角度まで開きます。
2. 使用するドライブベイの前面にあるドライブベイカバーを確認します。
3. コンピュータの内側から、ドライブベイカバーのリリースタブを押します。

4. コンピュータの外側から、コンピュータの前面パネルのドライブベイカバーを取り外します。
5. 4 つのタブを押して、カバーフレームからドライブベイカバーを取り外します。

1	CD/DVD ドライブベイのドライブベイカバーフレーム
2	フロッピードライブベイのドライブベイカバーフレーム

6. ドライブベイの前面に空のドライブベイカバーフレームを取り付けなおします。

カバーフレームは一方向にしか取り付けられません。

フロッピードライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

「はじめに」の手順を実行します。

フロッピードライブの取り外し

1. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。
2. フロッピードライブケーブルのもう片方の端をシステム基板から取り外します（「DSKT」とラベルが付いています）。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

3. ドライブの両側にある 2 つのタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、フロッピードライブベイから取り外します。

フロッピードライブの取り付け

1. ドライブを交換する際、新しいドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

2. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
3. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに接続します。
4. フロッピードライブケーブルのもう一方の端をシステム基板の「DSKT」とラベルが付いたコネクタに接続します。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

5. 新しいフロッピードライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。
6. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
7. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルをそのネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

8. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

10. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします。
12. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

CD / DVD ドライブ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

「はじめに」の手順を実行します。

CD / DVD ドライブの取り外し

1. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブの背面から取り外します。

1	電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブケーブル

2. ドライブの両側にある 2 つのタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、ドライブベイから取り外します。

CD / DVD ドライブの取り付け

1. 新しいドライブを取り付ける場合、ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

   ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。IDE ドライブを取り付ける場合、ドライブを cable select に設定にします。

2. 新しいドライブをカバーの内側に取り付けられているレールに接続します。レールがカバーの内側に取り付けられていない場合、デルにお問い合わせください。
3. ドライブを交換する際、新しいドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）をすべて差し込んでから締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

4. ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。
5. 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブケーブル

6. 新しい CD/DVD ドライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。
7. 専用のコントローラカードを持つドライブを取り付ける場合、コントローラカードをカードスロットに取り付けます。
8. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
9. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルをそのネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

10. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

11. カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

12. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

13. **Drives** の該当する **Drive** オプション（**0** または **1**）を設定して、設定情報を更新します。詳細に関しては、「セットアップユーティリティ」を参照してください。

14. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

ケーブル配線

1	12V 電源ケーブル	6	シリアル ATA ハードドライブ電源ケーブル
2	CD/DVD ドライブデータケーブル	7	コントロールパネルケーブル
3	CD/DVD ドライブ電源ケーブル	8	シリアル ATA ハードドライブデータケーブル
4	フロッピードライブ電源ケーブル	9	前面 I/O オーディオケーブル
5	フロッピードライブデータケーブル		

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

スモールミニタワーコンピュータ

メモ、注意、警告

メモ： コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意： ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告：物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。

略語について

略語の一覧表は、「用語集」を参照してください。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合、このマニュアルの Microsoft® Windows® オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

『Drivers and Utilities CD』（Resource CD）オペレーティングシステムのメディア、および『クイックリファレンスガイド』はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

モデル: DHP、DHS、DCNE、DHM、および DCSM

2005 年 7 月 Y2952 Rev. A04

[目次に戻る]

プロセッサ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

プロセッサの取り外し

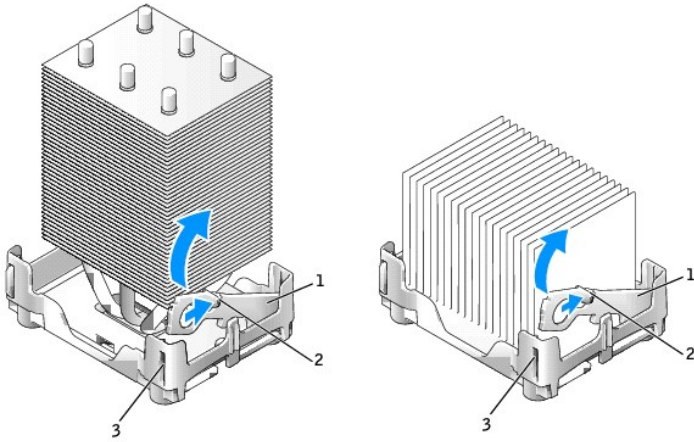
警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 冷却ファン電源ケーブルをシステム基板の FAN コネクタから外します。
3. 電源ケーブルをシステム基板の 12VPOWER コネクタから外します。
4. エアフローカバーを持ち上げます。

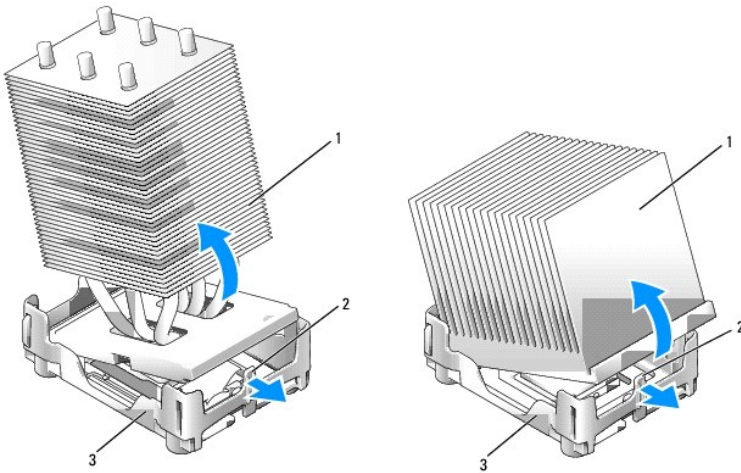
警告：通常の操作中に、ヒートシンクは非常に高温になります。アセンブリに触れる前には十分に時間をかけ、ヒートシンクの温度が下がっていることを確認してください。

5. ヒートシンクを取り外します。
   a. 緑色の固定クリップの上のタブを押して、クリップを保持基盤から取り外します。

メモ： お使いのコンピュータの構成によって、コンピュータに取り付けられているヒートシンクのタイプが決まります。両方のタイプのヒートシンク (高さが高いバージョンおよび低いバージョン) は下の図と異なる場合がありますが、同じ方法で取り外したり取り付けることができます。

1	固定クリップ
2	タブ
3	保持基盤

b. ヒートシンクの一方の端を持ち上げたまま、タブを押して、ヒートシンクを取り外します。

注意： サーマルマテリアルが付いた面を上に向けてヒートシンクを置きます。

メモ： お使いのコンピュータの構成によって、コンピュータに取り付けられているヒートシンクのタイプが決まります。両方のタイプのヒートシンク (高さが高いバージョンおよび低いバージョン) は下の図と異なる場合がありますが、同じ方法で取り外したり取り付けることができます。

1	ヒートシンク
2	タブ
3	保持基盤

注意： デルのプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、元のヒートシンクは廃棄してください。デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、新しいプロセッサを取り付ける際は、元のヒートシンクを再利用してください。

6. プロセッサカバーを開きます。

1	プロセッサカバー
2	プロセッサ
3	ソケット
4	リリースレバー

注意：プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

7. プロセッサをソケットから取り外します。

新しいプロセッサをソケットにすぐに取り付けられるように、リリースレバーはリリース位置に広げたままにしておきます。

プロセッサの取り付け

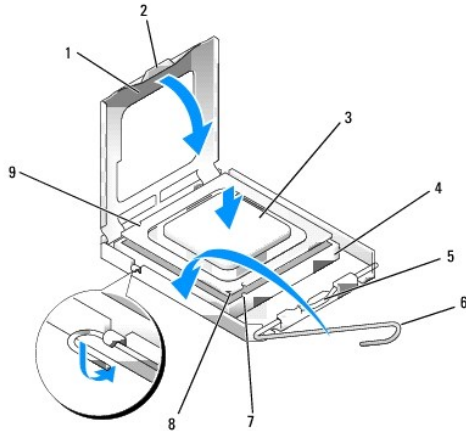
警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意：コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

注意：プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

1. プロセッサの底部に触らないように気をつけながら、新しいプロセッサを梱包から取り出します。

注意：コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できないような損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

2. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。
3. プロセッサの前面と背面の位置合わせ用の切り込みをソケットの前面と背面の位置合わせ用の切り込みに合わせます。
4. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	プロセッサカバー	6	リリースレバー
2	タブ	7	前面位置合わせ用の切り込み
3	プロセッサ	8	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印
4	プロセッサソケット	9	背面位置合わせ用の切り込み
5	センターカバーラッチ		

注意： 損傷を防ぐため、プロセッサとソケットが正しく揃っているか確認してください。プロセッサを取り付ける際に無理に力を加えないでください。

5. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。
6. プロセッサがソケットに完全に装着されたら、プロセッサカバーを閉じます。

プロセッサカバーのタブがソケットのセンターカバーラッチの下にあるか確認します。

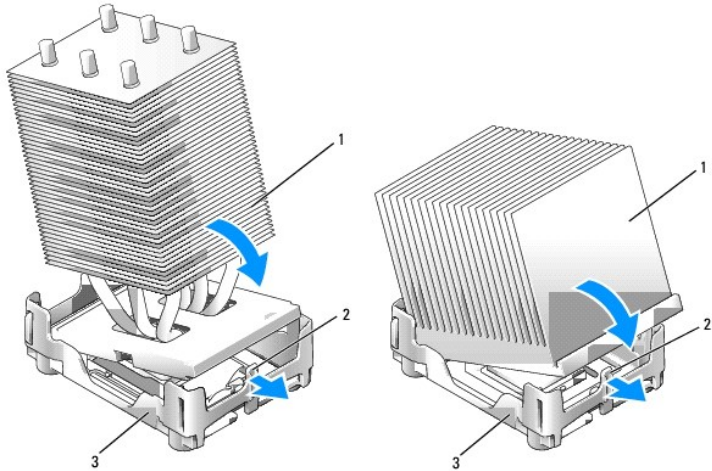
7. ソケットリリースレバーをソケットの後ろ側へ回し、カッチッと所定の位置に収めてプロセッサを固定します。

注意： デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、プロセッサを交換する際は、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

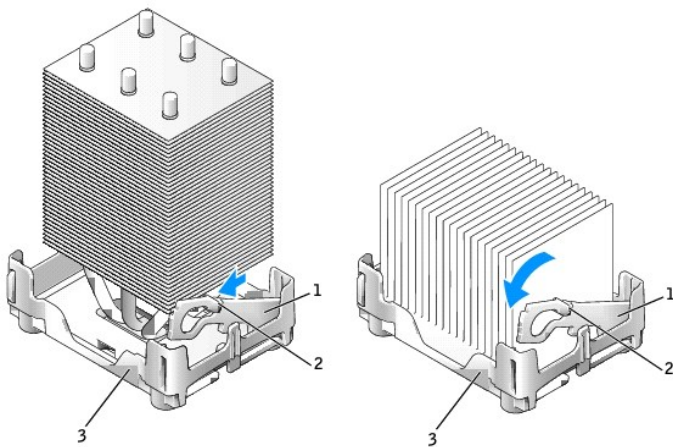
デルのプロセッサ交換キットを取り付けた場合、元のヒートシンクアセンブリとプロセッサを、交換キットが送られてきた同じパッケージを使用してデルに返却してください。

8. ヒートシンクを取り付けます。
   a. ヒートシンクの一方の端を保持基盤の端にあるタブの下に置きます。
   b. ヒートシンクが保持基盤のタブの下にしっかりと収まるまでヒートシンクを押し下げます。

メモ： お使いのコンピュータの構成によって、コンピュータに取り付けられているヒートシンクのタイプが決まります。両方のタイプのヒートシンク (高さが高いバージョンおよび低いバージョン) は下の図と異なる場合がありますが、同じ方法で取り外したり取り付けることができます。

注意： ヒートシンクが正しく装着され、しっかり固定されているか確認します。

1	ヒートシンク
2	タブ
3	保持基盤

c. タブの反対側にある、切り込みのあるクリップの端を保持基盤のスロットの中に入れて、固定クリップを挿入します。固定クリップタブを押して、固定クリップを所定の位置に押し込みます。ノッチのある固定クリップの端が保持基盤のスロットに固定されているか確認します。

メモ： お使いのコンピュータの構成によって、コンピュータに取り付けられているヒートシンクのタイプが決まります。両方のタイプのヒートシンク (高さが高いバージョンおよび低いバージョン) は下の図と異なる場合がありますが、同じ方法で取り外したり取り付けることができます。

1	固定クリップ
2	タブ
3	スロット
4	保持基盤

9. エアフローカバーをヒートシンクに被せます。
10. 冷却ファン電源ケーブルをシステム基板の FAN コネクタに接続します。
11. 電源ケーブルをシステム基板の 12VPOWER コネクタに接続します。
12. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

```
ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）
```

14. **Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ: 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

目次に戻る

問題の解決

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

バッテリーの問題

以下を確認しながら、Diagnostics(診断)チェックリストに必要事項を記入してください。

警告: バッテリーの取り付け方が間違っていると、新しいバッテリーが破裂する恐れがあります。バッテリーを交換する場合、同じバッテリー、または製造元が推奨する同等のバッテリーのみ使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

バッテリーを交換します — コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時間と日付の情報をリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時間または日付が表示される場合は、バッテリーを交換します。それでもバッテリーが正常に機能しない場合、デルにお問い合わせください。

ドライブの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

以下を確認しながら、Diagnostics(診断)チェックリストに必要事項を記入してください。

ドライブを確認します —   l 別のフロッピーディスク、CD、または DVD を挿入して、元のフロッピーディスク、CD、または DVD に問題がないか確認します。 l 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。
ドライブまたはディスクをクリーニングします —「コンピュータのクリーニング」を参照してください。
ケーブルの接続をチェックします
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます
Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します

CD および DVD ドライブの問題

メモ: 世界各国には様々なディスク形式があるため、お使いの DVD ドライブでは再生できない DVD もあります。

Windows の音量を調整します —   l 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックします。 l 音量つまみを上にドラッグして、音量が上がったか確認します。 l チェックマークの付いたボックスをクリックして、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。
スピーカーおよびサブウーハーを確認します —「サウンドとスピーカーの問題」を参照してください。

CD / DVD-RW ドライブに書き込みができない場合

他のプログラムを閉じます — CD/DVD-RW ドライブはデータを書き込む際に、一定のデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD/DVD-RW に書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了してみます。
CD / DVD-RW ディスクへの書き込み の前に、Windows のスタンバイモードを無効にします —「電力の管理」を参照してください。

ハードドライブの問題

Dell IDE Hard Drive Diagnostics（IDE HD 診断）プログラムを実行します —

Dell IDE Hard Drive Diagnostics（IDE HD 診断）プログラムは、ハードドライブをテストして、ハードドライブの障害を検出したり解決するユーティリティです。

1. コンピュータの電源を入れます（コンピュータの電源が入っている場合、再起動します）。
2. 画面の右上隅に F2 = Setup が表示されたら、<Ctrl><Alt><d> を押します。
3. 画面の指示に従います。

チェックディスクを実行します —

Windows XP

1. **スタート** ボタンをクリックして、**マイコンピュータ** をクリックします。
2. **ローカルディスク C:**を 右クリックします。
3. **プロパティ** をクリックします。
4. **ツール** タブをクリックします。
5. **エラーチェック** の項目の **チェックする** をクリックします。
6. **不良なセクタをスキャンし回復する** をクリックします。
7. **開始** をクリックします。

Windows 2000

1. Windows のデスクトップで **マイコンピュータ** をダブルクリックします。
2. **ツール** タブをクリックします。
3. **エラーチェック** の項目の **チェックする** をクリックします。
4. **開始** をクリックします。

MS-DOS®
MS-DOS プロンプトに scandisk *x*: と入力します。ここで *x* はハードドライブを示す文字です。次に <Enter> を押し、**スタート** ボタンをクリックして **マイコンピュータ** をクリックします。

キーボードの問題

⚠ **警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

キーボードケーブルを確認します —

- キーボードケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- コンピュータをシャットダウンし、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにキーボードケーブルを接続しなおした後、コンピュータを再起動します。
- ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
- キーボード拡張ケーブルを外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。

キーボードを確認します — 正常に機能している他のキーボードをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいキーボードが機能する場合、元のキーボードに問題があります。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します

ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

コンピュータおよびソフトウェアの問題

⚠ **警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

メモ： お使いのコンピュータに固有のイメージをインストールしてある場合、またはオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合、DSS ユーティリティを使用します。DSS は、『Drivers and Utilities CD』および **support.jp.dell.com** から利用できます。

メモ： Windows XP を再インストールする際は、Microsoft® Windows® XP Service Pack 1 以降を使用する必要があります。

コンピュータが起動しない場合

診断ライトを確認します
電源ケーブルがコンピュータとコンセントにしっかりと接続されているか確認します

コンピュータの反応が停止した場合

注意： オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを損失する恐れがあります。

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

プログラムが応答しなくなった場合

プログラムを終了します —

Windows XP、Windows 2000

1. <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押します。
2. **アプリケーション** をクリックします。
3. 応答しなくなったプログラムをクリックします。
4. **タスクの終了** をクリックします。

プログラムが繰り返しクラッシュする場合

メモ： 通常、ソフトウェアのインストールの手順は、そのマニュアルまたはフロッピーディスクか CD に収録されています。

ソフトウェアのマニュアルを確認します — 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

画面が青色（ブルースクリーン）になった場合

お使いのコンピュータに Windows XP のオリジナルバージョン（Gold）がインストールされていないことを確認します
コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを確認するか、ソフトウェアの製造元に問い合わせます —

- プログラムがお使いのコンピュータにインストールされているオペレーティングシステムに対応しているか確認します。
- お使いのコンピュータがソフトウェアを実行するのに必要な最小ハードウェア要件を満たしていることを確認します。詳細については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。
- デバイスドライバがプログラムとコンフリクトしていないか確認します。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

すぐにお使いのファイルのバックアップを作成します
アンチウイルスプログラムを使って、ハードドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます
開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、スタート メニューからコンピュータをシャットダウンします
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — すべてのテストが正常に終了したら、不具合はソフトウェアの問題に関連しています。

メモリの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

 警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモリ不足を示すメッセージが表示される場合 —

- 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、使用していない実行中のプログラムをすべて終了して、問題が解決するか調べます。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、増設メモリを取り付けます。
- メモリモジュールを抜き差しして、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。

その他のメモリの問題が発生する場合 —

- メモリモジュールを抜き差しして、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。

マウスの問題

 警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

マウスケーブルを確認します —

1. ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
2. マウス拡張ケーブルを使用している場合は、拡張ケーブルを取り外してマウスをコンピュータに直接接続します。
3. コンピュータをシャットダウンし、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにキーボードケーブルを接続しなおした後、コンピュータを再起動します。

コンピュータを再起動します —

1. <Ctrl><Esc> を同時に押して、**スタート** メニューを表示します。
2. u と入力してからキーボードの矢印キーを押し、**シャットダウンする** または **電源を切る** をハイライト表示して <Enter> を押します。
3. コンピュータをシャットダウンして、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に示されているように、再度マウスケーブルを接続します。
4. コンピュータを起動します。

マウスを確認します — 正常に機能している他のマウスをコンピュータに接続して、使用してみます。新しく接続したマウスが機能する場合、最初に接続していたマウスに問題があります。

マウスの設定を確認します —

Windows XP

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2. **マウス** をクリックします。
3. 設定を調整します。

Windows 2000

1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **マウス** アイコンをダブルクリックします。
3. 設定を調整します。

PS/2 マウスを使用している場合

1. セットアップユーティリティを起動し、**Mouse Port** オプションが **On** に設定されているか確認します。
2. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

マウスドライバを再インストールします

Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します

ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

ネットワークの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

ネットワークケーブルコネクタを確認します — ネットワークケーブルが、コンピュータ背面のネットワークコネクタとネットワークジャックの両方にしっかりと挿入されているか確認します。
コンピュータ背面のネットワークインジケータを確認します — インジケータが点灯しない場合、ネットワークと通信していないことを示しています。ネットワークケーブルを取り替えます。
コンピュータを再起動して、ネットワークにログインしなおしてみます
ネットワークの設定を確認します — ネットワーク管理者またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークの設定が正しいか、またネットワークが正常に機能しているか確認します。
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

電源の問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

電源ライトが緑色で、コンピュータが応答しない場合 — 「診断ライト」を参照してください。
電源ライトが緑色に点滅している場合 — コンピュータはスタンバイモードに入っています。キーボードのキーを押すか、マウスを動かして通常の動作に戻します。
電源ライトが消灯している場合 — コンピュータの電源が切れているか、電力が供給されていません。 - 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方にしっかりと装着しなおします。 - コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され電源タップがオンになっていることを確認します。また電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどをお使いの場合、それらを取り外してコンピュータに正しく電源が入るか確認します。 - 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。 - 主電源ケーブルと前面パネルケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します。
電源ライトが黄色および緑、または黄色に点灯している場合 — デバイスが誤動作しているか、正しく取り付けられていない可能性があります。 - メモリモジュールを取り外してから取り付けます。 - すべてのカードを取り外してから取り付けます。 - グラフィックスカードを取り付けている場合、取り外してから取り付けなおします。
電源ライトが黄色に点滅している場合 — コンピュータに電力は供給されていますが、内部で電源の問題が発生している可能性があります。 - 電圧切り替えスイッチの設定が、ご使用の地域の AC 電源に一致しているか確認します。 - プロセッサ電源ケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します。
電気的な妨害を除去します — 電気的な妨害の原因には、以下のものがあります。 - 電源、キーボード、およびマウス拡張ケーブル - 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている - 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ: プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタのマニュアルを確認します — セットアップおよびトラブルシューティングについては、プリンタのマニュアルを参照してください。
プリンタの電源がオンになっていることを確認します
プリンタケーブルの接続を確認します — - ケーブル接続については、プリンタのマニュアルを参照してください。 - プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

プリンタが Windows によって認識されているか確認します —

Windows XP

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2. インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示するをクリックします。

   プリンタが一覧に表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。

3. **プロパティ** をクリックして、**ポート** タブをクリックします。パラレルプリンタの場合、**印刷先のポート** を **LPT1:プリンタポート** に設定します。USB プリンタの場合、**印刷先のポート** が **USB** に設定されているか確認します。

Windows 2000

1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**プリンタ** をクリックします。

   プリンタが一覧に表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。

2. **プロパティ** をクリックして、ポートタブをクリックします。

   パラレルプリンタの場合、**印刷するポート** を **LPT1:プリンタポート** に設定します。USB プリンタの場合、**印刷先のポート** が **USB** に設定されているか確認します。

プリンタドライバを再インストールします — 手順については、プリンタのマニュアルを参照してください。

デフォルト設定の復元

コンピュータシステムの設定をデフォルト値にするには、次の手順を実行します —

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. 画面の右上角に `Press <F2> to Enter Setup` というメッセージが表示されたら、すぐに <F2> を押します。

   ここで時間をおきすぎて、Microsoft® Windows® ロゴが表示された場合、Windows デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、スタート メニューからコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

3. System Management で、Maintenance オプションを選んで、画面の指示に従います。

シリアルまたはパラレルデバイスの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ： プリンタに問題がある場合、「プリンタの問題」を参照してください。

オプション設定を確認します — 推奨される設定については、デバイスのマニュアルを参照してください。セットアップユーティリティを起動し、**Serial Port #1** 設定（またはオプションのシリアルポートアダプタが取り付けてある場合は **Serial Port #2** 設定）または **LPT Port Mode** 設定が推奨された設定と一致しているか確認します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します

サウンドとスピーカーの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

スピーカーから音がしない場合

メモ： MP3 プレーヤーの音量調節は、Windows の音量設定より優先されることがあります。MP3 の音楽を聴いていた場合、プレーヤーの音量が十分か確認してください。

スピーカーケーブルの接続を確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図に示されているように、スピーカーが接続されているか確認します。オーディオカードをご購入された場合、スピーカーがカードに接続されているか確認します。
サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合、音量、低音、または高音を調整して音のひずみを解消します。
Windows の音量を調整します — 画面の右下角のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。
ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します — ヘッドフォンがコンピュータの前面パネルにあるヘッドフォンコネクタに接続されている場合、スピーカーからの音声は自動的に無効になります。
コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
デジタルモードを有効にします — CD ドライブがアナログモードで動作している場合、お使いのスピーカーは機能しません。 Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**サウンド、音声、およびオーディオデバイス** をクリックします。 2. **サウンドとオーディオデバイス** をクリックします。 3. **ハードウェア** タブをクリックします。 4. CD ドライブの名前をダブルクリックします。 5. **プロパティ** タブをクリックします。 6. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスにチェックマークを付けます。 Windows 2000 1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をポイントします。次に、**サウンドとマルチメディア** をダブルクリックします。 2. **ハードウェア** タブをクリックします。 3. CD ドライブの名前をクリックして、**プロパティ** をクリックします。 4. **プロパティ** タブをクリックします。 5. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスにチェックマークを付けます。
電気的な妨害を除去します — コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切り、干渉を調べます。
スピーカーの診断プログラムを実行します
オーディオドライバを再インストールします
デバイスのオプション設定を確認します — セットアップユーティリティを起動して、**Audio Controller** オプションが **On** に設定されているか確認します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

ヘッドフォンから音がしない場合

ヘッドフォンケーブルの接続を確認します — ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されているか確認します。
デジタルモードを無効にします — CD ドライブがデジタルモードで動作している場合、お使いのヘッドフォンは機能しません。 Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**サウンド、音声、およびオーディオデバイス** をクリックします。 2. **サウンドとオーディオデバイス** をクリックします。 3. **ハードウェア** タブをクリックします。 4. CD ドライブの名前をダブルクリックします。 5. **プロパティ** タブをクリックします。 6. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスのチェックマークを外します。 Windows 2000 1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をポイントします。次に、**サウンドとマルチメディア** をダブルクリックします。 2. **ハードウェア** タブをクリックします。 3. CD ドライブの名前をクリックして、**プロパティ** をクリックします。 4. **プロパティ** タブをクリックします。 5. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスのチェクマークを外します。
Windows の音量を調整します — 画面の右下角のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ビデオとモニターの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

⚠ **警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

画面に何も表示されない場合

メモ: トラブルシューティングの手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

モニターのケーブル接続を確認します — - グラフィックスカードをご購入された場合、モニターがカードに接続されているか確認します。 - お使いのモニターが正しく接続されているか確認します（コンピュータに付属している『クイックリファレンスガイド』を参照）。 - グラフィックス拡張ケーブルを使用していてケーブルを取り外すと問題が解決する場合は、ケーブルに問題があります。 - コンピュータの電源ケーブルとモニターの電源ケーブルを交換して、電源ケーブルに問題がないか確認します。 - 曲がったり壊れたりしたピンがないか、コネクタを確認します。（モニターのケーブルコネクタは、通常ピンが欠けています。）
モニターの電源ライトを確認します — 電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかりと押して、モニターに電源が入っていることを確認します。電源ライトが点灯または点滅している場合、モニターには電力が供給されています。電源ライトが点滅する場合、キーボードのキーを押すかマウスを動かします。
コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
モニターを確認します — 正常に機能している他のモニターをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいモニターが機能する場合、元のモニターに問題があります。
診断ライトを確認します
カードの設定を確認します — セットアップユーティリティを起動して、**Primary Video** オプションが正しく設定されているか確認します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
モニターのセルフテストを実行します — 詳細については、モニターのマニュアルを参照してください。

画面が見づらい場合

モニターの設定を確認します — モニターのコントラストと輝度の調整、モニターの消磁、およびモニターのセルフテストを実行する手順については、モニターのマニュアルを参照してください。
サブウーハーをモニターから離します — スピーカーにサブウーハーが含まれている場合、サブウーハーがモニターから 60 センチ以上離れていることを確認します。
外部電源をモニターから離します — 扇風機、蛍光灯、ハロゲンランプ、およびその他の電気機器は、画面の状態を不安定にすることがあります。コンピュータの近くで使用している機器の電源を切ってみてください。
Windows のディスプレイ設定を調節します — Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。 2. **画面** をクリックして、**設定** タブをクリックします。 3. **画面の解像度** と **画面の色** の設定を変更します。 Windows 2000 1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をクリックします。 2. **画面** アイコンをダブルクリックして、**設定** タブをクリックします。 3. **画面の領域** または **デスクトップ領域** で別の設定にしてみます。

目次に戻る

問題の解決

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

バッテリーの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：バッテリーの取り付け方が間違っていると、新しいバッテリーが破裂する恐れがあります。バッテリーを交換する場合、同じバッテリー、または製造元が推奨する同等のバッテリーのみ使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

バッテリーを交換します — コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時間と日付の情報をリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時間または日付が表示される場合は、バッテリーを交換します。それでもバッテリーが正常に機能しない場合、デルにお問い合わせください。

ドライブの問題

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

ドライブをテストします — - 別のフロッピーディスク、CD、または DVD を挿入して、元のフロッピーディスク、CD、または DVD に問題がないか確認します。 - 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。
ドライブまたはディスクをクリーニングします —「コンピュータのクリーニング」を参照してください。
ケーブルの接続をチェックします
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します

CD および DVD ドライブの問題

メモ： 世界各国には様々なディスク形式があるため、お使いの DVD ドライブでは再生できない DVD もあります。

Windows の音量を調整します — - 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックします。 - 音量つまみを上にドラッグして、音量が上がったか確認します。 - チェックマークの付いたボックスをクリックして、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。
スピーカーおよびサブウーハーを確認します —「サウンドとスピーカーの問題」を参照してください。

CD / DVD-RW ドライブに書き込みができない場合

他のプログラムを閉じます — CD/DVD-RW ドライブはデータを書き込む際に、一定のデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD/DVD-RW に書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了してみます。
CD / DVD-RW ディスクへの書き込みの前に、Windows のスタンバイモードを無効にします — 「電力の管理」を参照してください。

ハードドライブの問題

Dell IDE Hard Drive Diagnostics（IDE HD 診断）プログラムを実行します —

Dell IDE Hard Drive Diagnostics（IDE HD 診断）プログラムは、ハードドライブをテストして、ハードドライブの障害を検出したり解決するユーティリティです。

1. コンピュータの電源を入れます（コンピュータの電源が入っている場合、再起動します）。
2. 画面の右上隅に F2 = Setup が表示されたら、<Ctrl><Alt><d> を押します。
3. 画面の指示に従います。

チェックディスクを実行します —

Windows XP

1. **スタート** ボタンをクリックして、**マイコンピュータ** をクリックします。
2. **ローカルディスク C:** を右クリックします。
3. **プロパティ** をクリックします。
4. **ツール** タブをクリックします。
5. **エラーチェック** の項目の **チェックする** をクリックします。
6. **不良なセクタをスキャンし回復する** をクリックします。
7. **開始** をクリックします。

Windows 2000

1. Windows のデスクトップで **マイコンピュータ** をダブルクリックします。
2. **ツール** タブをクリックします。
3. **エラーチェック** の項目の **チェックする** をクリックします。
4. **開始** をクリックします。

MS-DOS®
MS-DOS プロンプトに scandisk *x*: と入力します。ここで *x* はハードドライブを示す文字です。次に <Enter> を押し、**スタート** ボタンをクリックして **マイコンピュータ** をクリックします。

キーボードの問題

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

キーボードケーブルを確認します —

- キーボードケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- コンピュータをシャットダウンし、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにキーボードケーブルを接続しなおした後、コンピュータを再起動します。
- ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
- キーボード拡張ケーブルを外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。

キーボードを確認します — 正常に機能している他のキーボードをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいキーボードが機能する場合、元のキーボードに問題があります。
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

ロックアップおよびソフトウェアの問題

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ： お使いのコンピュータに固有のイメージをインストールしてある場合、またはオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合、DSS ユーティリティを使用します。DSS は、『Drivers and Utilities CD』および **support.jp.dell.com** から利用できます。

メモ： Windows XP を再インストールする際は、Microsoft® Windows® XP Service Pack 1 以降を使用する必要があります。

コンピュータが起動しない場合

診断ライトを確認します
電源ケーブルがコンピュータとコンセントにしっかりと接続されているか確認します

コンピュータの反応が停止した場合

注意： オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを損失する恐れがあります。

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

プログラムが応答しなくなった場合

プログラムを終了します —

Windows XP、Windows 2000

1. <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押します。
2. **アプリケーション** をクリックします。
3. 応答しなくなったプログラムをクリックします。
4. **タスクの終了** をクリックします。

プログラムが繰り返しクラッシュする場合

メモ： 通常、ソフトウェアのインストールの手順は、そのマニュアルまたはフロッピーディスクか CD に収録されています。

ソフトウェアのマニュアルを確認します — 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

画面が青色（ブルースクリーン）になった場合

元々インストールされていたバージョンの Windows XP が、お使いのコンピュータにインストールされていることを確認します
コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを確認するか、ソフトウェアの製造元に問い合わせます —

- プログラムがお使いのコンピュータにインストールされているオペレーティングシステムに対応しているか確認します。
- お使いのコンピュータがソフトウェアを実行するのに必要な最小ハードウェア要件を満たしていることを確認します。詳細に関しては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。
- デバイスドライバがプログラムとコンフリクトしていないか確認します。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

すぐにお使いのファイルのバックアップを作成します
アンチウイルスプログラムを使って、ハードドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます
開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、スタート メニューからコンピュータをシャットダウンします
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — すべてのテストが正常に終了したら、不具合はソフトウェアの問題に関連しています。

メモリの問題

メモ： お使いのコンピュータの起動時に、モニターにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビープ音（ビープコード）が連続して鳴ることがあります。この連続したビープ音で、問題を特定します。詳細に関しては、「ビープコード」を参照してください。

以下を確認しながら、Diagnostics(診断)チェックリストに必要事項を記入してください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモリ不足を示すメッセージが表示される場合 —

- 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、使用していない実行中のプログラムをすべて終了して、問題が解決するか調べます。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、増設メモリを取り付けます。
- メモリモジュールを抜き差しして、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。

その他のメモリの問題が発生する場合 —

- メモリモジュールを抜き差しして、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します。
- Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。

マウスの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

マウスケーブルを確認します —

1. ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
2. マウス拡張ケーブルを使用している場合は、拡張ケーブルを取り外してマウスをコンピュータに直接接続します。
3. コンピュータをシャットダウンし、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにキーボードケーブルを接続しなおした後、コンピュータを再起動します。

コンピュータを再起動します —

1. <Ctrl><Esc> を同時に押して、**スタート** メニューを表示します。
2. u と入力してからキーボードの矢印キーを押し、**シャットダウンする** または **電源を切る** をハイライト表示して <Enter> を押します。
3. コンピュータをシャットダウンして、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に示されているように、再度マウスケーブルを接続します。
4. コンピュータを起動します。

マウスを確認します — 正常に機能している他のマウスをコンピュータに接続して、使用してみます。新しく接続したマウスが機能する場合、最初に接続していたマウスに問題があります。

マウスの設定を確認します —

Windows XP

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2. **マウス** をクリックします。
3. 設定を調整します。

Windows 2000

1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **マウス** アイコンをダブルクリックします。
3. 設定を調整します。

PS/2 マウスを使用している場合

1. セットアップユーティリティを起動して、**Mouse Port** オプションが **On** に設定されているか確認します。
2. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

マウスドライバを再インストールします

Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します

ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

ネットワークの問題

以下を確認しながら、Diagnostics(診断)チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

ネットワークケーブルコネクタを確認します — ネットワークケーブルが、コンピュータ背面のネットワークコネクタとネットワークジャックの両方にしっかりと挿入されているか確認します。

コンピュータの前面または背面（システムのシャーシのタイプによります）にあるネットワークライトを確認します — 接続スピードライトが点灯していない場合は、ネットワーク通信が存在しません。ネットワークケーブルを取り替えます。

コンピュータを再起動して、ネットワークにログインしなおしてみます

ネットワークの設定を確認します — ネットワーク管理者またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークの設定が正しいか、またネットワークが正常に機能しているか確認します。

ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

電源の問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

電源ライトが緑色で、コンピュータが応答しない場合 — 「診断ライト」を参照してください。

電源ライトが緑色に点滅している場合 — コンピュータはスタンバイモードに入っています。キーボードのキーを押すか、マウスを動かして通常の動作に戻します。

電源ライトが消灯している場合 — コンピュータの電源が切れているか、電力が供給されていません。

- 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方にしっかりと装着しなおします。
- コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され電源タップがオンになっていることを確認します。また電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどをお使いの場合、それらを取り外してコンピュータに正しく電源が入るか確認します。
- 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
- 主電源ケーブルと前面パネルケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します。

電源ライトが黄色および緑、または黄色に点灯している場合 — デバイスが誤動作しているか、正しく取り付けられていない可能性があります。

- メモリモジュールを取り外してから取り付けます。
- すべてのカードを取り外してから取り付けます。
- グラフィックスカードを取り付けている場合、取り外してから取り付けなおします。

電源ライトが黄色に点滅している場合 —

コンピュータに電力は供給されていますが、内部で電源の問題が発生している可能性があります。

- 電圧切り替えスイッチの設定が、ご使用の地域の AC 電源に一致しているか確認します。
- プロセッサ電源ケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します。

電気的な妨害を除去します — 電気的な妨害の原因には、以下のものがあります。

- 電源、キーボード、およびマウス拡張ケーブル
- 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている
- 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ： プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタのマニュアルを確認します — セットアップおよびトラブルシューティングについては、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタの電源がオンになっていることを確認します

プリンタケーブルの接続を確認します —

- ケーブル接続については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
プリンタが Windows で認識されていることを確認します — Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。 2. インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示するをクリックします。 プリンタが一覧に表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。 3. **プロパティ** をクリックして、**ポート** タブをクリックします。パラレルプリンタの場合、**印刷先のポート** を **LPT1:プリンタポート** に設定します。USB プリンタの場合、**印刷先のポート** が **USB** に設定されているか確認します。 Windows 2000 1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**プリンタ** をクリックします。 プリンタが一覧に表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。 2. **プロパティ** をクリックして、ポートタブをクリックします。 パラレルプリンタの場合、**印刷するポート** を **LPT1:プリンタポート** に設定します。USB プリンタの場合、**印刷先のポート** が **USB** に設定されているか確認します。
プリンタドライバを再インストールします — 手順については、プリンタのマニュアルを参照してください。

デフォルト設定の復元

コンピュータシステムの設定をデフォルト値にするには、次の手順を実行します — 1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。 2. 画面の右上角に Press <F2> to Enter Setup というメッセージが表示されたら、すぐに <F2> を押します。 ここで時間をおきすぎて、Microsoft® Windows® ロゴが表示された場合、Windows デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、スタートメニューからコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。 3. System Management で、Maintenance オプションを選んで、画面の指示に従います。

シリアルまたはパラレルデバイスの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ： プリンタに問題がある場合、「プリンタの問題」を参照してください。

オプション設定を確認します — 推奨される設定については、デバイスのマニュアルを参照してください。セットアップユーティリティを起動し、**Serial Port #1** 設定（またはオプションのシリアルポートアダプタが取り付けてある場合は **Serial Port #2** 設定）または **LPT Port Mode** 設定が推奨された設定と一致しているか確認します。
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します

サウンドとスピーカーの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

スピーカーから音がしない場合

メモ： MP3 プレーヤーの音量調節は、Windows の音量設定より優先されることがあります。MP3 の音楽を聴いていた場合、プレーヤーの音量が十分か確認してください。

スピーカーケーブルの接続を確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図に示されているように、スピーカーが接続されているか確認します。オーディオカードをご購入された場合、スピーカーがカードに接続されているか確認します。
サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合、音量、低音、または高音を調整して音の歪みを解消します。
Windows の音量を調整します — 画面の右下角のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。
ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します — ヘッドフォンがコンピュータの前面パネルにあるヘッドフォンコネクタに接続されている場合、スピーカーからの音声は自動的に無効になります。
コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
デジタルモードを有効にします — CD ドライブがアナログモードで動作している場合、お使いのスピーカーは機能しません。 Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**サウンド、音声、およびオーディオデバイス** をクリックします。 2. **サウンドとオーディオデバイス** をクリックします。 3. **ハードウェア** タブをクリックします。 4. CD ドライブの名前をダブルクリックします。 5. **プロパティ** タブをクリックします。 6. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスにチェックマークを付けます。 Windows 2000 1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をポイントします。次に、**サウンドとマルチメディア** をダブルクリックします。 2. **ハードウェア** タブをクリックします。 3. CD ドライブの名前をクリックして、**プロパティ** をクリックします。 4. **プロパティ** タブをクリックします。 5. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスにチェックマークを付けます。
電気的な妨害を除去します — コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切り、干渉を調べます。
スピーカーの診断プログラムを実行します
オーディオドライバを再インストールします
デバイスのオプション設定を確認します — セットアップユーティリティを起動して、**Audio Controller** オプションが **On** に設定されているか確認します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

ヘッドフォンから音がしない場合

ヘッドフォンケーブルの接続を確認します — ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されているか確認します。
デジタルモードを無効にします — CD ドライブがデジタルモードで動作している場合、お使いのヘッドフォンは機能しません。 Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**サウンド、音声、およびオーディオデバイス** をクリックします。 2. **サウンドとオーディオデバイス** をクリックします。 3. **ハードウェア** タブをクリックします。 4. CD ドライブの名前をダブルクリックします。 5. **プロパティ** タブをクリックします。 6. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスのチェックマークを外します。 Windows 2000 1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をポイントします。次に、**サウンドとマルチメディア** をダブルクリックします。 2. **ハードウェア** タブをクリックします。 3. CD ドライブの名前をクリックして、**プロパティ** をクリックします。 4. **プロパティ** タブをクリックします。 5. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスのチェクマークを外します。
Windows の音量を調整します — 画面の右下角のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ビデオとモニターの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

画面に何も表示されない場合

メモ: トラブルシューティングの手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

モニターのケーブル接続を確認します — - グラフィックスカードをご購入された場合、モニターがカードに接続されているか確認します。 - お使いのモニターが正しく接続されているか確認します（コンピュータに付属している『クイックリファレンスガイド』を参照）。 - グラフィックス拡張ケーブルを使用していてケーブルを取り外すと問題が解決する場合は、ケーブルに問題があります。 - コンピュータの電源ケーブルとモニターの電源ケーブルを交換して、電源ケーブルに問題がないか確認します。 - 曲がったり壊れたりしたピンがないか、コネクタを確認します。（モニターのケーブルコネクタは、通常ピンが欠けています。）
モニターの電源ライトを確認します — 電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかりと押して、モニターに電源が入っていることを確認します。電源ライトが点灯または点滅している場合、モニターには電力が供給されています。電源ライトが点滅する場合、キーボードのキーを押すかマウスを動かします。
コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
モニターを確認します — 正常に機能している他のモニターをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいモニターが機能する場合、元のモニターに問題があります。
診断ライトを確認します
カードの設定を確認します — セットアップユーティリティを起動して、**Primary Video** オプションが正しく設定されているか確認します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
モニターのセルフテストを実行します — 詳細に関しては、モニターのマニュアルを参照してください。

画面が見づらい場合

モニターの設定を確認します — モニターのコントラストと輝度の調整、モニターの消磁、およびモニターのセルフテストを実行する手順については、モニターのマニュアルを参照してください。
サブウーハーをモニターから離します — スピーカーにサブウーハーが含まれている場合、サブウーハーがモニターから 60 センチ以上離れていることを確認します。
外部電源をモニターから離します — 扇風機、蛍光灯、ハロゲンランプ、およびその他の電気機器は、画面の状態を不安定にすることがあります。コンピュータの近くで使用している機器の電源を切ってみてください。
Windows のディスプレイ設定を調節します — Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。 2. **画面** をクリックして、**設定** タブをクリックします。 3. **画面の解像度** と **画面の色** の設定を変更します。 Windows 2000 1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をクリックします。 2. **画面** アイコンをダブルクリックして、**設定** タブをクリックします。 3. **画面の領域** または **デスクトップ領域** で別の設定にしてみます。

目次に戻る

目次に戻る

問題の解決

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

バッテリーの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：バッテリーの取り付け方が間違っていると、新しいバッテリーが破裂する恐れがあります。バッテリーを交換する場合、同じバッテリー、または製造元が推奨する同等のバッテリーのみ使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

バッテリーを交換します — コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時間と日付の情報をリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時間または日付が表示される場合は、バッテリーを交換します。それでもバッテリーが正常に機能しない場合、デルにお問い合わせください。

ドライブの問題

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

ドライブをテストします — l 別のフロッピーディスク、CD、または DVD を挿入して、元のフロッピーディスク、CD、または DVD に問題がないか確認します。 l 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。
ドライブまたはディスクをクリーニングします —「コンピュータのクリーニング」を参照してください。
ケーブルの接続をチェックします
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します

CD および DVD ドライブの問題

メモ： 世界各国には様々なディスク形式があるため、お使いの DVD ドライブでは再生できない DVD もあります。

Windows の音量を調整します — l 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックします。 l 音量つまみを上にドラッグして、音量が上がったか確認します。 l チェックマークの付いたボックスをクリックして、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。
スピーカーおよびサブウーハーを確認します —「サウンドとスピーカーの問題」を参照してください。

CD / DVD-RW ドライブに書き込みができない場合

他のプログラムを閉じます — CD/DVD-RW ドライブはデータを書き込む際に、一定のデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD/DVD-RW に書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了してみます。
CD / DVD-RW ディスクへの書き込みの前に、Windows のスタンバイモードを無効にします — 「電力の管理」を参照してください。

ハードドライブの問題

Dell IDE Hard Drive Diagnostics（IDE HD 診断）プログラムを実行します —

Dell IDE Hard Drive Diagnostics（IDE HD 診断）プログラムは、ハードドライブをテストして、ハードドライブの障害を検出したり解決するユーティリティです。

1. コンピュータの電源を入れます（コンピュータの電源が入っている場合、再起動します）。
2. 画面の右上隅に F2 = Setup が表示されたら、<Ctrl><Alt><d> を押します。
3. 画面の指示に従います。

チェックディスクを実行します —

Windows XP

1. **スタート** ボタンをクリックして、**マイコンピュータ** をクリックします。
2. **ローカルディスク C:** を右クリックします。
3. **プロパティ** をクリックします。
4. **ツール** タブをクリックします。
5. **エラーチェック** の項目の **チェックする** をクリックします。
6. **不良なセクタをスキャンし回復する** をクリックします。
7. **開始** をクリックします。

Windows 2000

1. Windows のデスクトップで **マイコンピュータ** をダブルクリックします。
2. **ツール** タブをクリックします。
3. **エラーチェック** の項目の **チェックする** をクリックします。
4. **開始** をクリックします。

MS-DOS®
MS-DOS プロンプトに scandisk *x*: と入力します。ここで *x* はハードドライブを示す文字です。次に <Enter> を押し、**スタート** ボタンをクリックして **マイコンピュータ** をクリックします。

キーボードの問題

⚠ **警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

キーボードケーブルを確認します —

- キーボードケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- コンピュータをシャットダウンし、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにキーボードケーブルを接続しなおした後、コンピュータを再起動します。
- ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
- キーボード拡張ケーブルを外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。

キーボードを確認します — 正常に機能している他のキーボードをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいキーボードが機能する場合、元のキーボードに問題があります。
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

ロックアップおよびソフトウェアの問題

⚠ **警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

メモ： お使いのコンピュータに固有のイメージをインストールしてある場合、またはオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合、DSS ユーティリティを使用します。DSS は、『Drivers and Utilities CD』および **support.jp.dell.com** から利用できます。

メモ： Windows XP を再インストールする際は、Microsoft® Windows® XP Service Pack 1 以降を使用する必要があります。

コンピュータが起動しない場合

診断ライトを確認します
電源ケーブルがコンピュータとコンセントにしっかりと接続されているか確認します

コンピュータの反応が停止した場合

注意： オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを損失する恐れがあります。

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

プログラムが応答しなくなった場合

プログラムを終了します —

Windows XP、Windows 2000

1. <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押します。
2. **アプリケーション** をクリックします。
3. 応答しなくなったプログラムをクリックします。
4. **タスクの終了** をクリックします。

プログラムが繰り返しクラッシュする場合

メモ： 通常、ソフトウェアのインストールの手順は、そのマニュアルまたはフロッピーディスクか CD に収録されています。

ソフトウェアのマニュアルを確認します — 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

画面が青色（ブルースクリーン）になった場合

元々インストールされていたバージョンの Windows XP が、お使いのコンピュータにインストールされていることを確認します
コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを確認するか、ソフトウェアの製造元に問い合わせます —

- プログラムがお使いのコンピュータにインストールされているオペレーティングシステムに対応しているか確認します。
- お使いのコンピュータがソフトウェアを実行するのに必要な最小ハードウェア要件を満たしていることを確認します。詳細に関しては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。
- デバイスドライバがプログラムとコンフリクトしていないか確認します。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

すぐにお使いのファイルのバックアップを作成します
アンチウイルスプログラムを使って、ハードドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます
開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、スタート メニューからコンピュータをシャットダウンします
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — すべてのテストが正常に終了したら、不具合はソフトウェアの問題に関連しています。

メモリの問題

メモ： お使いのコンピュータの起動時に、モニターにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビープ音（ビープコード）が連続して鳴ることがあります。この連続したビープ音で、問題を特定します。詳細に関しては、「ビープコード」を参照してください。

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモリ不足を示すメッセージが表示される場合 —

- 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、使用していない実行中のプログラムをすべて終了して、問題が解決するか調べます。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、増設メモリを取り付けます。
- メモリモジュールを抜き差しして、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。

その他のメモリの問題が発生する場合 —

- メモリモジュールを抜き差しして、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。

マウスの問題

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

マウスケーブルを確認します —

1. ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
2. マウス拡張ケーブルを使用している場合は、拡張ケーブルを取り外してマウスをコンピュータに直接接続します。
3. コンピュータをシャットダウンし、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにキーボードケーブルを接続しなおした後、コンピュータを再起動します。

コンピュータを再起動します —

1. <Ctrl><Esc> を同時に押して、**スタート** メニューを表示します。
2. u と入力してからキーボードの矢印キーを押し、**シャットダウンする** または **電源を切る** をハイライト表示して <Enter> を押します。
3. コンピュータをシャットダウンして、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に示されているように、再度マウスケーブルを接続します。
4. コンピュータを起動します。

マウスを確認します — 正常に機能している他のマウスをコンピュータに接続して、使用してみます。新しく接続したマウスが機能する場合、最初に接続していたマウスに問題があります。

マウスの設定を確認します —

Windows XP

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2. **マウス** をクリックします。
3. 設定を調整します。

Windows 2000

1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **マウス** アイコンをダブルクリックします。
3. 設定を調整します。

PS/2 マウスを使用している場合

1. セットアップユーティリティを起動して、**Mouse Port** オプションが **On** に設定されているか確認します。
2. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

マウスドライバを再インストールします

Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します

ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

ネットワークの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告： **本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

ネットワークケーブルコネクタを確認します — ネットワークケーブルが、コンピュータ背面のネットワークコネクタとネットワークジャックの両方にしっかりと挿入されているか確認します。

コンピュータの前面または背面（システムのシャーシのタイプによります）にあるネットワークライトを確認します — 接続スピードライトが点灯していない場合は、ネットワーク通信が存在しません。ネットワークケーブルを取り替えます。

コンピュータを再起動して、ネットワークにログインしなおしてみます

ネットワークの設定を確認します — ネットワーク管理者またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークの設定が正しいか、またネットワークが正常に機能しているか確認します。

ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

電源の問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

 警告： **本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

電源ライトが緑色で、コンピュータが応答しない場合 — 「診断ライト」を参照してください。

電源ライトが緑色に点滅している場合 — コンピュータはスタンバイモードに入っています。キーボードのキーを押すか、マウスを動かして通常の動作に戻します。

電源ライトが消灯している場合 — コンピュータの電源が切れているか、電力が供給されていません。

- 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方にしっかりと装着しなおします。
- コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され電源タップがオンになっていることを確認します。また電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどをお使いの場合、それらを取り外してコンピュータに正しく電源が入るか確認します。
- 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
- 主電源ケーブルと前面パネルケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します。

電源ライトが黄色および緑、または黄色に点灯している場合 — デバイスが誤動作しているか、正しく取り付けられていない可能性があります。

- メモリモジュールを取り外してから取り付けます。
- すべてのカードを取り外してから取り付けます。
- グラフィックスカードを取り付けている場合、取り外してから取り付けなおします。

電源ライトが黄色に点滅している場合 —

コンピュータに電力は供給されていますが、内部で電源の問題が発生している可能性があります。

- 電圧切り替えスイッチの設定が、ご使用の地域の AC 電源に一致しているか確認します。
- プロセッサ電源ケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します。

電気的な妨害を除去します — 電気的な妨害の原因には、以下のものがあります。

- 電源、キーボード、およびマウス拡張ケーブル
- 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている
- 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

 警告： **本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

 メモ： プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタのマニュアルを確認します — セットアップおよびトラブルシューティングについては、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタの電源がオンになっていることを確認します

プリンタケーブルの接続を確認します —

- ケーブル接続については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
プリンタが Windows で認識されていることを確認します — Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。 2. インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示するをクリックします。 プリンタが一覧に表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。 3. **プロパティ** をクリックして、**ポート** タブをクリックします。パラレルプリンタの場合、**印刷先のポート** を **LPT1:プリンタポート** に設定します。USB プリンタの場合、**印刷先のポート** が **USB** に設定されているか確認します。 Windows 2000 1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**プリンタ** をクリックします。 プリンタが一覧に表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。 2. **プロパティ** をクリックして、ポートタブをクリックします。 パラレルプリンタの場合、**印刷するポート** を **LPT1:プリンタポート** に設定します。USB プリンタの場合、**印刷先のポート** が **USB** に設定されているか確認します。
プリンタドライバを再インストールします — 手順については、プリンタのマニュアルを参照してください。

デフォルト設定の復元

コンピュータシステムの設定をデフォルト値にするには、次の手順を実行します — 1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。 2. 画面の右上角に Press <F2> to Enter Setup というメッセージが表示されたら、すぐに <F2> を押します。 ここで時間をおきすぎて、Microsoft® Windows® ロゴが表示された場合、Windows デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、スタートメニューからコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。 3. System Management で、Maintenance オプションを選んで、画面の指示に従います。

シリアルまたはパラレルデバイスの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ： プリンタに問題がある場合、「プリンタの問題」を参照してください。

オプション設定を確認します — 推奨される設定については、デバイスのマニュアルを参照してください。セットアップユーティリティを起動し、**Serial Port #1** 設定（またはオプションのシリアルポートアダプタが取り付けてある場合は **Serial Port #2** 設定）または **LPT Port Mode** 設定が推奨された設定と一致しているか確認します。
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します

サウンドとスピーカーの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

スピーカーから音がしない場合

メモ： MP3 プレーヤーの音量調節は、Windows の音量設定より優先されることがあります。MP3 の音楽を聴いていた場合、プレーヤーの音量が十分か確認してください。

スピーカーケーブルの接続を確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図に示されているように、スピーカーが接続されているか確認します。オーディオカードをご購入された場合、スピーカーがカードに接続されているか確認します。
サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合、音量、低音、または高音を調整して音の歪みを解消します。
Windows の音量を調整します — 画面の右下角のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。
ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します — ヘッドフォンがコンピュータの前面パネルにあるヘッドフォンコネクタに接続されている場合、スピーカーからの音声は自動的に無効になります。
コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
デジタルモードを有効にします — CD ドライブがアナログモードで動作している場合、お使いのスピーカーは機能しません。 Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**サウンド、音声、およびオーディオデバイス** をクリックします。 2. **サウンドとオーディオデバイス** をクリックします。 3. **ハードウェア** タブをクリックします。 4. CD ドライブの名前をダブルクリックします。 5. **プロパティ** タブをクリックします。 6. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスにチェックマークを付けます。 Windows 2000 1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をポイントします。次に、**サウンドとマルチメディア** をダブルクリックします。 2. **ハードウェア** タブをクリックします。 3. CD ドライブの名前をクリックして、**プロパティ** をクリックします。 4. **プロパティ** タブをクリックします。 5. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスにチェックマークを付けます。
電気的な妨害を除去します — コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切り、干渉を調べます。
スピーカーの診断プログラムを実行します
オーディオドライバを再インストールします
デバイスのオプション設定を確認します — セットアップユーティリティを起動して、**Audio Controller** オプションが **On** に設定されているか確認します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

ヘッドフォンから音がしない場合

ヘッドフォンケーブルの接続を確認します — ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されているか確認します。
デジタルモードを無効にします — CD ドライブがデジタルモードで動作している場合、お使いのヘッドフォンは機能しません。 Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**サウンド、音声、およびオーディオデバイス** をクリックします。 2. **サウンドとオーディオデバイス** をクリックします。 3. **ハードウェア** タブをクリックします。 4. CD ドライブの名前をダブルクリックします。 5. **プロパティ** タブをクリックします。 6. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスのチェックマークを外します。 Windows 2000 1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をポイントします。次に、**サウンドとマルチメディア** をダブルクリックします。 2. **ハードウェア** タブをクリックします。 3. CD ドライブの名前をクリックして、**プロパティ** をクリックします。 4. **プロパティ** タブをクリックします。 5. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスのチェクマークを外します。
Windows の音量を調整します — 画面の右下角のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ビデオとモニターの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

画面に何も表示されない場合

メモ: トラブルシューティングの手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

モニターのケーブル接続を確認します — - グラフィックスカードをご購入された場合、モニターがカードに接続されているか確認します。 - お使いのモニターが正しく接続されているか確認します（コンピュータに付属している『クイックリファレンスガイド』を参照）。 - グラフィックス拡張ケーブルを使用していてケーブルを取り外すと問題が解決する場合は、ケーブルに問題があります。 - コンピュータの電源ケーブルとモニターの電源ケーブルを交換して、電源ケーブルに問題がないか確認します。 - 曲がったり壊れたりしたピンがないか、コネクタを確認します。（モニターのケーブルコネクタは、通常ピンが欠けています。）
モニターの電源ライトを確認します — 電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかりと押して、モニターに電源が入っていることを確認します。電源ライトが点灯または点滅している場合、モニターには電力が供給されています。電源ライトが点滅する場合、キーボードのキーを押すかマウスを動かします。
コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
モニターを確認します — 正常に機能している他のモニターをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいモニターが機能する場合、元のモニターに問題があります。
診断ライトを確認します
カードの設定を確認します — セットアップユーティリティを起動して、**Primary Video** オプションが正しく設定されているか確認します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
モニターのセルフテストを実行します — 詳細に関しては、モニターのマニュアルを参照してください。

画面が見づらい場合

モニターの設定を確認します — モニターのコントラストと輝度の調整、モニターの消磁、およびモニターのセルフテストを実行する手順については、モニターのマニュアルを参照してください。
サブウーハーをモニターから離します — スピーカーにサブウーハーが含まれている場合、サブウーハーがモニターから 60 センチ以上離れていることを確認します。
外部電源をモニターから離します — 扇風機、蛍光灯、ハロゲンランプ、およびその他の電気機器は、画面の状態を不安定にすることがあります。コンピュータの近くで使用している機器の電源を切ってみてください。
Windows のディスプレイ設定を調節します — Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。 2. **画面** をクリックして、**設定** タブをクリックします。 3. **画面の解像度** と **画面の色** の設定を変更します。 Windows 2000 1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をクリックします。 2. **画面** アイコンをダブルクリックして、**設定** タブをクリックします。 3. **画面の領域** または **デスクトップ領域** で別の設定にしてみます。

目次に戻る

仕様

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサのタイプ	Intel® Pentium® 4 および Celeron®(将来のデルサポートアップグレードに対応した設計)。
L1(レベル 1)キャッシュ	32 KB
L2(レベル 2)キャッシュ	1 MB パイプラインバースト、8 ウェイセットアソシエイティブ、ライトバック SRAM

メモリ	
タイプ	400 MHz DDR2 SDRAM
メモリコネクタ	スモールフォームファクターコンピュータ: 2 スモールデスクトップコンピュータ:4 スモールミニタワーコンピュータ:4
メモリ容量	128、256、512 MB、または 1 GB 非 ECC
最小メモリ	デュアルチャネル:256 MB シングルチャンネル128 MB
最大搭載メモリ	スモールフォームファクターコンピュータ: 2 GB スモールデスクトップコンピュータ: 4 GB スモールミニタワーコンピュータ: 4 GB
BIOS アドレス	F0000h

コンピュータ情報	
チップセット	Intel 915G
データバスの幅	64 ビット
アドレスバス幅	32 ビット
DMA チャネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ(NVRAM)	4 Mb
メモリ速度	400 MHz
NIC	DMTF によって定義されている ASF 1.03 サポートを組み込んだ内蔵ネットワークインタフェース 10/100/1000 通信が可能 l 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 黄色 — 1 Gb(または 1000 Mbps)間の接続が良好です。 l オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。

ビデオ	
タイプ	内蔵 Intel Extreme グラフィックスまたは PCI Express x16 DVI ビデオカード

オーディオ	
タイプ	AC97、Sound Blaster エミュレーション
ステレオ変換	16 ビット AD 変換、20 ビット DA 変換

コントローラ	
ハードドライブ	スモールフォームファクター: 1 台のデバイスをサポートしているシリアル ATA コントローラが 1 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートしているパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ

	スモールデスクトップ: 1 台のデバイスをサポートしているシリアル ATA コントローラが 1 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートしているパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ スモールミニタワー: 各 1 台のデバイスをサポートしているシリアル ATA コントローラが 2 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートしているパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ

拡張バス	
バスのタイプ	PCI 2.2 SATA 1.0a USB 2.0 PCI Express 1.0a
バススピード	PCI: 33 MHz SATA: 1.5 Gbps USB: 480 Mbps PCI Express x1:5 Gbps PCI Express x16:80 Gbps
スモールフォームファクターコンピュータ	ロープロファイルカードに対応(カードサイズ = 高さ 6.35 cm × 長さ 16.76 cm)
PCI	
コネクタ	1
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅(最大)	32 ビット
PCI Express	
コネクタ	x16 × 1
コネクタサイズ	164 ピン
コネクタデータ幅(最大)	16 PCI Express レーン
スモールデスクトップコンピュータ	ハーフレングス PCI カード × 2(カードサイズ = 高さ 10.67 cm × 長さ 17.65 cm)
PCI	
コネクタ	1 または 2(ご購入された PCI によって異なります)
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅(最大)	32 ビット
PCI Express	
コネクタ	x16 × 1 およびオプションの x1 × 1
コネクタサイズ	120 ピン(x16)およびオプションの 36 ピン(x1)
コネクタデータ幅(最大)	16 PCI Express レーン(x16)および オプションの PCI Express レーン(x1)
スモールミニタワー	カードサイズ = 3 つの PCI スロットは 27.9 cm までのカードをサポートします。
PCI	
コネクタ	3 つ
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅(最大)	32 ビット
PCI Express	
コネクタ	x1 × 1 および x16 × 1
コネクタサイズ	36 ピン(x1)および 120 ピン(x16)
コネクタデータ幅(最大)	PCI Express レーン(x1)および 16 PCI Express レーン(x16)

ドライブ	
外部アクセス用:	
スモールフォームファクターコンピュータ	薄型フロッピードライブ用のベイ × 1 薄型 CD/DVD ドライブ用のベイ × 1
スモールデスクトップコンピュータ	3.5 インチベイ × 1 5.25 インチベイ × 1
スモールミニタワーコンピュータ	3.5 インチドライブベイ × 2 5.25 インチドライブベイ × 2
内部アクセス用:	
スモールフォームファクターコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1

スモールデスクトップコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1
スモールミニタワーコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 2

コネクタ	
外付けコネクタ:	
シリアル	9 ピンコネクタ、16550C 互換
パラレル	25 ピンコネクタ(双方向)(メス)
ビデオ	15 ピンコネクタ(メス)
ネットワークアダプタ	RJ45 コネクタ
シリアルポートアダプタ付き PS/2(オプション)	スモールフォームファクターコンピュータ: Y アダプタ付き 6 ピンミニ DIN スモールデスクトップコンピュータおよびスモールミニタワーコンピュータ: 6 ピンミニ DIN × 2
USB	USB 2.0 互換コネクタ(前面パネル × 2、背面パネル × 6)
オーディオ	ライン入力、ライン出力、マイク用のコネクタ × 3、ヘッドフォン用の前面パネルコネクタ × 1
システム基板コネクタ:	
プライマリ IDE ドライブ	40 ピンコネクタ
シリアル ATA	スモールフォームファクター: 7 ピンコネクタ × 1 スモールデスクトップ: 7 ピンコネクタ × 2 スモールミニタワー: 7 ピンコネクタ × 4
フロッピードライブ	34 ピンコネクタ
シリアル	オプションのセカンドシリアルポートカード用 12 ピンコネクタ
ファン	5 ピンコネクタ
PCI 2.2	120 ピンコネクタ
CD ドライブオーディオインタフェース	4 ピンコネクタ
テレフォニー(TAPI)	4 ピンコネクタ
前面オーディオ	10 ピンコネクタ
前面パネル	34 ピンコネクタ

キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt><Del>	Microsoft® Windows® XP を実行している場合、Windows Security ウィンドウが表示されます。MS-DOS® モードの場合は、コンピュータを再スタート(再起動)します。
<F2> または <Ctrl><Alt><Enter>	内蔵のセットアップユーティリティを起動(起動時のみ)
<Ctrl><Alt><b>	セットアップユーティリティの Boot Sequence オプションのデバイスのひとつからではなく、PXE(リモート起動環境)によって特定されたネットワーク環境からコンピュータを自動的に起動(起動時のみ)
<F12> または <Ctrl><Alt><F8>	ユーザーが単一起動用のデバイスを入力できる起動デバイスメニュー(起動時のみ)、またハードドライブおよびシステムの Diagnostics(診断)プログラムを実行するオプションを表示

ボタンとライト	
電源ボタン	押しボタン
電源ライト	緑色のライト — スリープ状態のとき緑色に点滅、電源がオンのとき緑色に点灯 黄色のライト — 取り付けられているデバイスに問題があるとき黄色に点滅、内部電力に問題があるとき黄色に点灯(「電源の問題」を参照)
ハードドライブライト	緑色
リンク保全ライト(内蔵ネットワークアダプタ上)	10 Mb 伝送時は緑色のライト、100 Mb 伝送時は橙色のライト、1000 Mb(1 Gb)伝送時は黄色のライト
動作ライト(内蔵ネットワークアダプタ上)	黄色の点滅ライト
診断ライト	背面パネルの 4 つのライト
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

電源	
DC 電源装置:	
ワット数	スモールフォームファクターコンピュータ: 160 W スモールデスクトップコンピュータ: 210 W 3.2 GHz 以下のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコンピュータ: 250 W 3.4 GHz 以上のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコン

	ピュータ: 305 W
熱消費	スモールフォームファクターコンピュータ: 546 BTU / 時 スモールデスクトップコンピュータ: 717 BTU / 時 3.2 GHz 以下のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコンピュータ: 853 BTU / 時 3.4 GHz 以上のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコンピュータ: 1041 BTU / 時
電圧	固定電圧電源装置 — 50/60 Hz で 110 V 手動設定および自動センサー電源装置 — 50/60 Hz で 90～135 V、50/60 Hz で 180～265 V、50/60 Hz で 100 V(日本国内で使用されるコンピュータ)
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー

サイズと重量	
スモールフォームファクターコンピュータ:	
高さ	9.0 cm
幅	31.9 cm
奥行	35.4 cm
重さ	6 kg
スモールデスクトップコンピュータ:	
高さ	10.6 cm
幅	38.9 cm
奥行	43.2 cm
重さ	9.9 kg
スモールミニタワーコンピュータ:	
高さ	42.5 cm
幅	18.1 cm
奥行	44.7 cm
重さ	12.7 kg

環境	
温度:	
動作時	10～35 ℃ **メモ:** 35 ℃ で最大動作高度 914 m
保管時	-40 ～ 65 ℃
相対湿度	20 % ～ 80 %(結露しないこと)
最大振動:	
動作時	0.25 G(3～200 Hz、0.5 オクターブ / 分)
保管時	0.5 G (3 ～ 200 Hz、1 オクターブ / 分)
最大衝撃:	
動作時	50.8cm / 秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm / 秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ
高度:	
動作時	- 15.2 ～ 3,048 m
保管時	- 15.2 ～ 10,668 m

目次に戻る

目次に戻る

仕様

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサの種類	Intel® Pentium® 4(将来のデルサポートアップグレードに対応した設計)。
L1(レベル 1)キャッシュ	32 KB
L2(レベル 2)キャッシュ	1 MB パイプラインバースト、エイトウェイセットアソシエイティブ、ライトバック SRAM

メモリ	
タイプ	400 および 533 MHz DDR2 SDRAM
メモリのコネクタ	スモールフォームファクターコンピュータ: 2 スモールデスクトップコンピュータ: 4 デスクトップコンピュータ: 4 スモールミニタワーコンピュータ: 4 ミニタワーコンピュータ: 4
メモリ容量	128 MB、256 MB、512 MB または 1 GB非 ECC
最小メモリ	デュアルチャネル: 256 MB シングルチャネル 128 MB
最大搭載メモリ	スモールフォームファクターコンピュータ: 2 GB スモールデスクトップコンピュータ: 4 GB デスクトップコンピュータ: 4 GB スモールミニタワーコンピュータ: 4 GB ミニタワーコンピュータ: 4 GB
BIOS アドレス	F0000h

コンピュータ情報	
チップセット	Intel Grantsdale
データバス幅	64 ビット
アドレスバス幅	32 ビット
DMA チャネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ(NVRAM)	4 Mb
メモリ速度	400 および 533 MHz
NIC	DMTF によって定義されている ASF 1.03 サポートを組み込んだ内蔵ネットワークインタフェース 10/100/1000 通信が可能: • 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 黄色 — 1 Gb(または 1000 Mbps)ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。

ビデオ	
タイプ	内蔵 Intel Extreme グラフィックスまたは PCI Express x16 DVI ビデオカード

オーディオ	
タイプ	AC 97、Sound Blaster エミュレーション
ステレオ変換	16 ビット AD 変換および 20 ビット DA 変換

コントローラ	
ドライブ	スモールフォームファクター: 1 台のデバイスをサポートするシリアル ATA コントローラが 1 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートするパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ

	スモールデスクトップ：1 台のデバイスをサポートするシリアル ATA コントローラが 2 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートするパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ デスクトップ：1 台のデバイスをサポートするシリアル ATA コントローラが 2 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートするパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ スモールミニタワー：1 台のデバイスをサポートするシリアル ATA コントローラが 2 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートするパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ ミニタワー：1 台のデバイスをサポートするシリアル ATA コントローラが 2 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートするパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ

拡張バス	
バスのタイプ	PCI 2.2 SATA 1.0a USB 2.0 PCI Express 1.0a
バス速度	PCI：33 MHz SATA：1.5 Gbps USB：480 Mbps PCI Express x1:5 Gbps PCI Express x16:80 Gbps
スモールフォームファクターコンピュータ	
PCI：	
コネクタ	ロープロファイルカード対応 1
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅（最大）	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x16、1 つ
コネクタサイズ	164 ピン
コネクタデータ幅（最大）	16 PCI Express レーン
スモールデスクトップコンピュータ	
PCI：	
コネクタ	ハーフレングスカード対応 1 つまたは 2 つ（購入製品による）
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅（最大）	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x16 × 1 およびオプションの x1 × 1
コネクタサイズ	120 ピン（x16）およびオプションの 36 ピン（x1）
コネクタデータ幅（最大）	16 PCI Express レーン（x16）および オプションの PCI Express レーン（x1）
デスクトップコンピュータ	
PCI：	
コネクタ	ハーフハイトカード対応 2（カードケージなし） ハーフレングス、フルハイトカード対応（カードケージ付きオプション）（カード付き）
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅（最大）	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x16、1 つ
コネクタサイズ	120 ピン（x16）
コネクタデータ幅	16 PCI Express レーン（x16）
スモールミニタワーコンピュータ	
PCI：	
コネクタ	フルハイトカード対応 3
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅（最大）	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x1 × 1 および x16 × 1

コネクタサイズ	36 ピン（x1）および 120 ピン（x16）
コネクタデータ幅（最大）	PCI Express レーン（x1）および 16 PCI Express レーン（x16）
ミニタワーコンピュータ	
PCI:	
コネクタ	フルハイトカード対応 2
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅（最大）	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x1 × 1 および x16 × 1
コネクタサイズ	36 ピン（x1）および 120 ピン（x16）
コネクタデータ幅（最大）	PCI Express レーン（x1）および 16 PCI Express レーン（x16）

ドライブ	
外部アクセス用:	
スモールフォームファクターコンピュータ	薄型フロッピードライブ用ベイ × 1 薄型 CD/DVD ドライブ用ベイ × 1
スモールデスクトップコンピュータ	3.5 インチベイ × 1 5.25 インチベイ × 1
デスクトップコンピュータ	3.5 インチドライブ × 1 CD/DVD またはオプションのセカンドハードドライブ用ベイ × 1
スモールミニタワーコンピュータ	3.5 インチドライブベイ × 2 5.25 インチドライブベイ × 2
ミニタワーコンピュータ	3.5 インチドライブベイ × 1 5.25 インチドライブベイ × 2
内部アクセス用:	
スモールフォームファクターコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1
スモールデスクトップコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1
デスクトップコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1
スモールミニタワーコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ X 2
ミニタワーコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ X 2

コネクタ	
外付けコネクタ:	
シリアル	9 ピンコネクタ、16550C 互換
パラレル	双方向 25 ピンコネクタ（メス）
ビデオ	15 ピンコネクタ（メス）
ネットワークアダプタ	RJ-45 コネクタ
セカンダリシリアルポートアダプタ付き PS/2（オプション）	スモールフォームファクターコンピュータ: Y アダプタ付き 6 ピンミニ DIN スモールデスクトップ、スモールミニタワーコンピュータ、デスクトップ、およびミニタワー：6 ピンミニ DIN × 2
USB	USB 2.0 互換コネクタ（前面パネル ×2、背面パネル × 6）
オーディオ	ライン入力、ライン出力、マイク用のコネクタが 3 つ、およびヘッドフォン用の前面パネルコネクタが 1 つ
システム基板コネクタ:	
プライマリ IDE ドライブ	40 ピンコネクタ
シリアル ATA	スモールフォームファクター: 7 ピンコネクタ × 1 スモールデスクトップ: 7 ピンコネクタ × 2 デスクトップ: 7 ピンコネクタ × 2 スモールミニタワー: 7 ピンコネクタ × 2 ミニタワー: 7 ピンコネクタ × 2
フロッピードライブ	34 ピンコネクタ
シリアル	オプションのセカンドシリアルポートカード用 12 ピンコネクタ
ファン	5 ピンコネクタ
PCI 2.2	120 ピンコネクタ
CD ドライブオーディオインタフェース	4 ピンコネクタ
前面オーディオ	10 ピンコネクタ（オプションのオーディオカスタマキット用）

前面パネル	40 ピンコネクタ

キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt><Del>	Microsoft® Windows® XP を実行している場合、Windows Security ウィンドウが表示されます。MS-DOS® モードの場合は、コンピュータを再スタート（再起動）します。
<F2>または <Ctrl><Alt><Enter>	内蔵のセットアップユーティリティを起動（起動時のみ）
<Ctrl><Alt><b>	セットアップユーティリティの Boot Sequence オプションのデバイスの一つからではなく、PXE（リモート起動環境）によって特定されたネットワーク環境からコンピュータを自動的に起動（起動時のみ）
<F12> または <Ctrl><Alt><F8>	ユーザーが単一起動用のデバイスを入力できる起動デバイスメニュー（起動時のみ）、またハードドライブおよびシステム診断プログラムを実行するオプションを表示

ボタンとライト	
電源ボタン	押しボタン
電源ライト	緑色のライト — 緑色の点滅はスリープ状態。緑色の点灯は電源が投入されている状態 橙色のライト — 橙色の点滅は取り付けられているデバイスに問題あり。橙色の点灯は内蔵の電源に問題あり（電源の問題を参照）
ハードドライブアクセスライト	緑色
リンク保全性ライト（内蔵ネットワークアダプタ上と、デスクトップおよびミニタワーコンピュータの前面）	10 Mb 伝送時は緑色のライト、100 Mb 伝送時は橙色のライト、1000 Mb（1 Gb）伝送時は黄色のライト
動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	黄色の点滅ライト
診断ライト	スモールフォームファクター、スモールデスクトップ、およびスモールミニタワー：背面パネルに 4 つのライト デスクトップおよびミニタワー：前面パネルに 4 つのライト
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

電 源	
DC 電源装置：	
ワット数	スモールフォームファクターコンピュータ： 160 W スモールデスクトップコンピュータ： 210 W デスクトップコンピュータ：280 W 3.2 GHz 以下のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコンピュータ： 250 W 3.4 GHz 以上のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコンピュータ： 305 W ミニタワーコンピュータ： 305 W
熱消費	スモールフォームファクターコンピュータ： 546 BTU/時 スモールデスクトップコンピュータ： 717 BTU/時 デスクトップコンピュータ： 最大 150W 3.2 GHz 以下のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコンピュータ： 853 BTU/時 3.4 GHz 以上のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコンピュータ： 1041 BTU/時 ミニタワーコンピュータ： 最大 150W
電圧	固定電圧の電源装置 — 50/60 Hz で 110 V 手動選択および自動感知の電源装置 — 50/60 Hz で 90〜135 V、50/60 Hz で 180〜265 V、50/60 Hz で 100 V（日本国内で使用されるコンピュータ）
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー

サイズと重量	
スモールフォームファクターコンピュータ：	
高さ	9.0 cm
横幅	31.9 cm
奥行き	35.4 cm
重量	6 kg
スモールデスクトップコンピュータ：	

高さ	10.6 cm
横幅	38.9 cm
奥行き	43.2 cm
重量	9.9 kg
デスクトップコンピュータ	
高さ	11.4 cm
横幅	39.9 cm
奥行き	35.3 cm
重量	10.4 kg
スモールミニタワーコンピュータ:	
高さ	42.5 cm
横幅	18.1 cm
奥行き	44.7 cm
重量	12.7 kg
ミニタワーコンピュータ	
高さ	41.4 cm
横幅	18.5 cm
奥行き	43.9 cm
重量	12.34 kg

環 境	
温度:	
動作時	10～35 ℃ **メモ:** 35 ℃ で最大動作高度 914 m
保管時	-40～65 ℃
相対湿度	20～80 %（結露しないこと）
最大耐久震度:	
動作時	0.25 G（3～200 Hz、0.5 オクターブ / 分）
保管時	0.5 G（3～200 Hz、1 オクターブ / 分）
最大耐久衝撃:	
動作時	50.8 cm/秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm/秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ
高度:	
動作時	–15.2～3,048 m
保管時	–15.2～10,668 m

目次に戻る

目次に戻る

仕様

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサの種類	Intel® Pentium® 4（将来のデルサポートアップグレードに対応した設計）。
L1（レベル 1）キャッシュ	32 KB
L2（レベル 2）キャッシュ	1 MB パイプラインバースト、エイトウェイセットアソシエイティブ、ライトバック SRAM

メモリ	
タイプ	400 および 533 MHz DDR2 SDRAM
メモリのコネクタ	スモールフォームファクターコンピュータ：2 スモールデスクトップコンピュータ：4 デスクトップコンピュータ：4 スモールミニタワーコンピュータ：4 ミニタワーコンピュータ：4
メモリ容量	128 MB、256 MB、512 MB または 1 GB非 ECC
最小メモリ	デュアルチャネル：256 MB シングルチャネル 128 MB
最大搭載メモリ	スモールフォームファクターコンピュータ：2 GB スモールデスクトップコンピュータ：4 GB デスクトップコンピュータ：4 GB スモールミニタワーコンピュータ：4 GB ミニタワーコンピュータ：4 GB
BIOS アドレス	F0000h

コンピュータ情報	
チップセット	Intel Grantsdale
データバス幅	64 ビット
アドレスバス幅	32 ビット
DMA チャネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ（NVRAM）	4 Mb
メモリ速度	400 および 533 MHz
NIC	DMTF によって定義されている ASF 1.03 サポートを組み込んだ内蔵ネットワークインタフェース 10/100/1000 通信が可能： • 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 黄色 — 1 Gb（または 1000 Mbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。

ビデオ	
タイプ	内蔵 Intel Extreme グラフィックスまたは PCI Express x16 DVI ビデオカード

オーディオ	
タイプ	AC 97、Sound Blaster エミュレーション
ステレオ変換	16 ビット AD 変換および 20 ビット DA 変換

コントローラ	
ドライブ	スモールフォームファクター：1 台のデバイスをサポートするシリアル ATA コントローラが 1 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートするパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ

	スモールデスクトップ：1 台のデバイスをサポートするシリアル ATA コントローラが 2 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートするパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ デスクトップ：1 台のデバイスをサポートするシリアル ATA コントローラが 2 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートするパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ スモールミニタワー：1 台のデバイスをサポートするシリアル ATA コントローラが 2 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートするパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ ミニタワー：1 台のデバイスをサポートするシリアル ATA コントローラが 2 つ、および 1 つのチャネルで各チャネルに 2 台のデバイスをサポートするパラレル Ultra ATA/100 IDE が 1 つ

拡張バス	
バスのタイプ	PCI 2.2 SATA 1.0a USB 2.0 PCI Express 1.0a
バス速度	PCI：33 MHz SATA：1.5 Gbps USB：480 Mbps PCI Express x1:5 Gbps PCI Express x16:80 Gbps
スモールフォームファクターコンピュータ	
PCI：	
コネクタ	ロープロファイルカード対応 1
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅（最大）	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x16、1 つ
コネクタサイズ	164 ピン
コネクタデータ幅（最大）	16 PCI Express レーン
スモールデスクトップコンピュータ	
PCI：	
コネクタ	ハーフレングスカード対応 1 つまたは 2 つ（購入製品による）
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅（最大）	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x16 × 1 およびオプションの x1 × 1
コネクタサイズ	120 ピン（x16）およびオプションの 36 ピン（x1）
コネクタデータ幅（最大）	16 PCI Express レーン（x16）および オプションの PCI Express レーン（x1）
デスクトップコンピュータ	
PCI：	
コネクタ	ハーフハイトカード対応 2（カードケージなし） ハーフレングス、フルハイトカード対応（カードケージ付きオプション）（カード付き）
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅（最大）	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x16、1 つ
コネクタサイズ	120 ピン（x16）
コネクタデータ幅	16 PCI Express レーン（x16）
スモールミニタワーコンピュータ	
PCI：	
コネクタ	フルハイトカード対応 3
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅（最大）	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x1 × 1 および x16 × 1

コネクタサイズ	36 ピン(x1)および 120 ピン(x16)
コネクタデータ幅(最大)	PCI Express レーン(x1)および 16 PCI Express レーン(x16)
ミニタワーコンピュータ	
PCI:	
コネクタ	フルハイトカード対応 2
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x1 × 1 および x16 × 1
コネクタサイズ	36 ピン(x1)および 120 ピン(x16)
コネクタデータ幅 (最大)	PCI Express レーン(x1)および 16 PCI Express レーン(x16)

ドライブ	
外部アクセス用:	
スモールフォームファクターコンピュータ	薄型フロッピードライブ用ベイ × 1 薄型 CD/DVD ドライブ用ベイ × 1
スモールデスクトップコンピュータ	3.5 インチベイ × 1 5.25 インチベイ × 1
デスクトップコンピュータ	3.5 インチドライブ × 1 CD/DVD またはオプションのセカンドハードドライブ用ベイ × 1
スモールミニタワーコンピュータ	3.5 インチドライブベイ × 2 5.25 インチドライブベイ × 2
ミニタワーコンピュータ	3.5 インチドライブベイ × 1 5.25 インチドライブベイ × 2
内部アクセス用:	
スモールフォームファクターコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1
スモールデスクトップコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1
デスクトップコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1
スモールミニタワーコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ X 2
ミニタワーコンピュータ	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ X 2

コネクタ	
外付けコネクタ:	
シリアル	9 ピンコネクタ、16550C 互換
パラレル	双方向 25 ピンコネクタ(メス)
ビデオ	15 ピンコネクタ(メス)
ネットワークアダプタ	RJ-45 コネクタ
セカンダリシリアルポートアダプタ付き PS/2(オプション)	スモールフォームファクターコンピュータ: Y アダプタ付き 6 ピンミニ DIN スモールデスクトップ、スモールミニタワーコンピュータ、デスクトップ、およびミニタワー:6 ピンミニ DIN × 2
USB	USB 2.0 互換コネクタ(前面パネル ×2、背面パネル × 6)
オーディオ	ライン入力、ライン出力、マイク用のコネクタが 3 つ、およびヘッドフォン用の前面パネルコネクタが 1 つ
システム基板コネクタ:	
プライマリ IDE ドライブ	40 ピンコネクタ
シリアル ATA	スモールフォームファクター: 7 ピンコネクタ × 1 スモールデスクトップ: 7 ピンコネクタ × 2 デスクトップ: 7 ピンコネクタ × 2 スモールミニタワー: 7 ピンコネクタ × 2 ミニタワー: 7 ピンコネクタ × 2
フロッピードライブ	34 ピンコネクタ
シリアル	オプションのセカンドシリアルポートカード用 12 ピンコネクタ
ファン	5 ピンコネクタ
PCI 2.2	120 ピンコネクタ
CD ドライブオーディオインタフェース	4 ピンコネクタ
前面オーディオ	10 ピンコネクタ(オプションのオーディオカスタマキット用)

前面パネル	40 ピンコネクタ

キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt><Del>	Microsoft® Windows® XP を実行している場合、Windows Security ウィンドウが表示されます。MS-DOS® モードの場合は、コンピュータを再スタート（再起動）します。
<F2>または <Ctrl><Alt><Enter>	内蔵のセットアップユーティリティを起動（起動時のみ）
<Ctrl><Alt><b>	セットアップユーティリティの Boot Sequence オプションのデバイスの一つからではなく、PXE（リモート起動環境）によって特定されたネットワーク環境からコンピュータを自動的に起動（起動時のみ）
<F12> または <Ctrl><Alt><F8>	ユーザーが単一起動用のデバイスを入力できる起動デバイスメニュー（起動時のみ）、またハードドライブおよびシステム診断プログラムを実行するオプションを表示

ボタンとライト	
電源ボタン	押しボタン
電源ライト	緑色のライト — 緑色の点滅はスリープ状態。緑色の点灯は電源が投入されている状態 橙色のライト — 橙色の点滅は取り付けられているデバイスに問題あり。橙色の点灯は内蔵の電源に問題あり（電源の問題を参照）
ハードドライブアクセスライト	緑色
リンク保全性ライト（内蔵ネットワークアダプタ上と、デスクトップおよびミニタワーコンピュータの前面）	10 Mb 伝送時は緑色のライト、100 Mb 伝送時は橙色のライト、1000 Mb（1 Gb）伝送時は黄色のライト
動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	黄色の点滅ライト
診断ライト	スモールフォームファクター、スモールデスクトップ、およびスモールミニタワー：背面パネルに 4 つのライト デスクトップおよびミニタワー：前面パネルに 4 つのライト
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

電 源	
DC 電源装置：	
ワット数	スモールフォームファクターコンピュータ： 160 W スモールデスクトップコンピュータ： 210 W デスクトップコンピュータ：280 W 3.2 GHz 以下のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコンピュータ： 250 W 3.4 GHz 以上のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコンピュータ： 305 W ミニタワーコンピュータ： 305 W
熱消費	スモールフォームファクターコンピュータ： 546 BTU/時 スモールデスクトップコンピュータ： 717 BTU/時 デスクトップコンピュータ： 最大 150W 3.2 GHz 以下のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコンピュータ： 853 BTU/時 3.4 GHz 以上のプロセッサスピード搭載のスモールミニタワーコンピュータ： 1041 BTU/時 ミニタワーコンピュータ： 最大 150W
電圧	固定電圧の電源装置 — 50/60 Hz で 110 V 手動選択および自動感知の電源装置 — 50/60 Hz で 90～135 V、50/60 Hz で 180～265 V、50/60 Hz で 100 V（日本国内で使用されるコンピュータ）
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー

サイズと重量	
スモールフォームファクターコンピュータ：	
高さ	9.0 cm
横幅	31.9 cm
奥行き	35.4 cm
重量	6 kg
スモールデスクトップコンピュータ：	

高さ	10.6 cm
横幅	38.9 cm
奥行き	43.2 cm
重量	9.9 kg
デスクトップコンピュータ	
高さ	11.4 cm
横幅	39.9 cm
奥行き	35.3 cm
重量	10.4 kg
スモールミニタワーコンピュータ:	
高さ	42.5 cm
横幅	18.1 cm
奥行き	44.7 cm
重量	12.7 kg
ミニタワーコンピュータ	
高さ	41.4 cm
横幅	18.5 cm
奥行き	43.9 cm
重量	12.34 kg

環 境	
温度:	
動作時	10〜35 ℃ **メモ:** 35 ℃ で最大動作高度 914 m
保管時	-40〜65 ℃
相対湿度	20〜80 %(結露しないこと)
最大耐久震度:	
動作時	0.25 G(3〜200 Hz、0.5 オクターブ / 分)
保管時	0.5 G(3〜200 Hz、1 オクターブ / 分)
最大耐久衝撃:	
動作時	50.8 cm/秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm/秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ
高度:	
動作時	−15.2〜3,048 m
保管時	−15.2〜10,668 m

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

ミニタワーコンピュータ

メモ、注意、警告

メモ： コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意： ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告： 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。

略語について

略語の一覧表は、「用語集」を参照してください。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合、このマニュアルの Microsoft® Windows® オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

『Drivers and Utilities CD』（Resource CD）、オペレーティングシステムのメディア、および『クイックリファレンスガイド』はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

モデル: DHP、DHS、DCNE、DHM、および DCSM

2005 年 7 月 Y2952 Rev. A04

目次に戻る

トラブルシューティングツールとユーティリティ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

Dell Diagnostics（診断）プログラム

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを使用する場合

コンピュータに問題が発生した場合、デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受ける前に、この項のチェック事項を実行してから、Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。

注意： Dell Diagnostics（診断）プログラムは、Dell™ コンピュータ上でのみ機能します。

セットアップユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します。

ハードドライブ または オプションの『Drivers and Utilities CD』（Resource CD とも言います）から Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動します。

ハードドライブからの Dell Diagnostics（診断）プログラムの起動

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

メモ： 診断ユーティリティパーティションが見つからないことを知らせるメッセージが表示された場合は、オプションの『Drivers and Utilities CD』から Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行してください。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**Boot to Utility Partition** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
4. Dell Diagnostics（診断）プログラム **Main Menu** が表示されたら、実行するテストの種類を選択します。

オプションの Drivers and Utilities CD から Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動する場合

1. オプションの『Drivers and Utilities CD』を挿入します。
2. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。

DELL のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

ここで時間をおきすぎて Windows のロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

メモ: 次の手順は、起動順序を 1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスから起動します。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**IDE CD-ROM Device** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
4. CD の起動メニューから **IDE CD-ROM Device** オプションを選びます。
5. 表示されたメニューから **Boot from CD-ROM** オプションを選びます。
6. Resource CD メニューを起動する場合は 1 を入力します。
7. Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動する場合は 2 を入力します。
8. 番号の付いた一覧から **Run the 32 Bit Dell Diagnostics** を選びます。複数のバージョンが表示されている場合、お使いのコンピュータに該当するバージョンを選びます。
9. Dell Diagnostics（診断）プログラム **Main Menu** が表示されたら、実行するテストの種類を選択します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー

1. Dell Diagnostics（診断）プログラムのロードが終了すると、**Main Menu** 画面が表示されるので、適切なオプションのボタンをクリックします。

オプション	機能
Express Test	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは 10 ～ 20 分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に Express Test を実行すると、問題をさらにすばやく特定することができます。
Extended Test	デバイスの全体チェックを実行します。通常このテストは 1 時間以上かかり、質問に定期的に応答する必要があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択することができます。

2. テスト実行中に問題が検出されると、エラーコードと問題の説明を示したメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を記録し、画面の指示に従います。

エラーが解決できない場合、デルにお問い合わせください。

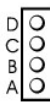
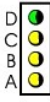
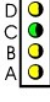
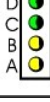
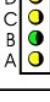
メモ: 各テスト画面の上部には、コンピュータのサービスタグが表示されます。デルにお問い合わせになると、テクニカルサポートの担当者はお客様のサービスタグを確認します。お使いのコンピュータのサービスタグは、セットアップユーティリティ の **System Info** オプションに表示されています。

3. **Custom Test** または **Symptom Tree** オプションからテストを実行する場合、該当するタブをクリックします（詳細については、以下の表を参照）。

タブ	機能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	検出されたエラー状態、エラーコード、問題の説明が表示されます。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics（診断）プログラムは、セットアップユーティリティ、メモリ、および様々な内部テストからすべてのデバイスの設定情報を入手し、画面の左側ペインのデバイス一覧に表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters	テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。

4. 『Drivers and Utilities CD』から Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行している場合、テストが終了したら CD を取り出します。
5. テスト画面を閉じ、**Main Menu** 画面に戻ります。Dell Diagnostics（診断）プログラムを終了しコンピュータを再起動するには、**Main Menu** 画面を閉じます。

システムライト

お使いの電源ボタンライトおよびハードドライブライトは、コンピュータの問題を示すことがあります。

電源ライト	問題の説明	推奨される処置

緑色の点灯	電源がオンで、コンピュータは正常に動作しています。	対応処置は必要ありません。
緑色の点滅	コンピュータはサスペンド状態です（Microsoft® Windows® 2000 および Windows XP）。	電源ボタンを押したり、マウスを動かしたり、キーボードのキーを押すとコンピュータは復帰します。
緑色に数回点滅した後消灯	設定エラーが発生しています。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。
黄色の点灯	Dell Diagnostics（診断）プログラムがテストを実行中、またはシステム基板のデバイスが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	Dell Diagnostics（診断）プログラムが実行中であれば、テストを終了させます。 特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。 コンピュータが起動しない場合、デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受けてください。
黄色の点滅	電源装置またはシステム基板の障害が発生しました。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。「ドライブの問題」を参照してください。
POST 中に、緑色の点灯とビープコードの発生	BIOS 実行中に問題が検出されました。	ビープコードによる診断については、「ビープコード」を参照してください。また、特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。
POST 中に緑色の点灯、ビープコードおよびビデオ表示なし	モニターまたはグラフィックスカードが不良であるか、正しく取り付けられていない可能性があります。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。「ビデオとモニターの問題」を参照してください。
POST 中に緑色の点灯、ビープコードはないがコンピュータがロックする	内蔵システム基板に欠陥がある可能性があります。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。問題が識別されない場合、デルにお問い合わせになり テクニカルサポートを受けてください。

診断ライト

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

問題のトラブルシューティングを容易にするため、お使いのコンピュータには背面パネルに「A」、「B」、「C」、および「D」とラベルの付いた 4 つのライトが搭載されています。これらのライトは、黄色または緑色に点灯します。コンピュータが正常に起動した場合、起動プロセスが完了するとライトのパターンとコードが変化します。システム起動プロセスの POST が正常に終了すると、4 つのライトはすべて緑色に点灯します。POST プロセス中にコンピュータが誤動作した場合、LED に表示されるパターンで、プロセスのどこでコンピュータが停止したか識別できる場合があります。

ライトパターン		問題の説明	推奨される処置
D C B A	オフ オフ オフ オフ	コンピュータが通常のオフの状態、または BIOS に障害が起こっている可能性があります。	コンピュータを正常に機能しているコンセントに接続して、電源ボタンを押します。
D C B A	緑 黄 黄 黄	BIOS 障害が発生した可能性があります。コンピュータは修復モードです。	BIOS 修復ユーティリティを実行し、BIOS の修復処理が完了するのを待ってから、コンピュータを再起動します。
D C B A	黄 緑 黄 黄	プロセッサの障害が発生した可能性があります。	プロセッサを取り付けなおして、コンピュータを再起動します。
D C B A	緑 緑 黄 黄	メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しました。	l 取り付けているメモリモジュールが 1 つの場合、そのモジュールを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。（メモリモジュールの取り外しまたは取り付け方法については、「メモリ」を参照してください。） l 取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、モジュール 1 つを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 l 同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 l 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
D C B A	黄 黄 緑 黄	拡張カードの障害が発生した可能性があります。	l カード（グラフィックスカードではない）を取り外し、コンピュータを再起動してコンフリクトが起きているか調べます。 l 問題が解決しない場合、取り外したカードを取り付け、別のカードを取り外して、コンピュータを再起動します。 l それぞれのカードについて、この手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合は、リソースコンフリクト時にコンピュータから最後に取り外したカードをトラブルシューティングします（ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決を参照）。 l 各カードを 1 つずつ異なる PCI スロットに移動して、移動し終わったらその度にコンピュータを再起動します。 l 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
	緑	グラフィックスカードの障害が発生した	l コンピュータにグラフィックスカードを取り付けている場合、カードを取り外し、取り付けなおしてコンピュータを再起動します。

	黄 緑 黄	可能性があります。	● それでも問題が解決しない場合、動作を確認済みのグラフィックスカードを取り付け、コンピュータを再起動します。 ● 問題が解決しない場合、またはグラフィックスがコンピュータに内蔵されている場合、デルにお問い合わせください。
D C B A	黄 緑 緑 黄	フロッピードライブまたはハードドライブの障害が発生した可能性があります。	すべての電源ケーブルとデータケーブルを接続しなおして、コンピュータを再起動します。
D C B A	緑 緑 緑 黄	USB の障害が発生した可能性があります。	すべての USB デバイスを取り付けなおし、ケーブル接続を確認して、コンピュータを再起動します。
D C B A	黄 黄 黄 緑	メモリモジュールが検出されません。	● 取り付けているメモリモジュールが 1 つの場合、そのモジュールを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。(メモリモジュールの取り外しまたは取り付け方法については、「メモリ」を参照してください。) ● 取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、モジュール 1 つを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 ● 同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 ● 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
D C B A	黄 緑 黄 緑	メモリモジューモルが検出されましたが、メモリ構成または互換性エラーが発生しました。	● 特別なメモリモジュール / メモリコネクタ設置要件 がないか確認します。 ● 取り付けるメモリモジュールがコンピュータと互換性があることを確認します。 ● 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
D C B A	黄 緑 緑 緑	その他の障害が発生しました。	● ハードドライブ、CD ドライブ、および DVD ドライブからシステム基板へケーブルが接続されていることを確認します。 ● モニター画面に表示されるコンピュータメッセージを確認します。 ● 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
D C B A	緑 緑 緑 緑	POST の後、コンピュータは通常の動作状態にあります。	特にありません。

ビープコード

お使いのコンピュータの起動時に、モニターにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビープ音が連続して鳴ることがあります。この連続したビープ音はビープコードと呼ばれ、問題を特定します。連続したビープ音には、ビープ音がまず 1 回鳴り、次に連続して 3 回鳴ってから、1 回鳴るものがあります (コード 1-3-1)。このビープコードは、コンピュータがメモリの問題を検出したことを知らせます。

起動時にコンピュータがビープ音を発する場合、次の手順を実行します。

1. Diagnostics(診断)チェックリストにビープコードを書き込みます。
2. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行し、その原因をつきとめます。
3. デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受けてください。

コード	原因
1-1-2	マイクロプロセッサレジスタ障害
1-1-3	NVRAM 読み取り / 書き込み障害

1-1-4	ROM BIOS チェックサム障害
1-2-1	プログラム可能インターバルタイマー障害
1-2-2	DMA 初期化障害
1-2-3	DMA ページレジスタ読み取り / 書き込み障害
1-3	ビデオメモリテスト障害
1-3-1 ～ 2-4-4	メモリが正しく認識されていないか使用されていない
3-1-1	スレーブ DMA レジスタ障害
3-1-2	マスター DMA レジスタ障害
3-1-3	マスター割り込みマスクレジスタ障害
3-1-4	スレーブ割り込みマスクレジスタ障害
3-2-2	割り込みベクタロード障害
3-2-4	キーボードコントローラテスト障害
3-3-1	NVRAM 電力損失
3-3-2	無効な NVRAM 設定
3-3-4	ビデオメモリテスト障害
3-4-1	画面初期化障害
3-4-2	画面リトレース障害
3-4-3	ビデオ ROM の検索障害
4-2-1	タイマーチックなし
4-2-2	シャットダウン障害
4-2-3	ゲート A20 障害
4-2-4	保護モードで予測外の割り込みが発生
4-3-1	アドレス 0FFFFh 以降のメモリ障害
4-3-3	タイマーチップカウンタ 2 の障害
4-3-4	時刻機構クロックの停止
4-4-1	シリアルまたはパラレルポートテスト障害
4-4-2	シャドウメモリへのコードの解凍障害
4-4-3	数値演算コプロセッサテスト障害
4-4-4	キャッシュテスト障害

エラーメッセージ

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メッセージが一覧にない場合、オペレーティングシステムまたはメッセージが表示された際に実行していたプログラムのマニュアルを参照してください。

ファイル名には次の文字は使用できません: \ / : * ? " < > | — これらの記号をファイル名に使用しないでください。

必要な .DLL ファイルがみつかりません — アプリケーションプログラムに必要なファイルがありません。プログラムを削除してから、再インストールします。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プログラムの追加と削除** をクリックします。
2. 削除するプログラムを選択します。
3. **削除ボタンまたは変更と削除** ボタンをクリックします。
4. インストール手順については、プログラムのマニュアルを参照してください。

警告! このシステムの前回の起動時に、チェックポイント [*nnnn*]で障害が発生しました。この問題を解決するには、このチェックポイントをメモしてデルテクニカルサポートにお問い合わせください — デルにお問い合わせになり、チェックポイントコード(nnnn)をテクニカルサポート担当者にお知らせください。

接続での応答に失敗しました — 「ドライブの問題」を参照してください。

コマンド名またはファイルが違う — 正しいコマンドを入力したか、スペースの位置は正しいか、パス名は正しいかを確認します。

ディスク上で正しくない ECC(エラー修正コード)が読み取られました — 「ドライブ の問題」を参照してください。

コントローラに障害が発生しました — 「ドライブの問題」を参照してください。

データエラー — 「ドライブの問題」を参照してください。

使用可能なメモリが減少しています — 「コンピュータおよびソフトウェアの問題」を参照してください。

ディスケットドライブ 0 でシークに失敗しました — 「ドライブの問題」を参照してください。

ディスケットの読み取りに失敗しました — 「ドライブの問題」を参照してください。

ディスケットサブシステムのリセットに失敗しました — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。

ディスケットの書き込みが防止されています — 書き込み防止の切り込みをオープン位置にスライドします。

ドライブの準備ができていません — フロッピーディスクをドライブに入れます。

Gate A20 で障害が発生しました — 「コンピュータおよびソフトウェアの問題」を参照してください。

ハードディスクの構成でエラーが発生しました —
ハードディスクのコントローラで障害が発生しました —
ハードディスクドライブで障害が発生しました —
ハードディスクドライブで障害が発生しました —

「ドライブの問題」を参照してください。

起動可能なメディアを挿入してください — 起動フロッピーディスクまたは CD を挿入します。

設定情報が無効です。セットアッププログラムを実行してください — セットアップユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を正しく設定します。

キーボードで障害が発生しました — 「キーボードの問題」を参照してください。

メモリアドレスラインで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) — 「コンピュータおよびソフトウェアの問題」を参照してください。

メモリ割り当てエラー —

1. コンピュータの電源を切り、30 秒待ってからコンピュータを再起動します。
2. 再度プログラムを実行してみます。
3. 再度エラーメッセージが表示される場合、トラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

メモリデータラインで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) —
メモリダブルワードロジックで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) —
メモリの奇数/偶数ロジックで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) —
メモリの書き込み/読み取りに失敗しました。(アドレス、読み取り値、予測値) —
CMOS のメモリサイズが無効です —

「コンピュータおよびソフトウェアの問題」を参照してください。

使用可能な起動デバイスがありません —

- フロッピードライブが起動デバイスの場合、起動ディスクがドライブに挿入されているか確認します。
- ハードドライブが起動デバイスの場合、ケーブルがドライブに適切に取り付けられていて、起動デバイスとしてパーティション分割されていることを確認します。
- セットアップユーティリティを起動し、起動順序の情報が正しいか確認します。

ハードディスクドライブ上にブートセクターがありません — セットアップユーティリティを起動し、コンピュータのハードドライブ構成情報が正しいか確認します。

タイマーチックの割り込みがありません — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。

非システムのディスクであるか、またはディスクでエラーが発生しました — 起動可能なオペレーティングシステムが入ったフロッピーディスクと交換するか、フロッピーディスクをドライブ A から取り出して、コンピュータを再起動します。

起動ディスクではありません — 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。

メモリまたはリソースが不足しています。いくつかのプログラムを閉じてもう一度やり直します — すべてのウィンドウを閉じて、使用するプログラムを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、最初に使うプログラムを開きます。

オペレーティングシステムが見つかりません — デルにお問い合わせください。

プラグアンドプレイ設定エラー —

1. コンピュータの電源を切り、コンセントから取り外します。次に、カードを 1 枚だけ残してすべて取り外します。
2. コンピュータのプラグを差し込み、再起動します。
3. メッセージが表示される場合、取り付けられているカードが誤動作している可能性があります。メッセージが再度表示されない場合、コンピュータの電源を切り、別のカードを 1 枚挿入します。
4. 誤動作しているカードがわかるまで、この手順を繰り返します。

読み取りエラー —
要求されたセクターが見つかりません —
リセットに失敗しました —

「ドライブの問題」を参照してください。

セクターが見つかりません —

- Windows のエラーチェックユーティリティを実行して、フロッピーディスクまたはハードドライブのファイル構造を調べます。手順については、Windows ヘルプを参照してください。
- 多くのセクターに障害がある場合、可能であればデータをバックアップして、フロッピーディスクまたはハードドライブを再フォーマットします。

シークエラー — 「ドライブの問題」を参照してください。

シャットダウンに失敗しました — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。

時刻機構が停止しました — **時刻機構が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください —** セットアップユーティリティを起動して、日付と時間を修正します。問題が解決しない場合、バッテリーを交換します。
タイマーチップカウンタ 2 で障害が発生しました — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。
保護モードで予期しない割り込みがありました — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。
警告: [プライマリ／セカンダリ] EIDE コントローラ上のドライブ [0/1] が、通常の仕様外の環境で動作していることを、デルのディスクモニターシステムが検知しました。すぐにデータをバックアップし、サポートデスクまたはデルに問い合わせてハードドライブを交換することをお勧めします — すぐに利用できる交換用のドライブがなく、そのドライブが唯一の起動ドライブではない場合、セットアップユーティリティを起動し、該当するドライブの設定を **None** に変更します。次に、ドライブをコンピュータから取り外します。
書き込みエラー — **選択したドライブで書き込みエラーが発生しました —** 「ドライブの問題」を参照してください。
<ドライブ文字>:¥ にアクセスできません デバイスの準備ができていません — 選択したドライブでメディアを読み取れません。メディアのタイプに応じて、フロッピー、CD および ZIP ディスクをドライブに挿入し再度試してみます。

ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決

OS のセットアップ中にデバイスが検出されないか、検出されても間違って設定されている場合、デバイスマネージャまたはハードウェアに関するトラブルシューティングを使用して非互換性を解決することができます。

Microsoft Windows XP

デバイスマネージャを使って非互換性を解決するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックして、**システム** をクリックします。
3. **ハードウェア** タブをクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
4. **デバイスマネージャ** リストで、間違って設定されているデバイスにチェックマークをつけます。

   間違って設定されているデバイスは黄色い感嘆符（!）で示され、デバイスが無効になっている場合には赤い X で示されます。

5. 感嘆符でマークされたデバイスをダブルクリックして、**プロパティ** ウィンドウを表示します。

   プロパティ ウィンドウの **デバイス** の状態領域に、再設定が必要なデバイスが表示されます。

6. デバイスを再構成するか、または **デバイスマネージャ** からデバイスを削除します。デバイスの設定については、デバイスに付属しているマニュアルを参照してください。

Windows XP のハードウェアに関するトラブルシューティングを使って非互換性を解決するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2. **検索** フィールドに ハードウェアに関するトラブルシューティング を入力し次に、矢印をクリックして検索を始めます。
3. **検索結果** 一覧で、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
4. **ハードウェアに関するトラブルシューティング** 一覧で、**コンピュータにあるハードウェアの競合を解決します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

目次に戻る

目次に戻る

トラブルシューティングツールとユーティリティ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

Dell Diagnostics（診断）プログラム

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ：『Drivers and Utilities CD』（Resource CD）はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを使用する場合

コンピュータに問題が発生した場合、デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受ける前に、この項のチェック事項を実行してから、Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。

注意：Dell Diagnostics（診断）プログラムは、Dell™ コンピュータ上でのみ機能します。

セットアップユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します。

ハードドライブまたは『Drivers and Utilities CD』（ResourceCD とも呼びます）から Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動します。

ハードドライブからの Dell Diagnostics（診断）プログラムの起動

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

メモ：診断ユーティリティパーティションが見つからないことを知らせるメッセージが表示された場合は、『Drivers and Utilities CD』（オプション）から Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行してください。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**Boot to Utility Partition** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
4. Dell Diagnostics（診断）プログラム **Main Menu** が表示されたら、実行するテストの種類を選択します。

『Drivers and Utilities CD』（オプション）からの Dell Diagnostics（診断）プログラムの起動

1. 『Drivers and Utilities CD』（オプション）を挿入します。
2. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。

DELL のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

ここで時間をおきすぎて Windows のロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

メモ： 次の手順は、起動順序を 1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスから起動します。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**IDE CD-ROM Device** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
4. CD の起動メニューから **IDE CD-ROM Device** オプションを選びます。
5. 表示されたメニューから **Boot from CD-ROM** オプションを選びます。
6. Resource CD メニューを起動する場合は 1 を入力します。
7. Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動する場合は 2 を入力します。
8. 番号の付いた一覧から **Run the 32 Bit Dell Diagnostics** を選びます。複数のバージョンが表示されている場合、お使いのコンピュータに該当するバージョンを選びます。
9. Dell Diagnostics（診断）プログラム **Main Menu** が表示されたら、実行するテストの種類を選択します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー

1. Dell Diagnostics（診断）プログラムのロードが終了すると、**Main Menu** 画面が表示されるので、適切なオプションのボタンをクリックします。

オプション	機能
Express Test	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは 10～20 分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に Express Test を実行すると、問題をさらにすばやく特定できる可能性が増します。
Extended Test	デバイスの全体チェックを実行します。通常このテストは 1 時間以上かかり、質問に定期的に応答する必要があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択することができます。

2. テスト実行中に問題が検出されると、エラーコードと問題の説明を示したメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を記録し、画面の指示に従います。

エラーが解決できない場合、デルにお問い合わせください。

メモ： 各テスト画面の上部には、コンピュータのサービスタグが表示されます。デルにお問い合わせになると、テクニカルサポートの担当者はお客様のサービスタグを確認します。お使いのコンピュータのサービスタグは、セットアップユーティリティの **System Info** オプションに表示されています。

3. **Custom Test** または **Symptom Tree** オプションからテストを実行する場合、該当するタブをクリックします（詳細に関しては、以下の表を参照）。

タブ	機能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	検出されたエラー状態、エラーコード、問題の説明が表示されます。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics（診断）プログラムは、セットアップユーティリティ、メモリ、および様々な内部テストからすべてのデバイスの設定情報を入手し、画面の左側ペインのデバイス一覧に表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters	テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。

4. 『Drivers and Utilities CD』から Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行している場合、テストが終了したら CD を取り出します。
5. テスト画面を閉じ、**Main Menu** 画面に戻ります。Dell Diagnostics（診断）プログラムを終了しコンピュータを再起動するには、**Main Menu** 画面を閉じます。

システムライト

お使いの電源ボタンライトおよびハードドライブライトは、コンピュータの問題を示すことがあります。

電源ライト	問題の説明	推奨される処置
緑色の点灯	電源がオンで、コンピュータは正常に動作しています。デスクトップコンピュ	対応処置は必要ありません。

	ータでは、緑色のライトの点灯は、ネットワークが接続されていることを示します。	
緑色の点滅	コンピュータはサスペンド状態です（Microsoft® Windows® 2000 および Windows XP）。	電源ボタンを押したり、マウスを動かしたり、キーボードのキーを押すとコンピュータは復帰します。
緑色に数回点滅した後消灯	設定エラーが発生しています。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。
黄色の点灯	Dell Diagnostics（診断）プログラムがテストを実行中、またはシステム基板のデバイスが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	Dell Diagnostics（診断）プログラムが実行中であれば、テストを終了させます。 特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。 コンピュータが起動しない場合、デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受けてください。
黄色の点滅	電源装置またはシステム基板の障害が発生しました。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。「電源の問題 」を参照してください。
POST 中に、緑色の点灯とビープコードの発生	BIOS 実行中に問題が検出されました。	ビープコードによる診断については、「ビープコード」を参照してください。また、特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。
POST 中に緑色の点灯、ビープコードおよびビデオ表示なし	モニターまたはグラフィックスカードが不良であるか、正しく取り付けられていない可能性があります。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。「ビデオとモニターの問題」を参照してください。
POST 中に緑色の点灯、ビープコードはないがコンピュータがロックする	内蔵システム基板に欠陥がある可能性があります。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。問題が識別されない場合、デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受けてください。

診断ライト

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

問題の解決に役立つように、スモールフォームファクター、スモールデスクトップ、およびスモールミニタワーコンピュータには、背面パネルに「A」、「B」、「C」、および「D」というラベルの付いたライトがあります。これらのライトは、デスクトップおよびミニタワーコンピュータでは前面パネルにあります。これらのライトは、黄色または緑色に点灯します。コンピュータが正常に起動した場合、起動プロセスが完了するとライトのパターンとコードが変化します。システム起動プロセスの POST が正常に終了すると、4 つのライトはすべて緑色に点灯します。POST プロセス中にコンピュータが誤動作した場合、LED に表示されるパターンで、プロセスのどこでコンピュータが停止したか識別できる場合があります。

 メモ： 診断ライトの向きは、システムのタイプによって異なります。診断ライトは、縦向きまたは横向きのどちらかです。

Y = 黄色
G = 緑色

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
A B C D off off off off	コンピュータが通常のオフの状態、または BIOS に障害が起こっている可能性があります。	コンピュータを正常に機能しているコンセントに接続して、電源ボタンを押します。
A B C D Y Y Y G	BIOS 障害が発生した可能性があります。コンピュータは修復モードです。	BIOS 修復ユーティリティを実行し、BIOS の修復処理が完了するのを待ってから、コンピュータを再起動します。
A B C D Y Y G Y	プロセッサの障害が発生した可能性があります。	プロセッサを取り付けなおして、コンピュータを再起動します。
A B C D Y Y G G	メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しました。	・取り付けているメモリモジュールが 1 つの場合、そのモジュールを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。(メモリモジュールの取り外しまたは取り付け方法については、「メモリ」を参照してください。 ・取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、モジュール 1 つを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 ・同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 ・問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
A B C D Y G Y Y	拡張カードの障害が発生した可能性があります。	・カード（グラフィックスカードではない）を取り外し、コンピュータを再起動してコンフリクトが起きているか調べます。 ・問題が解決しない場合、取り外したカードを取り付け、別のカードを取り外して、コンピュータを再起動します。 ・それぞれのカードについて、この手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合は、リソースコンフリクト時にコンピュータから最後に取り外したカードをトラブルシューティングします（ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決を参照）。 ・各カードを 1 つずつ異なる PCI スロットに移動して、移動し終わったらその度にコンピュータを再起動します。 ・問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。

A B C D Y G Y G	グラフィックスカードの障害が発生した可能性があります。	・コンピュータにグラフィックスカードを取り付けている場合、カードを取り外し、取り付けなおしてコンピュータを再起動します。 ・それでも問題が解決しない場合、動作を確認済みのグラフィックスカードを取り付け、コンピュータを再起動します。 ・問題が解決しない場合、またはグラフィックスがコンピュータに内蔵されている場合、デルにお問い合わせください。
A B C D Y G G Y	フロッピードライブまたはハードドライブの障害が発生した可能性があります。	すべての電源ケーブルとデータケーブルを接続しなおして、コンピュータを再起動します。
A B C D Y G G G	USB の障害が発生した可能性があります。	すべての USB デバイスを取り付けなおし、ケーブル接続を確認して、コンピュータを再起動します。
A B C D G Y Y Y	メモリモジュールが検出されません。	・取り付けているメモリモジュールが 1 つの場合、そのモジュールを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。(メモリモジュールの取り外しまたは取り付け方法については、「メモリ」を参照してください。 ・取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、モジュール 1 つを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 ・同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 ・問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
A B C D G Y G Y	メモリモジューモルが検出されましたが、メモリ構成または互換性エラーが発生しました。	・特別なメモリモジュール / メモリコネクタ設置要件 がないか確認します。 ・取り付けるメモリモジュールがコンピュータと互換性があるか確認します。 ・問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
A B C D G G G Y	その他の障害が発生しました。	・ハードドライブ、CD ドライブ、および DVD ドライブからシステム基板へケーブルが接続されていることを確認します。 ・モニター画面に表示されるコンピュータメッセージを確認します。 ・問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
A B C D G G G G	POST の後、コンピュータは通常の動作状態にあります。	特にありません。

ビープコード

お使いのコンピュータの起動時に、モニターにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビープ音が連続して鳴ることがあります。この連続したビープ音はビープコードと呼ばれ、問題を特定します。連続したビープ音には、ビープ音がまず 1 回鳴り、次に連続して 3 回鳴ってから、1 回鳴るものがあります(コード 1-3-1)。このビープコードは、コンピュータがメモリの問題を検出したことを知らせます。

起動時にコンピュータがビープ音を発する場合、次の手順を実行します。

1. Diagnostics(診断)チェックリストにビープコードを書き込みます。
2. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行し、その原因をつきとめます。
3. デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受けてください。

コード	原 因
1-1-2	マイクロプロセッサレジスタ障害
1-1-3	NVRAM 読み取り / 書き込み障害
1-1-4	ROM BIOS チェックサム障害
1-2-1	プログラム可能インターバルタイマー障害
1-2-2	DMA 初期化障害
1-2-3	DMA ページレジスタ読み取り / 書き込み障害
1-3	ビデオメモリテスト障害
1-3-1 ～ 2-4-4	メモリが正しく認識されていないか使用されていない
3-1-1	スレーブ DMA レジスタ障害
3-1-2	マスター DMA レジスタ障害

3-1-3	マスター割り込みマスクレジスタ障害
3-1-4	スレーブ割り込みマスクレジスタ障害
3-2-2	割り込みベクタロード障害
3-2-4	キーボードコントローラテスト障害
3-3-1	NVRAM 電力損失
3-3-2	無効な NVRAM 設定
3-3-4	ビデオメモリテスト障害
3-4-1	画面初期化障害
3-4-2	画面リトレース障害
3-4-3	ビデオ ROM の検索障害
4-2-1	タイマーチックなし
4-2-2	シャットダウン障害
4-2-3	Gate A20 障害
4-2-4	保護モードで予測外の割り込みが発生
4-3-1	アドレス 0FFFFh 以降のメモリ障害
4-3-3	タイマーチップカウンタ 2 の障害
4-3-4	時刻機構クロックの停止
4-4-1	シリアルまたはパラレルポートテスト障害
4-4-2	シャドウメモリへのコードの解凍障害
4-4-3	数値演算コプロセッサテスト障害
4-4-4	キャッシュテスト障害

エラーメッセージ

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メッセージが一覧にない場合、オペレーティングシステムまたはメッセージが表示された際に実行していたプログラムのマニュアルを参照してください。

ファイル名には次の文字は使用できません： ¥ / : * ? " < > | — これらの記号をファイル名に使用しないでください。

必要な .DLL ファイルがみつかりません — アプリケーションプログラムに必要なファイルがありません。プログラムを削除してから、再インストールします。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プログラムの追加と削除** をクリックします。
2. 削除するプログラムを選択します。
3. **削除ボタンまたは変更と削除** ボタンをクリックします。
4. インストール手順については、プログラムのマニュアルを参照してください。

警告! このシステムの前回の起動時に、チェックポイント [nnnn]で障害が発生しました。この問題を解決するには、このチェックポイントをメモしてデルテクニカルサポートにお問い合わせください — デルにお問い合わせになり、チェックポイントコード（nnnn）をテクニカルサポート担当者にお知らせください。

接続での応答に失敗しました — 「ドライブの問題」を参照してください。

コマンド名またはファイル名が違います — 正しいコマンドを入力したか、スペースの位置は正しいか、パス名は正しいかを確認します。

ディスク上で正しくない ECC（エラー修正コード）が読み取られました — 「ドライブ の問題」を参照してください。

コントローラに障害が発生しました — 「ドライブの問題」を参照してください。

データエラー — 「ドライブの問題」を参照してください。

使用可能なメモリが減少しています —
「ロックアップおよびソフトウェアの問題」を参照してください。

ディスケットドライブ 0 でシークに失敗しました — 「ドライブの問題」を参照してください。

ディスケットの読み取りに失敗しました —
「ドライブの問題」を参照してください。

ディスケットサブシステムのリセットに失敗しました — Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。

ディスケットの書き込みが防止されています — 書き込み防止の切り込みをオープン位置にスライドします。

ドライブの準備ができていません — フロッピーディスクをドライブに入れます。

Gate A20 で障害が発生しました —
「ロックアップおよびソフトウェアの問題」を参照してください。

ハードディスク設定エラー — **ハードディスクコントローラで障害が発生しました —** **ハードディスクドライブで障害が発生しました —** **ハードディスクドライブで障害が発生しました —** 「ドライブの問題」を参照してください。
起動可能なメディアを挿入してください — 起動フロッピーディスクまたは CD を挿入します。
設定情報が無効です。セットアッププログラムを実行してください — セットアップユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を正しく設定します。
キーボードで障害が発生しました —「キーボードの問題」を参照してください。
メモリアドレスラインで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) —「ロックアップおよびソフトウェアの問題」を参照してください。
メモリ割り当てエラー — 1. コンピュータの電源を切り、30 秒待ってからコンピュータを再起動します。 2. 再度プログラムを実行してみます。 3. 再度エラーメッセージが表示される場合、トラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
メモリデータラインで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) — **メモリダブルワードロジックで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) —** **メモリの奇数 / 偶数ロジックで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) —** **メモリの書き込み / 読み取りに失敗しました。(アドレス、読み取り値、予測値) —** **CMOS のメモリサイズが無効です —** 「ロックアップとソフトウェアの問題」を参照してください。
使用可能な起動デバイスがありません — - フロッピードライブが起動デバイスの場合、起動ディスクがドライブに挿入されているか確認します。 - ハードドライブが起動デバイスの場合、ケーブルがドライブに適切に取り付けられていて、起動デバイスとしてパーティション分割されていることを確認します。 - セットアップユーティリティを起動して、起動順序の情報が正しいか確認します。
ハードディスクドライブ上にブートセクターがありません — セットアップユーティリティを起動して、コンピュータのハードドライブ構成情報が正しいか確認します。
タイマーチックの割り込みがありません — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。
非システムのディスクであるか、またはディスクでエラーが発生しました — 起動可能なオペレーティングシステムが入ったフロッピーディスクと交換するか、フロッピーディスクをドライブ A から取り出して、コンピュータを再起動します。
起動ディスクではありません — 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。
メモリまたはリソースが不足しています。いくつかのプログラムを閉じてもう一度やり直してください — すべてのウィンドウを閉じて、使用するプログラムを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、最初に使うプログラムを開きます。
オペレーティングシステムが見つかりません — デルにお問い合わせください。
プラグアンドプレイ設定エラー — 1. コンピュータの電源を切り、コンセントから取り外します。次に、カードを 1 枚だけ残してすべて取り外します。 2. コンピュータのプラグを差し込み、再起動します。 3. メッセージが表示される場合、取り付けられているカードが誤動作している可能性があります。メッセージが再度表示されない場合、コンピュータの電源を切り、別のカードを 1 枚挿入します。 4. 誤動作しているカードがわかるまで、この手順を繰り返します。
読み取りエラー — **要求されたセクターが見つかりません —** **リセットに失敗しました —** 「ドライブの問題」を参照してください。
セクターが見つかりません — - Windows のエラーチェックユーティリティを実行して、フロッピーディスクまたはハードドライブのファイル構造を調べます。手順については、Windows ヘルプを参照してください。 - 多くのセクターに障害がある場合、可能であればデータをバックアップして、フロッピーディスクまたはハードドライブを再フォーマットします。
シークエラー —「ドライブの問題」を参照してください。
シャットダウンに失敗しました — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。
時刻機構が停止しました — **時間が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください —** セットアップユーティリティを起動して、データまたは時間を修正します。問題が解決しない場合、バッテリーを交換します。
タイマーチップカウンタ 2 で障害が発生しました — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。
保護モードで予期しない割り込みがありました — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。
警告: [プライマリ/セカンダリ] EIDE コントローラ上のドライブ [0/1] が、通常の仕様外の環境で動作していることを、デルのディスクモニターシステムが検知しました。すぐにデータをバックアップし、サポートデスクまたはデルに問い合わせてハードドライブを交換することをお勧めします — すぐに交換用のドライブが入手できず、問題が発生したドライブ以外に起動可能なドライブがお使いのコンピュータの取り付けられている場合は、セットアップユーティリティを起動して、問題が発生したドライブの設定を **なし** に変更します。次に、問題が発生したドライブをコンピュータから取り外します。
書き込みエラー — **選択したドライブで書き込みエラーがありました —** 「ドライブの問題」を参照してください。
<ドライブ文字>:¥ にアクセスできません デバイスの準備ができていません — 選択したドライブでメディアを読み取れません。メディアのタイプに応じて、フロッピー、CD および ZIP ディスクをドライブに挿入し再度試してみます。

ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決

OS のセットアップ中にデバイスが検出されないか、検出されても間違って設定されている場合、デバイスマネージャまたはハードウェアに関するトラブルシューティングを使用して非互換性を解決することができます。

Microsoft® Windows® XP

デバイスマネージャを使って非互換性を解決するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックして、**システム** をクリックします。
3. **ハードウェア** タブをクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
4. **デバイスマネージャ** リストで、間違って設定されているデバイスを確認します。

   間違って設定されているデバイスは黄色い感嘆符（!）で示され、デバイスが無効になっている場合には赤い X で示されます。

5. 感嘆符でマークされたデバイスをダブルクリックして、**プロパティ** ウィンドウを表示します。

   プロパティ ウィンドウの **デバイス** の状態領域に、再設定が必要なデバイスがレポートされます。

6. デバイスを再構成するか、または **デバイスマネージャ** からデバイスを削除します。デバイスの設定については、デバイスに付属しているマニュアルを参照してください。

Windows XP のハードウェアに関するトラブルシューティングを使って非互換性を解決するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2. **検索** フィールドに ハードウェアに関するトラブルシューティング を入力し次に、矢印をクリックして検索を始めます。
3. **検索結果** 一覧で、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
4. **ハードウェアに関するトラブルシューティング** 一覧で、**コンピュータにあるハードウェアの競合を解決します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

目次に戻る

目次に戻る

トラブルシューティングツールとユーティリティ

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

Dell Diagnostics（診断）プログラム

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ：『Drivers and Utilities CD』（Resource CD）はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを使用する場合

コンピュータに問題が発生した場合、デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受ける前に、この項のチェック事項を実行してから、Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。

注意：Dell Diagnostics（診断）プログラムは、Dell™ コンピュータ上でのみ機能します。

セットアップユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します。

ハードドライブまたは『Drivers and Utilities CD』（ResourceCD とも呼びます）から Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動します。

ハードドライブからの Dell Diagnostics（診断）プログラムの起動

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

メモ：診断ユーティリティパーティションが見つからないことを知らせるメッセージが表示された場合は、『Drivers and Utilities CD』（オプション）から Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行してください。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**Boot to Utility Partition** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
4. Dell Diagnostics（診断）プログラム **Main Menu** が表示されたら、実行するテストの種類を選択します。

『Drivers and Utilities CD』（オプション）からの Dell Diagnostics（診断）プログラムの起動

1. 『Drivers and Utilities CD』（オプション）を挿入します。
2. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。

DELL のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

ここで時間をおきすぎて Windows のロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

メモ: 次の手順は、起動順序を 1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスから起動します。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**IDE CD-ROM Device** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
4. CD の起動メニューから **IDE CD-ROM Device** オプションを選びます。
5. 表示されたメニューから **Boot from CD-ROM** オプションを選びます。
6. Resource CD メニューを起動する場合は 1 を入力します。
7. Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動する場合は 2 を入力します。
8. 番号の付いた一覧から **Run the 32 Bit Dell Diagnostics** を選びます。複数のバージョンが表示されている場合、お使いのコンピュータに該当するバージョンを選びます。
9. Dell Diagnostics（診断）プログラム **Main Menu** が表示されたら、実行するテストの種類を選択します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー

1. Dell Diagnostics（診断）プログラムのロードが終了すると、**Main Menu** 画面が表示されるので、適切なオプションのボタンをクリックします。

オプション	機能
Express Test	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは 10～20 分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に Express Test を実行すると、問題をさらにすばやく特定できる可能性が増します。
Extended Test	デバイスの全体チェックを実行します。通常このテストは 1 時間以上かかり、質問に定期的に応答する必要があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択することができます。

2. テスト実行中に問題が検出されると、エラーコードと問題の説明を示したメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を記録し、画面の指示に従います。

エラーが解決できない場合、デルにお問い合わせください。

メモ: 各テスト画面の上部には、コンピュータのサービスタグが表示されます。デルにお問い合わせになると、テクニカルサポートの担当者はお客様のサービスタグを確認します。お使いのコンピュータのサービスタグは、セットアップユーティリティの **System Info** オプションに表示されています。

3. **Custom Test** または **Symptom Tree** オプションからテストを実行する場合、該当するタブをクリックします（詳細に関しては、以下の表を参照）。

タブ	機能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	検出されたエラー状態、エラーコード、問題の説明が表示されます。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics（診断）プログラムは、セットアップユーティリティ、メモリ、および様々な内部テストからすべてのデバイスの設定情報を入手し、画面の左側ペインのデバイス一覧に表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters	テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。

4. 『Drivers and Utilities CD』から Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行している場合、テストが終了したら CD を取り出します。
5. テスト画面を閉じ、**Main Menu** 画面に戻ります。Dell Diagnostics（診断）プログラムを終了しコンピュータを再起動するには、**Main Menu** 画面を閉じます。

システムライト

お使いの電源ボタンライトおよびハードドライブライトは、コンピュータの問題を示すことがあります。

電源ライト	問題の説明	推奨される処置
緑色の点灯	電源がオンで、コンピュータは正常に動作しています。デスクトップコンピュ	対応処置は必要ありません。

	ータでは、緑色のライトの点灯は、ネットワークが接続されていることを示します。	
緑色の点滅	コンピュータはサスペンド状態です（Microsoft® Windows® 2000 および Windows XP）。	電源ボタンを押したり、マウスを動かしたり、キーボードのキーを押すとコンピュータは復帰します。
緑色に数回点滅した後消灯	設定エラーが発生しています。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。
黄色の点灯	Dell Diagnostics（診断）プログラムがテストを実行中、またはシステム基板のデバイスが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	Dell Diagnostics（診断）プログラムが実行中であれば、テストを終了させます。 特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。 コンピュータが起動しない場合、デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受けてください。
黄色の点滅	電源装置またはシステム基板の障害が発生しました。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。「電源の問題 」を参照してください。
POST 中に、緑色の点灯とビープコードの発生	BIOS 実行中に問題が検出されました。	ビープコードによる診断については、「ビープコード」を参照してください。また、特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。
POST 中に緑色の点灯、ビープコードおよびビデオ表示なし	モニターまたはグラフィックスカードが不良であるか、正しく取り付けられていない可能性があります。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。「ビデオとモニターの問題」を参照してください。
POST 中に緑色の点灯、ビープコードはないがコンピュータがロックする	内蔵システム基板に欠陥がある可能性があります。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。問題が識別されない場合、デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受けてください。

診断ライト

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

問題の解決に役立つように、スモールフォームファクター、スモールデスクトップ、およびスモールミニタワーコンピュータには、背面パネルに「A」、「B」、「C」、および「D」というラベルの付いたライトがあります。これらのライトは、デスクトップおよびミニタワーコンピュータでは前面パネルにあります。これらのライトは、黄色または緑色に点灯します。コンピュータが正常に起動した場合、起動プロセスが完了するとライトのパターンとコードが変化します。システム起動プロセスの POST が正常に終了すると、4 つのライトはすべて緑色に点灯します。POST プロセス中にコンピュータが誤動作した場合、LED に表示されるパターンで、プロセスのどこでコンピュータが停止したか識別できる場合があります。

メモ： 診断ライトの向きは、システムのタイプによって異なります。診断ライトは、縦向きまたは横向きのどちらかです。

Y = 黄色
G = 緑色

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
A B C D off off off off	コンピュータが通常のオフの状態、または BIOS に障害が起こっている可能性があります。	コンピュータを正常に機能しているコンセントに接続して、電源ボタンを押します。
A B C D Y Y Y G	BIOS 障害が発生した可能性があります。コンピュータは修復モードです。	BIOS 修復ユーティリティを実行し、BIOS の修復処理が完了するのを待ってから、コンピュータを再起動します。
A B C D Y Y G Y	プロセッサの障害が発生した可能性があります。	プロセッサを取り付けなおして、コンピュータを再起動します。
A B C D Y Y G G	メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しました。	● 取り付けているメモリモジュールが 1 つの場合、そのモジュールを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。(メモリモジュールの取り外しまたは取り付け方法については、「メモリ」を参照してください。 ● 取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、モジュール 1 つを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 ● 同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 ● 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
A B C D Y G Y Y	拡張カードの障害が発生した可能性があります。	● カード（グラフィックスカードではない）を取り外し、コンピュータを再起動してコンフリクトが起きているか調べます。 ● 問題が解決しない場合、取り外したカードを取り付け、別のカードを取り外して、コンピュータを再起動します。 ● それぞれのカードについて、この手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合は、リソースコンフリクト時にコンピュータから最後に取り外したカードをトラブルシューティングします（ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決を参照）。 ● 各カードを 1 つずつ異なる PCI スロットに移動して、移動し終わったらその度にコンピュータを再起動します。 ● 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。

A B C D Y G Y G	グラフィックスカードの障害が発生した可能性があります。	• コンピュータにグラフィックスカードを取り付けている場合、カードを取り外し、取り付けなおしてコンピュータを再起動します。 • それでも問題が解決しない場合、動作を確認済みのグラフィックスカードを取り付け、コンピュータを再起動します。 • 問題が解決しない場合、またはグラフィックスがコンピュータに内蔵されている場合、デルにお問い合わせください。
A B C D Y G G Y	フロッピードライブまたはハードドライブの障害が発生した可能性があります。	すべての電源ケーブルとデータケーブルを接続しなおして、コンピュータを再起動します。
A B C D Y G G G	USB の障害が発生した可能性があります。	すべての USB デバイスを取り付けなおし、ケーブル接続を確認して、コンピュータを再起動します。
A B C D G Y Y Y	メモリモジュールが検出されません。	• 取り付けているメモリモジュールが 1 つの場合、そのモジュールを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。(メモリモジュールの取り外しまたは取り付け方法については、「メモリ」を参照してください。 • 取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、モジュール 1 つを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 • 同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
A B C D G Y G Y	メモリモジューモルが検出されましたが、メモリ構成または互換性エラーが発生しました。	• 特別なメモリモジュール / メモリコネクタ設置要件 がないか確認します。 • 取り付けるメモリモジュールがコンピュータと互換性があるか確認します。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
A B C D G G G Y	その他の障害が発生しました。	• ハードドライブ、CD ドライブ、および DVD ドライブからシステム基板へケーブルが接続されていることを確認します。 • モニター画面に表示されるコンピュータメッセージを確認します。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
A B C D G G G G	POST の後、コンピュータは通常の動作状態にあります。	特にありません。

ビープコード

お使いのコンピュータの起動時に、モニターにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビープ音が連続して鳴ることがあります。この連続したビープ音はビープコードと呼ばれ、問題を特定します。連続したビープ音には、ビープ音がまず 1 回鳴り、次に連続して 3 回鳴ってから、1 回鳴るものがあります(コード 1-3-1)。このビープコードは、コンピュータがメモリの問題を検出したことを知らせます。

起動時にコンピュータがビープ音を発する場合、次の手順を実行します。

1. Diagnostics(診断)チェックリストにビープコードを書き込みます。
2. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行し、その原因をつきとめます。
3. デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受けてください。

コード	**原 因**
1-1-2	マイクロプロセッサレジスタ障害
1-1-3	NVRAM 読み取り / 書き込み障害
1-1-4	ROM BIOS チェックサム障害
1-2-1	プログラム可能インターバルタイマー障害
1-2-2	DMA 初期化障害
1-2-3	DMA ページレジスタ読み取り / 書き込み障害
1-3	ビデオメモリテスト障害
1-3-1 ～ 2-4-4	メモリが正しく認識されていないか使用されていない
3-1-1	スレーブ DMA レジスタ障害
3-1-2	マスター DMA レジスタ障害

3-1-3	マスター割り込みマスクレジスタ障害
3-1-4	スレーブ割り込みマスクレジスタ障害
3-2-2	割り込みベクタロード障害
3-2-4	キーボードコントローラテスト障害
3-3-1	NVRAM 電力損失
3-3-2	無効な NVRAM 設定
3-3-4	ビデオメモリテスト障害
3-4-1	画面初期化障害
3-4-2	画面リトレース障害
3-4-3	ビデオ ROM の検索障害
4-2-1	タイマーチックなし
4-2-2	シャットダウン障害
4-2-3	Gate A20 障害
4-2-4	保護モードで予測外の割り込みが発生
4-3-1	アドレス 0FFFFh 以降のメモリ障害
4-3-3	タイマーチップカウンタ 2 の障害
4-3-4	時刻機構クロックの停止
4-4-1	シリアルまたはパラレルポートテスト障害
4-4-2	シャドウメモリへのコードの解凍障害
4-4-3	数値演算コプロセッサテスト障害
4-4-4	キャッシュテスト障害

エラーメッセージ

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メッセージが一覧にない場合、オペレーティングシステムまたはメッセージが表示された際に実行していたプログラムのマニュアルを参照してください。

**ファイル名には次の文字は使用できません： ¥ / : * ? " < >	—** これらの記号をファイル名に使用しないでください。
必要な .DLL ファイルがみつかりません — アプリケーションプログラムに必要なファイルがありません。プログラムを削除してから、再インストールします。 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プログラムの追加と削除** をクリックします。 2. 削除するプログラムを選択します。 3. **削除ボタンまたは変更と削除** ボタンをクリックします。 4. インストール手順については、プログラムのマニュアルを参照してください。
警告! このシステムの前回の起動時に、チェックポイント [nnnn]で障害が発生しました。この問題を解決するには、このチェックポイントをメモしてデルテクニカルサポートにお問い合わせください — デルにお問い合わせになり、チェックポイントコード（nnnn）をテクニカルサポート担当者にお知らせください。
接続での応答に失敗しました — 「ドライブの問題」を参照してください。
コマンド名またはファイル名が違います — 正しいコマンドを入力したか、スペースの位置は正しいか、パス名は正しいかを確認します。
ディスク上で正しくない ECC（エラー修正コード）が読み取られました — 「ドライブ の問題」を参照してください。
コントローラに障害が発生しました — 「ドライブの問題」を参照してください。
データエラー — 「ドライブの問題」を参照してください。
使用可能なメモリが減少しています — 「ロックアップおよびソフトウェアの問題」を参照してください。
ディスケットドライブ 0 でシークに失敗しました — 「ドライブの問題」を参照してください。
ディスケットの読み取りに失敗しました — 「ドライブの問題」を参照してください。
ディスケットサブシステムのリセットに失敗しました — Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。
ディスケットの書き込みが防止されています — 書き込み防止の切り込みをオープン位置にスライドします。
ドライブの準備ができていません — フロッピーディスクをドライブに入れます。
Gate A20 で障害が発生しました — 「ロックアップおよびソフトウェアの問題」を参照してください。

ハードディスク設定エラー — **ハードディスクコントローラで障害が発生しました —** **ハードディスクドライブで障害が発生しました —** **ハードディスクドライブで障害が発生しました —** 「ドライブの問題」を参照してください。
起動可能なメディアを挿入してください — 起動フロッピーディスクまたは CD を挿入します。
設定情報が無効です。セットアッププログラムを実行してください — セットアップユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を正しく設定します。
キーボードで障害が発生しました — 「キーボードの問題」を参照してください。
メモリアドレスラインで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) — 「ロックアップおよびソフトウェアの問題」を参照してください。
メモリ割り当てエラー — 1. コンピュータの電源を切り、30 秒待ってからコンピュータを再起動します。 2. 再度プログラムを実行してみます。 3. 再度エラーメッセージが表示される場合、トラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
メモリデータラインで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) — **メモリダブルワードロジックで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) —** **メモリの奇数 / 偶数ロジックで障害が発生しました。(アドレス、読み取り値、予測値) —** **メモリの書き込み / 読み取りに失敗しました。(アドレス、読み取り値、予測値) —** **CMOS のメモリサイズが無効です —** 「ロックアップとソフトウェアの問題」を参照してください。
使用可能な起動デバイスがありません — - フロッピードライブが起動デバイスの場合、起動ディスクがドライブに挿入されているか確認します。 - ハードドライブが起動デバイスの場合、ケーブルがドライブに適切に取り付けられていて、起動デバイスとしてパーティション分割されていることを確認します。 - セットアップユーティリティを起動して、起動順序の情報が正しいか確認します。
ハードディスクドライブ上にブートセクターがありません — セットアップユーティリティを起動して、コンピュータのハードドライブ構成情報が正しいか確認します。
タイマーチックの割り込みがありません — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。
非システムのディスクであるか、またはディスクでエラーが発生しました — 起動可能なオペレーティングシステムが入ったフロッピーディスクと交換するか、フロッピーディスクをドライブ A から取り出して、コンピュータを再起動します。
起動ディスクではありません — 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。
メモリまたはリソースが不足しています。いくつかのプログラムを閉じてもう一度やり直してください — すべてのウィンドウを閉じて、使用するプログラムを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、最初に使うプログラムを開きます。
オペレーティングシステムが見つかりません — デルにお問い合わせください。
プラグアンドプレイ設定エラー — 1. コンピュータの電源を切り、コンセントから取り外します。次に、カードを 1 枚だけ残してすべて取り外します。 2. コンピュータのプラグを差し込み、再起動します。 3. メッセージが表示される場合、取り付けられているカードが誤動作している可能性があります。メッセージが再度表示されない場合、コンピュータの電源を切り、別のカードを 1 枚挿入します。 4. 誤動作しているカードがわかるまで、この手順を繰り返します。
読み取りエラー — **要求されたセクターが見つかりません —** **リセットに失敗しました —** 「ドライブの問題」を参照してください。
セクターが見つかりません — - Windows のエラーチェックユーティリティを実行して、フロッピーディスクまたはハードドライブのファイル構造を調べます。手順については、Windows ヘルプを参照してください。 - 多くのセクターに障害がある場合、可能であればデータをバックアップして、フロッピーディスクまたはハードドライブを再フォーマットします。
シークエラー — 「ドライブの問題」を参照してください。
シャットダウンに失敗しました — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。
時刻機構が停止しました — **時間が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください —** セットアップユーティリティを起動して、データまたは時間を修正します。問題が解決しない場合、バッテリーを交換します。
タイマーチップカウンタ 2 で障害が発生しました — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。
保護モードで予期しない割り込みがありました — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します。
警告: [プライマリ/セカンダリ] EIDE コントローラ上のドライブ [0/1] が、通常の仕様外の環境で動作していることを、デルのディスクモニターシステムが検知しました。すぐにデータをバックアップし、サポートデスクまたはデルに問い合わせてハードドライブを交換することをお勧めします — すぐに交換用のドライブが入手できず、問題が発生したドライブ以外に起動可能なドライブがお使いのコンピュータの取り付けられている場合は、セットアップユーティリティを起動して、問題が発生したドライブの設定を **なし** に変更します。次に、問題が発生したドライブをコンピュータから取り外します。
書き込みエラー — **選択したドライブで書き込みエラーがありました —** 「ドライブの問題」を参照してください。
<ドライブ文字>:¥ にアクセスできません デバイスの準備ができていません — 選択したドライブでメディアを読み取れません。メディアのタイプに応じて、フロッピー、CD および ZIP ディスクをドライブに挿入し再度試してみます。

ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決

OS のセットアップ中にデバイスが検出されないか、検出されても間違って設定されている場合、デバイスマネージャまたはハードウェアに関するトラブルシューティングを使用して非互換性を解決することができます。

Microsoft® Windows® XP

デバイスマネージャを使って非互換性を解決するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックして、**システム** をクリックします。
3. **ハードウェア** タブをクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
4. **デバイスマネージャ** リストで、間違って設定されているデバイスを確認します。

   間違って設定されているデバイスは黄色い感嘆符（!）で示され、デバイスが無効になっている場合には赤い X で示されます。

5. 感嘆符でマークされたデバイスをダブルクリックして、**プロパティ** ウィンドウを表示します。

   プロパティ ウィンドウの **デバイス** の状態領域に、再設定が必要なデバイスがレポートされます。

6. デバイスを再構成するか、または **デバイスマネージャ** からデバイスを削除します。デバイスの設定については、デバイスに付属しているマニュアルを参照してください。

Windows XP のハードウェアに関するトラブルシューティングを使って非互換性を解決するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2. **検索** フィールドに ハードウェアに関するトラブルシューティング を入力し次に、矢印をクリックして検索を始めます。
3. **検索結果** 一覧で、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
4. **ハードウェアに関するトラブルシューティング** 一覧で、**コンピュータにあるハードウェアの競合を解決します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

目次に戻る

デル製品の保証および返品について

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

『サービス＆サポートのご案内』をご覧ください。

保証および返品について

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

『サービス＆サポートのご案内』をご覧ください。

目次に戻る

Microsoft® Windows® XP の機能

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

新しいコンピュータへの情報の転送

Microsoft Windows XP のオペレーティングシステムでは、ソースコンピュータから新しいコンピュータにデータを転送するためのファイルと設定の転送ウィザードを提供しています。下記のデータが転送できます。

- E-メール
- ツールバーの設定
- ウィンドウのサイズ
- インターネットのブックマーク

新しいコンピュータにネットワークまたはシリアル接続を介してデータを転送したり、書き込み可能 CD、またはフロッピーディスクなどのリムーバブルメディアにデータを保存したりできます。

新しいコンピュータに情報を転送するには次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** の順にポイントして、**ファイルと設定の転送ウィザード** をクリックします。
2. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
3. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送先の新しいコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
4. **Windows XP CD がありますか?** 画面で **Windows XP CD からウィザードを使います** をクリックし、**次へ** をクリックします。
5. **今、古いコンピュータに行ってください** 画面が表示されたら、古いコンピュータまたはソースコンピュータに行きます。このときに、**次へ** をクリックしないでください。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

1. 古いコンピュータで、Windows XP の『オペレーティングシステム CD』を挿入します。
2. **Microsoft Windows XP** 画面で、**追加のタスクを実行する** をクリックします。
3. **実行する操作の選択**で **ファイルと設定を転送する** をクリックします。
4. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
5. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送先の古いコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
6. **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。
7. **何を転送しますか?** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。

   情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています...** 画面が表示されます。

8. **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

1. 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。
2. **ファイルと設定はどこにありますか?** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。

   ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

設定とファイルがすべて適用されると、**収集フェーズを処理しています…** 画面が表示されます。

3. **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

ユーザーアカウントおよびユーザーの簡易切り替え

ユーザーアカウントの追加

Microsoft Windows XP オペレーティングシステムがインストールされると、コンピュータ管理者または管理者権限を持つユーザーは、追加するユーザーアカウントを作成することができます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **コントロールパネル** ウィンドウで、**ユーザーアカウント** をクリックします。
3. **作業を選びます** で、**新しいアカウントを作成する** をクリックします。
4. **新しいアカウントに名前を付けます** で、新しいユーザーの名前を入力して、**次へ** をクリックします。
5. **アカウントの種類を選びます** で、以下の項目の 1 つをクリックします。
   - **コンピュータの管理者** — すべてのコンピュータ設定を変更することができます。
   - **制限** — ご自分のパスワードなど、個人的な設定のみを変更することができます。プログラムをインストールしたりインターネットを使用することはできません。

メモ： Windows XP Home Edition または Windows XP Professional のいずれを使用するかによって、他に利用できる追加のオプションが異なります。また、Windows XP Professional で利用できるオプションは、コンピュータがドメインに接続されているかによっても異なります。

6. **アカウントの作成** をクリックします。

ユーザーの簡易切り替え

メモ： ユーザーの簡易切り替えは、コンピュータで Windows XP Professional が動作していて、コンピュータがコンピュータドメインのメンバーである場合、またはコンピュータに搭載されているメモリが 128 MB 未満の場合は無効になります。

ユーザーの簡易切り替えにより、先に使用していたユーザーがログオフしなくても、複数のユーザーが 1 台のコンピュータにアクセスできます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ログオフ** をクリックします。
2. **Windows のログオフ** ウィンドウで、**ユーザーの切り替え** をクリックします。

ユーザーの簡易切り替えを使用する場合、前のユーザーが実行していたプログラムはバックグラウンドで使用され続けるため、コンピュータの動作が遅く感じられることがあります。また、ゲームや DVD ソフトウェアなどのマルチメディアプログラムは、ユーザーの簡易切り替えでは動作しないことがあります。詳細については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。

家庭用および企業用ネットワークのセットアップ

ネットワークアダプタの接続

コンピュータをネットワークに接続する前に、お使いのコンピュータにネットワークアダプタが取り付けられていて、ネットワークケーブルが接続されている必要があります。

ネットワークケーブルを接続するには次の手順を実行します。

メモ： ケーブルをしっかりと所定の位置に収まるまで差し込みます。次にケーブルを軽く引っ張り、ケーブルの接続を確認します。

1. ネットワークケーブルをコンピュータ背面のネットワークアダプタコネクタに接続します。

メモ： ネットワークケーブルを電話ジャックに接続しないでください。

2. ネットワークケーブルのもう一方の端を、壁のネットワークジャックなどのネットワーク接続デバイスに接続します。

ネットワークセットアップウィザード

Microsoft Windows XP オペレーティングシステムには、家庭または小企業のコンピュータ間で、ファイル、プリンタ、またはインターネット接続を共有するための手順を案内するネットワークセットアップウィザードがあります。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **通信** とポイントして、**ネットワークセットアップウィザード** をクリックします。
2. **ネットワークセットアップウィザードの開始** の画面で、**次へ** をクリックします。
3. **ネットワーク作成のチェックリスト** をクリックします。

メモ: **インターネットに直接接続している** という接続方法を選択すると、Windows XP SP1 に設置されている内蔵ファイアウォールを使用することができます。

4. チェックリストの項目を完了し、必要な準備を行います。
5. ネットワークセットアップウィザードに戻り、画面に表示される指示に従います。

目次に戻る

[目次に戻る]

Microsoft® Windows® XP の特徴

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

新しいコンピュータへの情報の転送

Microsoft Windows XP のオペレーティングシステムでは、ソースコンピュータから新しいコンピュータにデータを転送するためのファイルと設定の転送ウィザードを提供しています。下記のデータが転送できます。

- E-メール
- ツールバーの設定
- ウィンドウのサイズ
- インターネットのブックマーク

新しいコンピュータにネットワークまたはシリアル接続を介してデータを転送したり、書き込み可能 CD、またはフロッピーディスクなどのリムーバブルメディアにデータを保存したりできます。

新しいコンピュータに情報を転送するには次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** の順にポイントして、**ファイルと設定の転送ウィザード** をクリックします。
2. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
3. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送先の新しいコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
4. **Windows XP CD がありますか?** 画面で **Windows XP CD からウィザードを使います** をクリックし、**次へ** をクリックします。
5. **今、古いコンピュータに行ってください** 画面が表示されたら、古いコンピュータまたはソースコンピュータに行きます。このときに、**次へ** をクリックしないでください。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

1. 古いコンピュータで、Windows XP の『オペレーティングシステム CD』を挿入します。
2. **Microsoft Windows XP へようこそ** 画面で、**追加のタスクを実行する** をクリックします。
3. **実行する操作の選択**で **ファイルと設定を転送する** をクリックします。
4. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
5. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送先の古いコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
6. **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。
7. **何を転送しますか?** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。

   情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています...** 画面が表示されます。

8. **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

1. 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。
2. **ファイルと設定はどこにありますか?** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。

   ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

設定とファイルがすべて適用されると、**収集フェーズを処理しています…** 画面が表示されます。

3. **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

ユーザーアカウントおよびユーザーの簡易切り替え

ユーザーアカウントの追加

Microsoft Windows XP オペレーティングシステムがインストールされると、コンピュータ管理者または管理者権限を持つユーザーは、追加するユーザーアカウントを作成することができます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **コントロールパネル** ウィンドウで、**ユーザーアカウント** をクリックします。
3. **作業を選びます** で、**新しいアカウントを作成する** をクリックします。
4. **新しいアカウントに名前を付けます** で、新しいユーザーの名前を入力して、**次へ** をクリックします。
5. **アカウントの種類を選びます** で、以下の項目の 1 つをクリックします。
   - **コンピュータの管理者** — すべてのコンピュータ設定を変更することができます。
   - **制限** — ご自分のパスワードなど、個人的な設定のみを変更することができます。プログラムをインストールしたりインターネットを使用することはできません。

メモ： Windows XP Home Edition または Windows XP Professional のいずれを使用するかによって、他に利用できる追加のオプションが異なります。また、Windows XP Professional で利用できるオプションは、コンピュータがドメインに接続されているかによっても異なります。

6. **アカウントの作成** をクリックします。

ユーザーの簡易切り替え

メモ： ユーザーの簡易切り替えは、コンピュータで Windows XP Professional が動作していて、コンピュータがコンピュータドメインのメンバーである場合、またはコンピュータに搭載されているメモリが 128 MB 未満の場合は無効になります。

ユーザーの簡易切り替えにより、先に使用していたユーザーがログオフしなくても、複数のユーザーが 1 台のコンピュータにアクセスできます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ログオフ** をクリックします。
2. **Windows のログオフ** ウィンドウで、**ユーザーの切り替え** をクリックします。

ユーザーの簡易切り替えを使用する場合、前のユーザーが実行していたプログラムはバックグラウンドで使用され続けるため、コンピュータの動作が遅く感じられることがあります。また、ゲームや DVD ソフトウェアなどのマルチメディアプログラムは、ユーザーの簡易切り替えでは動作しないことがあります。詳細に関しては、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。

家庭用および企業用ネットワークのセットアップ

ネットワークアダプタの接続

コンピュータをネットワークに接続する前に、お使いのコンピュータにネットワークアダプタが取り付けられていて、ネットワークケーブルが接続されている必要があります。

ネットワークケーブルを接続するには次の手順を実行します。

メモ： ケーブルをしっかりと所定の位置に収まるまで差し込みます。次にケーブルを軽く引っ張り、ケーブルの接続を確認します。

1. ネットワークケーブルをコンピュータ背面のネットワークアダプタコネクタに接続します。

メモ： ネットワークケーブルを電話ジャックに接続しないでください。

2. ネットワークケーブルのもう一方の端を、壁のネットワークジャックなどのネットワーク接続デバイスに接続します。

ネットワークセットアップウィザード

Microsoft Windows XP オペレーティングシステムには、家庭または小企業のコンピュータ間で、ファイル、プリンタ、またはインターネット接続を共有するための手順を案内するネットワークセットアップウィザードがあります。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **通信** とポイントして、**ネットワークセットアップウィザード** をクリックします。
2. **ネットワークセットアップウィザードの開始** の画面で、**次へ** をクリックします。
3. **ネットワーク作成のチェックリスト** をクリックします。

メモ： **インターネットに直接接続している** という接続方法を選択すると、Windows XP SP1 に設置されている内蔵ファイアウォールを使用することができます。

4. チェックリストの項目を完了し、必要な準備を行います。
5. ネットワークセットアップウィザードに戻り、画面に表示される指示に従います。

目次に戻る

目次に戻る

Microsoft® Windows® XP の特徴

Dell™ OptiPlex™ GX280 システムユーザーズガイド

新しいコンピュータへの情報の転送

Microsoft Windows XP のオペレーティングシステムでは、ソースコンピュータから新しいコンピュータにデータを転送するためのファイルと設定の転送ウィザードを提供しています。下記のデータが転送できます。

- E-メール
- ツールバーの設定
- ウィンドウのサイズ
- インターネットのブックマーク

新しいコンピュータにネットワークまたはシリアル接続を介してデータを転送したり、書き込み可能 CD、またはフロッピーディスクなどのリムーバブルメディアにデータを保存したりできます。

新しいコンピュータに情報を転送するには次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** の順にポイントして、**ファイルと設定の転送ウィザード** をクリックします。
2. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
3. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送先の新しいコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
4. **Windows XP CD がありますか?** 画面で **Windows XP CD からウィザードを使います** をクリックし、**次へ** をクリックします。
5. **今、古いコンピュータに行ってください** 画面が表示されたら、古いコンピュータまたはソースコンピュータに行きます。このときに、**次へ** をクリックしないでください。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

1. 古いコンピュータで、Windows XP の『オペレーティングシステム CD』を挿入します。
2. **Microsoft Windows XP へようこそ** 画面で、**追加のタスクを実行する** をクリックします。
3. **実行する操作の選択**で **ファイルと設定を転送する** をクリックします。
4. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
5. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送先の古いコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
6. **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。
7. **何を転送しますか?** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。

   情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています...** 画面が表示されます。

8. **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

1. 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。
2. **ファイルと設定はどこにありますか?** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。

   ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

設定とファイルがすべて適用されると、**収集フェーズを処理しています…** 画面が表示されます。

3. **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

ユーザーアカウントおよびユーザーの簡易切り替え

ユーザーアカウントの追加

Microsoft Windows XP オペレーティングシステムがインストールされると、コンピュータ管理者または管理者権限を持つユーザーは、追加するユーザーアカウントを作成することができます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **コントロールパネル** ウィンドウで、**ユーザーアカウント** をクリックします。
3. **作業を選びます** で、**新しいアカウントを作成する** をクリックします。
4. **新しいアカウントに名前を付けます** で、新しいユーザーの名前を入力して、**次へ** をクリックします。
5. **アカウントの種類を選びます** で、以下の項目の 1 つをクリックします。
   - **コンピュータの管理者** — すべてのコンピュータ設定を変更することができます。
   - **制限** — ご自分のパスワードなど、個人的な設定のみを変更することができます。プログラムをインストールしたりインターネットを使用することはできません。

メモ： Windows XP Home Edition または Windows XP Professional のいずれを使用するかによって、他に利用できる追加のオプションが異なります。また、Windows XP Professional で利用できるオプションは、コンピュータがドメインに接続されているかによっても異なります。

6. **アカウントの作成** をクリックします。

ユーザーの簡易切り替え

メモ： ユーザーの簡易切り替えは、コンピュータで Windows XP Professional が動作していて、コンピュータがコンピュータドメインのメンバーである場合、またはコンピュータに搭載されているメモリが 128 MB 未満の場合は無効になります。

ユーザーの簡易切り替えにより、先に使用していたユーザーがログオフしなくても、複数のユーザーが 1 台のコンピュータにアクセスできます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ログオフ** をクリックします。
2. **Windows のログオフ** ウィンドウで、**ユーザーの切り替え** をクリックします。

ユーザーの簡易切り替えを使用する場合、前のユーザーが実行していたプログラムはバックグラウンドで使用され続けるため、コンピュータの動作が遅く感じられることがあります。また、ゲームや DVD ソフトウェアなどのマルチメディアプログラムは、ユーザーの簡易切り替えでは動作しないことがあります。詳細に関しては、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。

家庭用および企業用ネットワークのセットアップ

ネットワークアダプタの接続

コンピュータをネットワークに接続する前に、お使いのコンピュータにネットワークアダプタが取り付けられていて、ネットワークケーブルが接続されている必要があります。

ネットワークケーブルを接続するには次の手順を実行します。

メモ： ケーブルをしっかりと所定の位置に収まるまで差し込みます。次にケーブルを軽く引っ張り、ケーブルの接続を確認します。

1. ネットワークケーブルをコンピュータ背面のネットワークアダプタコネクタに接続します。

メモ： ネットワークケーブルを電話ジャックに接続しないでください。

2. ネットワークケーブルのもう一方の端を、壁のネットワークジャックなどのネットワーク接続デバイスに接続します。

ネットワークセットアップウィザード

Microsoft Windows XP オペレーティングシステムには、家庭または小企業のコンピュータ間で、ファイル、プリンタ、またはインターネット接続を共有するための手順を案内するネットワークセットアップウィザードがあります。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **通信** とポイントして、**ネットワークセットアップウィザード** をクリックします。
2. **ネットワークセットアップウィザードの開始** の画面で、**次へ** をクリックします。
3. **ネットワーク作成のチェックリスト** をクリックします。

メモ： **インターネットに直接接続している** という接続方法を選択すると、Windows XP SP1 に設置されている内蔵ファイアウォールを使用することができます。

4. チェックリストの項目を完了し、必要な準備を行います。
5. ネットワークセットアップウィザードに戻り、画面に表示される指示に従います。

目次に戻る